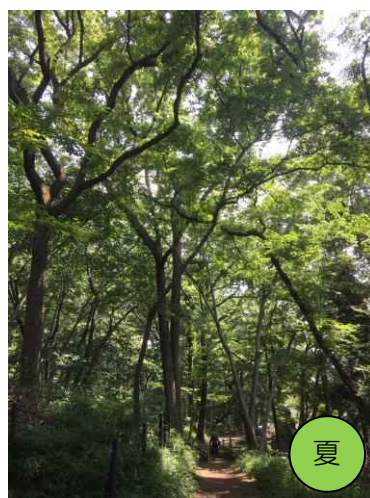
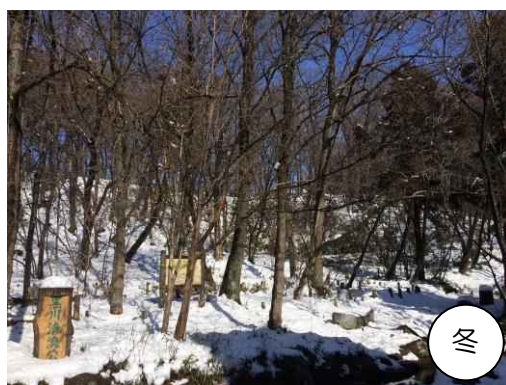
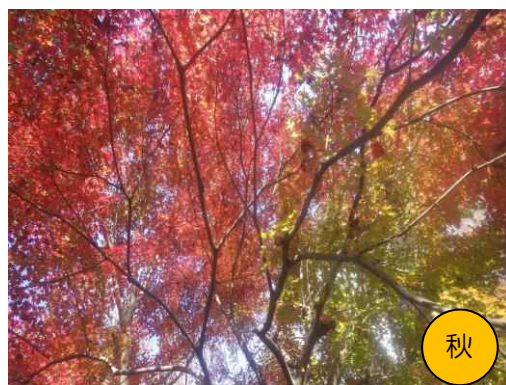


2019年度（令和元年度）
日野市環境基本条例第18条に基づく年次報告書

日野市環境白書



黒川清流公園の四季

日 野 市

TRANSFORMING OUR WORLD
SDGs IN ACTION HINO

日野市から“次世代に引き継ぎたい世界”に変えていくアクションを！

黒川清流公園の四季(表紙の写真)

黒川清流公園は日野市を代表する公園の一つです。

水と緑豊かなこの公園には、春には桜をはじめとした花々と新緑、夏には湧水での水遊び、秋には紅葉、冬にはバードウォッチングなど四季折々の楽しみや魅力が数多くあります。

散策の合間のご休憩には、公園に隣接するカワセミハウスをご利用ください。

はじめに

日野市は 27.55 平方キロメートルの市域の中に、多摩川・浅川を代表とする河川が流れ、これらの流れによって作られた肥沃な沖積低地や、多摩丘陵、市役所や多くの企業が立地する日野台地が広がっています。

また、低地と台地の崖線には屏風のような緑地が連なり、丘陵地の緑や、ハケ下からの湧水など日本の地形がコンパクトにまとまった身近な自然環境の中に「日野市ならではの豊かな暮らし」があります。



これらの良好な環境を保全するため、日野市では早くから市民活動と行政との協働による用水路や湧水地などの水辺の保全・再生、緑地や緑の保全活動など、私たちの暮らしと身近な自然環境との共生を目指すまちづくりが様々な形で展開されてきました。

しかし、自然は豊かな恵みを人間社会にもたらすと同時に、気候変動による超大型台風発生などの自然災害の多発化や、2019 年度末から全世界で猛威を振るっている新型コロナウイルス感染症（COVID-19）のようにまだまだ未知で未解明な部分も多く、プラスの側面とマイナスの側面の両面を持っていることを忘れてはならないと思います。

これらを考える第一歩として、永年言われ続けてきた言葉ではありますが、「Think Globally Act Locally（地球規模で考え、足元から行動せよ）」この言葉をもう一度皆様と共有させていただきたいと思います。

本白書を通じて、地球環境の保全に直結している私たちの暮らしのありようと日野市の環境の変化について再確認いただき、日野市の象徴である「緑と清流」を日野市の宝としていつまでも誇れるよう、持続可能なまちづくりに向け、お一人おひとりが一歩ずつ着実に行動されることを切にお願いいたします。

2020 年 12 月

日 野 市 長

大 坪 冬 彦

日野市の概況

位置と面積

日野市は東京都のほぼ中央に位置し、都心から西に約35kmにあります。東西7.59km、南北5.85kmで、東西にやや広がった形をしており、面積は27.55km²です。

地形

日野市の地形は北西部の日野台地、南部に位置する多摩丘陵、多摩川と浅川の周辺に広がる沖積地（低地）、日野台地と沖積地の境界である崖線（段丘崖）、多摩川と浅川に代表される河川の5つに大きく分けられます。このように様々なタイプの地形があることが日野市の特徴であり、環境的な豊かさの基盤となっています。



日野市全域立体地図

(実践女子大学空間デザイン研究室制作 日野市立カワセミハウス所蔵)

人口

日野市の人口は昭和30年代から昭和60年代にかけて急増しており、東京都全体の爆発的人口増加の受け皿となっていました。1990年代以降は人口の増加は緩やかになったものの依然として増加傾向で推移し、2020年4月1日の時点で人口は186,731人です。

現在の日野市の人口は微増傾向ですが、2025年をピークに減少局面に入ることが予想されています。



(C)2017 PASCO CORPORATION. (C)2017 INCREMENT P CORPORATION.

いかなる形式においても著作権者に無断でこの地図の全部または一部を複製し、利用することを固く禁じます。

日野市環境基本条例と 2019 年度日野市環境白書作成の経緯

日野市環境基本条例（抜粋）

〈前文〉

私たちは、豊かな自然の恵みを受けて、生命の糧を与えられてきた。現代社会において、私たちは、大量生産・大量消費の社会システムの中で、物質的に豊かで便利な暮らしを享受する一方、自然環境の消失や資源とエネルギーの限りのない消費と多量の廃棄を生みだしてきた。このような生産と生活の在り方は、地球規模での環境破壊をもたらしている。

日野市民は、野生生物が棲み、水を育む森林、暮らしに潤いをもたらす川、農地や崖線の緑などの自然や、それらによって培われた歴史的・文化的環境を祖先から受け継いできた。

このような環境を私たちの世代限りで終わらせることなく、次の世代に引き継いでいかなければならない。

私たちは、これまでの生産と生活を見直し、自然を育み、環境保全型のまちを創り出すとともに、持続可能な社会への展望を見いだすべきときにきている。

このような認識の下に、私たちは、日野市、日野市民及び事業者の責務と役割を明らかにし、良好で快適な環境を確保するとともに、環境への負荷の少ない日野市を創りあげていくために、この条例を制定する。

〈第 18 条〉

市長は、毎年、議会に、環境の保全等のために市が実施した事業の概要に、日野市環境審議会の意見を付けて、報告書を提出しなければならない。

1995 年に市民の直接請求により、上掲の前文に掲げる目的で日野市環境基本条例が制定されました。その条例の第 9 条に基づいて、1999 年に日野市環境基本計画が策定されました。この計画に定められた施策の進行状況は前記条例第 18 条に基づいて、日野市環境白書として環境審議会での審議、議会の承認を経て 1999 年度以降毎年公表してきました。2005 年には環境情報の発信拠点として日野市環境情報センター（かわせみ館）が設立され、これを契機にそれ以降の環境白書は同センターが作成してきました。2017 年に日野市環境情報センターの機能を引き継ぐ日野市立カワセミハウスがオープンし、環境白書の作成も、引き続きカワセミハウスが行なっています。

この環境白書の特色は、環境基本計画で設定された分野ごとに計画の進捗を計るための数値目標を掲げ、それらの達成度から環境問題への対応を評価し、翌年度の事業に反映させたところです。

第 1 次となる環境基本計画の策定から 5 年後の 2004 年に環境基本計画の見直しが行われ、重点的に実施すべき項目とその進捗を計る数値目標を新たに追加しました。そして第 1 次計画の計画年度が満了となる 2011 年には、公募市民・事業者・市職員からなるワーキングチームにより、第 1 次計画の理念を踏襲した第 2 次環境基本計画を策定しました。その際着実にそして計画的に進められるよう、計画に掲げた施策には優先順位を設けて中長期の具体的な目標を盛り込みました。また計画の推進についても市民・事業者と各主管課が協働して実施できるような体制づくりに努めています。

今回の環境白書は第 2 次計画に掲げた施策を基本に、これまで取り組んできた内容や結果をまとめたもので、計画の策定にあたった市民と主管課が、1 年間活動した結果のコメントも掲載しています。このほか、市民団体・各学校・事業者等の環境への取組状況等も掲載しています。

望ましい環境像

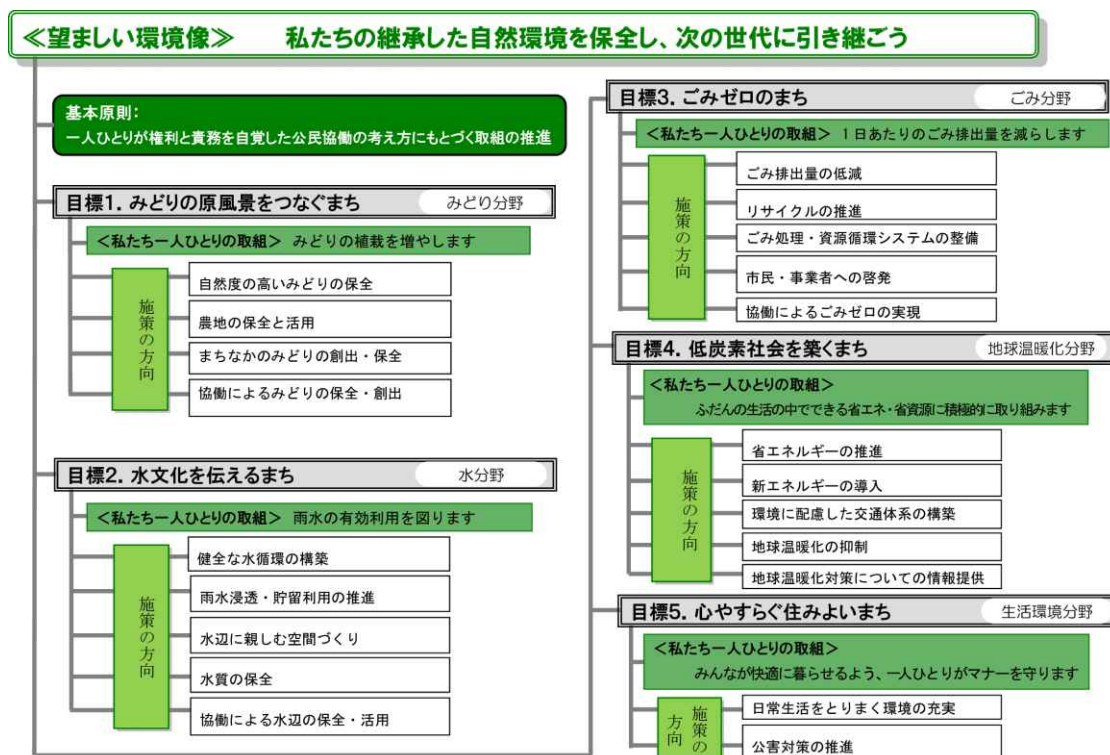
日野市環境基本計画とは

「将来にわたる日野市の目指すべき環境の姿や、市全体で環境保全・創出を行う上での基本的な考え方を示すとともに、着実に環境の保全・創出を行なっていくために取り組んでいく内容やその進め方を示すこと」を目的として策定します。目標である「望ましい環境像」は「私たちの継承した自然環境を保全し、次の世代に引き継ごう」とし、先人から受け継いだ豊かな自然を守り育て、少しでも質の高い形にして次の世代に引き継げるよう、一人ひとりが自覚をもって行動することを目指します。

【第2次環境基本計画の特徴】

- ① 潤いや安らぎを与えてきた水やみどり等の自然環境を市の財産として守り生かしながら、少しでも良くして次の世代に引き継ぐ。
- ② 計画的な施策の実施に向けた優先順位の設定や、市民一人ひとりの行動や意識をステップアップさせ、自覚と責任ある行動の浸透を目指し、確実に次の一步を進める。
- ③ 市民一人ひとりが日常生活において環境配慮を実践し、市全体の環境についても広い視点で考え行動するよう働きかけるなど、「公民協働」の考えを基本として計画を推進する。

計画の施策体系の柱は、日野市の特徴である水やみどりの分野に、ごみ、地球温暖化及び生活環境を加えた5分野です。推進主体である市民・事業者・市の役割を明確にし、お互いに連携して計画を推進していきます。



「第2次日野市環境基本計画」(2011年3月)より

2019 年度（令和元年度）日野市環境白書

— 目 次 —

- ・日野市の概況
- ・日野市環境基本条例と 2019 年度日野市環境白書作成の経緯
- ・望ましい環境像

1. 2019 年度の日野市の環境に関するトピックス	1
(1) 日野市が持続可能なまちであるために～SDGs 未来都市日野～	1
(2) 新可燃ごみ処理施設、プラスチック類資源化施設が稼働開始	3
(3) 第 2 次ごみ改革スタート	3
(4) 身近に迫る地球温暖化の脅威	5
(5) アートディレクション事業（アーティストと子どもたちとのコラボ） ～「日野市こもれびハンカチプロジェクト」～	7
2. 環境基本計画目標達成状況	10
(1) 環境の現状	12
(2) 市の取組状況	12
(3) 分野別目標達成状況	12
3. 環境の現状と取組状況の評価	15
みどり分野（環境の現状/市の取組状況/市民コメント）	16
水分野（環境の現状/市の取組状況/市民コメント/東豊田緑地保全地域（黒川清流公園） における湧水白濁及び枯渇の再発防止について）	24
ごみ分野（環境の現状/市の取組状況/市民コメント）	40
地球温暖化分野（環境の現状/市の取組状況/市民コメント）	51
生活環境分野（環境の現状/市の取組状況）	61
4. 環境への取組状況	70
(1) 市民および市民・行政の協働による環境への取組状況	70
(2) 行政による環境への取組状況	101
(3) 学校等による環境への取組状況	106
(4) 大学による環境への取組状況	113
(5) 事業者による環境への取組状況	115
5. 環境関連決算額	123
6. 市役所の環境配慮の状況	126
7. 環境基本計画の推進体制	128
(1) 環境基本計画の推進	128
(2) 日野市立カワセミハウスの活動状況	129
8. 環境審議会の意見等	138
9. 省エネ法に関する措置	140
付表 指標・参考データ出典一覧	141

1. 2019 年度の日野市の環境に関するトピックス

2019 年度に実施した環境に関する取り組みや出来事の中から、つぎの 5 項目を注目すべきトピックスとして取り上げました。

(1) 日野市が持続可能なまちであるために～SDGs 未来都市日野～

SDGs（持続可能な開発目標）は 2015 年に国連に加盟する全ての国で採択された 2030 年までの世界共通の目標です。

2018 年度からは、地方創生の一環として自治体も SDGs への取り組みが求められ、優れた取り組みを提案する自治体を「SDGs 未来都市」として、年間約 30 都市を指定する取り組みが始まりました。

日野市は 2019 年に都内で初めてこの SDGs 未来都市になりました。

日野市が掲げた SDGs 未来都市のテーマは「市民・企業・行政の対話を通じた生活・環境課題産業化で実現する生活価値（QOL）共創都市日野」です。

日野市では「諸力融合」という言葉を政策の基本理念として掲げてきました。この言葉には、様々な都市課題の解決に向け、市民や地域の事業者、企業や大学、行政が目標を共有し、困難な時代を克服して次世代に日野のまち、地域の資源を継承していこうという意味が込められています。

この諸力融合の発端となったのは 1995 年に住民の直接請求により制定された「日野市環境基本条例」や、それにかかわった市民と行政による「日野市環境基本計画」の策定であると考えています。環境から始まった日野市での市民参画の取り組みは、今や様々な政策分野に浸透し、さらに地域の様々なステークホルダーを巻き込んだ取り組みに発展しつつあります。この諸力融合の取り組みが“SDGs 未来都市”に選定された一つの要因です。

ただ、我々が現在直面している様々な課題はあまりにも大きく、解決に向けた道筋は明確ではありません。

「社会」の面では、わが国は少子高齢化の課題先進国であり、今後さらにその課題は深刻化します。そして、「経済」においては、世界的に拡大している新型コロナウイルスの影響により、100 年前の世界恐慌以来の混迷の災禍の渦中におり、全ての人が感染する危険性に脅かされています。

「環境」の面では地球温暖化、マイクロプラスチックの海洋流出、そして世界人口の増加に伴う水や食料不足の問題、我々には持続を困難にさせるいくつかの課題が立ちはだかっています。

1. 2019 年度の日野市の環境に関するトピックス

これらの「社会」「経済」「環境」の課題は、それぞれ個別に存在しているのではなく、相互に密接に関係しあうものとなっています。これらの課題解決のためには、それぞれの分野の側面だけから考えるのではなく、「社会」「経済」「環境」を複合的に考えることが必要であり、それぞれの分野の知識、取り組みを組み合わせなければなりません。

今日のこのような課題は一つの団体や企業、行政だけで解決することはできません。関わる人達、団体が同じ方向を向き、それぞれが協力し、努力を続けることが求められています。

そして、我々日野市だけでなく、その取り組みを他の地域と、世界中の国と共有していかなければなりません。

まずは我々ができることから“諸力融合”（マルチステークホルダーパートナーシップ）で取り組みを始め、それらが地域から世界につながることをイメージしてください。それがSDGsの視点であり、今ある様々な課題を克服し、次世代を生きる人々に持続可能な未来を引き継ぐ方法になると思います。

日野市の SDGs 未来都市計画に掲げる将来像

市民・企業・行政の対話を通じた生活・環境課題産業化
で実現する生活価値（QOL）共創都市 日野

(2) 新可燃ごみ処理施設、プラスチック類資源化施設が稼働開始

両施設ともに 2020 年 4 月からの本格稼働へ向けて、新可燃ごみ処理施設は、2019 年 12 月 19 日より日野市、国分寺市、小金井市 3 市の可燃ごみを受け入れて、試験運転を開始しました。また、プラスチック類資源化施設については、2020 年 1 月 6 日からのプラスチック類ごみの分別収集スタートとともに試運転を開始しました。



(3) 第 2 次ごみ改革スタート

2000 年 10 月の家庭ごみの戸別収集・ごみ袋の有料化（第 1 次ごみ改革）を実施後、市民の皆様のご理解とご努力により 1 人 1 日当たりのごみ排出量は、1999 年度の 1,042 g から 2001 年度には 841 g と激減し、2018 年度には、617.1 g（多摩地区第 4 位）まで減量されました。しかし、2020 年には、第 1 次ごみ改革から 20 年が経過することもあり、当時のようなごみ減量の機運の盛り上がりは薄れ、ここ数年の 1 人 1 日当たりのごみ排出量は微減で、横ばい状態となっています。

一方、資源化率については、2018 年度は 34.1%（多摩地区第 21 位）と下位に低迷したままとなっています。その大きな要因がプラスチック類ごみの資源化の取組みの遅れにあります。

また、世界的には、地球温暖化や海洋プラスチックごみの問題が大きく取上げられています。

このような様々な状況を踏まえ日野市では、もう一度、市民とともに「ごみの減量」の機運を盛り上げ、SDGs 未来都市として、さらなる「ごみの減量」、「資源化率の向上」を図り、持続可能な社会を構築し、次の、またその先の世代へ豊かな日野市の環境を引き継いでいくことを目的に「第 2 次ごみ改革」をスタートし、その大きな柱のひとつと

1. 2019 年度の日野市の環境に関するトピックス

して 2020 年 1 月 6 日からプラスチック類ごみの分別収集による資源化を開始しました。

なお、分別収集の開始に伴い、中学校区における説明会や市職員で横断的に組織したキャラバン隊による自治会、団体等への説明会を開催し、市民への周知を行ないました。

《説明会実績》

1 中学校区

地 区	開催日	出席者数
平山中地区	7/27（土）	26
四中地区	7/27（土）	35
大坂上中地区	8/4（日）	39
三沢中地区	8/4（日）	75
一中地区	8/10（土）	46
三中地区	8/10（土）	20
七生中地区	8/11（日）	36
二中地区	8/11（日）	38
計		315

2 自治会・グループ等

	自治会	グループ等	計
実施回数	85	37	122
参加者数	2,408	843	3,251

《今後の主な取り組み》

（ 減 量 ） ①容器包装お返し大作戦

- ・協力店の拡大

②マイバッグ運動

- ・2020.7 のレジ袋有料化後の無料配布店への有料化協力要請
- ・レジ袋を買わない、貰わないマイバッグ運動のさらなる推進

③生ごみ減量

- ・3 切り運動の啓発
- ・ダンボールコンポストの推進

④食品ロス対策

- ・フードドライブ事業の継続・拡大

行きも帰りもマイバッグ



3 切り運動で生ごみ減量！



（資源化率向上）⑤ごみの分別排出の徹底

- ・「分ければ資源」を合言葉に分別の徹底を啓発

⑥資源化品目の拡大

- ・不燃ごみ資源化の検討

ダンボールコンポストで 生ごみたい肥化



(4) 身近に迫る地球温暖化の脅威

地球温暖化は世界全体の問題として、長年数々の国際会議や海外の人物の発言が注目を集めてきました。また、これまで温暖化による差し迫った脅威としては、水没の恐れのある南太平洋の市民の島々や砂漠に飲み込まれるまちなど、遠い外国の事例が目立っていました。

私たち日本に暮らす人々にとっては、地球温暖化を止められないと遠い将来深刻な問題が起こることは理解しながらも、なかなか身近な問題としては捉えられてなかったのではないのでしょうか。

ところが、2019 年秋に日本を襲った台風 19 号は、地球温暖化の脅威を間近に感じる機会となりました。

大型で非常に強い台風 19 号は、勢力を保ち 2019 年 10 月 12 日午後 7 時頃伊豆半島に上陸、その後関東地方を縦断しました。広範囲で記録的な大雨・暴風となり、千曲川や多摩川をはじめ複数の河川で氾濫が発生するなど、各地で甚大な被害が生じました。



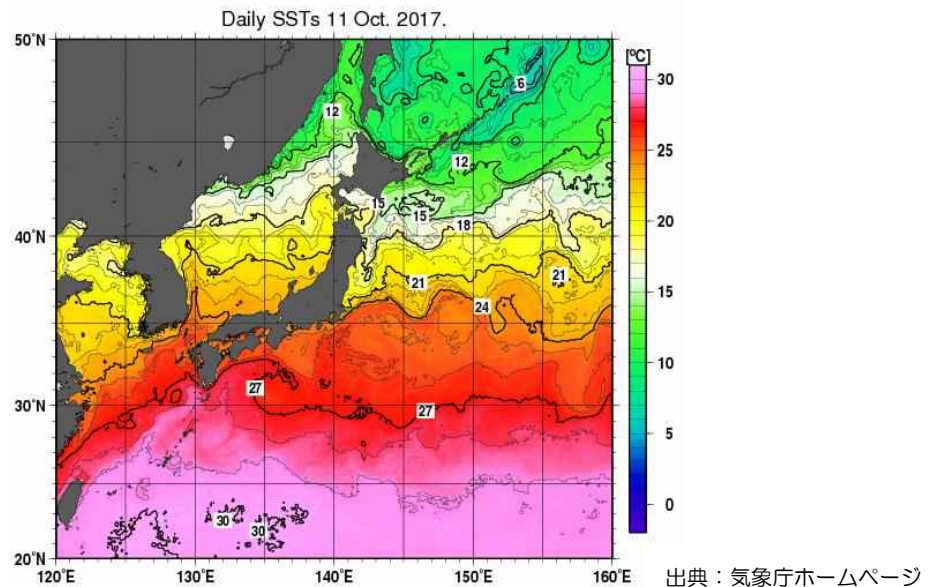
日野市でも、市内を流れる多摩川と浅川が氾濫危険水位を超え、8,000 人を超える市民が避難。不安な夜を過ごしました。実際に一部の地域では浸水被害が発生し、広い範囲の住戸が水没の危機にさらされました。また、多摩川にかかる日野橋が被害を受け、幹線道路が長期間通行止めになるなど、市民生活にも大きな影響が出ました。



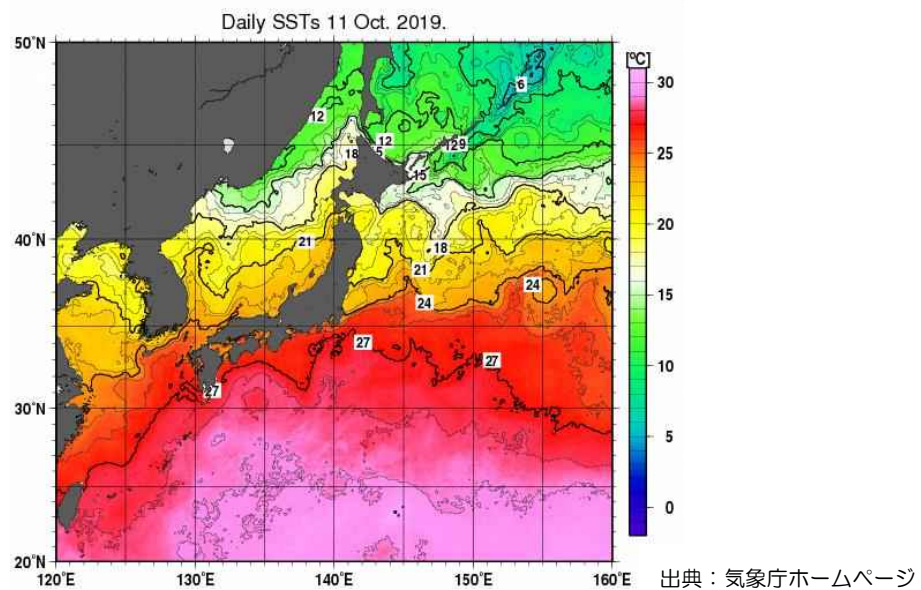
1. 2019 年度の日野市の環境に関するトピックス

台風は海水温が 27 度以上で発達し続けるとされています。地球温暖化の影響で日本近海の海面水温が高い状態が続くと、風や雨の強い台風が、私たちのまちに来る可能性が高まってしまいます。台風 19 号のような災害が頻発するようになると、日本で暮らす人々、そして日野市民も、たびたび命の危険にさらされることになります。

2017 年
10 月 11 日の
海水温度



2019 年
10 月 11 日の
海水温度
(台風 19 号
上陸の前日)



比較すると、台風 19 号が接近するときの海水温が高かった(27 度以上) ことがわかります。

台風 19 号の被害を教訓に、これからは、ますます地球温暖化の問題を身近な問題として捉え、温室効果ガスの抑制に向け、私たち一人ひとりができることに、より真剣に取り組んでいくことが大切です。

(5) アートディレクション事業（アーティストと子どもたちとのコラボ） ～「日野市こもれびハンカチプロジェクト」～

日野市出身で気鋭の版画家蟹江杏さんと公募により集まった市内在住の中高生 11 名との協働により、「こもれび」をテーマに 9 回のワークショップを重ね作品を創作しました。

これまでの事業では、みんなで一つの作品を創作していましたが、今回は原画となる 800×800mm という大きなキャンバスに一人ひとりが向き合い、それぞれのイメージや個性を爆発させてもらう企画としました。

スタート直後よりすぐに描き出す子もいれば、じっと考える子もいるなど様々でしたが、そこにプロジェクトリーダーである蟹江杏さんのアドバイスが加わり、さらに個性が引き出された作品に仕上がりました。

この作品を次世代に伝えていくことにより、日野市のもつ身近な自然環境の大切さと、日野市らしい多様な主体間によるコラボレーションの素晴らしさを広く市内外に発信していきます。

<創作活動>

① 一人ひとりが大きなキャンバスに向き合い思い思いの「こもれび」を描きました。

- ・ カワセミハウスに隣接する黒川清流公園を散策し、今回のテーマである「こもれび」のイメージを膨らませました。

※右写真

「散策の様子」



※左写真

「キャンバス制作の様子」



- ・ 個々に用意されたコンパネに、自分たちで白の下塗りをしてキャンバスを作成しました。

また、キャンバスを立てかけるイーゼルも自分たちで組み立てました。

※左写真

「絵を描いている様子」



1. 2019 年度の日野市の環境に関するトピックス

② 写真撮影会

- ・ 創作した作品の撮影やプロモーション撮影（作者撮影）



蟹江杏さんとのご縁で、今回のスペシャル企画として、日野市内在住の著名な写真家「たかはしじゅんいち」さんによる撮影会を行ないました。

特別にスケジュールを調整していただき、今回のプロジェクトに参加（コラボ）していただきました。

※左写真「撮影の様子」

③ 創作した作品のネーミングや紹介文等の作成

- ・ まず各自が創作した作品のネーミングを行ないました。次に作品の紹介文は、制作者自身が作成するのではなく、他の制作者に作成してもらいました。これはそれぞれの制作者の絵に込めた思いなどの聞き取りをしてもらいながら、その作品の良いところを発見してもらう意図をもって行なったものです。

④ 作品のプロフィール及びハンカチ制作

- ・ 作品プロフィールの作成
写真家「たかはし じゅんいち」さんが撮影した作品や創作者の写真を、上記③で作成した紹介文とあわせて「作品プロフィール」を作成しました。
- ・ ハンカチの制作
上記②で撮影した作品とカワセミハウスのマスコットキャラクターの「こもれびくん」の写真をハンカチ 12 枚にプリントしました。
- ・ 大きなフラッグの制作
12 枚のハンカチを安全ピンでつなぎ合わせて 1 枚のフラッグを制作しました。

<創作作品>

① 絵画

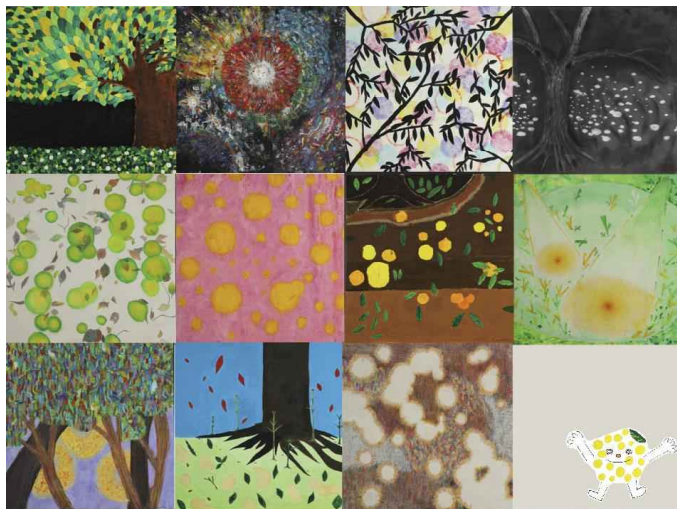
- ・ キャンバスサイズ：800×800mm（コンパネ板 12mm）
- ・ 制作枚数：11 枚（参加者 11 名の作品）

② ハンカチ

- ・ ハンカチサイズ：350×350mm
- ・ 制作枚数：11 枚（参加者 11 名の作品）

③ フラッグ

- ・ フラッグサイズ：約たて 1,050×よこ 1,400mm
- ・ 制作枚数：1 枚（ハンカチ 12 枚をつなぎ合わせた作品）



制作したハンカチ 11 枚（11 名分）と 2017 年度アートディレクション事業で創作した絵本「ぼくのまちにはもりがある」のキャラクターでもあり、カワセミハウスのマスコットキャラクターである「こもれびくん」をプリントしたハンカチ 1 枚をつなぎ合わせて、1 枚のフラッグにしました。 ※ サイズ：約たて 1,050×よこ 1,400mm

＜発表会の中止＞

今回の事業の成果を発表する場として市長や関係者、地域の皆さまをお招きした発表会を 3 月 7 日（土）に予定し開催に向けた準備を進めていましたが、この度の新型コロナウイルス感染拡大防止施策の一環として大変残念であります、やむを得ず中止としました。

★参加者のアンケートから（一部紹介）

Q ワークショップに参加してみて印象に残ったことは何ですか。

→ 自分と違う価値観を持っている同い年や年上、年下の人たちと関わって色んな意見が聞けた。お昼ご飯中の雑談タイム。写真を撮影していただいたこと。ワークショップに参加しているほかの人たちの学校生活での話が面白かった。

Q この事業に参加したことで、自分自身の考え方やこれからの進路などに変化はありましたか。又は変化が起こりそうですか。

→ 改めて絵を描くことが好きだなと実感した。将来的にも自分の好きな絵で仕事をしてみたい。美術の道に少し興味を持った。今までとは違った見方や考え方もできるようになったと思いました。勉強が大変な時でも絵を描くことでスムーズにできたりと、心落ち着く場所ができて良かったなど改めて思いました。

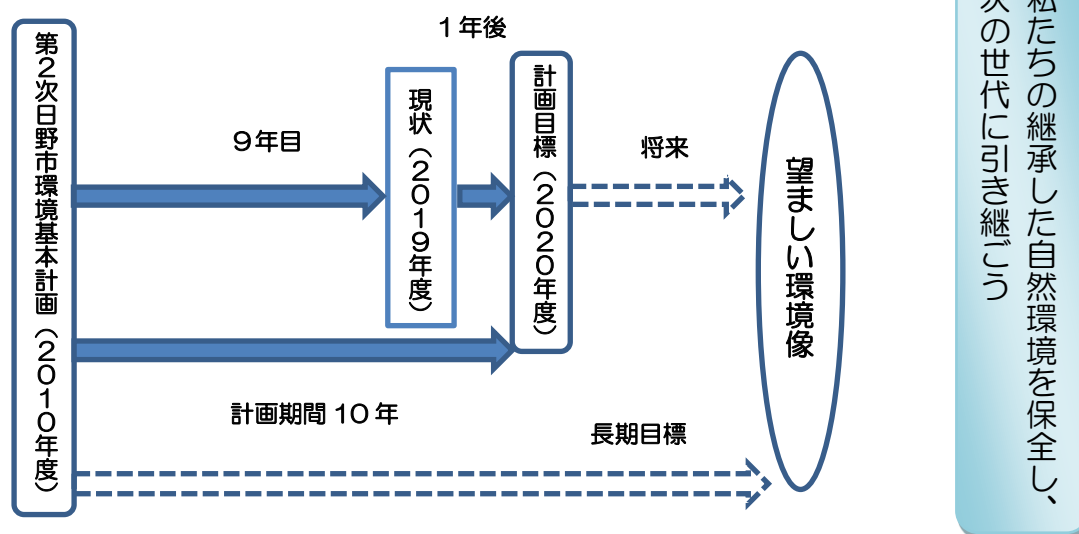
Q この事業に参加してみた感想をお願いします。

→ 参加して本当に良かったと思った。多分私にとってこの事業に参加させてもらったことは、私の人生にとってとても大きな変化なんだろうと思った。人と関わることが苦手だったけど、今回の事業でとても楽しく絵を描くことができ友達も増えて楽しかったです。絵のことはよくわからないし、技術もないけど楽しめた。

2. 環境基本計画目標達成状況

2011年3月に策定された「第2次日野市環境基本計画」では、“将来の望ましい環境像”が掲げられています。そして、“望ましい環境像”の実現に向けて、各分野(みどり、水、ごみ、地球温暖化、生活環境)別に、10年後に目指す環境の姿(目標)と、目標を達成するための市の取り組み(施策)が掲げられています。

これらの“望ましい環境像”の指標(環境の現状を評価する指標)および市の取組状況(施策の実施状況)が、環境基本計画の目標を達成しているかどうかの指標となっています。本白書に掲載している指標は全体で52項目です。



環境基本計画の計画期間と目標

ここでは、「環境の現状」「市の取組状況」「分野別目標達成状況」の順に、第3章で詳述している内容について目標達成状況の概況をとりまとめています。各指標の評価基準は以下の通りです。

凡例	評価	評価の基準	
		環境の現状(望ましい環境像)の指標	市の取組状況の指標
☺	達成	計画目標を達成もしくは良くなる傾向	過去の実績を踏まえて良くなる傾向
☹	未達成	計画目標を未達成もしくは悪くなる傾向	過去の実績を踏まえて悪くなる傾向
◇	どちらとも言えない、判断できない(定量的な比較が困難なもの等)		

表1 本白書掲載の指標・データと目標達成状況

2. 環境基本計画目標達成状況

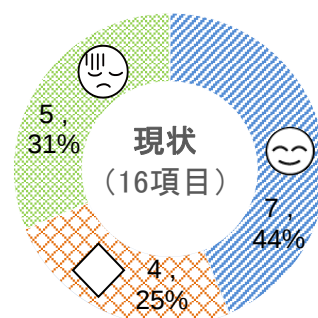
分野	施策の方向	施策	指標・参考データ	達成状況	掲載頁
みどり	環境の現状（望ましい環境像）の指標		指標1 土地利用現況調査「森林」の割合	×	16
			指標2 緑被率	×	16
			指標3 農地面積	×	17
			(参考1) 生産緑地面積	-	17
			指標4 一人当たり都市公園面積	×	18
			(参考2) 多摩地区の一人当たり都市公園面積	-	18
	自然度の高いみどり	民有緑地の公有地化等の推進	指標5 市が寄付や買収等で取得した樹林地面積	○	20
		緑地管理協定等による保全の推進	指標6 緑地信託面積	×	20
		市民緑地活動の積極的支援	指標7 緑のトラストへの寄付件数	△	20
		ボランティアによる里山の管理と活用	指標8 雑木林ボランティア講座修了者数	○	21
	農地の保全と活用	市民農園等の拡充	指標9 市民農園の面積	△	21
		援農ボランティア制度の拡充	指標10 援農人数	○	21
		地元野菜にふれる機会の充実	指標11 「市」の開催日数	○	22
			指標12 学校給食における地元野菜等利用率	○	22
			指標13 給食野菜納品農業者数	△	22
	まちなかのみどりの創出・保全	生け垣緑化の推進	指標14 生け垣の助成件数	○	23
水	環境の現状（望ましい環境像）の指標		指標15 浅川の水位	△	24
			(参考3) 浅川の流量測定結果	-	25
			指標16 湧水確認地点数・湧水量	△	26
			(参考4) 湧水地点の状況	-	27
			指標17 各用水路の水質分析結果	○	28
			指標18 河川・用水・湧水の水生生物確認状況	○	29
			(参考5) 水生生物による水質の生物学的判定	-	30
			指標19 水辺に親しみやうおいを感じる市民の割合	△	32
			指標20 地下水揚水量	○	32
	湧水・地下水の保全	地下水揚水量の把握	指標21 雨水浸透ます設置個数	○	34
	雨水浸透・貯留利用の推進	家庭や事業所への雨水浸透・貯留施設の設置促進	(参考6) 透水性舗装整備状況	-	35
	水質の保全	生活排水および汚水処理の施設整備	指標22 下水道普及率	○	36
	協働による水辺の保全・活用	水辺に親しむ活動の推進	指標23 水辺イベントの開催数	△	36
		水辺の保全・管理活動の推進	(参考7) 「ピオトーブづくり」の取組件数	-	37
ごみ	環境の現状（望ましい環境像）の指標		指標24 「用水守」の登録団体数	△	37
			指標25 ごみ・資源排出原単位	○	40
			(参考8) ごみの行方	-	41
			指標26 資源化率	△	41
	ごみ排出量の低減	レジ袋無料配布中止の拡大	(参考9) ごみ量内訳	-	42
		容器包装お返し大作戦の展開	指標27 マイバック持参率・レジ袋辞退率	○	44
		リサイクルの推進	指標28 ペットボトル、発砲トレーの行政回収率	△	44
			指標29 焼却ごみの組成（乾ベース）	○	45
			(参考10) 焼却ごみの組成割合（2019年度分析湿ベース）	-	45
	市民・事業者への啓発	生ごみの家庭内循環（自家処理）の普及促進	指標30 生ごみ減量・資源化への取組世帯数	○	46
		情報提供ツールの充実	指標31 生ごみリサイクルステッカー掲示世帯数	×	47
			指標32 環境学習出前講座の実施回数	×	48
	協働によるごみゼロの実現	情報提供ツールの充実	指標33 ごみ相談窓口への相談件数	○	49
		新聞紙の民間回収への移行	指標34 クリーンセンター見学者数	△	49
地球温暖化	環境の現状（望ましい環境像）の指標		指標35 新聞紙の行政回収量	○	49
			指標36 二酸化炭素排出量	○	51
			(参考11) エネルギー消費量	-	54
			指標37 公共交通機関（ミニバス・バス）の整備率	○	54
			指標38 市内連絡バス（ミニバス）年間利用者数	○	55
	省エネルギーの推進	CO2の見える化の推進	指標39 「ふだん着でCO2をへらそう宣言」の宣言数及びCO2削減量	○	55
		省エネ診断の支援	指標40 フットチェッカー等貸出状況	△	57
		省エネ診断の参加事業者数	指標41 省エネ診断の参加事業者数	×	58
	新エネルギーの導入	太陽光発電等導入補助の実施	指標42 太陽光発電等の導入補助件数	○	58
		太陽光、太陽熱、風力等の積極的な活用	指標43 公共施設の新エネルギー導入状況	○	59
	環境に配慮した交通体系の構築	渋滞の解消	指標44 都市計画道路の整備率	△	59
生活環境	環境の現状（望ましい環境像）の指標		指標45 心やすらぐ快適な生活環境であると感じる市民の割合	×	61
			(参考12) 苦情受付件数	-	61
	日常生活をとりまく環境の充実	PRの実施	指標46 マナーアップのための啓発活動状況	○	63
	公害対策の推進	大気汚染物質の監視	指標47 浮遊粒子状物質（SPM）年平均値	○	63
			指標48 二酸化窒素の年平均濃度	○	64
			指標49 二酸化窒素24時間測定結果	○	65
			指標50 雨の酸性度	△	65
			(参考13) 富士山ウォッチング	-	66
		道路交通騒音の測定および対策の実施	指標51 道路交通騒音	△	67
		航空機騒音についての対策	指標52 横田飛行場に係る航空機騒音	○	68
		放射線測定	(参考14) 市内空間放射線量測定	-	69

○：達成 ×：未達成 △：どちらともいえない -：評価対象外（参考データ）

2. 環境基本計画目標達成状況

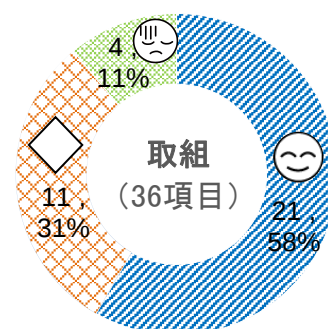
(1) 環境の現状

環境の現状（望ましい環境像）を評価する指標は52指標中16指標あります。目標達成状況は前出の表1（P.11）と右の円グラフに示す通りで、16の指標のうち7指標で「達成」と評価され、「未達成」は5指標と、全体では前年度と同じ結果となりました。「未達成」の5指標の内訳は、「土地利用現況調査「森林」の割合」、「緑被率」、「農地面積」、「一人当たり都市公園面積」、「心安らぐ快適な生活環境であると感じる市民の割合」で、みどり分野において特に現状が厳しいことがうかがえます。



(2) 市の取組状況

市の取組状況を評価する指標（「環境の現状」の指標以外）は52指標中36指標です。目標達成状況は前出の表1（P.11）と右の円グラフに示す通りで、36指標のうち21指標（58%）で「達成」と評価されています。「未達成」は4指標（11%）と少なく、前年度とほぼ同程度の結果で、行政や市民の努力がうかがえます。



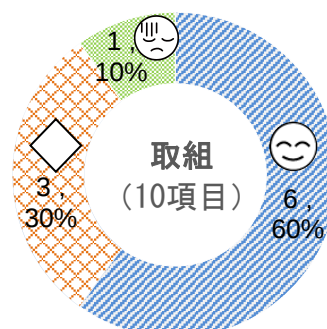
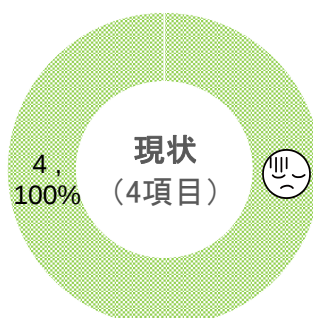
(3) 分野別目標達成状況

😊 達成 😞 未達成 ◇ どちらともいえない

〇みどり分野

みどり分野の現状（環境の現状）と取組（市の取組状況）の目標達成状況は以下に示す通りです。現状は、4指標中全てが目標を未達成と評価されており、厳しい状況と言えます。

一方で、取組では10指標中6指標で目標を達成しており、行政や市民の努力は評価できます。取組により現状が改善されない点が課題と言えます。

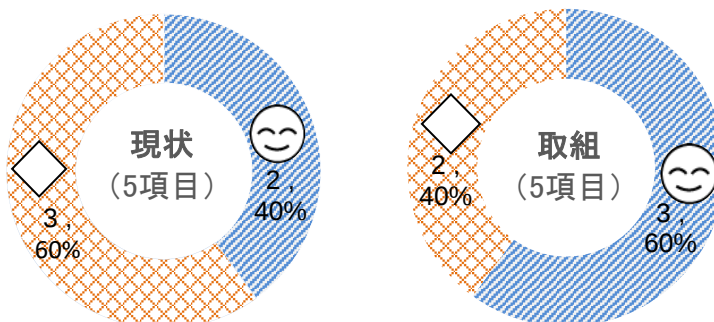


ここがポイント！

- 農地面積は毎年減少を続けていますが、相続が主な原因と考えられ、現在の施策では減少に歯止めをかけることが困難です。国の法整備に準じた新たな施策に期待します。
- 雑木林ボランティア講座の累計終了者数は2020年度目標を達成できる見込みです。修了生が活動するためのネットワークも立ち上がり、緑地管理への貢献が期待されます。
- 学校給食における地元野菜利用率は、昨年よりやや減少したものの目標値を大きく超える数値になっています。給食野菜の供給が農地の保全（農業の継続）に繋がることを期待します。

○水分野

水分野の現状（環境の現状）と取組（市の取組状況）の目標達成状況は以下に示す通りです。現状は、5指標中2指標で「達成」、3指標が「どちらともいえない」でした。数字で見れば悪くない状況ですが、「どちらともいえない」と評価された「浅川の水位」や「湧水確認地点数・湧水量」については単年度での評価が難しいこともあり、引き続き注視していく必要があります。取組では、5指標中3指標が「達成」で、行政や市民の努力が評価できます。

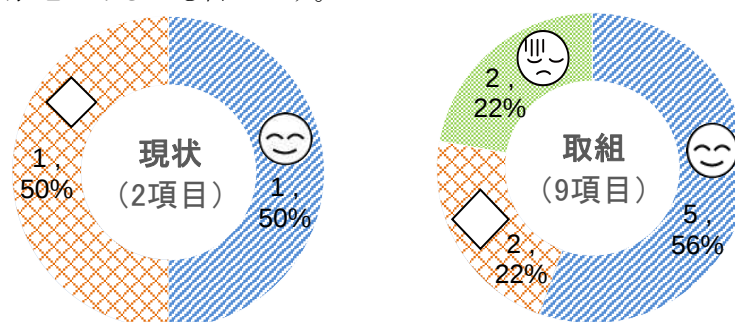


ここがポイント！

- 浅川の水位と湧水地点数・湧水量については、目標を達成しているかどうか判断できませんでしたが、今後も注視していく必要があります。
- 下水道普及率は高い水準を保ちながら微増し、河川や用水の水質は良好です。このことで、水生生物も重要種を含む多くの種が確認されています。
- 市による湧水量調査や水生生物調査の実施、河川の清掃イベントなど、水環境保全のための取組が行なわれています。

○ごみ分野

ごみ分野の現状（環境の現状）と取組（市の取組状況）の目標達成状況は以下に示す通りです。現状は、2指標中1指標で「達成」、1指標が「どちらともいえない」で、悪くない状況です。取組では9指標中5指標で「達成」と評価されており、行政や市民の意識の高さがかがえる一方、まだ努力の余地があるとも言えます。



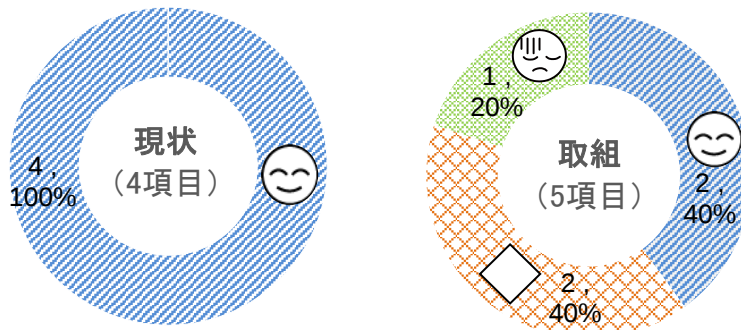
ここがポイント！

- 1人1日当たりのごみ排出量は若干の増加に転じたものの、2020年1月からプラスチック類の分別回収が始まり不燃ごみ量は減少しました。プラスチック類の資源化によりごみ排出量や資源化率が目標値に近づいていくことに期待したいところです。
- クリーンセンターの建て替えに伴う見学の受け入れ休止や持込み資源受け入れ休止の影響が関連する指標に表れていますが、建て替え後には回復するものと思われます。
- マイバッグ持参率・レジ袋辞退率や生ごみ減量・資源化への取組世帯数については高い水準を維持しています。

2. 環境基本計画目標達成状況

○地球温暖化分野

地球温暖化分野の現状（環境の現状）と取組（市の取組状況）の目標達成状況は以下に示す通りです。現状は、前年度に引き続き4指標全てが「達成」となりました。取組では5指標中「未達成」は1指標のみで、現状の目標達成状況を鑑みれば、行政や市民の努力が評価できると言えます。

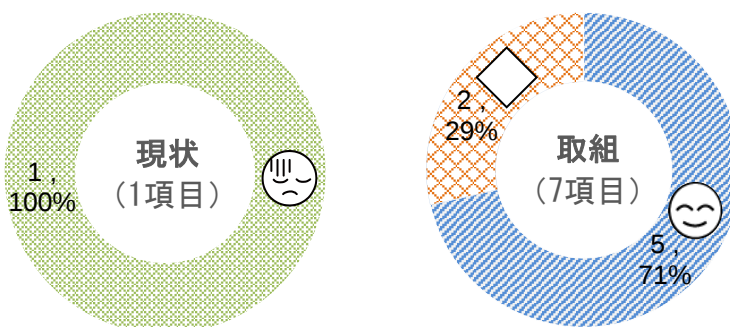


ここがポイント！

- 二酸化炭素排出量は5年続けて減少し、中期目標(2020年度に設定)まで達成することができました。
- 「ふだん着でCO₂をへらそう宣言」や「環境家計簿（エコキング）」といった、市民一人ひとりの取り組みについても多数の市民に参加いただいていることから、市民の意識の高さが評価できます。

○生活環境分野

生活環境分野の現状（環境の現状）と取組（市の取組状況）の目標達成状況は以下に示す通りです。現状を評価する指標は1つだけで、「未達成」と評価されています。取組の指標は7指標ありますが、このうち6指標は大気質や騒音の現況を評価するものです。「未達成」の指標はなく、生活環境については概ね良好な状況が保たれていると言えます。



ここがポイント！

- 大気質や騒音、水質（水分野の指標）の調査結果からは良好な生活環境が維持されていると言えますが、市民意識調査の結果では、良好な生活環境が確保されていると感じる市民の割合が減少しています。苦情受付件数の増加と関連があるかもしれません。
- 「雨の酸性度」や「空間放射線量測定」といった、市民の関心が高いデータも掲載しています。

3. 環境の現状と取組状況の評価

ここでは、第2次日野市環境基本計画における望ましい環境像を実現する5つの分野である、みどり、水、ごみ、地球温暖化、生活環境について以下の流れで順に紹介します。

評価の凡例と基準は第2章に記載していますが、以下に再掲します。

凡例	評価	評価の基準	
		環境の現状（望ましい環境像）の指標	市の取組状況の指標
☺	達成	計画目標を達成もしくは良くなる傾向	過去の実績を踏まえて良くなる傾向
☹	未達成	計画目標を未達成もしくは悪くなる傾向	過去の実績を踏まえて悪くなる傾向
◇	どちらとも言えない、判断できない(定量的な比較が困難なもの等)		

(1) 環境の現状

第2次日野市環境基本計画では、分野ごとに現在の環境（環境の現状）を評価する「環境の状況を測る指標と目標」が設定されています。これらの指標の目標年度の多くは、計画策定時から10年後の2020年度としており、本白書で年度ごとに各数値を確認することにより、「望ましい環境像」に近づいているかを把握することができます。ここでは、指標ごとに現在までの推移をグラフや表にまとめています。

なお、ごみ分野については「第3次日野市ごみゼロプラン（2017（平成29）年3月）」で定められた目標年度と目標値を2016年度以降適用していきます。

(2) 市の取組状況

第2次日野市環境基本計画で施策として位置付けられた取り組みについて表にまとめました。また、指標ごとに、施策の実施状況や、進捗状況、効果等を確認するため、現在までの推移をグラフや表にまとめています。指標が定められていない施策については、実施状況を記載しました。ただし、全ての施策について掲載すると膨大な量となるため、定量的な評価が可能な施策を中心に抽出しています。

なお、第2次日野市環境基本計画により2020年度の目標が設定されている指標については目標値を掲載し、評価の参考としました。また、ごみ分野に関しては、「第3次日野市ごみゼロプラン（2017（平成29）年3月）」で目標値が定められているものについてはその値を掲載しています。

(3) 市民コメント

2001年度以降、白書には環境基本計画作成に携わった方々による分科会ごとのコメントを掲載してきました。引き続き今回も環境基本計画推進会議に参加する市民のコメントを掲載しました。

みどりの分野

< 目 標 >

みどりの原風景をつなぐまち

1. <環境の現状>

1.-1 土地利用現況調査「森林」の割合と緑被率

☹ 指標 1: 土地利用現況調査「森林」の割合〔5 年毎調査〕

☹ 指標 2: 緑被率〔5 年毎調査〕

環境基本計画では、みどり全体の量の保全を目指しています。みどりの量を計る指標である緑被率と、その中でも自然度が高い「森林」（樹木樹林被覆地）の割合については、2007 年度数値の維持を目標として掲げています。

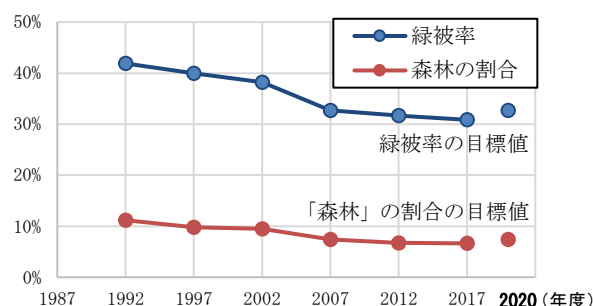
調査は 5 年ごとに実施しており、本白書では直近の 2017 年のデータを掲載しています。

下記に示すように 2007 年以降の調査内容が異なることに注意しながら現状をみても、減少傾向であることに変わりはないと思われます。2017 年度の「森林」の割合は 6.6% で、2012 年度に比べ 0.1 ポイント減少しました。また、緑被率も 30.9% と 0.8 ポイント減少しています。

日野市では、民有緑地の公有地化（指標 5）や緑地信託制度（指標 6）、住宅地の生け垣等緑化の促進（指標 14）により緑地の確保に努めていますが、森林の割合は減少傾向が続いています。また、後述の農地面積（指標 3）の目標未達成に見るように、農地の減少も緑被率減少の一因と思われます。

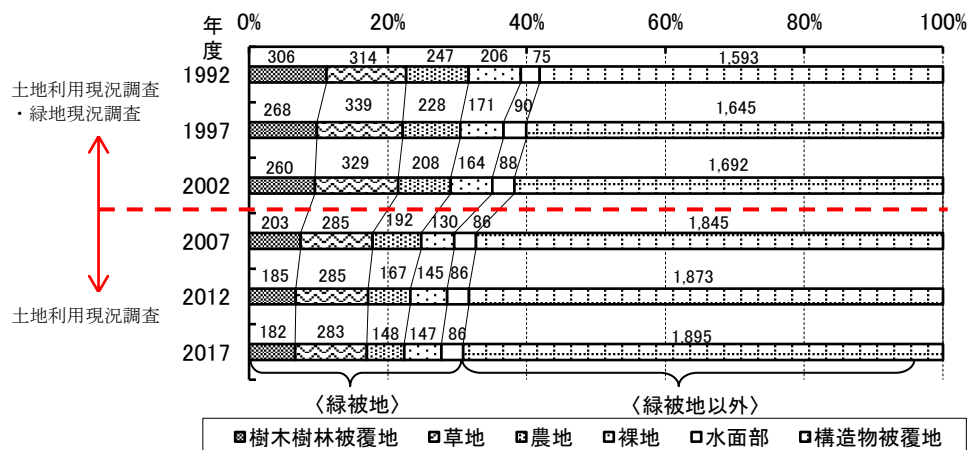
2019 年 4 月に改定された日野市まちづくりマスタープランでは、複数の緑地保全施策の方向性をあげており、それらに基づき各主体が協働することで日野市の良好なみどりを保全することが望まれます。

森林の割合
目標値：7.4%
緑被率
目標値：32.7%
(2020 年度)



緑の構成比〔5 年毎調査〕

(※グラフ中の数字は面積 (ha))



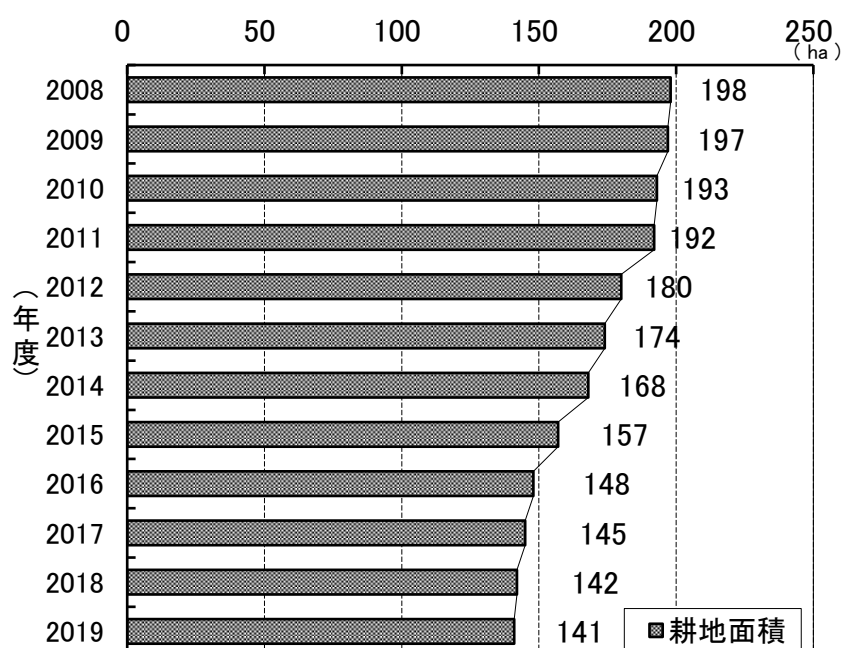
※1992～2002 年度調査は土地利用現況調査と同時にこなう緑地現況調査の成果報告値。
2007 年度以降の調査は東京都が行なっており、緑地現況調査は実施されなかったため、土地利用現況調査のみどり率から抽出したもので、全く調査内容が異なる。

1.-2 農地面積

指標 3 : 農地面積

目標値:160ha

(2020 年度)

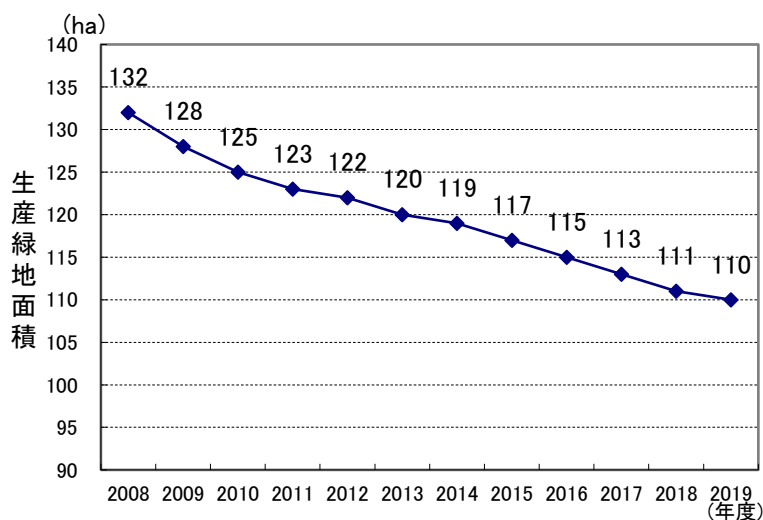


農林水産省発表の耕地面積の数値を使用しています。

農地は年々減少し、2015年度には157ha と目標値を割り込んでしまいました。2016年度以降も減少傾向は続き、2019年度では141ha となりましたが、前年度から1ha の減少とペースは緩やかになっています。

農地減少の主な原因は相続の際の宅地化によるものと考えられます。日野市では後述のとおり生産緑地地区の追加指定を促しています。また、今後は国の法整備に準じて市としての対策を検討し取り組んでいきます。

(参考 1) 生産緑地面積



生産緑地地区とは

市街化区域内にある農地等の農業生産活動に裏付けられた緑地機能に着目して、農業が営まれている等の一定の要件を満たす一団の農地について、「保全する農地」として計画的に保全し、税制上の優遇措置などにより良好な都市環境の形成を図る都市計画の制度。

1992 年からこの制度が始まり、この時に指定を受けた生産緑地の指定期間が2022 年で終了する。

生産緑地は 2002 年度から他市に先がけて追加指定を行なっています。2019 年度は前年度に比べ、約 1ha 減少の約 110ha でした。10 年前と面積を比較すると約 18ha の減少となり、年間約 2ha の生産緑地が減少しています。

生産緑地の面積減少の要因には、相続や後継者難等が考えられます。日野市では 2017 年に条例を制定して生産緑地指定の面積要件を緩和し、追加指定を促しています。また、指定から 30 年が経過する生産緑地の所有者に対して、優遇措置を 10 年延伸できる特定生産緑地への指定を推奨するため、説明会や意向ヒアリングを行なっています。

3. 環境の現状と取組状況の評価

1. -3 市民一人当たり都市公園面積

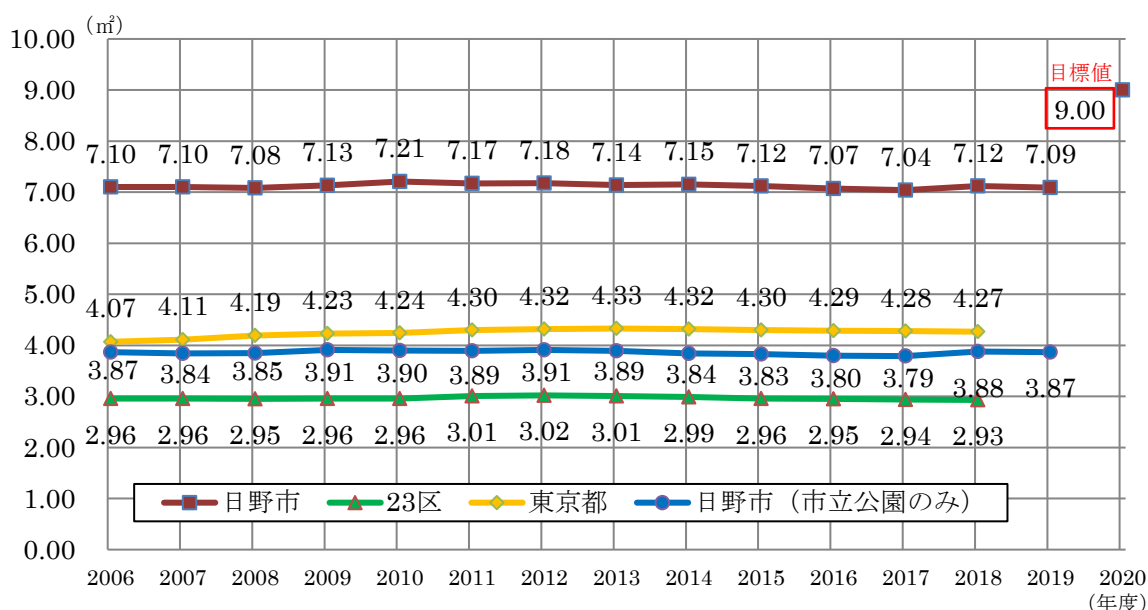
目標値：9.00 m²/人

(2020 年度)

指標 4：一人当たり都市公園面積

一人当たり都市公園面積は、2019 年度は前年度より 0.03 m²減少し 7.09 m²となりました。

日野市の総人口が増加傾向にある中、目標達成に向けては厳しい状況ですが、2019 年度には北川原公園の約 0.3ha、川原畑南公園及び時計公園を供用開始するなど、都市公園面積の増加に努めています。



※23 区と東京都は、本書編集時点で最新となる 2018 年度までの数値を掲載しています。

都市公園とは

下記に該当する公園または緑地である。

- ・都市計画施設である公園又は緑地で、国又は地方公共団体の設置するもの。
- ・都市計画法による都市計画区域内において、地方公共団体が設置する公園又は緑地。

(参考 2) 多摩地区の一人当たり都市公園面積

(2019 年 4 月 1 日現在)

10 m ² 以上	7 m ² 以上	4 m ² 以上	4 m ² 未満
瑞穂町(37.37)	昭島市(9.92)	福生市(6.96)	あきる野市(3.74)
武蔵村山市(17.39)	町田市(9.73)	府中市(6.82)	日の出町(3.24)
多摩市(15.93)	立川市(9.36)	小金井市(6.36)	三鷹市(3.13)
八王子市(11.97)	東大和市(8.24)	羽村市(6.14)	小平市(2.65)
稲城市(10.80)		調布市(5.19)	東久留米市(2.13)
		東村山市(5.15)	国立市(2.06)
		青梅市(4.50)	国分寺市(1.75)
		武蔵野市(4.17)	狛江市(1.27)
			西東京市(1.26)
			清瀬市(0.67)

※指標 4 と「(参考)多摩地区の一人当たり都市公園面積」では出典が異なるため、参考として他自治体の状況を掲載しています。上記の表の平均は 7.33 m²です。

2. <市の取組状況>

目標	施策 の方向	施策	具体的な取組	実施状況
緑の原風景をつなぐまち	自然度の高いみどり	丘陵地・斜面緑地等の保全	民有緑地の公有地化等の推進	国費、都費を導入し、約 4,102 m ² の用地買収を行なった。 (緑と清流課) →指標 5(P.20)
			緑地管理協定等による保全の推進	緑地信託、緑地協定ともに新規追加はないが、土地所有者と協働・連携し、みどりの保全推進を図った。 (緑と清流課) →指標 6(P.20)
			市民緑地活動の積極的支援	ひの緑のトラストなど、市民の緑地保全活動の普及・啓発を積極的に支援するとともに、市民とともに有効的な方法について検討し、緑地の保全を図る。 (環境保全課) 新葉山緑地と百草公園東緑地について、良好な状態に維持することを目的として、市民団体との役割分担、協力・連携の内容を定めるため、「新葉山緑地等の緑地管理・運営及び供用に関する日野市と真堂が谷戸堂の会のパートナーシップ協定」を真堂が谷戸堂の会と締結。 (緑と清流課) →指標 7(P.20)
			「残したいみどり」の選定	市民のふるさとの風景として残したいみどりを選定し、優先的な保存を検討する。 今後の緑地保全の方向性について、第2次環境基本計画推進会議「みどりグループ」で検討を行なった。 (緑と清流課)
		里山文化の継承を兼ねた管理体制	ボランティアによる里山の管理と活用	雑木林を守るための専門的な知識と技術を持ったボランティアを育成するため、雑木林ボランティア講座を実施した。本講座は2005年度より開始され、2019年度で第15期目となり、受講生は25名であった。講座は南丘雑木林を愛する会を中心に、主催である水と緑の日野市民ネットワークに加入している団体や大学教授からの講義、道具を使用しての体験学習を行なった(年11回)。結果、2019年度は23名が課程を修了し、3月の修了式で初級日野市雑木林管理士の修了証を交付。12名の修了生が「雑木林お助けネットワーク」に登録した。また、2018年度に引き続き、東豊田緑地保全地域等を活動の拠点として、緑と清流の保全リーダーの育成と地域づくりへの参加を促すことを目的とした、黒川マイスター講座を全11回実施し、黒川マイスター認定者は、9名であった。 (緑と清流課) →指標 8(P.21)
	農地の保全と活用	農のある風景の保全	市民農園等の拡充	低利用の宅地化農地を市民農園として利用していくほか、生産緑地でも開設可能な農業体験農園として活用するなど民設の農園も増やすことで、市民の農業体験機会を創出するとともに、農地の保全に努める。 ・市営市民農園は10園(617区画) ・民営による市民農園2園 ・農家経営による農業体験農園は4園 (都市農業振興課) →指標 9(P.21)
			援農ボランティア制度の拡充	2005年1月に「農の学校」を開校し、現在までに15期259名の援農ボランティアを輩出した。卒業生はNPO法人日野人・援農の会に所属し、ボランティア活動を行なっている。また、NPO法人日野人・援農の会により、土・日等の休日に援農ができる方などを対象に1年単位で実習を行い、終了後に援農ボランティアとして活動する「野菜栽培塾」を開催。2019年度は99名が42農家で援農。2020年度は16期生12名が12月まで受講予定。 (都市農業振興課) →指標 10(P.21)
		地産地消による生産流通システムの確立	地元野菜にふれる機会の充実	農産物の流通過程におけるCO ₂ 排出量を削減するための「市(いち)」や直売所などの既存の機会や施設を活かし、さらにスーパーや駅前など、あらゆる場所で地元野菜を購入できるようなネットワークを構築する。また、日野産野菜を積極的に購入してもらうための制度など、ソフト的な取り組みも検討する。 ・学校給食で日野産野菜を積極的に利用しており、2019年度の利用率は28.1%であった。 ・市役所本庁舎1階ロビーにて毎月第2、第4木曜日にファーマーズセンター「みのり処」の出張販売を行ない、来庁者への販売を行なっている。また、ファーマーズセンターにて市内農産物を使用したランチの提供も行なっている。 (都市農業振興課) →指標 11.12.13(P.22)
		民有地等の緑化	生け垣緑化の推進	ブロック塀撤去と生け垣設置補助に関する実態を把握し、より使いやすい補助制度を検討する。また、地域で生け垣緑化に取り組むモデル事業などを実施するとともに、地区計画で生け垣設置を推奨する。 2019年度は、ウェルカムツリー補助13件、生け垣補助5件を実施した。 (緑と清流課) →指標 14(P.23)

3. 環境の現状と取組状況の評価

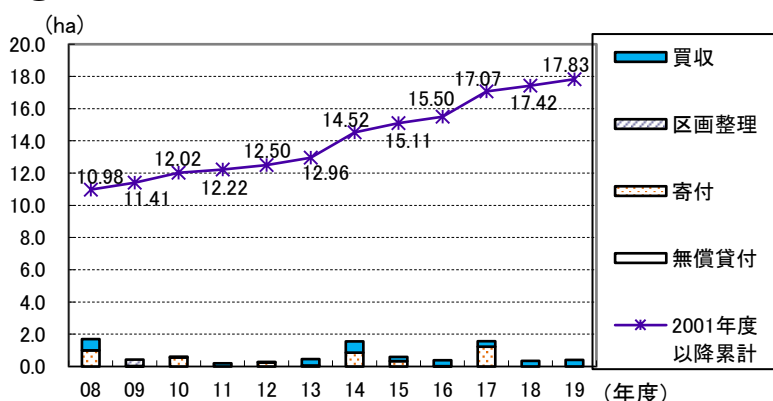
緑の原風景をつなぐまち	協働によるみどりの保全・創出	みどりに関する普及啓発	市民・事業者への情報提供・PR	農地を含むみどりの保全・創出の大切さや、みどりの良さを市民と協働で整理し、市民・事業者へPRする。また、窓口での相談や、緑地に関する講習会等を実施する。	まちの緑化事業の一環として、市民参加のもと、毎年コスモスアベニュー事業に取り組んでいる。(公財)日野市環境緑化協会を通じ、春秋に花の苗木や球根を配布、緑化に関する講習会等を実施している。(緑と清流課)
	協働によるみどりの実態把握	みどり・生き物マップの作成		市民参加のもと、市域の植生や街路樹・生け垣等の樹種、みどりの連続性、外来種の侵入状況などの現状を調査してマップを作成し、今後の取り組みの基礎資料として活用する。	今後の市民参加によるマップ作りのため、水と緑のつながりを学び、再認識した。(緑と清流課)

2. -1 自然度の高いみどり

(1) 丘陵地・斜面緑地等の保全

民有緑地の公有地化等の推進

😊 指標 5：市が寄付や買収等で取得した樹林地面積

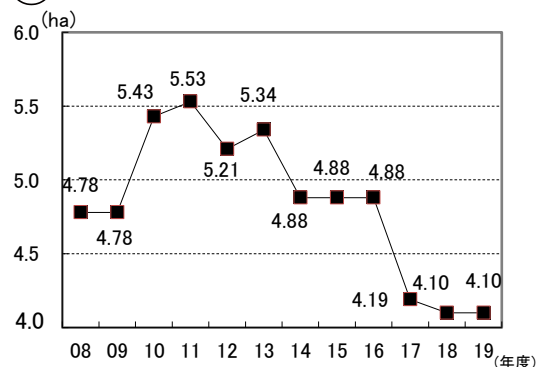


2019 年度に市が取得した樹林地面積は、買収により前年度より 0.41ha 増加しました。

緑地信託面積は前年度と同じで、評価は未達成としています。土砂災害警戒区域に該当する箇所を新たに緑地信託にする申出に対しては、慎重な判断が必要であり、緑地信託面積を増やすことは難しい状況にあります。

緑地管理協定等による保全の推進

😊 指標 6：緑地信託面積



緑地信託制度とは

良好な緑地、里山等について、所有者と市が信託契約を結び、市が緑地を管理する制度のことです。市がサポートすることで、安定した緑地維持ができる措置を図っています。

市民緑地活動の積極的支援

◇ 指標 7：緑のトラストへの寄付件数

年度	寄付件数(件)
2009	32
2010	85
2011	248
2012	592
2013	281
2014	279
2015	85
2016	13
2017	3
2018	1
2019	1
累計	1,620

寄付件数の累計は1,620件となりました。金額では2019年度末時点で累計3,417,947円にのびります。なお、2011年度以降は街頭募金の件数も計上されています。

市では、市民による緑のトラスト運動の後押しを受け、2018年度に、この運動の発端となった新葉山緑地（真堂が谷戸）の公有地化を行ないました。さらに2019年度には同地を良好な状態に維持することを目的として、「真堂が谷戸蛭の会」とパートナーシップ協定を結びました。



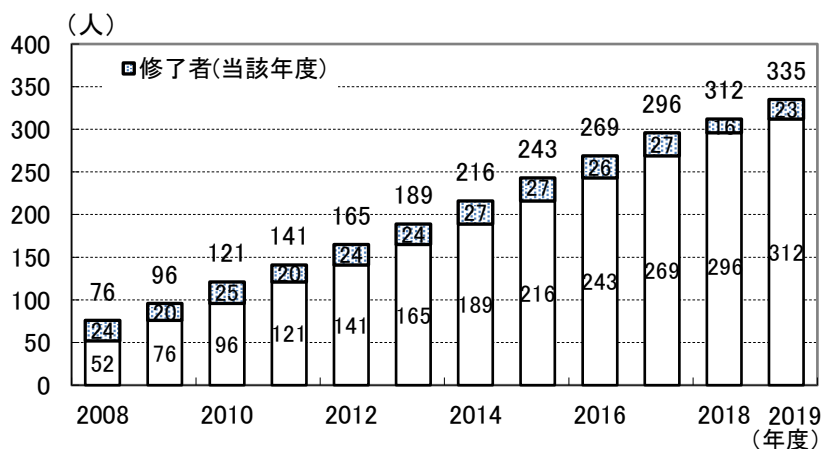
新葉山緑地（真堂が谷戸）

(2) 里山文化の継承を兼ねた管理体制の構築

ボランティアによる里山の管理と活用

☺ 指標 8：雑木林ボランティア講座修了者数

2020 年度目標値：累計 339 名



雑木林ボランティア講座は、2019 年度で 15 年目となりました。修了者は、累計 335 人に達し、目標値まであと一息です。

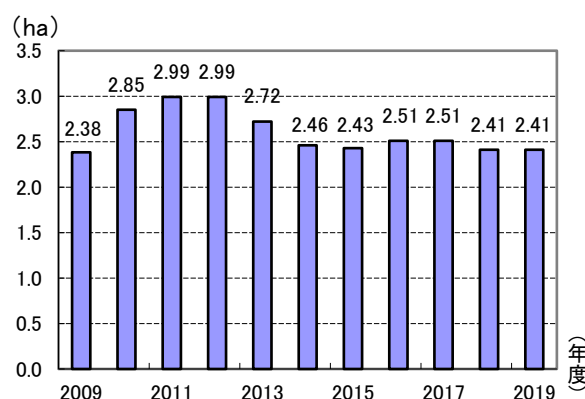
2019 年度から雑木林の維持管理作業を支援する「雑木林お助けネットワーク」が立ち上がり、修了生のうち 12 名が登録しました。

2-2 農地の保全と活用

(1) 農のある風景の保全

市民農園等の拡充

◇ 指標 9：市民農園等の面積



市民農園等の面積は、市が開設した市民農園と民営の市民農園、農業体験農園の面積の合計です。内訳は以下のとおりです。前年度からの増減はありませんでした。

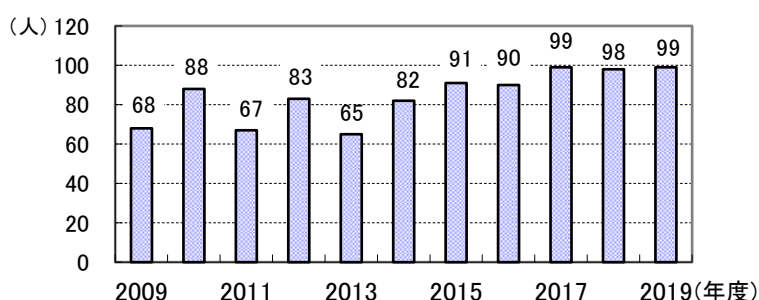
	市民農園 (市が開設)	市民農園 (民営)	農業体験 農園
数	10 園	2 園	4 園
面積	15,504 m ²	1,562 m ²	7,024 m ²

市では民営による市民農園の支援を進めており、2011 年に最初の 1 園が開園しました。2016 年には 3 園まで増えましたが、2018 年からは 2 園となりました。

援農ボランティア制度の拡充

☺ 指標 10：援農人数

援農ボランティア育成のため 2019 年度も「農の学校」を開設し、卒業生が援農ボランティアとして活動しています。今後もこの制度が維持できるよう、市民の生活様式に合わせたボランティア養成講座の運営方法を構築し、受講生の増員を目指します。



市民農園が農地保全になっている理由

日野市の市民農園では、宅地化農地(生産緑地ではない)を農家から借用しています。様々な理由で、自分で耕作することが困難な農地を市民農園として活用することで、農家の負担軽減・農地の保全・市民が土に親しむ場の提供を行なっています。

なお、市民農園に借用する農地は、固定資産税が免除されます。

3. 環境の現状と取組状況の評価

(2) 地産地消による生産流通システムの確立

地元野菜に触れる機会の充実

2020 年度目標値:共同直売所:3 か所
定期即売会:3 か所
イベント会場での即売実施

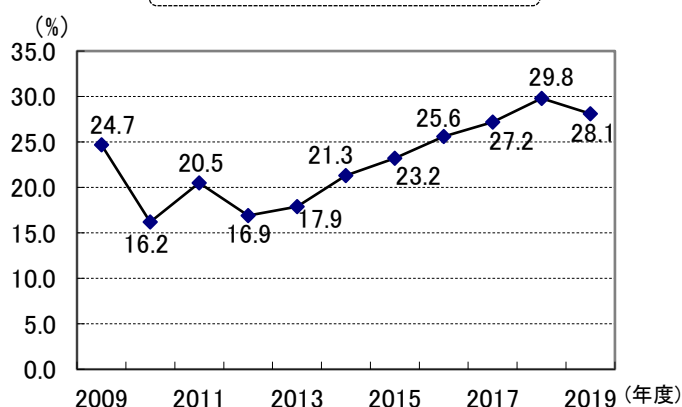
😊 指標 11:「市」の開催日数

「市」の開催場所(2019 年度)	区分	開催時期	開催日数
みなみの恵み	共同直売所	通年、木～火曜	292
マルシェひらやま(平山農産物直売所)	共同直売所	通年、月～土曜	292
JA 七生地区農産物直売所	共同直売所	通年、月～土曜	292
日野市立七ツ塚ファーマーズセンター	共同直売所	通年、月～日曜	359
日野駅東側広場	定期即売会	通年、火・木・土曜	155
多摩平第七公園	定期即売会	通年、火・木・土曜	155
日野市役所(NPO 法人めぐみ)	定期即売会	月 2 回 第 2 木曜・第 4 木曜	24
春の野菜苗即売会(1 か所)	定期即売会	4 月下旬	1
産業まつり	イベント即売	11 月 9 日(土)・10 日(日)	2
暮れの野菜即売会	定期即売会	12 月下旬	4
都市農業シンポジウム	イベント即売	1 月 18 日(土)	1
合計			1,577

2019年度の「市」は、共同直売所4か所、定期即売会5か所、イベント即売2回で、前年度より共同直売所が1か所、定期即売会が1か所それぞれ減少しました。開催日数は1,577回で、前年より295回減少しました。これは共同直売所「ひののやっちゃ場」が2018年度10月より閉鎖し、「多摩平の森 ユリの木集会所」での定期即売会が2019年度より休止したためですが、その他の「市」については今後も継続し、目標の水準を保っていきます。

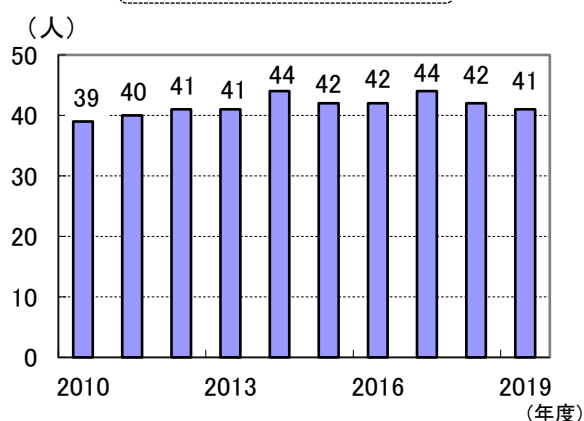
😊 指標12: 学校給食における地元野菜等利用率

2020 年度目標値: 利用率25%



◇ 指標13: 給食野菜納品農業者数

2020 年度目標値:44 人



※ 学校給食における地元野菜等利用率は、学校給食に使用する野菜等のうちの金額ベースの、地元野菜等の使用比率。

学校給食における 2019 年度の地元野菜等利用率は、前年度の 29.8%と比較して 1.7 ポイント減少して 28.1%となりましたが、依然として目標値を超えています。

2019 年度の給食野菜納品農業者数は、前年度より 1 人減少して 41 人でした。

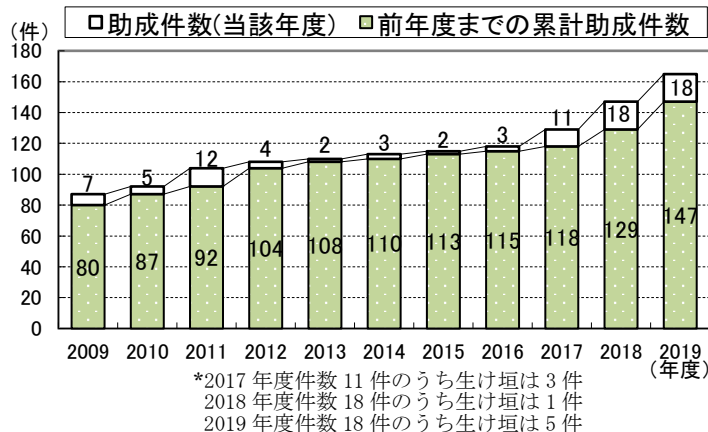
2. 2-3 まちなかのみどりの創出・保全

(1) 民有地等の緑化

生け垣緑化の促進



指標 14：生け垣の助成件数*



日野市では、住宅地を安全、快適で緑豊かな生活環境にする目的で、生け垣設置の費用を補助してきました。

2017年度からは新しく「日野市ウェルカムツリー等植栽補助制度」となり、2019年度は18件（生け垣5件、ウェルカムツリー13件）の補助を行ないました。

ウェルカムツリーとは

日野市へ転入された方やお子さんを出産された方、家屋（戸建住宅・マンション等）を新築された方や事業所等を新築された方等が記念として植栽した樹木をいいます。

3. <市民コメント>

2019年度のコメントでは、「民有緑地の公有地化等の推進」の成果を受けて、年々増加する公有地の緑地をどのように維持管理していくか、そのための雑木林ボランティア講座等の人材育成とその人材が現場に出ていく仕組みづくりが重要という話を書きました。

今回の環境白書にも記述がありましたが、新葉山緑地（真堂が谷戸）の公有地化に続いて2019年度にパートナーシップ協定が結ばれました。何年もの地道な歩みの結果、少しずつ動いていることが実感できる出来事でした。

2020年度は新型コロナウイルス感染症という試練で始まり、現在もその感染拡大による試練は続いています。しかし、2020年はそのような渦中であって、冒頭の課題に対する解決の試みが動き出しました。「雑木林お助けネットワーク」という市民の有志によって始まった試みです。雑木林ボランティア講座の卒業生が市内の緑地のボランティア団体の活動にスムーズに入っていく、学んだスキルを活かしてもらえないかという思いから始めたもので、メール配信により各団体への活動募集を行なうというものです。卒業後にいきなりどこかの団体に「所属する」ことはハードルが高いと感じている受講生に対し、より気軽に、自分に合った場所はどこかを探りながら、まずは参加してもらおうという狙いです。これも一つの仕組みづくりです。

緑を守ろうとすると、緑を守る主体は人だということを忘れてはなりません。動く人たちのニーズや事情に寄り添った、多様な方法を模索していく必要があるのだと思います。

日野市のみどり関係ではさまざまな取組が市民から生まれてきています。2020年3月に一般社団法人TUKURUが設立されました。年々減少していく農地を、農空間を、地域の共有財産として農業者と市民が力を合わせて継承していくという志をもって発足したものです。地域の農地の多面的な機能を認め、それを市内で何とかして残していこうという活動が始まりました。

こうした新しい動きが、日野の豊かな水と緑に熱い思いを持つ市民から芽生え続けています。それはとても頼もしい姿です。継続的に緑の変化を追うための指標はあまり変更はできませんが、こうした様々な動きや変化に伴って、緑の施策の指標も一部見直していく必要があるかもしれません。2020年度は第3次環境基本計画の改定が予定されています。第2次の期間で学んだ多くのことを活かし、次なるフェーズに合致した指標と市民にわかりやすい解説を環境白書で伝えてほしいと思います。

水分野

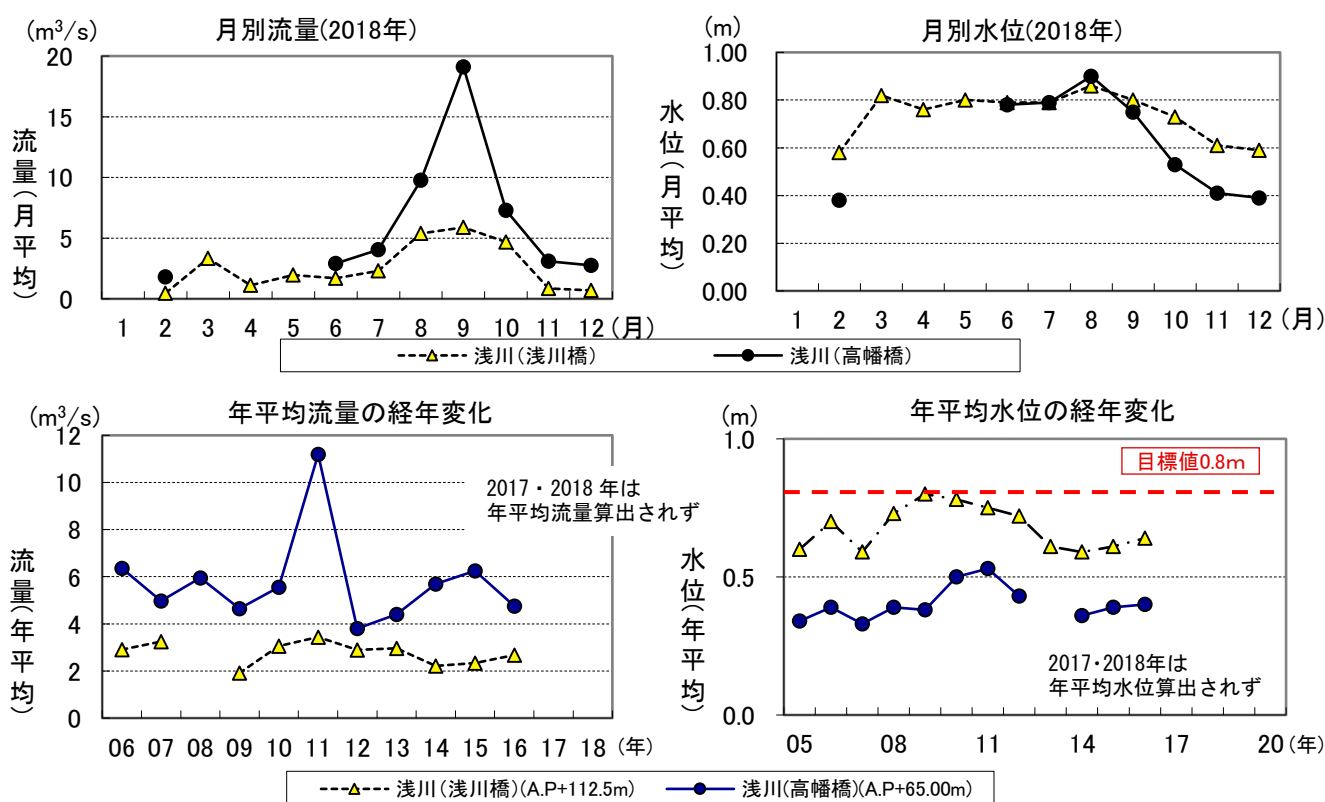
< 目 標 > 水文化を伝えるまち

1. <環境の現状>

1-1 浅川の水位

目標値: 【浅川橋】年平均 0.8m
(2020 年度)

◇ 指標 15 : 浅川の平均河川水量・水位



浅川橋、高幡橋の2018年の水量、水位については、水位計の土砂の堆積の状況が改善されておらず、年平均値は欠測と整理されています。計測可能であった期間の月平均流量の最大値は浅川橋で9月に5.89m³/s、高幡橋で9月に19.1m³/s、また最小値は浅川橋で2月に0.47m³/s、高幡橋で1.80m³/sとなりました。月平均水位の最大値は浅川橋で8月に0.86m、高幡橋で8月に0.90m、月平均水位の最小値は浅川橋で2月に0.58m、高幡橋で0.38mとなりました。

2018年の八王子の月降水量は9月に400mm、8月に182mmとなり、浅川橋では10月に最大、高幡橋では9月に最大となりました。9月下旬には台風24号は西日本から北日本を縦断したため、広い範囲で大雨となり、八王子でも9月25日から30日までの6日間に220mmの降水量が観測されました。

2018年も2017年に続き年平均流量・水位が算出されませんでした。月別流量・水位を見ると2017年と比べ多くなっていますが、目標値を満足しているかどうかは判断できない状況です。

日野市内を流れる浅川の水源の一つになっている八王子市北野処理場の合流式分が 2015 年 7 月に流域下水道に編入されたことにより、日野市内を流れる浅川の水量は 1 日に約 2 万 m³減少したことになります。これは日野市にとって大きな問題ですが、それに対処するために浅川流域一帯で雨水浸透を促進し、浅川へ湧水・地下水の流入を増加させることが大切です。

なお、日野市では浅川の水量減少に対処するプロジェクトチーム(PT)が 2016 年度に発足し、日野市内の浅川流量測定を実施しています(参考 3)。

(参考 3) 浅川の流量測定結果

○ 日野市浅川 PT による流量測定結果

浅川の水量減少と水位低下の課題に対処するプロジェクトチーム (PT) が 2016 年度に発足し、流量測定を実施している。PT の構成は環境共生部 (緑と清流課、環境保全課、下水道課) である。

【2019 年度の測定日・測定場所・参加者】

第 8 回 2019 年 5 月 27 日 午前 場所 一番橋上流 約 320m 参加者 6 名

【測定方法】

1m ごとに水深、各中間地点で流速(電磁流速計 東邦電探 CMT-10C 型)をそれぞれ測定し、各区分の流量を求め、各区分の流量を合計して全流量を求めた。水深が浅く流速計が使用できない箇所では浮子の 1m の流下時間より流速を求めた。

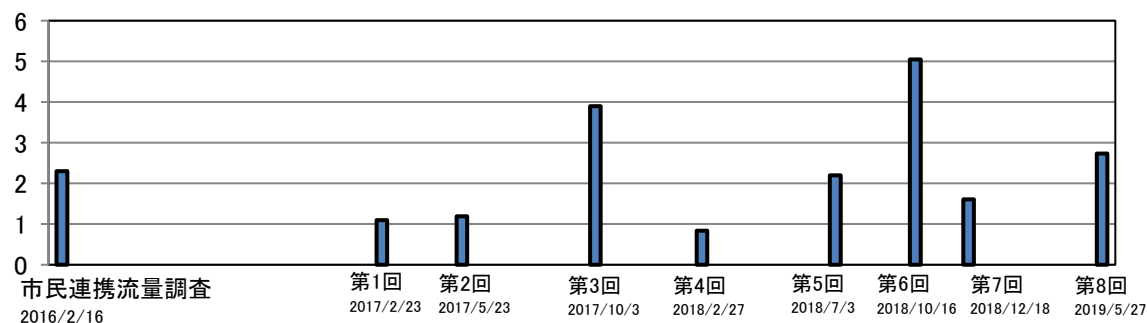
【測定結果】(過去の測定結果を含む)

測定日	川幅 (m)	水深 (c m)	流速 (m/s)	流量 (m ³ /s)
市民連携流況調査 (2016. 2. 16)	33. 0	—	0. 2～0. 61	2. 3
第 1 回 (2017. 2. 23)	18. 5	6. 4～22. 5	0. 14～0. 61	1. 10
第 2 回 (2017. 5. 23)	18. 6	6. 3～22. 3	0. 13～0. 65	1. 19
第 3 回 (2017. 10. 3)	24. 9	11. 0～35. 0	0. 018～0. 38	3. 90
第 4 回 (2018. 2. 27)	14. 8	1. 5～74. 3	0. 0～0. 25	0. 84
第 5 回 (2018. 7. 3)	13. 9	0. 0～35. 0	0. 30～1. 02	2. 20
第 6 回 (2018. 10. 16)	33. 0	11. 5～43. 0	0. 35～0. 79	5. 05
第 7 回 (2018. 12. 18)	33. 0	0. 0～32. 5	0. 0～0. 74	1. 61
第 8 回 (2019. 5. 27)	25. 0	0. 5～41. 5	0. 41～0. 99	2. 75

※第 1 回～第 4 回の流速の測定には、電磁流速計 TAHAYA UC-204 を使用した。

【流量の推移】

流量 (m³/s)



3. 環境の現状と取組状況の評価

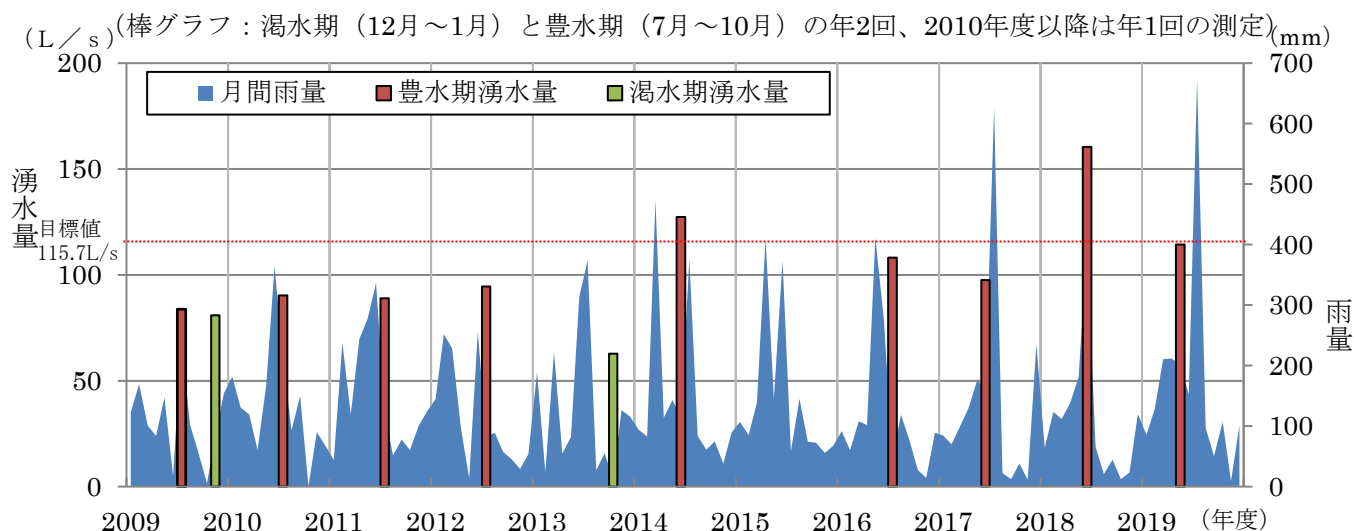
1.-2 湧水確認地点数・湧水量

目標値:【地点数】179 箇所

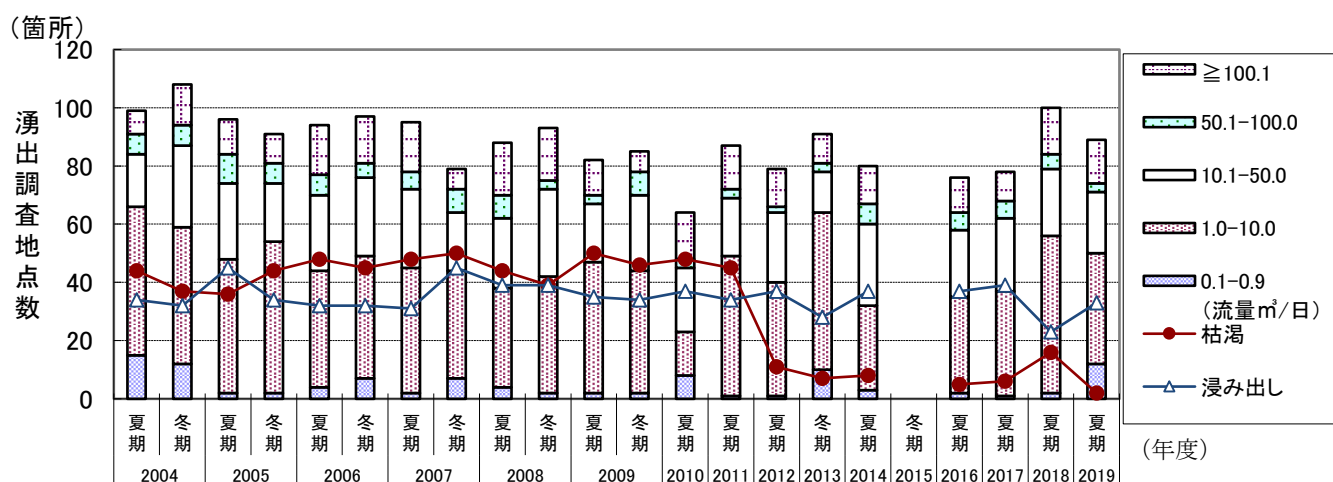
【湧水量】10,000t/日 (115.74L/s)

(2020 年度)

◇ 指標 16 : 月別雨量と調査地点の総湧水量



(参考 4) 湧水地点の状況



2019 年度の日野市内全域の総湧水量調査(湧水現況調査)は 2019 年 7 月 9 日~30 日の間に実施されました。湧水量を調査した地点数は 133 地点でしたが、実際に湧水量を測定できた地点は 89 地点で、総湧水量は $9,876 \text{ m}^3/\text{日}$ (114.3 L/s)となりました。この値は湧水量調査報告書(2019 年 4 月)の中から七生中学校と豊田小学校の自噴水および浅川河岸の地点を除外したものです。前年の総湧水量調査は 2018 年 7 月 25 日~8 月 6 の間に実施され、総湧水量は $13,855 \text{ m}^3/\text{日}$ (160.4 L/s)であり、今回の結果は前年より少なくなりました。

調査した 133 地点のなかで、「浸みだし・溜り」や「枯渇」などの地点は 41 地点となり、全地点の約 30% に達しました。

2019 年度の降水量(気象庁八王子観測地点)は $2,028 \text{ mm}$ であり、2018 年度の $1,306 \text{ mm}$ より多くなりました。特に 10 月の降水量は 673 mm と多く、この影響で年度降水量が多くなったと考えられます。

総湧水量の2011年以降の経年変化を表1に示します。各年度で調査時期が異なりますが、2018年度に最も多く(13,855 m³/日)、2013年度に最も少なくなりました(5,430 m³/日)(表1)。湧水量に関連する降水量は、2012年度は2011年度に比べ少なくなりましたが、総湧水量はやや増加していました。また2017年度の湧水量は2016年度より少なくなりましたが、降水量は多くなっていました。これらの原因として調査時期やその降水量の違いおよび調査地点の変化などが考えられます。2015年度は30地点のみで調査されたため、総湧水量を算出することができませんでした。

表1 総湧水量の経年変化(2011年度～2019年度)

調査年月	総湧水量 (m ³ /日)	年度降水量 (mm)
2011年7月～8月	7,690	1,799
2012年7月～9月	8,165	1,344
2013年12月～2014年2月	5,430	1,595
2014年9月～11月	10,399	1,745
2015年2月	算出できず	1,733
2016年10月～11月	9,340	1,422
2017年9月	8,425	1,669
2018年7～8月	13,855	1,306
2019年7月	9,876	2,028

湧水の状況を湧水量ごとに分け整理すると次のようになります(表2)。

湧水量が100.1 m³/日以上(1.16L/秒以上)の地点数は15地点で全体の11.3%、1.0～10 m³/日(0.01～0.12L/秒)の地点数が最も多く、38地点で全体の28.6%になりました。

表2 湧水量ごとの地点数

総湧水量 (m ³ /日)		地点数	割合 (%)
(m ³ /日)	L/秒		
100.1以上	1.16以上	15	11.3
50.1～100	0.58～1.15	3	2.3
10.1～50	0.12～0.57	21	15.8
1.0～10	0.01～0.12	38	28.6
0.1～0.9	0.001～0.01	12	9.0
測定可能な地点合計		89	66.9
浸み出し・溜り		33	24.8
枯渇		2	1.50
その他(測定不能)		6	4.51
測定不可能な地点合計		41	30.8
集計から外した地点		3	2.3
調査地点総計		133	100.0

湧水の状況を地域別に分けて整理すると次のようになります(表3)。

黒川清流公園など日野台地上位面(100m崖線)からの湧水地点数は34地点で全体の25.6%ですが湧水量は全体の55.4%を占めました。中央図書館など日野台地下位面(80m崖線)からの湧水地点数は15地点で全体の11.3%、湧水量は全体の39.3%になりました。一方、小沢緑地など多摩丘陵からの湧水地点数は81地点と最も多く、全体の60.9%に達しましたが、湧水量は全体の5.3%に過ぎませんでした。また多摩丘陵などで湧水量を測定できなかった地点数(浸み出し、溜り、枯渇)は41地点になりました。多摩丘陵は浸み出しなどの地点が多く、開発などに伴い、湧水量に影響を受けやすい地域であると考えられます。

3. 環境の現状と取組状況の評価

表3 地域別に分けた湧水地点数と湧水量

	湧水量 (m ³ /日)	湧水量 (L/s)	湧水量 (%)	湧水地点数 (箇所)	湧水地点数 (%)
日野台地上位面 (100m崖線)からの湧水	5,469	63.3	55.4	34	25.6
日野台地下位面 (80m崖線)からの湧水	3,899	44.9	39.3	15	11.3
多摩丘陵からの湧水	524	6.07	5.3	81	60.9
集計から除外				3	2.3
総計	9,876	114.3	100.0	133	100.0

環境基本計画の目標値は湧水地点数 179 か所、湧水量 10,000 m³/日であり、2019 年度は湧水量、湧水地点数とも目標値を達成することができませんでした。目標値を達成するためには湧水地域の環境を保全することが重要です。湧水量は降水量や季節により変化しますが、湧水地域の宅地化など土地利用の変化により、減少や枯渇することが考えられます。今後もさらに長期的な推移を見ながら湧水の保全を考える必要があります。

1.-3 用水の水質



指標 17：各用水路の水質分析結果

市内の河川・用水(調査対象)は、2016 年度まではすべて「B 類型」、2017 年度からは多摩川を除き「A 類型」に指定されていますが、目標値は、目標を設定した時点での類型指定「B 類型」の環境基準に適合することとしています。

2019 年度は、2018 年度の結果とほぼ同じで、すべての地点で生物化学的酸素要求量(BOD)の B 類型基準値(3mg/L 以下)を満足する良好な値で、目標値を達成していました。

※A 類型基準値は、2mg/L 以下

目標値:生活環境の保全に関する環境基準 B 類型に適合

(B 類型環境基準値 BOD 3mg/L 以下)

(2020 年度)

調査地点名		BOD(mg/L)		
		2017 年	2018 年	2019 年
多摩川(石田大橋付近)		<0.5	1.1	1.0
浅川(落合地内)		<0.5	0.6	0.8
用水路	日野用水下堰(東光寺市営住宅前)	0.5	0.6	1.0
	日野用水上堰(よそう森堀)	0.7	0.6	0.8
	豊田用水(豊田 2 丁目地内)	1.2	0.9	0.8
	豊田用水(堀之内緑道)	1.0	1.1	1.0
	黒川水路(黒川清流公園)	0.5	0.5	0.5
	上田用水(延命寺・日枝神社付近)	0.5	1.6	1.1
	新井用水(新井用水親水路)	0.9	0.9	1.0
	平山用水(平山東公園・ふれあい水辺)	0.8	0.9	0.7
	落川用水(落川公園)	0.9	1.2	0.9
	向島用水(向島用水親水路)	0.7	0.7	0.6
流入河川	谷地川(連光寺グランド周辺)	0.7	0.9	0.7
	根川(クリーンセンター付近)	1.2	2.1	1.6
	程久保川(程久保川ワンド)	0.8	0.9	0.8

2017 年度・2018 年度：多摩川・浅川・上田用水は年 1 回(8 月)の測定値、その他の用水路等は年 4 回(5 月、8 月、11 月、2 月)の平均値

2019 年度：多摩川・浅川・上田用水は年 1 回(2019 年 8 月)の測定値

その他の用水路等は年 4 回(2018 年 5 月、8 月、11 月、2019 年 2 月)の平均値

河川の類型指定とは

水質汚濁に係る環境基準を定める際に、水域の利用目的、水質汚濁の状況、水質汚濁源の立地状況等を考慮して、水域の類型が指定されます。この類型により適用される環境基準値が異なります。河川については 6 類型(AA、A、B、C、D、E)に分けられており、AA 類型が最もきれいな水域、E 類型が最も汚れた水域という位置づけです。

1.4 河川・用水・湧水の水生生物

☺ 指標 18：河川・用水・湧水の水生生物の確認状況

目標値:底生生物:90 種

魚類:15 種

付着藻類:42 種

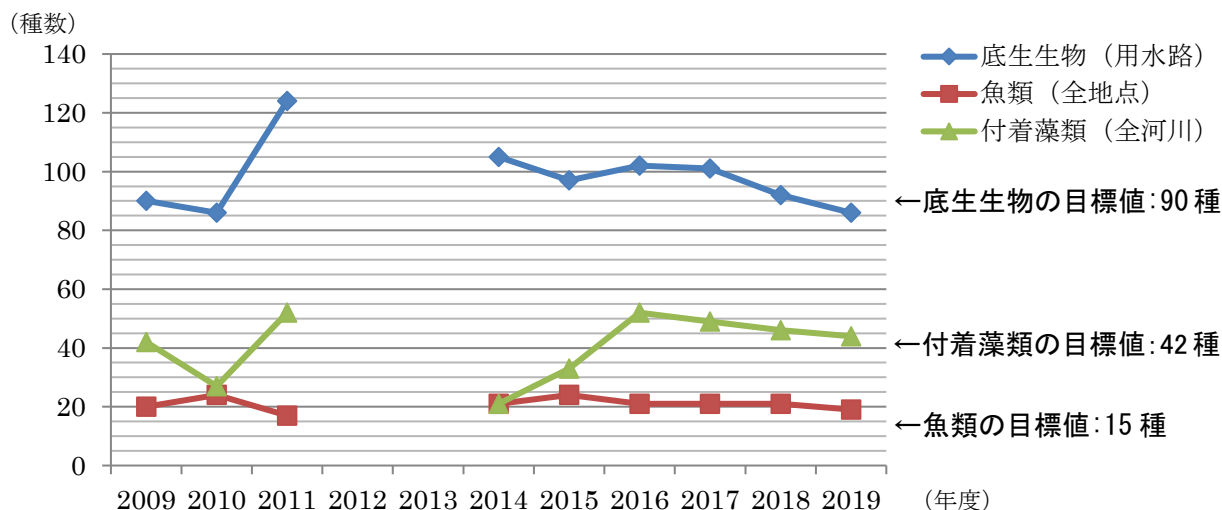
(2020 年度)

2019 年度の調査は 2018 年度と同様に 8 月に実施されました。確認された底生生物の種数は河川で 38 種(多摩川:28 種、浅川:33 種)、用水路で 86 種、流入河川で 48 種となり、2018 年度と比べやや減少しました。魚類の種数は、河川で 10 種(多摩川 9 種、浅川 4 種)、用水路で 16 種、流入河川で 13 種、全調査地点では 19 種となり、2018 年度よりやや減少しました。確認された付着藻類の種数は 44 種(多摩川 36 種、浅川 32 種)となり、2018 年度に比べやや減少しました。確認された水草の種数は用水路で 20 種、流入河川で 15 種となりました。

2019 年度の調査では水生生物の各項目の種数がやや減少したものの、底生生物、魚類、付着藻類の種数の経年変化をみると、2016 年度以降は目標値をほぼ満足する水準で推移しているといえます。

水生生物の確認種数

調査年度 調査地点	2018 年度								2019 年度							
	底生生物		魚類		付着藻類		水草	底生生物		魚類		付着藻類		水草		
多摩川	43	54	8	10	42	46	—	28	38	9	10	36	44	—		
浅川	32		8		27		—	33		4		32		—		
用水路（10 地点）	92		18		—		19	86		16		—		20		
流入河川（3 地点）	51		14		—		14	48		13		—		15		
全調査地点	—		21		46		23	—		19		44		21		



本調査で確認された重要種は、底生生物調査で 2 種、魚類調査では 9 種、水草調査では 5 種で計 16 種となりました。底生生物調査で確認された重要種はマメシジミ属の一種が用水路と流入河川 6 地点で、ミズバチが用水路 1 地点で確認されました。魚類の重要種として、「環境省レッドリスト 2019 年」で絶滅危惧ⅠB 類に指定されているムサシノジュズカケハゼが新井用水、程久保川ワンドで確認されました。また、絶滅危惧Ⅱ類に指定されているアカザが日野用水上堰で、ミナメダカが上田用水、谷地川、程久保川で、準絶滅危惧に指定されているドジョウが用水路 3 地点で確認されました。その他に「東京都レッドリスト 2013 年」に記載されているアブラハヤ、カマツカ、ニゴイ、ヒガシシマドジョウの 4 種が、多摩川、浅川で 3

3. 環境の現状と取組状況の評価

種、用水路で4種、流入河川で3種がそれぞれ確認されました。水草の重要種として用水路でセキショウモ、エビモ、ササバモ、マコモ、ミクリの5種が、谷地川でエビモが、程久保川ワンドでマコモがそれぞれ確認されました。

確認された外来種は、底生生物調査で6種、魚類調査で3種、水草調査で5種の合計12種でした。底生生物調査および魚類調査では、特定外来生物に指定されているコクチバスが多摩川、日野用水下堰、根川で、また生態系被害防止外来種リストに指定されているフロリダマミズヨコエビが6地点で、カワリヌマエビが調査したすべての地点(15地点)でそれぞれ確認されました。近年、多摩川水系ではコクチバスの分布域が拡大していますので、今後も注目して監視することが必要です。水草では特定外来種であるオオカワヂシャが流入河川2地点と豊田用水で確認されました。同じく特定外来種であるオオフサモは今年度の調査で確認されませんでした。これらの種は近年、多摩川水系で分布を広げています。特にオオカワヂシャは本調査で2014年度に初めて確認され、本年度まで毎年確認されています。



アブラハヤ



カマツカ



ムサシノジュズカケハゼ



ヒガシシマドジョウ

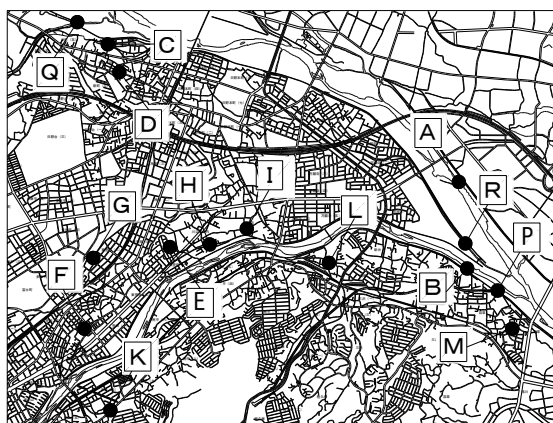
(参考5) 水生生物による水質の生物学的判定

(1) 調査の概要

調査期間： 2019年8月6日～8日

調査地点： 河川(多摩川、浅川)、用水路等、流入河川を含む15地点(図 A から Q 参照)

調査内容： 底生生物、魚類、付着藻類(河川のみ)、水草(用水路、流入河川のみ)、BOD、BOD 負荷量(用水、流入河川のみ)、DO(溶存酸素)、pH



(2) 水生生物による水質判定

水生生物による水質判定は長期間の水質変動の平均的な状態を把握することができますが、生物には環境に対する適応性があるため、指標生物と水質の関係は絶対的なものではありません。

①底生生物による水質判定

多くの地点で「きれいな水域」や「きれいな水域～わりあいきれいな水域」と判定されましたが、用水路2地点と流入河川1地点で「汚れている水域」、用水路1地点で「汚れている水域～とても汚れている水域」と判定されました。

②魚類による水質判定

河川では多摩川・浅川ともに「きれいな水域」と判定されました。用水路では「きれいな水域」が 4 地点、「わりあいきれいな水域」が 5 地点で認められましたが、1 地点で「汚れている水域」と判定されました。流入河川では 2 地点で「きれいな水域」、1 地点で「汚れている水域」と判定されました。

今回の水生生物調査では全般的に多くの地点で水質は良好と判定されました。

(3) 理化学的水質と生物学的水質判定結果の比較

調査地点のBOD値は、全ての地点で A 類型の環境基準を満たす 2mg/L 以下で、「きれいな水域」と判定されました。生物学的水質判定による水辺の評価についても多くの地点で「わりあいきれいな水域」以上であると判定されました。BODによる理化学的水質判定結果と生物学的水質判定結果を比較すると、両者の結果は概ね一致しました。しかし、底生生物調査では豊田用水上流、上田用水、新井用水、程久保川で、魚類調査では上田用水、根川がそれぞれ「よごれている水域」と判定されました。これらの地点では河床がコンクリート張りである、水量が少ない、水の流れが遅い、など、きれいな水域の指標種である底生生物や魚類の生息に適していない環境と考えられます。

水生生物による水質判定

分類	調査地点		2018 年度			2019 年度		
			底生生物	魚類	BOD(mg/L)*	底生生物	魚類	BOD(mg/L)*
河川	A	多摩川（日野市多摩川総合グラウンド付近）	A～B	A	1.1	A～B	A	1.0
	B	浅川（クリーンセンター付近）	A～B	A	0.6	A～B	A	0.8
用水路等		用水路						
	C	日野用水下堰（東光寺市宮住宅前水路）	B～C	B	0.6	A～B	B	0.7
	D	日野用水上堰（よそう森堀）	B	B	0.7	A～B	B	0.6
	F	豊田用水（取付口）	B～C	B	1.3	C	A	0.9
	E	豊田用水（堀之内縁道）	B～C	B	1.0	B～C	A	1.0
	G	黒川水路（黒川清流公園）	A～B	A	0.6	A～B	A	0.5
	H	上田用水（延命寺・日枝神社付近）	C	C	1.6	C～D	C	1.1
	I	新井用水（新井用水水親水路）	B	A	1.2	C	B	1.2
	K	平山用水（平山東公園・ふれあい水辺）	B～C	A	1.2	B	A	0.6
	M	落川用水（落川公園）	C	A	1.5	B～C	B	0.8
	L	向島用水（向島用水親水路）	B	A	0.7	B	B	0.6
		流入河川						
	Q	谷地川（多摩川合流点前）	A～B	A	0.8	A～B	A	0.7
	R	根川（クリーンセンター付近）	B～C	B	2.3	B～C	C	1.7
	P	程久保川（程久保川ワンド）	C	A	0.9	C	A	1.0

*BOD の値は、水生生物の調査時期である 8 月の値

水質階級：その生物がよく出現する水域 A=きれいな水域 (os) B=わりあいきれいな水域 (βm)
C=汚れている水域 (αm) D=とても汚れている水域 (ps)

3. 環境の現状と取組状況の評価

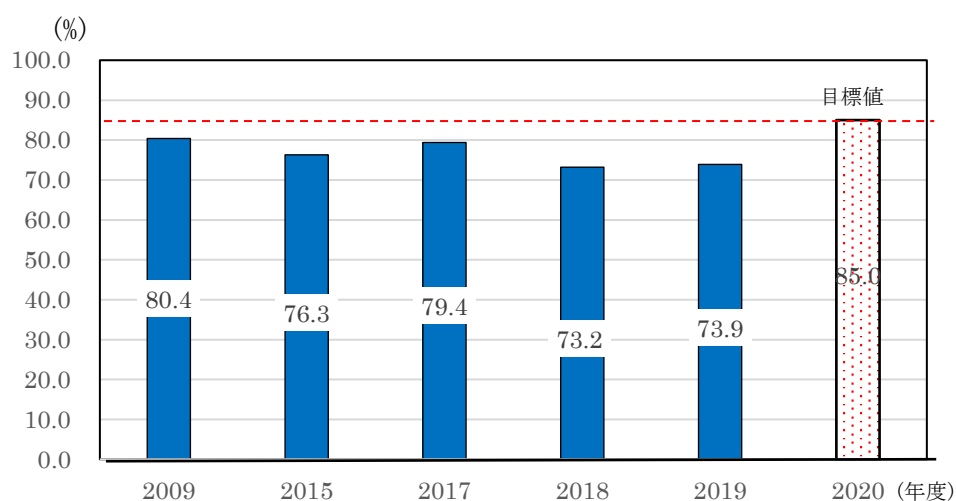
1-5 水辺に親しみやうるおいを感じる市民の割合

◇ 指標 19：水辺に親しみやうるおいを感じる市民の割合

目標値:85.0%
(2020 年度)

2019 年度の市民意識調査の「日野市の良いところ」の設問における「自然環境が良い(水とみどり、農のある風景など)」への回答率は 73.9%で、2018 年度より 0.7 ポイント増加しました。あと 1 年で目標値を達成するのは難しいかもしれませんが、依然として「日野市の良いところ」として最も多くの回答率を得ています。

今後も、様々な施策により自然環境を保全し、市民の皆様へより日野の自然の良さを実感していただき、次世代へ引き継げるよう努めます。



2.<市の取組状況>

目標	施策の方向	施策	具体的な取組	実施状況
水文化を伝えるまち	健全な水循環の構築	水循環に寄与する方策の検討	市内の水収支の実態や、重要箇所における降水量と湧水量の関係、湧水周辺の生態系などを調査する。調査結果をもとに、地下水かん養、水辺の環境保全から水利用、治水までを含めた水循環に寄与する方策を検討する。	湧水量及び地下水位計測調査を継続実施した。(緑と清流課) → 指標 16(P.26) プロジェクトチームにより浅川の流量測定を実施した。(環境共生部)
		用水の保全・活用	(仮)用水路改修・補修計画の策定	用水カルテプロジェクトによる用水路実態調査等をもとに、用水路の役割や周辺の状況に合わせた保全・改修・補修・開渠化計画を作成する。 (緑と清流課)
		湧水・地下水の保全	地下水揚水量の把握	法令に基づく揚水量の報告を徹底し、急激な揚水量の増加による地下水位の低下や湧水の枯渇、地盤沈下等が起こらないよう監視する。 (環境保全課) → 指標 20(P.34)
	雨水浸透・貯留利用の推進	雨水浸透・貯留施設の設置促進	家庭や事業所への雨水浸透・貯留施設の設置を呼びかけるとともに、補助金の交付を推進する。また、公共施設でも積極的に雨水浸透・貯留利用を推進する。	新築・増改築の雨水処理方法の相談時に丁寧に水循環や雨水涵養の大切さ、雨水浸透の指導を行った。(緑と清流課) → 指標 21(P.34)
	水質の保全	水質の実態把握	水質調査・生物調査の実施	用水、河川、湧水、地下水の水質調査や、用水、河川の生物調査を実施し、水質や生態系の状態を継続的に把握する。 (緑と清流課) 用水等の水質調査・水生生物調査を実施した。(環境保全課) → 指標 17.18(P.28.29)
		水質汚濁の防止	生活排水及び污水处理の施設整備	汚水管の整備や下水道接続の促進(戸別指導、工事費用融資あっせん)、下流部の汚濁状況の情報提供などを実施する。 (下水道課) → 指標 22(P.36)
	協働による水辺の保全・活用	流域連携による活動の推進	流域連携による水源かん養の活動や、水辺づくりなどを通じた啓発活動を推進する。	八王子市との浅川流域連携事業により、子どもの交流事業やあさかわ写真コンクールを行なった。(緑と清流課)
		水辺に親しむ活動の推進	用水やビオトープをはじめとする水辺に親しめる場や機会を創出するとともに、水辺の楽しさや大切さを伝えることのできる指導者の確保に努める。	水辺の楽校の活動について協力を行なった。また、水辺のある風景日野50選ガイドツアーを実施した(みずとくらす・ひのとの共催)。(緑と清流課) → 指標 23(P.36)
		水辺の保全・管理活動の推進	用水守制度を充実するとともに、地域や学校、用水守等が用水組合や農業者の用水管理活動を支援するための新たな活動を進める。また、清掃や草刈りなど、河川敷の美化・保全活動を行っている団体や個人への支援を行なう。	用水守により、事故なく、継続した清掃活動が実施された。(緑と清流課) → 指標 24(P.37) 多摩川・浅川クリーン作戦や程久保川クリーンデー等において、水辺の清掃やイベントにも積極的に参加した。(緑と清流課) → 4. 環境への取組状況(P.101)

3. 環境の現状と取組状況の評価

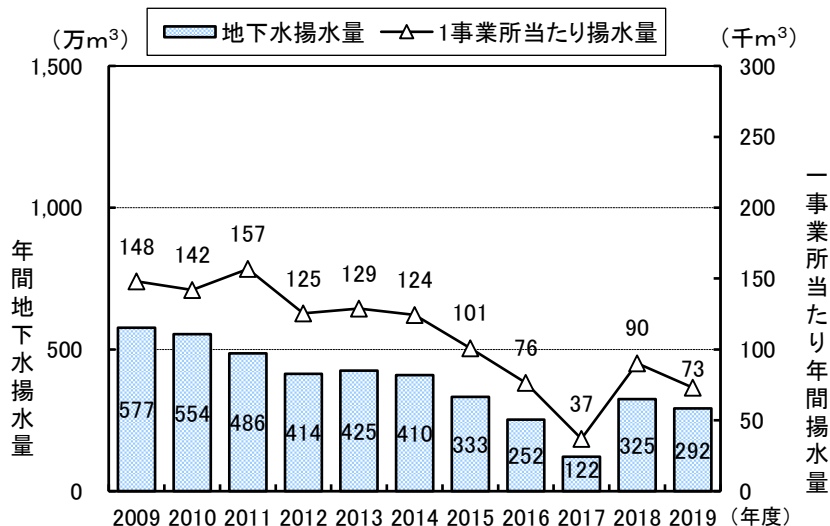
2-1 健全な水循環の構築

(1) 湧水・地下水の保全

地下水揚水量の把握



指標 20：地下水揚水量



揚水量とは

ここでいう揚水量とは、出力が 300 ワットを超えるモーター等で汲み上げた地下水の量のことです。

過度に地下水を汲み上げることによる空洞化が、地盤沈下の原因の一つとされています。

地下水汲み上げによる地盤沈下は、戦前から観測されており、戦争により多くの工場などが休業したため、一時的に下げ止まりをみせたものの、戦後は更に被害が大きくなりました。

このため 1960 年代より工業用水法やビル用水法、温泉法、環境確保条例等により規制され現在に至っています。

地下水の揚水量計測は、過度の汲み上げによる地盤沈下が起きないよう、規制値を超えて汲み上げていないか監視することが目的であり、監視することで地盤沈下の進行を止めることにつながっています。

2019 年度の年間地下水揚水量は 292 万 m³ となり、前年度より 33 万 m³ の減少が見られました。一事業者当たり年間揚水量は約 7.3 万 m³ となり 1.7 万 m³ の減少がみられました。

2-2 雨水浸透・貯留利用の推進

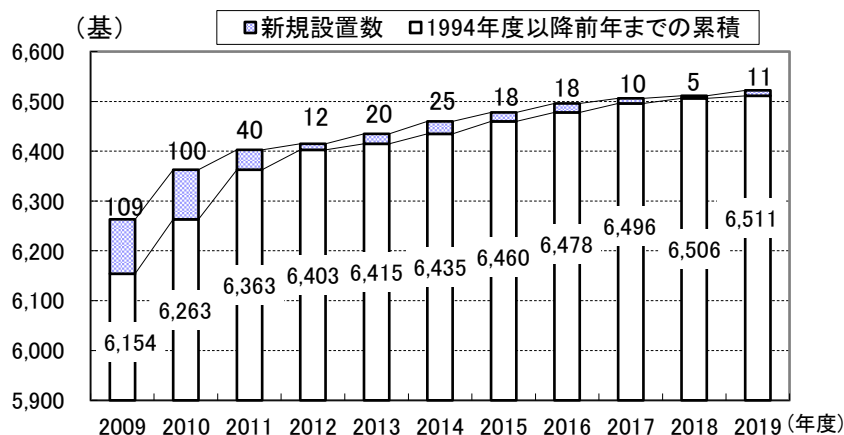
(1) 雨水浸透・貯留施設の設置促進

家庭や事業所への雨水浸透・貯留施設の設置促進



指標 21：雨水浸透ます設置個数

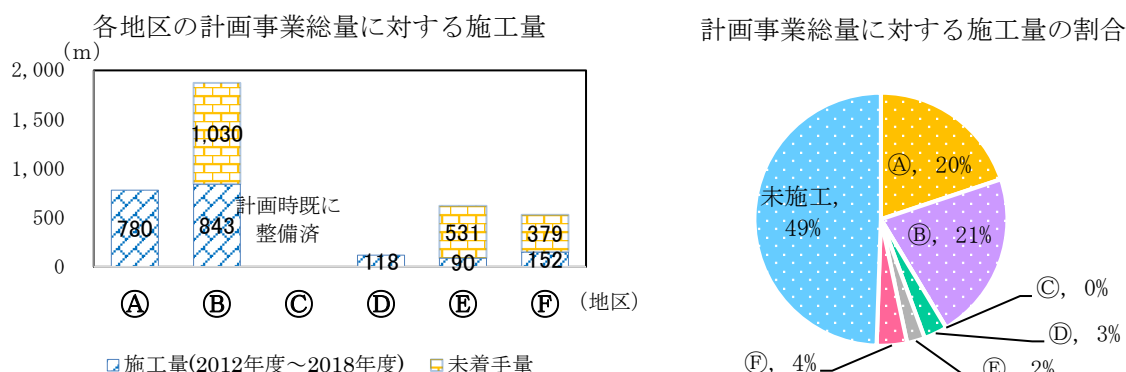
雨水浸透ますの設置は、各家庭にご承諾をいただいたうえで市が行ないます。設置後は、建物の所有者に無償譲渡し、適切な維持・管理を行なっていただきます。2019 年度は 11 基が新規に設置されました。



雨水浸透ますとは

雨水浸透ますは、屋根などに降った雨水を地下に浸透させるための施設です。雨水を地下に浸透させることで、雨水の分散化による河川の洪水防止等の治水対策への貢献、涵養域拡大による緑の保全と育成、湧水の回復による河川の清流復活、地下水の還元による地盤沈下防止などが期待できます。

(参考 6) 第二次日野市バリアフリー特定事業計画の透水性舗装整備状況



透水性舗装とは

透水性舗装とは、道路路面に降った雨水を直接路床へ浸透させ、地中に還元する機能を持つ舗装です。

本項では、第二次日野市バリアフリー特定事業計画により設定された計画事業量と、実際の整備状況を示しています。

グラフ凡例:地区名 (施工量/地区計画事業 総量)	路線内訳	計画事業量	施工量	実施予定期間 または実施年度
①：日野駅周辺 (780m/780m)	幹線市道Ⅰ－２０号線	100m	100m	2017 年度
	幹線市道Ⅰ－１３号線	100m	100m	2014 年度
	幹線市道Ⅰ－１４号線	—	施工済	整備済
	幹線市道Ⅰ－９号線	108m	108m	2016 年度
	幹線市道Ⅰ－１０号線	—	0m	未定
	市道Ｂ３３号線	—	0m	未定
	都道１６９号線	472m	472m	2013 年度
	都道１６９号線	—	0m	未定
②：豊田駅周辺 (843m/1,873m)	都道４１号稲城日野線（川崎街道）	—	施工済	整備済
	幹線市道Ⅱ－４４号線	173m	173m	2014 年度
	市道Ｅ１０３号線	295m	295m	2014 年度
	幹線市道Ⅰ－１２号線	295m	295m	2014 年度
	幹線市道Ⅰ－１２号線	80m	80m	2014 年度
	市管理道路	—	施工済	整備済
	駅前ロータリー（区画整理事業で整備予定）	130m	0m	2014 年度～2017 年度
	日野都市計画道路３・４・１５号線	310m	0m	2016 年度～2018 年度
	区画整理事業管理道路	—	施工済	整備済
	日野都市計画道路３・４・１９号線	260m	0m	2014 年度～2017 年度
③：高幡不動駅周辺 (—)	日野都市計画道路３・４・１５号線	180m	0m	2018 年度～2020 年度
	日野都市計画道路３・４・１９号線	150m	0m	2014 年度～2017 年度
	日野都市計画道路３・４・１９号線	150m	0m	2014 年度～2017 年度
④：百草園駅周辺 (118m/118m)	幹線市道Ⅱ－８号線	—	施工済	整備済
	河川管理用通路（両側）	118m	118m	2012 年度
	幹線市道Ⅱ－６２号線	—	施工済	整備済
⑤：南平駅周辺 (90m/621m)	幹線市道Ⅱ－５号線	—	施工済	整備済
	都道１７３号線（北野街道）	231m	90m	事業中～2020 年度
	都道１７３号線（北野街道）	390m	0m	2012 年度～2020 年度
⑥：平山城址公園駅周辺 (152m/531m)	都道１７３号線（北野街道）	291m	0m	事業中～2016 年度
	都道１５５号線町田・平山・八王子線 （立体交差部～交差点接続部）	88m	0m	2013 年度～2016 年度
	都道１５５号線町田・平山・八王子線	152m	152m	2015 年度
総 量		3,923m	1,983m	

3. 環境の現状と取組状況の評価

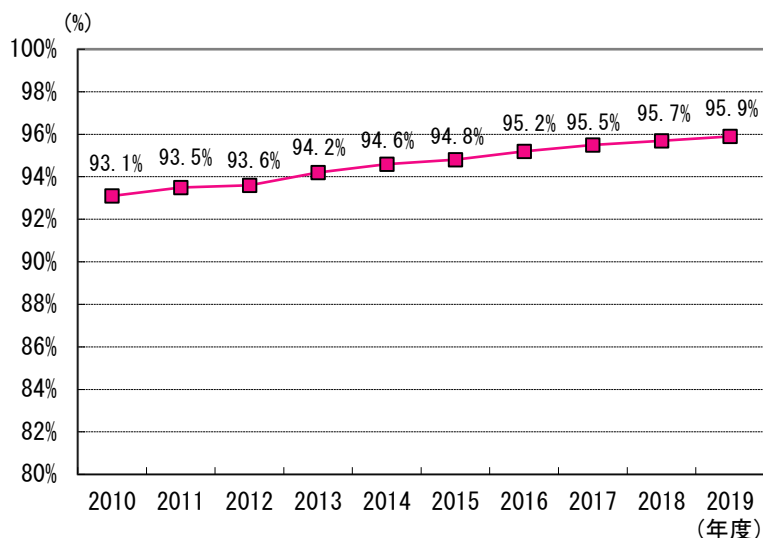
(1) 水質汚濁の防止

2-3 水質の保全

生活排水及び污水处理の施設整備



指標 22：下水道普及率



下水道普及率は、2019 年度は 95.9% となりました。

公共下水道は、区画整理事業に合わせて管の埋設を行なっているため、事業の進捗に応じて普及率が上がっていきます。

下水道普及率とは

$$\text{下水道普及率} = \frac{\text{公共下水道使用可能人口}}{\text{行政人口}}$$

2-4 協働による水辺の保全・活用

(1) 水辺に親しむ活動の推進

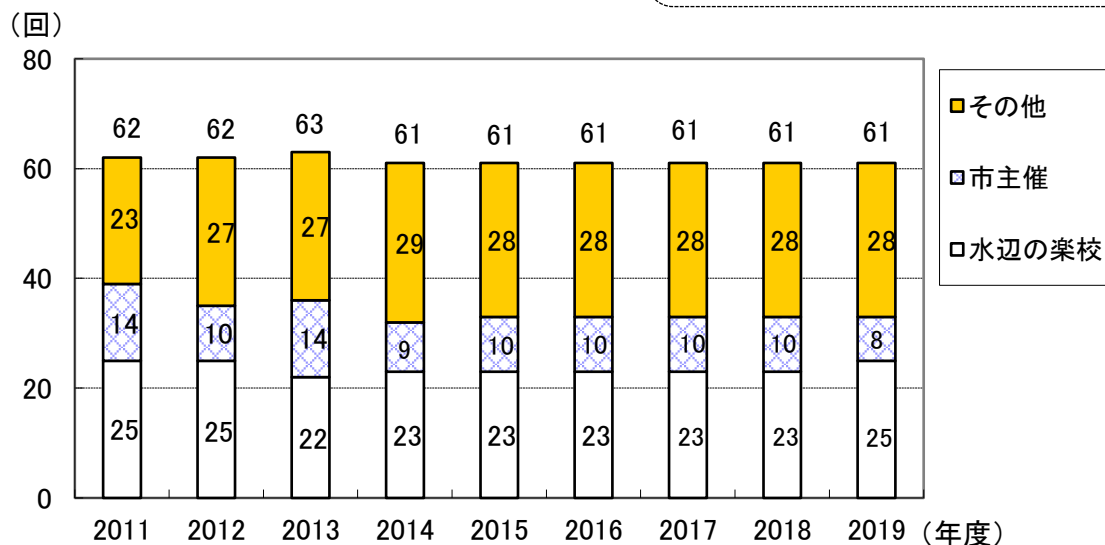


指標 23：水辺イベントの開催数

水辺のイベントに関しては、浅川潤徳と滝合両水辺の楽校の活動をはじめ、昨年度と同数の開催でした。

2020 年度目標:

- ・水辺の楽校による水辺での活動実施校 3 校
- ・水辺の環境教育・学習の実施回数 100 回



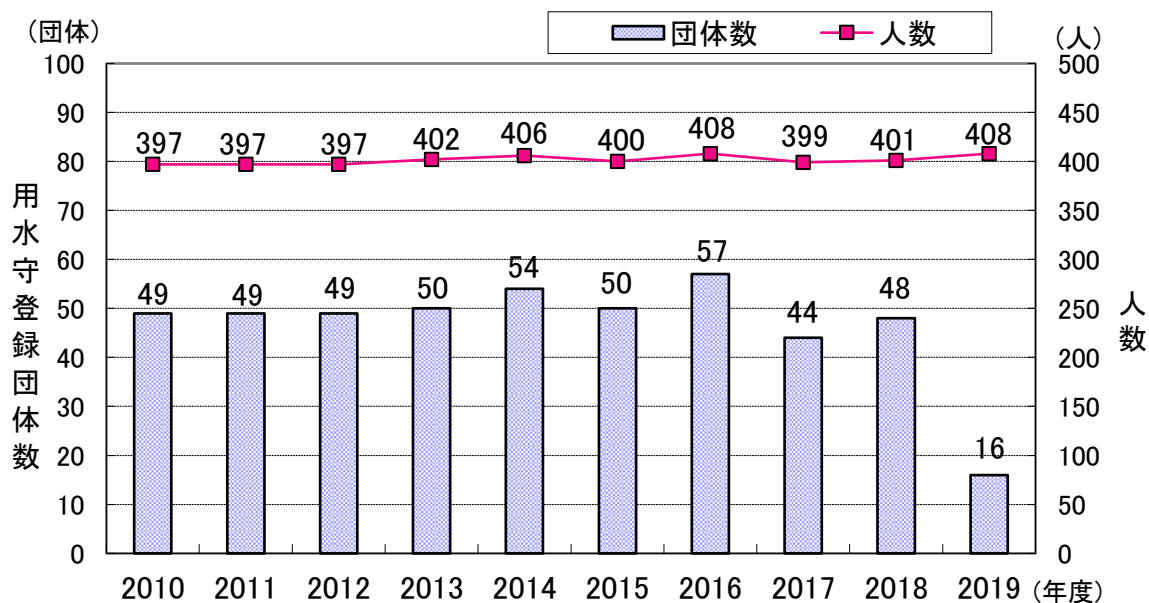
(参考 7) : 「ビオトープづくり」の取組件数

年度	累積件数	取組開始学校・団体
2001 以前	4	七生中、潤徳小、滝合小、日野三小
2002	4	
2003	6	仲田小、日野一小
2004	9	滝合ワンド、日野二小、南平小
2005	10	日野六小
2006	11	多摩平保育園
2007	12	平山小
2008	13	日野四小
2009	13	
2010	13	
2011	13	多摩平保育園移転に伴いビオトープも移設
2012～ 2019	13	

2012 年度以降、新規の取り組みはありませんでした。

(2) 水辺の保全・管理活動の推進

◇ 指標 24 : 「用水守」の登録団体数



用水守(ようすいもり)とは

日野市では、恵まれた水環境を次世代に伝えるため、用水路・湧水地等での清掃、草刈、緑化等のボランティア活動をしていただける方を「用水守」として登録いただき、その活動を支援しています。

2019 年度の登録団体数は前年度から 32 団体減少し 16 団体になりましたが、人数は 7 名増加し 408 名になりました。団体数が大きく減少したのは団体から個人登録を外したためで、全体の人数に大きな変化はありません。

3. 環境の現状と取組状況の評価

3.<市民コメント>

1. <環境の現状>

10 年後に目指す環境の姿に対し、環境の状況を測る指標・目標を決めての現状把握ですが、収集されたデータをそのままとめ、目標値への到達程度の評価が行なわれています。収集されたデータの妥当性（計測回数、計測時期、計測方法）・課題・その対応の検討がほとんどされていません。現状把握での PDCA とくに CA への取組が必要です。

既に 10 年に及ぶ経年データがある現状、各指標の傾向から指標、目標値、データ収集（計測回数、計測時期、計測方法）を見直す必要があったと考えます。

2. <市の取組状況>

環境基本計画中間検証報告書で決まった重点施策の方向性及び推進方法での取組状況が把握されていません。各所掌課の施策の実行が環境基本計画の施策の実行として実施計画化されず、市としてのイベント関連、市長・議会からの事業要求として事業化されることが多いためと思われます。

3. 上記問題、課題は第 3 次環境基本計画策定時に十分検討されることを望みます。

4.<東豊田緑地保全地域(黒川清流公園)における湧水白濁及び枯渇の再発防止について>

2018年7月に日野市東豊田緑地保全地域(黒川清流公園)で発生した多摩平K街区の開発業者が行なった工事を起因とする湧水白濁及び枯渇に伴い、2018年11月に設置した日野市東豊田緑地保全地域(黒川清流公園)湧水対策検討委員会にて原因究明がなされました。2019年度は、湧水対策検討委員会設置後の2018年11月から(一部は2018年7月から)2019年10月までの1年間のモニタリング調査の結果等を確認し、今後の杭打ち基礎工事による湧水及び地下水位に与える影響の検証を行なうため、日野市東豊田緑地保全地域(黒川清流公園)モニタリング管理協議会を設置し議論をしてまいりました。

当該協議会には東京都の職員もメンバーとなっており、情報共有ならびに連携は今後も行なってまいります。また、2020年度もモニタリング管理協議会を継続し、マンション建設工事再開に向けて専門家の意見を伺いながら、このようなことが起きないように再発防止に努めてまいります。

【モニタリング管理協議会開催日程及び議題について】

- 第1回 2019年10月25日(金) カワセミハウス集会室3
 - ・全体概要説明
 - ・事業者のモニタリング調査についてなど
- 第2回 2019年11月27日(水) 市役所101会議室
 - ・業者によるモニタリング調査について
 - ・今後の基礎工事の影響の検証についてなど
- 第3回 2020年2月25日(火) カワセミハウス集会室2
 - ・濁度基準値に関する協議について
 - ・濁度基準値の超過、湧水量の変化による中断フローについてなど

ごみ分野

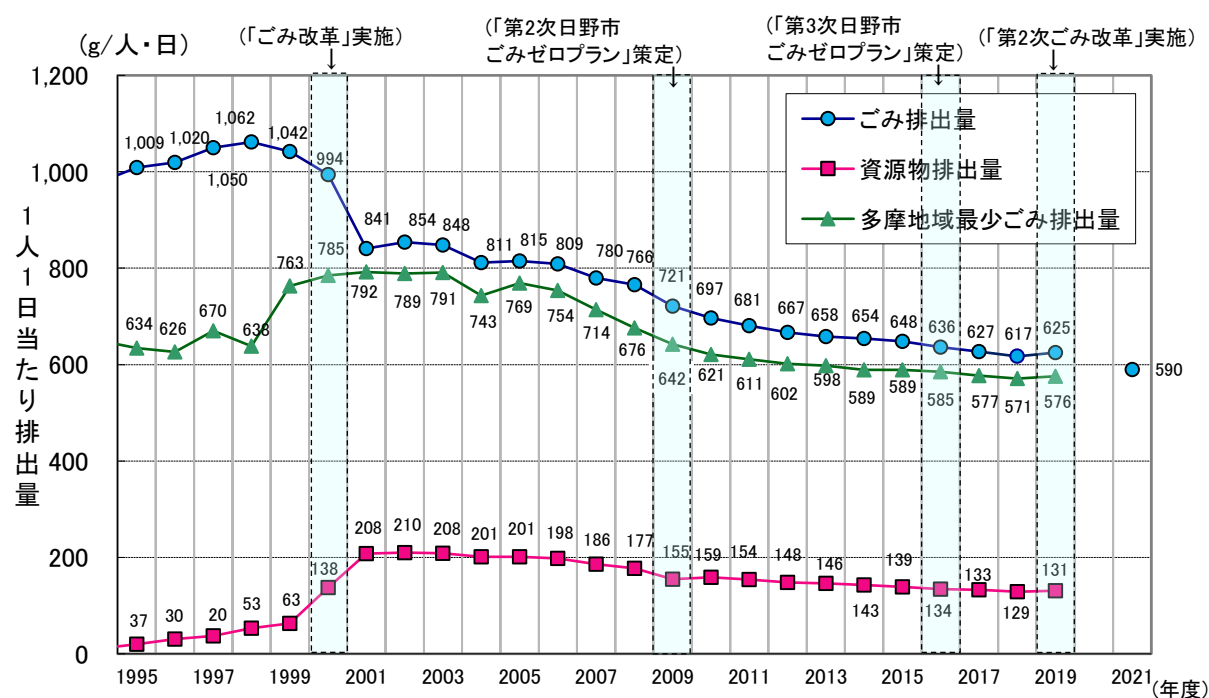
< 目 標 > ごみゼロのまち

1. <環境の現状>

1.-1 1人1日当たりのごみ排出量

目標値: 590g/人・日
(2021年度)

☺ 指標 25: ごみ・資源排出原単位



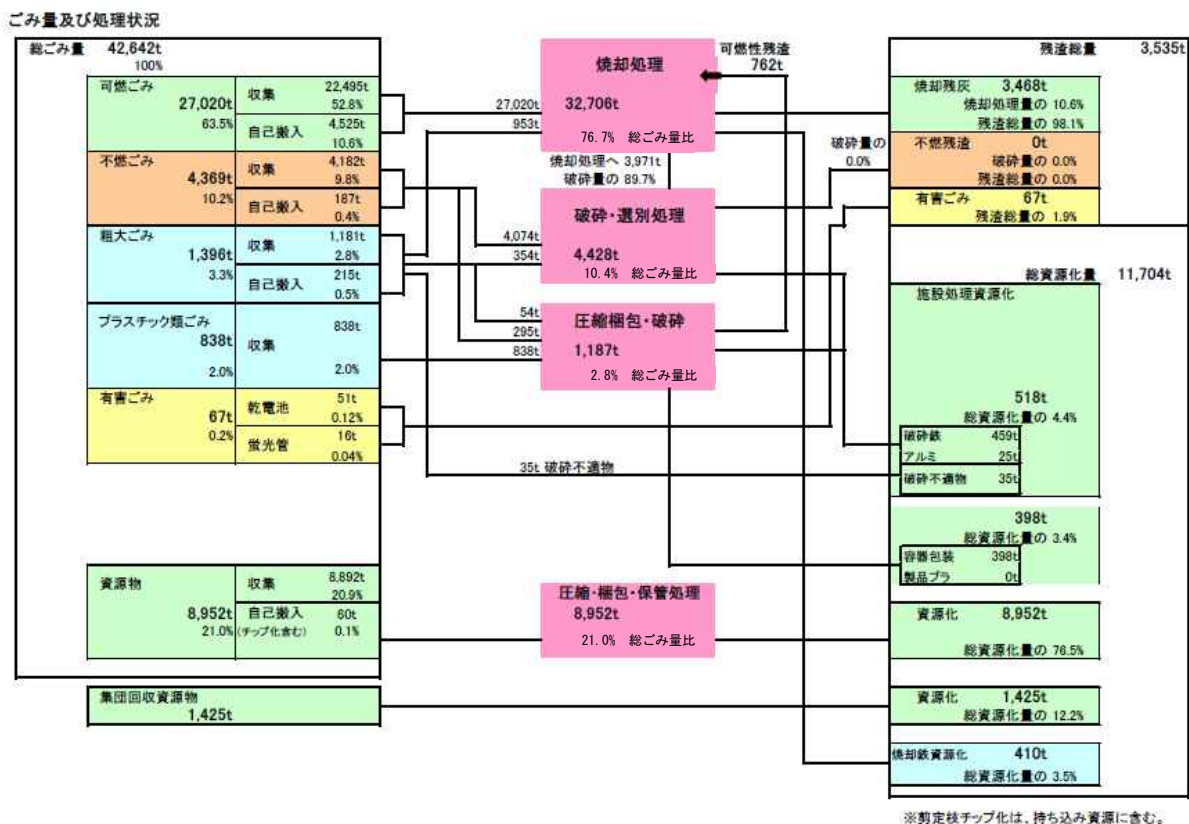
- ① 1人1日当たりのごみ排出量は、総ごみ量÷各年10月1日現在人口÷年間日数で算出。
- ② 総ごみ量は国や市の統計に準じて、可燃・不燃・粗大・有害・資源物の収集と持込量の合計とした。
- ③ 資源物排出量は、上記の式の総ごみ量を資源物収集量(集団回収量は除く)に置き換えて算出した。

1人あたりのごみ排出量は年々減少を続けてきましたが、2019年度は増加に転じました。なお、2019年度は、多摩地域のほとんどの市町村が増加の傾向です。理由としては、10月からの消費税率の変更に伴う駆け込み需要によるごみの排出量の増加や、5月の大型連休期間及び新型コロナウイルス感染拡大防止のために在宅する時間が増え、家の整理を行なう世帯が増加した結果、ごみの排出量が増えたことが考えられます。

第2次ごみ改革で、「容器包装お返し大作戦」等の施策を強化していくとともに、新たな施策の検討を進め、目標達成に向けて減量に取り組んでいきます。

(参考8) ごみの行方

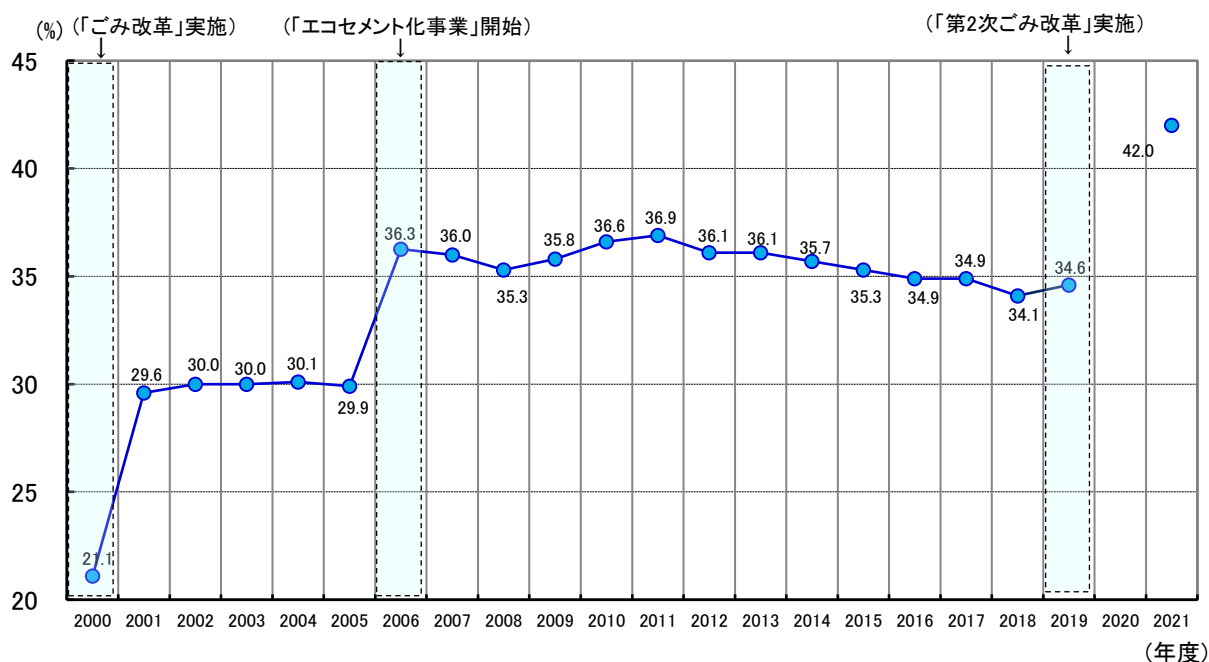
2019 年度 3 月まで



1.-2資源化率

◇ 指標 26 : 資源化率

目標値: 42%
(2021 年度)



3. 環境の現状と取組状況の評価

2019年度の資源化率は前年度より0.5ポイント増加し34.6%でした。2000年10月のごみ改革及び2006年7月より開始された焼却灰のエコセメント化事業等により、資源化率は、13.8%だった第1次環境基本計画の策定時（1999年）に比べ大幅に向上し、2006年度以降は36%前後で推移していましたが、近年若干の減少傾向になっています。

世界的な海洋プラスチックごみの問題、2019年10月からの「食品ロス削減の推進に関する法律」の施行、2020年7月からのレジ袋有料化など、国レベルでプラごみに関する問題意識は年々高まっています。

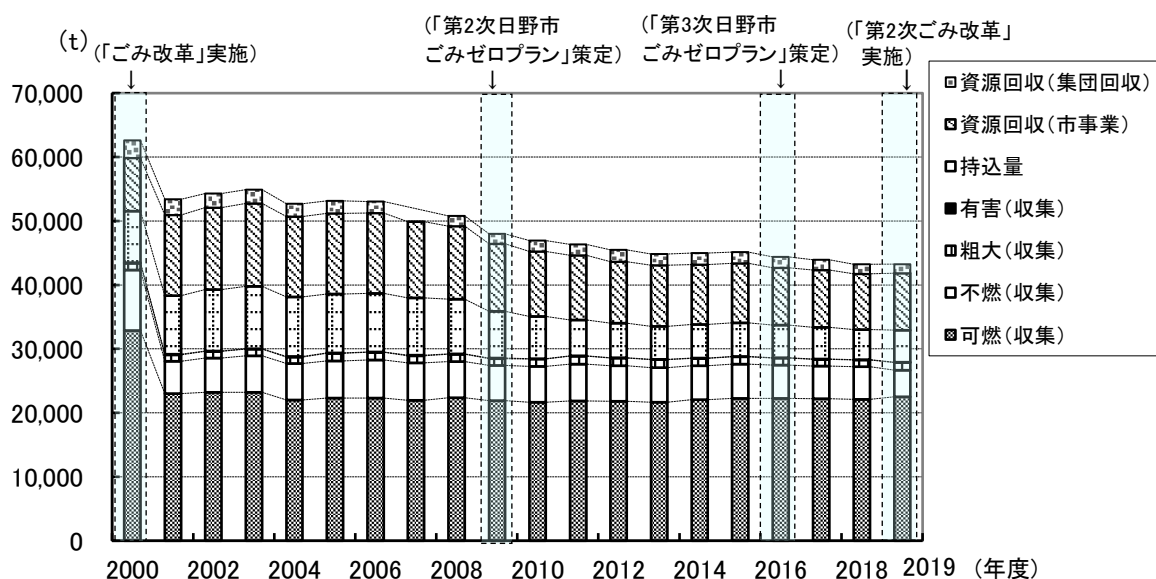
2020年1月からプラスチック類資源化施設が稼働（本格稼働は4月）したことにより、資源化率は向上することが見込まれます。

今後も資源化率の向上に努めるとともに、都内初のSDGs未来都市としての取り組みを、関係部署と連携を図りながら行なっていきます。

$$\text{資源化率} = \frac{(\text{資源ごみ量} + \text{施設処理資源化量} + \text{エコセメント化量} + \text{その他資源化量} + \text{集団回収量})}{(\text{総ごみ量} + \text{集団回収量})}$$

※エコセメントについては、2006年度データより計上しています。

（参考9）ごみ量内訳



2020年1月からプラスチック類ごみの分別収集が始まり、不燃ごみ量が前年度と比べ減少しました。

可燃ごみ量については、1人あたりのごみ量は近年減量傾向にあるものの、日野市の人口が増えたこと、10月からの消費税率の変更に伴う駆け込み需要によるごみの量の増加、5月の大型連休期間及び新型コロナウイルス感染拡大防止のために在宅する時間が増え、家の整理を行なう世帯が増加した結果ごみの量が増えたことに伴い、前年度よりも増加しました。

引き続き、市民の協力によりごみ量を削減できるよう、啓発に取り組んでいきます。

2. <市の取組状況>

目標	施策の方向	施策		具体的な取組	実施状況
ごみゼロのまち	ごみ排出量の低減	リフューズ（発生回避）の促進	レジ袋無料配布中止の拡大	一部スーパー等で実施しているレジ袋無料配布中止を市内全域に拡大するために、3者（市民、事業者、市）によるレジ袋無料配布中止に向けた共同会議を継続して進めていく。	2020年7月からレジ袋を有料化する法律が制定されたことから、各スーパーにおける対応について調査を実施した。 結果については、2020年度5月発行のごみ情報誌「エコー」で市民に周知することとした。 （ごみゼロ推進課） →指標 27(P.44)
		リターン（回収ボックスのある店頭への返却）の促進	容器包装お返し大作戦の展開	容器包装の店頭回収を促進するため、回収を実施している販売店の情報提供、販売店への協力依頼等を実施する。	市内スーパー等で回収容器を設置していない店舗に設置の依頼を行なったが、設置スペースや回収した資源の引き取り先との契約など、課題も多く実施には至っていない。 （ごみゼロ推進課） →指標 28(P.44)
	リサイクルの推進	資源物回収の推進	分別ルールの徹底	プラスチック製容器包装や古紙類・繊維類、びん・缶類をごみとして排出しないよう、分別方法を周知・徹底する。それにより、不燃ごみの減量化も促進する。	2020年1月から開始したプラスチック類ごみの分別収集に伴い、中学校区ごとの説明会、ガイドブックの全戸配布、自治会・団体単位での説明会などを開催し、プラスチックの分別及びその他ごみ減量に向けた市民啓発を実施した。 （ごみゼロ推進課） →指標 29(P.45)
		生ごみリサイクルの推進	生ごみや剪定枝の地域内循環の拡大	生ごみや落ち葉、剪定枝を堆肥化して利用する地域内循環を拡大する。	第八小学校地区を中心とした167世帯の生ごみを週1回収し、新井地区にあるせせらぎ農園に投入後に土と攪拌をさせて堆肥化し、農園内で使用。農園には、近隣小学校、幼稚園・保育園などが訪れるとともに、近隣住民との交流の場としての機能も有し生ごみの地域内循環を行なった。 （ごみゼロ推進課）
			生ごみの家庭内循環（自家処理）の普及促進	生ごみの減量化と堆肥化を促進するため、コンポスト容器購入補助や生ごみリサイクルステッカーの配布を実施する。	生ごみの家庭内循環の取組として、ダンボールコンポストの普及啓発活動を実際に利用している市民サポーターとともに実演を交えた講習会や市内イベント等での普及活動を行なった。 （ごみゼロ推進課） →指標 30,31(P.46.47)
	市民・事業者への啓発	市民の意識向上・行動促進	情報提供ツールの充実	ごみ回避・発生抑制に重点をおいて、市民がすべきことを広報やHP、市民団体主催の講座等で啓発するとともに、携帯電話サービスの活用など、新たな情報提供方策を検討する。また、市民・市民団体と連携し、各種キャンペーンを実施する。	年2回の「エコー」発行とHP、ごみ分別アプリによる情報提供を実施した。 また、可燃ごみの共同処理を行なう日野市・国分寺市・小金井市の市民とともに、3市ごみ減量推進市民会議を開催し、そこで検討した内容を3市共通記事として各市の広報紙に掲載するなどし、市民に啓発を行なった。 （ごみゼロ推進課） →指標 32～34(P.48.49)
	協働による「ごみゼロ」の実現	コミュニティ単位での取組	新聞紙の民間回収への移行	関係機関との調整のもと、新聞紙の分別収集を販売店回収、集団回収へと移行し、地域の取り組みのひとつとして位置づける。	新聞紙の定期購読者の減少から回収量が減少している。実情把握のため、一部地域でアンケート調査による実態調査を実施した。 （ごみゼロ推進課） →指標 35(P.49)

3. 環境の現状と取組状況の評価

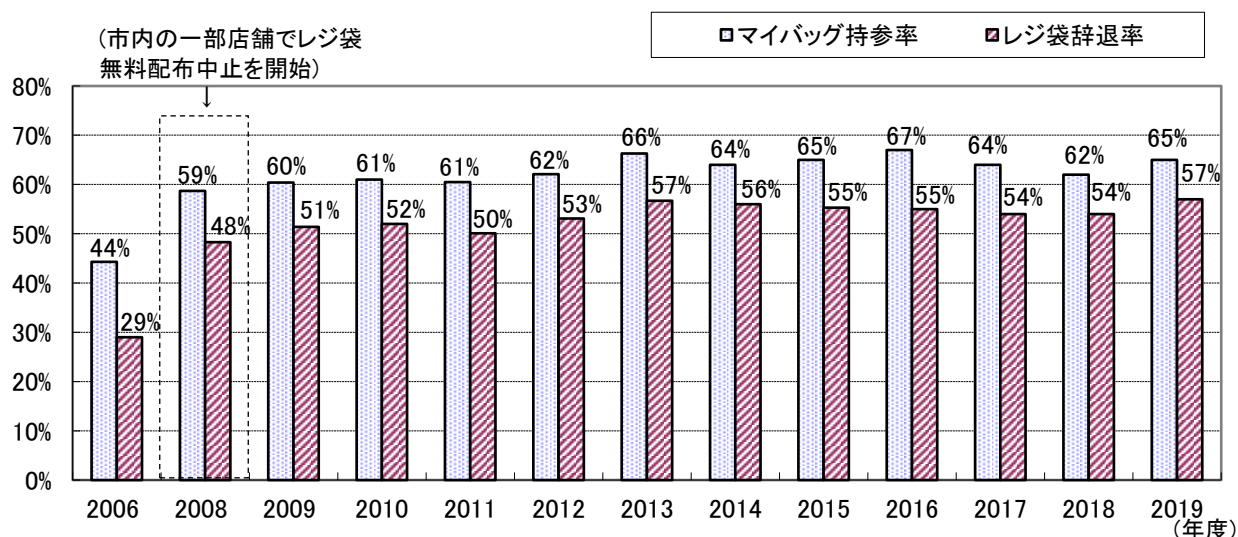
2. -1 ごみ排出量の低減

(1) リフューズ（発生回避）の促進

レジ袋無料配布中止の拡大



指標 27：マイバッグ持参率・レジ袋辞退率



2019年度は、マイバッグ持参率が65%、レジ袋辞退率は57%であり、ここ数年はほぼ横ばいの状況が続いています。

また、毎年5月、10月をマイバッグ持参強化月間とし、事業者、市民とともに啓発活動を行なっています。

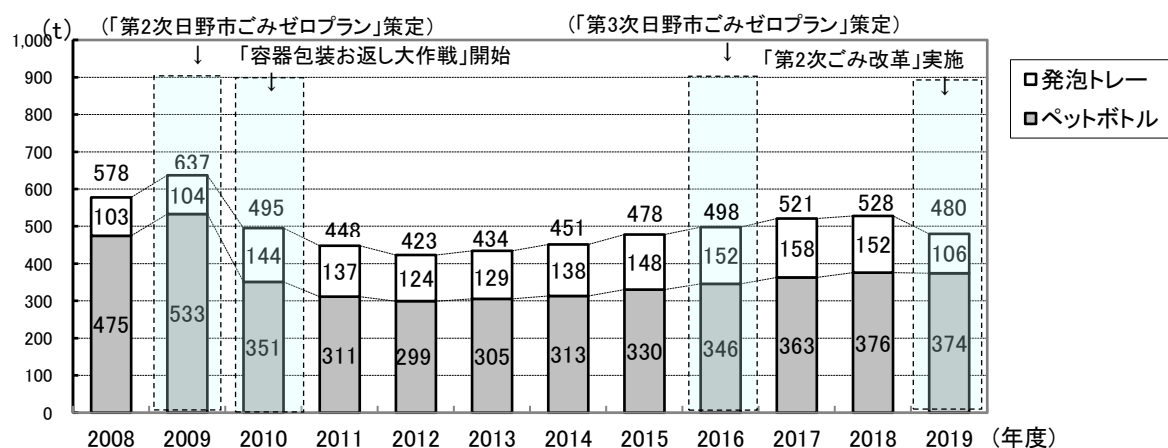
今後は、2020年7月の国によるレジ袋有料化後の動向を見ながら、事業者、市民団体及び市で構成している「レジ袋無料配布中止に向けた共同会議」にて、マイバッグ運動の促進を図っていきます。

(2) リターン（回収ボックスのある店頭への返却）の促進

容器包装お返し大作戦の展開



指標 28：ペットボトル、発泡トレーの行政回収量



スーパー等の協力によりペットボトルやプラスチック製容器包装を店頭回収する「容器包装お返し大作戦」を促進し、行政回収の減量に取り組んでいます。

2019年度の行政回収量は480tとなり、前年度と比べ減少しました。発泡トレーの減少については、市のごみ分別ルールの変更に伴い、発泡トレー類としての収集が12月で終了し、1月からはプラスチック類ごみとして収集を開始したことに起因します。

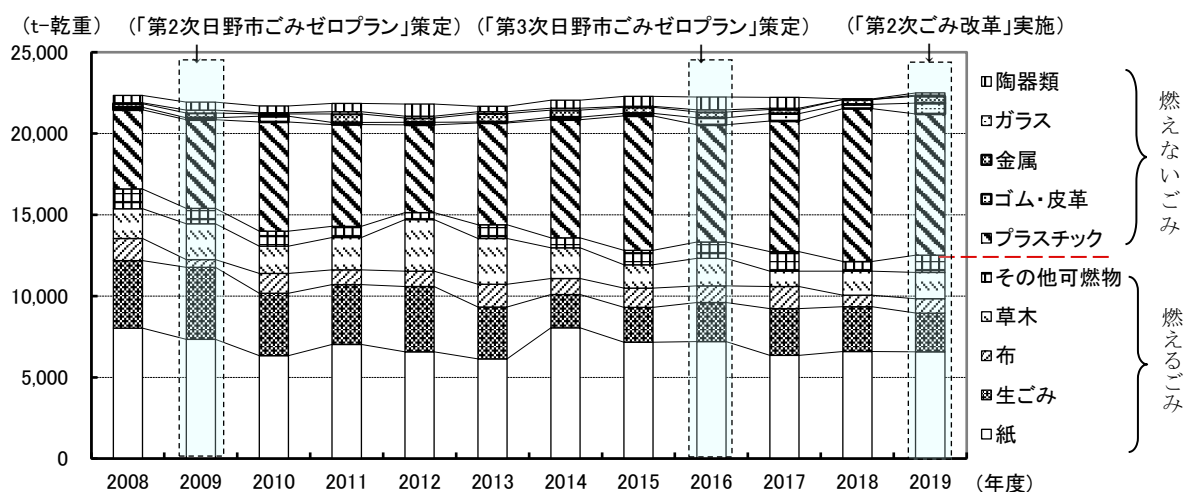
事業者に拡大生産者責任を果たしていただくため、「容器包装お返し大作戦」の協力店拡大に向けて取り組みをさらに推進し、行政回収量の削減を目指していきます。

2. -2 リサイクルの促進

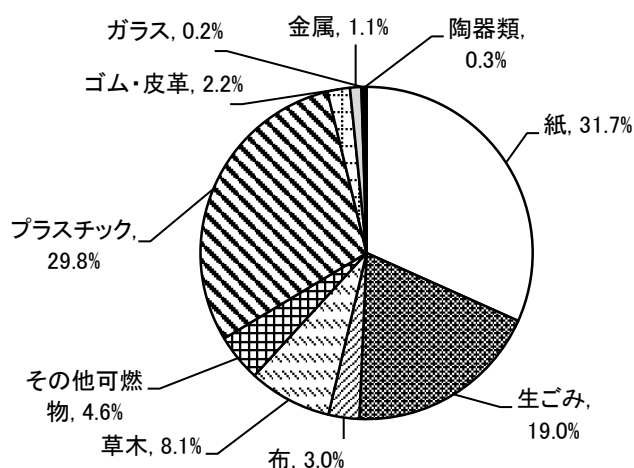
(1) 資源物回収の推進

分別ルールの徹底

😊 指標 29：焼却ごみの組成



(参考 10) 焼却ごみの組成割合 (2019 年度分析結果・湿ベース)



組成分析の結果から、プラスチックの割合が多いことがわかります。

2020 年 1 月からプラスチック類資源化施設が稼働（本格稼働は 4 月）し、分別収集がスタートすることにより、資源化を進めていきます。

2019 年度時点では、まだ焼却ごみにプラスチックが含まれる量が多いことから、市民への分別の周知や情報提供を進め、資源化につなげるよう取り組んでいます。

また、市民によるダンボールコンポスト等の生ごみたい肥化の事業についても PR を行ない、生ごみの削減も併せて取り組んでいます。

3. 環境の現状と取組状況の評価

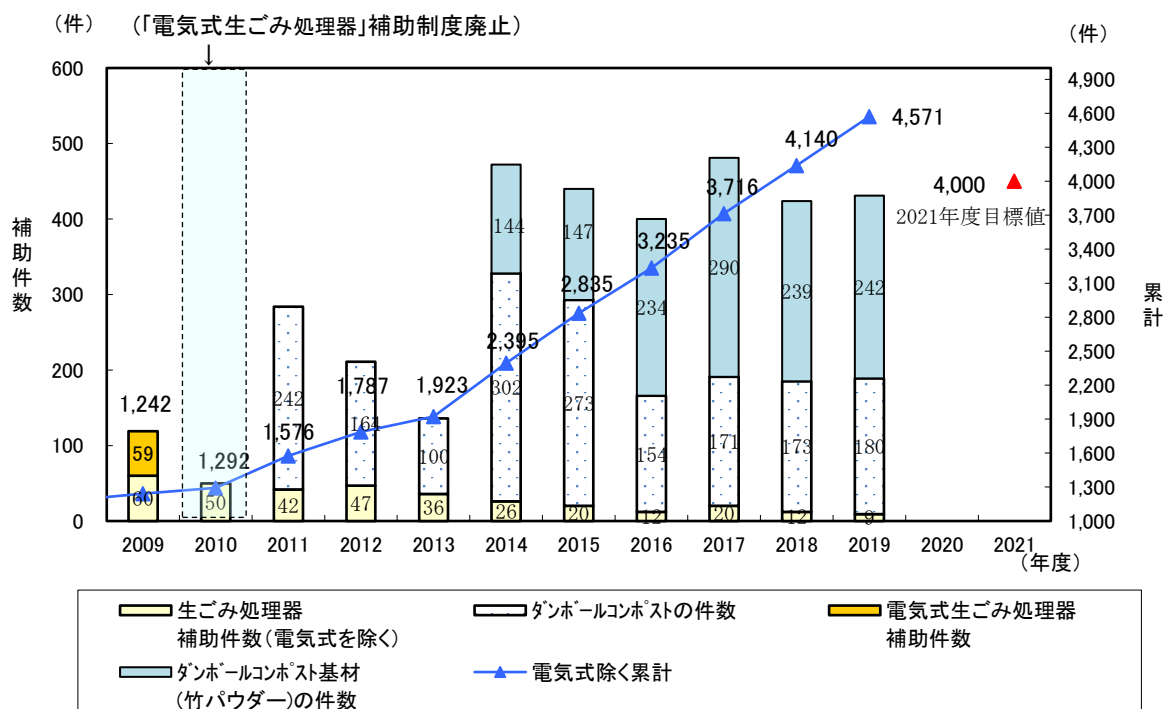
(2) 生ごみリサイクルの促進

生ごみの家庭内循環（自家処理）の普及促進



指標 30：生ごみ減量・資源化への取組世帯数

2021 年度目標値:生ごみ減量・資源化
への取組世帯数:累計 4,000 件



2016 年度に制定した第 3 次ごみゼロプランでは「生ごみ減量・資源化への取組世帯数」を 2021 年度までに 4,000 件以上に、さらに 5 年後の 2026 年度までに 8,000 件に増やすことを目標にしました。

「生ごみ減量・資源化への取組世帯数」とは、コンポスト等による減量実施世帯だけでなく、水切りや埋め立て、機械式処理など様々な取り組みを行なう全ての世帯を示します。

2014 年度にダンボールコンポストの補助率引き上げに伴う自己負担の軽減を実施したことで利用者数が増加しました。さらに、2016 年度から基材の自己負担軽減を実施し継続利用を促進しています。

ダンボールコンポストは「せせらぎ農園」などで生ごみ減量に取り組む市民とともに、普及啓発活動を実施しています。その効果もあり年間購入数量は基材・セットともに前年度並の増加件数を維持しています。

ダンボールコンポストとは

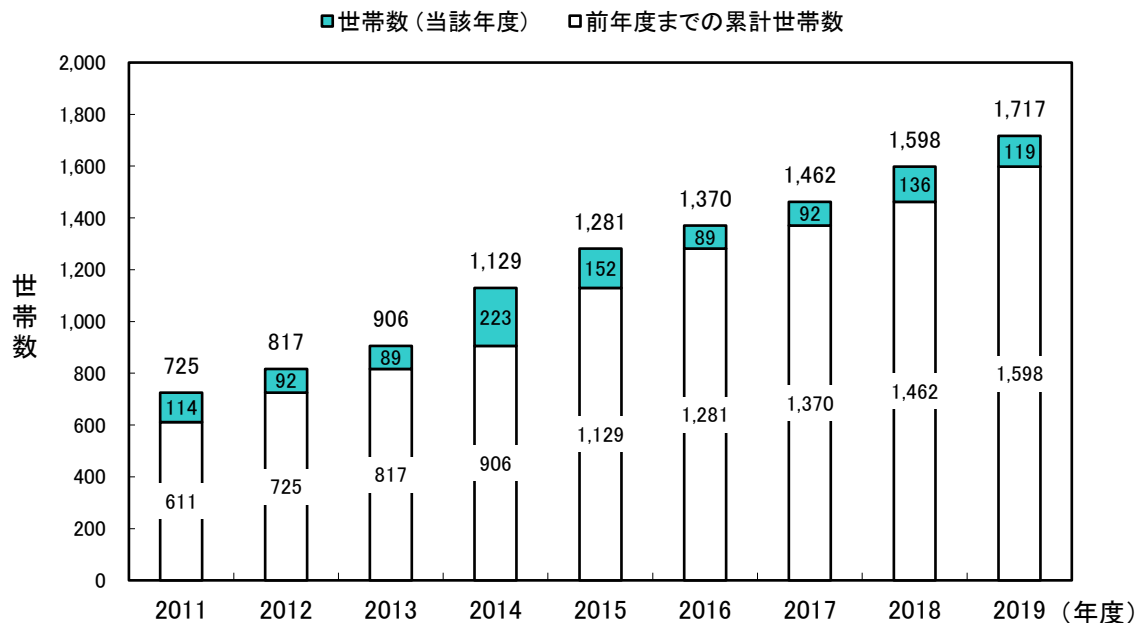
文字どおりダンボールでできており、安価で、プラスチック製品よりも環境にやさしいものです。お庭や畑のない家庭でも手軽に体験できるようにと、市民と協働して開発し、市内福祉施設と協力して作製しました。生ごみを混ぜ込む基材には竹から作った「竹パウダー」(竹を細かく破碎したもの)を使用したり、ダンボールに被せる虫除けカバーは、古布リサイクル品から作ったりするなど、工夫と試行錯誤を重ねた日野市オリジナル品です。





指標 31：生ごみリサイクルステッカー掲示世帯数

2020 年度目標値累計8,000 件



生ごみリサイクルステッカー掲示世帯数は、2019 年度は前年度より 119 世帯増加しました。

このステッカーは、ダンボールコンポスト新規購入者等新たに家庭で生ごみリサイクルを始めた方に送付し、掲示をお願いしています。

産業まつりでの PR、講習会等の開催により、ダンボールコンポストの良さを感じていただき、着実に利用者が増えてきているものの、目標値と現在の数値に差がある状況です。

「第2次ごみ改革」の一環としても、生ごみの発生抑制（食べ切り・食品ロス対策など）を推進するとともに、引き続き生ごみリサイクルの啓発活動に努めます。

生ごみリサイクルステッカーとは

家庭での生ごみ処理の輪が更に広がるよう、また、生ごみを可燃ごみとして出さない人が市内にどの位いるのかがわかるよう、玄関ドアなどに掲示するステッカーです。



3. 環境の現状と取組状況の評価

2. -3 市民・事業者への啓発

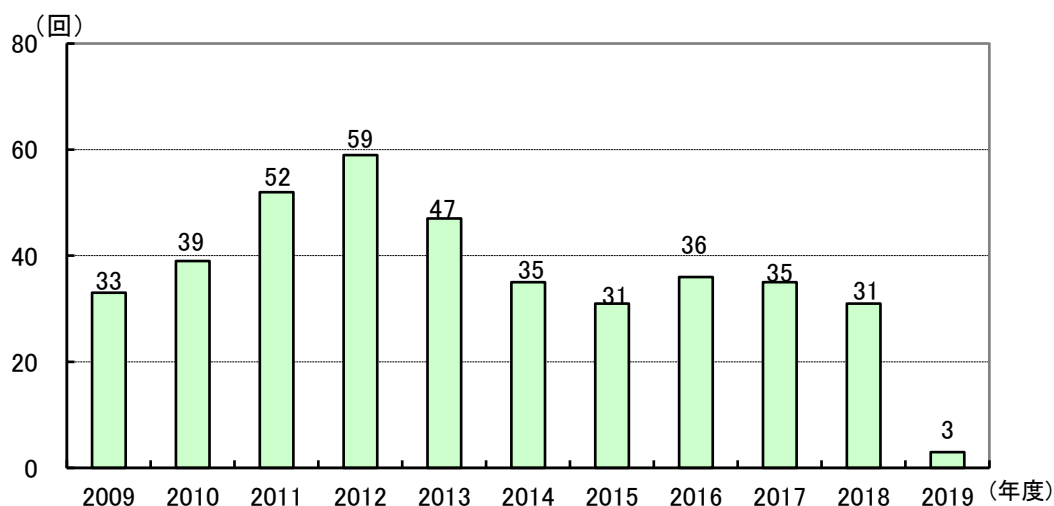
(1) 市民の意識向上・行動促進

情報提供ツールの充実

2020年度目標値:環境学習出前講座の実施回数 60回



指標 32 : 環境学習出前講座の実施回数



環境学習出前講座は、市内保育園・幼稚園・小学校からの希望を受け実施しています。

小学校については、施設見学を行なった学校に出向いて環境学習を行なっています。

子どもたちへの「食べ残しゼロ」、「物を大切に使う」等の啓発をととして家族への啓発につながるような環境学習に取り組んでいます。

2019年度は、プラスチック類資源化施設の建設のため、クリーンセンターの見学を中止しました。

小学校における環境学習の一環として、クリーンセンターの見学を行なう場合には、出前授業をセットで行なってきましたが、見学ができないために出前授業を実施しない小学校があったことや、プラスチック類の分別開始による対応から2019年度の出前事業は3回の実施となりました。

2020年から新しく焼却処理施設及びプラスチックの資源化施設が稼働することから、環境学習の実施方法を再検討し、目標達成に取り組んでいきます。

最新の情報提供手段「ごみ分別アプリ」とは

日野市ではごみ関連情報を確認できるスマートフォン・タブレット用無料アプリ「日野市ごみ分別アプリ」を配信しています。

アプリ内では、収集スケジュール、ごみ分別辞典、ごみの出し方、ごみ関連マップなどの情報確認や、出し忘れ防止アラート等の機能を使用することが可能です。

「ごみ分別アプリ」は右のQRコードからダウンロードできます。



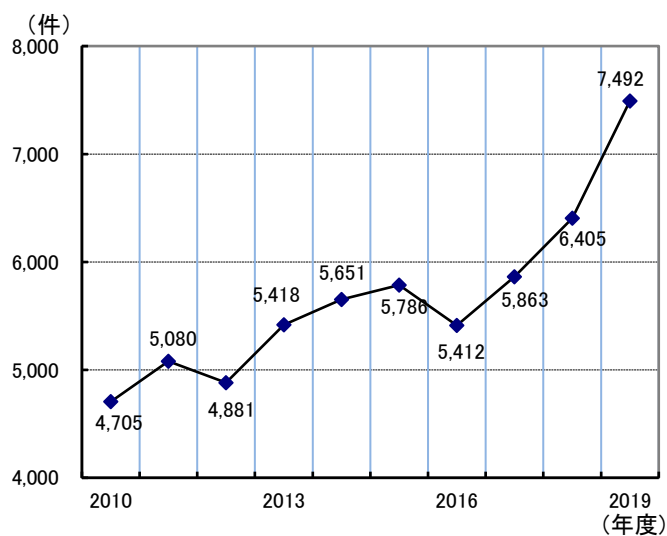
アイフォン版



アンドロイド版



😊 指標 33：ごみ相談窓口への相談件数



ごみ相談窓口は、市役所本庁舎一階に設置しており、転入者に対するごみの排出方法の相談や、分別に悩むものの排出方法などの相談に応じています。

相談件数は、2019 年度は前年度より 1,087 件増加し 7,492 件となりました。

2020 年 1 月からのプラスチック類分別開始に伴い、2019 年 10 月にガイドブックを、11 月から 12 月に新カレンダーを配布したことで、プラスチック類の分別に関する相談が増加しました。

なお、日野市では「ごみ分別アプリ」（詳細は前ページ）によるごみの出し方等の情報提供も行なっています。

◇ 指標 34：クリーンセンター見学者数

2021 年度目標値: クリーンセンター見学者数 2,000 人



2018 年度から 2019 年度は、クリーンセンター建て替え工事のため、見学者の安全を考慮して見学の受け入れを休止していました。

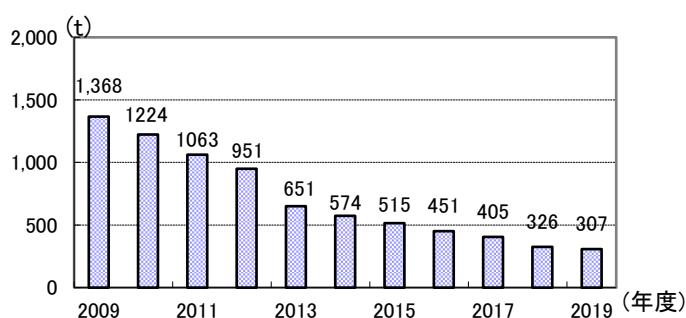
なお、新施設の見学については、新型コロナウイルス感染症の状況を踏まえ、可能な限り実施できるように取り組んでいきます。

2. -4 協働によるごみゼロの実現

(1) コミュニティ単位での取組

新聞紙の民間回収への移行

😊 指標 35：新聞紙の行政回収量



2019 年度の行政回収量は、前年度より 19 t 少ない 307 t でした。

行政による新聞紙の回収量は、民間回収への移行が順調に進んでいることに加え、インターネットの普及等を背景とした新聞購読者数の減少から、年々減少傾向となっていると推測されます。

集団回収の推奨、販売店回収への啓発等を行ない、今後も減量を進めます。

3. <市民コメント>

■レジ袋無料配布中止への取り組み

レジ袋無料配布中止を市内全スーパーに拡大するため、スーパー・市民団体・行政による「レジ袋無料配布中止に向けた共同会議」を定期的に開催してきました。しかし、こうした地域での自主的な取り組みには限界があることから、国は2019年12月に法律によりレジ袋有料化を義務化し、2020年7月1日から実施しています。肝心なのは、市民がマイバッグを持参し、レジ袋を買わないようにすることです。

■容器包装お返し大作戦！

市は、ペットボトルと発泡トレーの収集頻度を2週に1回から4週に1回に減らすことによって販売店への返却を推進してきました。

これまでは、発泡トレーなど一部のプラスチックごみのみを分別収集し、大半のプラごみは不燃ごみとしていましたが、2020年1月から、発泡トレーなども含め、すべてのプラごみを分別収集すると同時に、収集を有料化しています。発泡トレーの販売店への返却への影響としては、収集の有料化によって返却が促進される一方、収集頻度が4週に1回から週1回に増えることから返却が後退するというプラス・マイナス両面が考えられます。

■全プラスチックごみ分別収集の効果

すべてのプラごみを分別収集することによって、2020年1月～7月の家庭からの収集ごみに占める資源物の比率は34.4%となり、前年同期の24.0%から10.4ポイント上昇しています。

また、収集の有料化により、プラごみ＋不燃ごみ（プラごみが混入）の1人1日当たり排出量は、2020年1月～3月が前年同期比－11.8g、4月～7月が前年同期比－4.9gとなっています。収集有料化は、プラごみの発生抑制と発泡トレーの販売店への返却を促し、プラごみの排出を削減する効果が期待できそうです。

■ダンボールコンポストの普及啓発活動

「生ごみリサイクルサポーター連絡会」では、ダンボールコンポストを普及させるため、使い方講習会や各種イベントでの展示・説明・チラシ配布を実施するとともに、市のごみ情報誌『エコー』の「市民のページ」や『生ごみ菌ちゃん通信』などの媒体を利用してきました。

ダンボールコンポスト申込者に対してダンボールコンポストの認知経路についてのアンケート調査を行なったところ、認知経路としては、講習会やイベントよりも『エコー』や広報のようなマス媒体の方が圧倒的に多いことがわかりました。今後は『エコー』や広報をこれまで以上に活用していく必要があります。

■生ごみの地域内循環

「まちの生ごみ活かし隊」は、新井地区の人たちとともに、167世帯の生ごみを戸別回収し、「せせらぎ農園」の畑に直接投入して野菜を栽培しています。

ここは、新しい都市農業の一つのかたちとして、また、地域の人たちの居場所や農体験を通しての食育や環境教育の場として、各方面から注目され、毎年市内外から2,500人前後の見学者が訪れています。しかしながら、新井の農地一帯の区画整理が計画されており、市に対して、持続的な利用が可能な農地の確保を要望しているところです。

地球温暖化分野

< 目 標 > 低炭素社会を築くまち

1. <環境の現状>

1. -1 二酸化炭素排出量

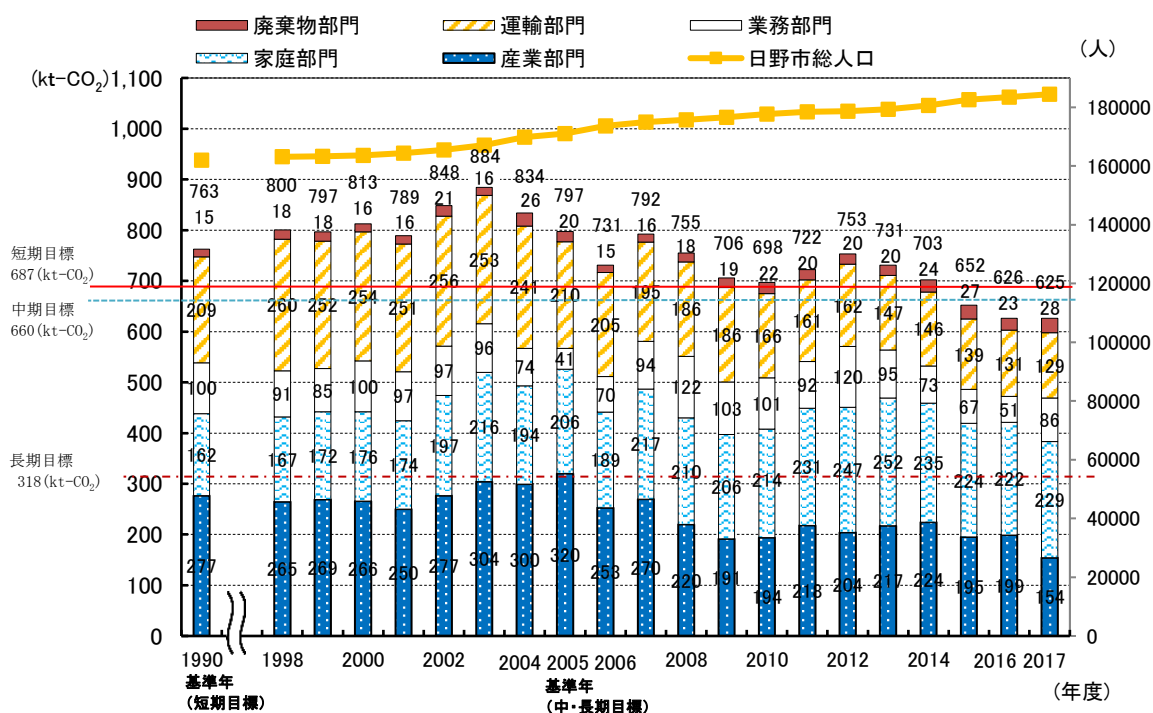
削減率

短期目標 10% (2015 年度): 基準年度 1990 年

目標値: 中期目標 17% (2020 年度): 基準年度 2005 年

長期目標 60% (2050 年度): 基準年度 2005 年

😊 指標 36: 二酸化炭素排出量



※小数点以下の数値の積み上げにより、部門ごとの数値と、合計値が一致しない場合があります。

2012 年 3 月に「第 3 次日野市地球温暖化対策実行計画」(以下、第 3 次実行計画)を策定しました。

国は、パリ協定を受けての中期目標として、2016 年度に「2030 年度までに 2013 年度比で 26% 削減すること」また、「2050 年度までに 80%の削減を目指すこと」を示しました。

そのため、2017 年 3 月に第 3 次実行計画を見直した際に、削減目標の基準年度について、国との整合を図りました。

二酸化炭素排出量は、オール東京 62 市区町村共同事業「みどり東京・温暖化防止プロジェクト」により作成された温室効果ガス排出量算定手法の標準化区市共通版の数値を基準としています。また、

3. 環境の現状と取組状況の評価

当手法では2017年度の数値が最新データとなっています。この数値を使うことにより、東京都における他自治体と同一の算定条件のもとで比較ができることから第3次実行計画策定以降はこの数値を採用しています。

2017年度における二酸化炭素排出量(625 kt-CO₂)は、中期目標を達成した前年度とほぼ同様です。部門別の基準年(2005年度)との増減の比較は、次ページの補足②のとおりです。

全体のうち最も大きな部門である家庭部門から排出されるCO₂は、基準年(2005年度)と比べると増加しているものの、日野市の総人口が増加している中、近年はわずかに減少または横ばいの傾向です。

継続してCO₂の排出を減らすためには、より多くの市民が自分事として、一人ひとりが省エネに取り組む必要があります。

指標 36 補足①：電気のCO₂排出係数の推移について

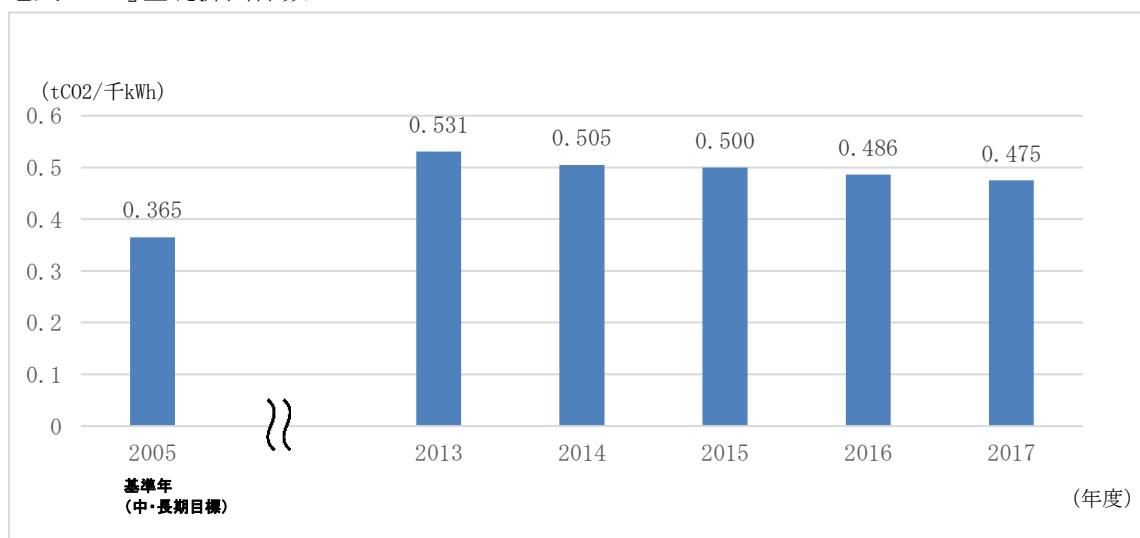
エネルギーから排出するCO₂を計算する際には、排出係数という数値を用います。

電気のCO₂排出係数は、発電方法の違いから、電気事業者ごと・年度ごとに異なります。

次のグラフでは、例として東京電力ホールディングス㈱のCO₂基礎排出係数を示しました。

2005年の基準年と比べて、近年はCO₂基礎排出係数が高くなっています。この係数が高くなると、同じ量の電気を使っても、より多くのCO₂が排出されることとなります。

電気のCO₂基礎排出係数



数値の出典：東京電力ホールディングス㈱ホームページ

指標 36 補足②：二酸化炭素排出量の部門別の増減について（基準年度比）

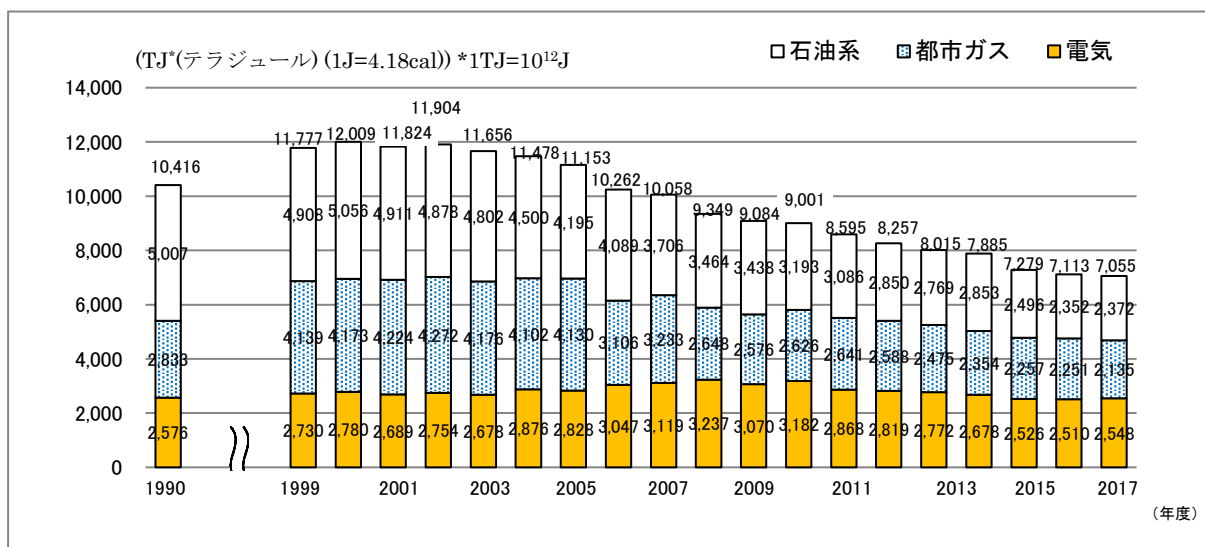
二酸化炭素排出量の 2017 年度と基準年度（2005 年度）との比較

部門名	基準年度（2005 年度）比の増減	増減理由についての考察
廃棄物	増加（+40.0%）	日野市の総ごみ量は減少しているものの、ごみの組成に占めるプラスチックの割合が増加している。
運輸	減少（-38.6%）	・全国的にハイブリッド車・電気自動車等の販売・保有台数が増加している。 ・全国的に乗用車・トラック等の燃費が改善している。 ・日野市ではミニバスやワゴンタクシーの利用人数が増加している。
業務	増加（+109.8%）	・業務部門は年度ごとの増減の幅が大きく、明確な増加理由は不明。 ・基準年度（2005 年度）の数値は前後 10 年の平均値と比べ半分以下と低い値である。2017 年度は基準年度以降の平均値とほぼ同等。
家庭	増加（+11.2%）	・機器等のエネルギー効率の向上などから、全国的に一人当たりの排出量は減少傾向にある。 ・日野市の人口と世帯数が増加している。
産業	減少（-51.9%）	・設備等のエネルギー効率の向上などから、全国的に実質 GDP あたりの排出量は減少傾向にある。 ・日野市の製造業及び建設業の事業所数が減少している。

3. 環境の現状と取組状況の評価

1.-2 エネルギー使用量

(参考 11) エネルギー消費量



第2次環境基本計画では目標値が設定されていましたが、第3次地球温暖化対策実行計画では二酸化炭素排出量に目標が集約されているため、エネルギー使用量の目標値は設定されていません。そのため、参考扱いとします。

エネルギー消費量は、2006年以降は減少傾向にあり、特に石油系の消費量が大幅に減少しています。

なお、発電方法の違い等により、エネルギー消費量と二酸化炭素排出量は比例しないことがあります。エネルギー使用量が減っているにもかかわらず、二酸化炭素排出量が増加している年度（前ページの指標36参照）は、火力発電等の比率が増えたことにより、エネルギー使用量の減少分を、排出係数の増加効果が上回ったものです。

1.-3 公共交通機関(ミニバス・バス)の整備率

☺ 指標37: 公共交通機関(ミニバス・バス)の整備率

目標値: 80.0%

(2020年度)

年度	公共交通機関の整備率
2010	79.0%
2011	79.0%
2012	79.2%
2013	79.6%
2014	79.6%
2015	80.1%
2016	80.1%
2017	80.1%
2018	80.1%
2019	73.6%

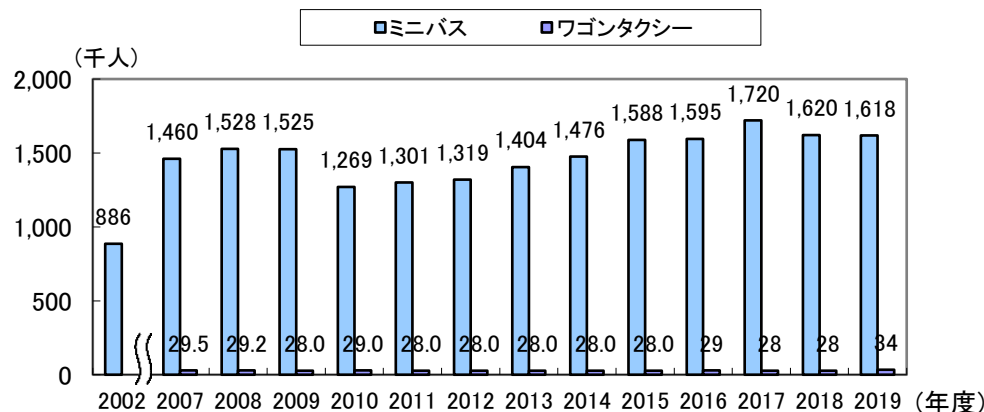
「日野市地域公共交通総合連携計画 2019-2028」の策定にともない、2019年度から交通空白地域の再定義を行いました。

2018年度以前の定義では、日野市においては「鉄道駅から500m圏外、またはバス停から200m圏外」としていたところ、2019年度からはこの定義を踏襲しつつ、道路勾配に応じ、200mよりも短い圏域も含むこととしました。以前よりも厳しい定義としたため、整備率は下がりましたが、2018年度以前の定義では目標を達成しています。

1.-4 公共交通機関(ミニバス・バス)の利用人数

指標 38: バス路線の整備状況: 市内連絡バス(ミニバス)年間利用人数

ミニバス
目標値: 158 万人
(2020 年度)



公共交通機関を拡充することにより、利便性の向上や、利用者の増加による温室効果ガスなどの排出削減が期待されます。

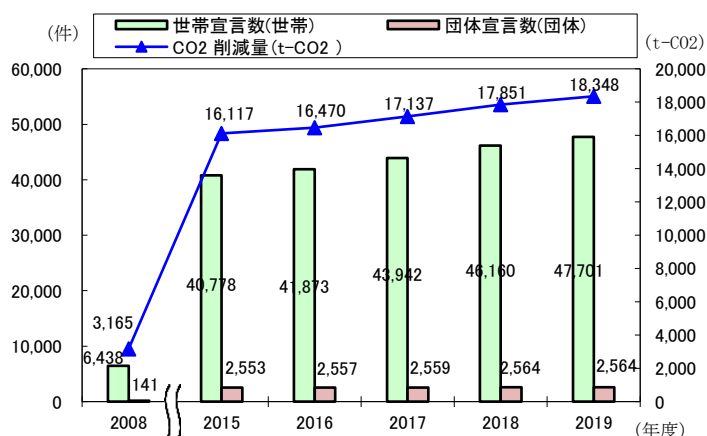
2019 年度のミニバスの利用者は、前年度より 2,000 人減少し 1,618,000 人となりました。この減少の理由としては、新型コロナウイルス感染症の影響が考えられます。

ミニバスの利用者は、2002 年度*と 2019 年度を比較すると約 1.8 倍に増加しました。路線・運行時間帯の拡充を行ない利便性の向上が図られたことや、通勤・通学者の利用増、高齢社会の到来による免許証返納等起因し、マイカーから公共交通への移動手段の変換などが主な理由と考えられます。 *運行開始は 1986 年 8 月 20 日

ワゴンタクシーの利用者は、前年度より 6,000 人増加し、34,000 人でした。増加した主な理由は、2019 年 5 月から土日祝日の運行の実証実験を開始したためと考えられます。

1.-5 「ふだん着で CO₂ をへらそう宣言」の宣言数及び CO₂ 削減量

指標 39: 「ふだん着で CO₂ をへらそう宣言」の宣言数及び CO₂ 削減量



「ふだん着で CO₂ をへらそう宣言」の宣言数は増加を続けており、2019 年度もイベントにおける宣言数獲得運動に力を入れ、新たに 1,541 件の世帯宣言数を得ました。引き続き市民の皆様へ、日々の生活での CO₂ 削減のご協力をお願いします。

3. 環境の現状と取組状況の評価

2. <市の取組状況>

目標	施策の方向	施策		具体的な取組	実施状況
低炭素社会を築くまち	省エネルギーの推進	家庭における省エネルギーの促進	CO ₂ の見える化の推進	ワットチェッカーの貸し出しやモニターによる省エネ実践、身近にふれるもの(食料品、省包装商品など)のCO ₂ 削減効果のデータ化などにより、CO ₂ の見える化を図る。	2019年度のワットチェッカー・省エネナビの貸し出しは、あわせて2件だったが、省エネセミナー等の環境学習については引き続き実施し、身近な環境課題の啓発を行なっている。 また2020年1月から日野市でプラスチック類分別回収が始まったこともあり、今後はプラスチック製容器包装削減についても意識向上を図っていく。 (環境保全課) →指標 40(P.57)
			「ひのっ子エコアクション」の推進	市民団体と市関連部署との連携により、各学校での「ひのっ子エコアクション」をさらに推進する。それによって、環境配慮行動を当たり前のようにできるひのっ子を育み、家庭での取組にもつなげていく。	「ひのっ子エコアクション」(事務局:教育委員会庶務課)の運営委員として環境保全課職員が参加し、市立小中学校の生徒・職員による環境マネジメントシステムの運営に当たった。 また環境保全課職員が講師となり、各校の担当教員に環境研修を行なった。 (環境保全課)
		工場や事業所の省エネルギーの促進	省エネ診断の支援	小規模な工場や事業所でも省エネ診断をできるよう、省エネ診断に関する情報提供や省エネ診断員の紹介等を行なう。	2019年度の省エネ診断参加事業者数は1件にとどまっている。CO ₂ 削減のみならず、光熱水費という経費削減につながるメリットを伝えられるよう周知方法についても検討し、少しでも事業所の省エネが進むよう努めていく。 (環境保全課) →指標 41(P.58)
	新エネルギーの導入	家庭への太陽光発電等の導入促進	太陽光発電等導入補助の実施	国・都が推進する太陽光発電システムや太陽熱温水器、高効率機器等の導入を促進するために、日野市としても上乗せの補助を実施する。	予算の減により前年度と比べ件数は減ったものの、2019年度は合計39件の補助を実施。 (環境保全課) →指標 42(P.58)
		公共施設における太陽光等新エネルギーの活用	太陽光、太陽熱、風力等の積極的な活用	公共施設において、新築、改築、大規模修繕等の各種事業に合わせて、積極的な新エネルギーの導入を図る。	各学校の修繕等の際に、再生可能エネルギー設備の設置を検討しており、2019年度は南平小学児童クラブに3.675kWの太陽光発電システムを導入。 (環境保全課) →指標 43(P.59)
	環境に配慮した交通体系の構築	自動車利用時の排出ガスの低減	渋滞の解消	交差点改良や道路の拡幅、バイパス化、路上駐車規制、ITS(※)の導入、荷さばき用の駐車場の確保等により渋滞を解消し、自動車のスムーズな定速走行を促進することで、CO ₂ 排出量を抑制する。	・舗装の走行性(走行時の安定性)が低下することで自動車の燃費が悪化し、二酸化炭素の排出量は増加する傾向にある。 ・道路課では、2012年度に車道舗装補修計画(10年計画)を策定し、2013年度より市道の舗装補修を実施している。 ・この舗装補修により、自動車の燃費悪化の抑制を図っている。 (道路課) →指標 44(P.59)

※ITS(高度道路交通システム):交通渋滞の緩和、円滑な輸送効率の確保、環境の保全などを目指し、最先端の情報通信技術や制御技術を用いて人と道路と車両を一体のシステムとして構築する新しい道路交通システムの総称

2. -1 省エネルギーの推進

(1) 家庭における省エネルギーの促進

CO₂の見える化の推進

◇ 指標 40: ワットチェッカー等貸出状況

2020 年度目標値: ワットチェッカー貸出数累計 500 件
省エネナビ貸出数累計 100 件
環境家計簿活用状況 1,000 件

年度	ワットチェッカー		省エネナビ		環境家計簿活用件数 (エコキング回収数)
	貸出数	累計貸出数	貸出数	累計貸出数	
2014	53	186	37	130	11,086
2015	35	221	13	143	11,841
2016	29	250	2	145	14,399
2017	12	262	6	151	14,473
2018	10	272	4	155	14,040
2019	1	273	1	156	13,583

2019 年度のワットチェッカー・省エネナビの貸し出しは、あわせて 2 件と前年度より 12 件減少しました。活用の啓発について工夫し、貸出数を増やすよう努めていきます。

環境家計簿活用件数は 13,583 件と前年度よりも 457 件減少しました。なお、集計した環境家計簿の結果は各家庭へフィードバックし、地球温暖化防止についての意識啓発を行なっています。

ワットチェッカーとは

消費電力量等を簡単に測定できる機器であり、コンセントに設置して、対象家電の電源プラグを差し込んで測定します。

省エネナビとは

家庭の分電盤に設置して電力消費量を計測し、モニターに表示する機器です。

環境家計簿とは

家庭で使用した電気やガスなどのエネルギー量を記録し、どのくらいの CO₂を排出しているかを確認するものです。

日野市では、市内の全小学校を対象に年 2 回、「エコキング」と称して 1 日環境家計簿の作成呼びかけと集計をしています。エコキングは、市民・事業所・市による「環境基本計画推進会議 CO₂グループ」が実施しています。

3. 環境の現状と取組状況の評価

(2) 工場や事業所の省エネルギーの促進

省エネ診断の支援

2020 年度目標値・累計 1,000 件

☹ 指標 41：省エネ診断の参加事業者数

2019 年度の省エネ診断参加事業者数は 1 件で、累計 24 件にとどまっています。CO₂削減のみならず、光熱水費という経費削減につながるメリットを周知する方法について検討する必要があります。

また、この指標については、実績と目標値に大きな差があるのが現状です。省エネ診断の件数は、東京都全体の実績でも約 3,900 件（2019 年度 4 月発行の当事業リーフレットより）であることを踏まえると、設定した目標値が高すぎたと言わざるを得ませんが、少しでも目標に近づけ、事業所の省エネが進むよう努めていきます。

2. -2 新エネルギーの導入

(1) 家庭への太陽光発電等の導入促進

太陽光発電等導入補助の実施

2020 年度目標 太陽光発電等導入補助件数
累計 180 件

☺ 指標 42：太陽光発電等の導入補助件数

年度	太陽光発電（件）	高効率給湯設備（件）	累計（件）
2015	40	1	244
2016	38	5	287
2017	37	5	329
2018	36	15	380
2019	28	11	419

エコ住宅に太陽光発電・高効率給湯設備を設置したものを補助対象としています。2019 年度の補助件数は計 39 件と前年度から 12 件減少しましたが、これは補助予算額の上限に達したためです。

なお、2019 年 10 月 1 日号「広報ひの」にて、東京都が実施する「東京ゼロエミポイント」を紹介しました。これは、一定の基準を満たす対象機器（エアコン・冷蔵庫・給湯器）への買い替えに対して商品券などに交換可能なポイントを付与するものです。

(2) 公共施設における太陽光等新エネルギーの活用

太陽光、太陽熱、風力等の積極的な活用

2020 年度目標値:累計 200kW

☺ 指標 43：公共施設の新エネルギー導入状況 * () 内の数値は単年度の導入数値

年度	新エネルギー導入状況 (kW)	備考
2009	0 (24)	平山小学校 10kW、第一中学校 10kW、日野駅北側トイレ 4kW
2010	34 (10)	東光寺小学校 10kW
2011	144 (110)	ふれあいホール 100kW、多摩平保育園 10kW
2012	147 (3)	ファーマーズセンター 3kW
2013	157 (10)	発達支援センター 10kW
2014	163 (6)	豊田南地区センター 6kW
2015	165 (2)	東宮下地区センター 2kW
2016	194 (29)	日野第二中学校 29kW
2017	194.36 (0.36)	カワセミハウス、百草台自然公園、市民の森スポーツ公園、多摩平第一公園 各 0.09kW 計 0.36kW
2018	194.36 (0)	新規導入なし
2019	198.035 (3.675)	南平小学童クラブ 3.675 kW

参考：2019 年度に一部事務組合「浅川清流環境組合」の新可燃ごみ処理施設にて 31.5kW 設置
2019 年度は前年度から 3.675 kW 増加し、累計は 198.035kW です。

新エネルギーとは

「新エネルギー」とは、太陽光発電や風力発電などの「再生可能エネルギー」のうち、地球温暖化の原因となる二酸化炭素の排出量が少なく、エネルギー源の多様化に貢献するエネルギーです。

2-3 環境に配慮した交通体系の構築

(1) 自動車利用時の排出ガスの低減

渋滞の解消

2020 年度目標値:96.0%

◇ 指標 44：都市計画道路の整備率

年度	都市計画道路の整備率 (%)
2010	89.9
2011～2019	92.8

日 3・4・24 号線道路整備完了により目標値の 96.0% を達成できる見込みでしたが、市の財政非常事態宣言により、2020 年度以降は主要工事を休止します。

2020 年度は、主要工事の休止に伴い必要となる擁壁等の本体工事や、既設の橋脚・橋桁の養生対策等の仮設工事の設計を実施し、2021 年度は本設計に基づいた工事を実施予定です。事業の休止期間は、2022 年度から 2025 年度までの 3 年間を想定しており、財源確保の目処を立てたうえで事業を再開する予定です。

なお、2019 年度は旭が丘側の橋台と橋脚間 1 径間の PC 桁架設及び、橋台の二次施工、西平山側のエレベーター基礎、階段基礎の築造を実施しました。

3.<市民コメント>

1. 地球温暖化分野の目標が、現在は「低炭素社会を築くまち」となっていますが、目標を再設定する際は「脱炭素を目指すまち」としていただきたいと考えます。世界的潮流は、低炭素ではなく、脱炭素になっています。
2. 東京都は、世界の大都市の責務として、平均気温の上昇を1.5℃に抑えることを追求し、2050年にCO₂排出実質ゼロに貢献する「ゼロエミッション東京」実現を表明しています。また、環境大臣も2050年ゼロカーボンを目指す先進的な動きがさらに広まるよう、メッセージを発信しています。2050年度までの日野市の目標値は、これらに合わせるべきと考えます。
3. 公共交通機関の項目については、整備、利用人数ではなく、最近増加しているトラックとバスの電動化を増加させることが必要であり、2030年までの目標設定の際、数値目標を設定することが必要です。

2019年現在、中国ではEV（電気自動車）バスが42万台稼働しています。EVバスの99%は中国で稼働しているとされていますが、各国とも、バス、トラックの電動化を積極推進しています。供給も来年以降大幅に増加します。
4. 新エネルギー導入については、大規模事業者は積極的に行なっていますが、小規模事業者に対して、支援や規制による誘導が必要です。
5. 公共施設における太陽光等新エネルギーの活用について、2030年目標として、20万kWを掲げるべきと考えます。

ニューヨーク市は、人口1,400万で日野市の約80倍ですが、2017年に200万kW太陽光の公共施設を達成しています。
6. 日野市の一定規模の事業所を持つ企業に、2030年までにRE100（※1）参加を掲げるよう呼びかけるべきと考えます。

全体として、東京都と世界の実情、目標をもっと参考にするべきと考えます。お金に関しては、クラウドファンディングを活用すべきではと思います。

世界の2018年のESG投資（※2）総額は、3,400兆円と2016年から34%伸びており、注目を集めています。

※1 RE100

企業の自然エネルギー100%を推進する国際的イニシアティブ。企業による自然エネルギー100%宣言を可視化するとともに、自然エネルギーの普及・促進を求めるもの

※2 ESG投資

従来の財務情報だけでなく、環境（Environment）・社会（Social）・企業統治（Governance）要素も考慮した投資のこと

生活環境分野

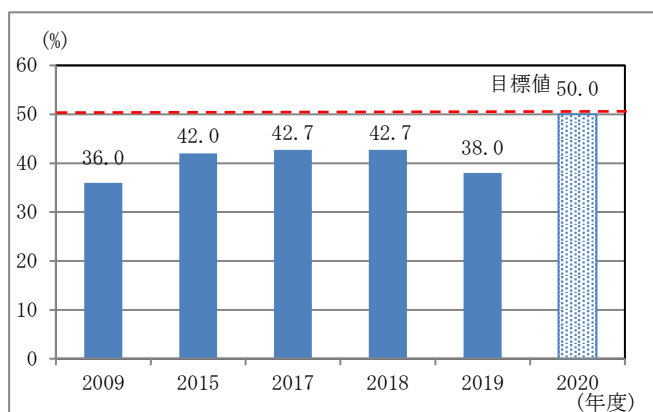
＜ 目 標 ＞ 心やすらぐ住みよいまち

1.＜環境の現状＞

1.-1 心やすらぐ快適な生活環境であると感じる市民の割合

☹ 指標 45：心やすらぐ快適な生活環境であると感じる市民の割合

目標値：50.0%
(2020 年度)

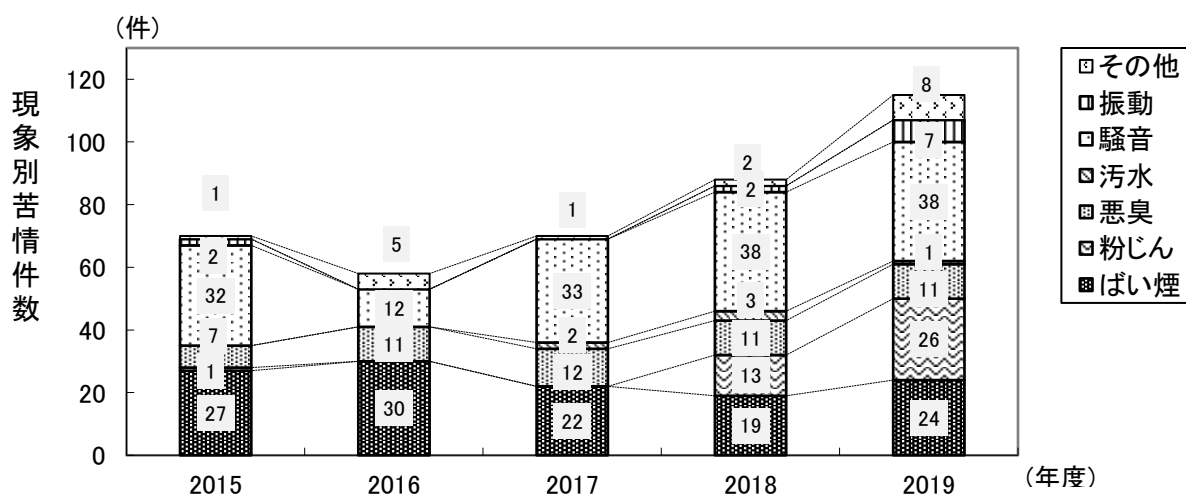


2019 年度の市民意識調査による「きれいな水や空気・騒音やポイ捨てがないなど、良好な生活環境が確保されている」という項目へ「そう思う」又は「どちらかといえばそう思う」と回答した率は 38.0%で前年度から 4.7 ポイント減少しました。

前年度と比べ「そう思う」が 2.0 ポイント、「どちらかといえばそう思う」が 2.7 ポイントそれぞれ減少しました。

これまで増加傾向にあった数値が減少に転じてしまいましたが、引き続き快適な生活環境の実現に向けた取組みを実施し、向上に努めます。

(参考 12) 苦情受付件数



市に寄せられた環境・公害に関する 2019 年度の苦情件数は 115 件となりました。

粉じん・振動に関する苦情件数が増加傾向にあり、粉じんは、屋外焼却・解体工事によるもの、また振動は、道路振動によるものが増加したと考えられます。

3. 環境の現状と取組状況の評価

2. <市の取組状況>

目標	施策の方向	施策		具体的な取組	実施状況
心やすらぎ住みよいまち	日常生活をとりまく環境の充実	快適な生活環境の確保	PRの実施	誰もが快適に暮らし心安らぐ生活環境を維持・確保するため、一人ひとりが近隣に配慮した行動を心がけるようPRを実施する。	誰もが快適に暮らし心安らぐ生活環境を維持・確保するために、一人ひとりが近隣に配慮した行動を心がけるようにPRを実施した。 (環境保全課) →指標 46(P.63)
			苦情に対する適切な対応	市民等から生活環境に関わる苦情・要望等が寄せられた場合には、状況を確認し、適切に対応する。	市民等から生活環境に関わる苦情・要望等が寄せられた場合には、可能な限り迅速に状況を確認し、適切に対応した。 (環境保全課)
	公害対策の推進	大気・土壌・地下水汚染等の防止	大気汚染物質の監視	窒素酸化物、大気中のダイオキシン類の濃度を継続的に測定する。数値の悪化を防ぐため引き続き監視を行なうと共に、光化学スモッグなど健康に影響を与える情報は速やかに公表する。	窒素酸化物、大気中のダイオキシン類の濃度を測定し、大規模施設誘致における数値の悪化を監視している。光化学スモッグ等の健康に影響を与える情報については、速やかに公表した。 (環境保全課) →指標 47～50(P.63～65)
		騒音・振動対策の推進	道路交通騒音の測定及び対策の実施	道路交通騒音を定期的に測定し、現状の把握に努める。また、環境基準(または要請限度)を超過するなどの場合には、関係部署と連携し、適切な処置を講ずるよう努める。	道路交通騒音を定期的に測定し、現状把握に努めた。 (環境保全課) →指標 51(P.67)
			航空機騒音についての対策	市内の航空機騒音を定期的に測定し、現状の把握に努める。また、環境基準を超過する場合には、適切な処置を講ずるよう努める。	市内の航路に該当する地点の航空機騒音を定期的に測定し、現状把握に努めた。また、環境基準を超えることはなかったが、市民等からの苦情・要望等に対しては、適切な処置を講じた。 (環境保全課) →指標 52(P.68)

2. -1 日常生活をとりまく環境の充実

(1) 快適な生活環境の確保

PR の実施

各年度目標値：14 回以上



指標 46：マナーアップのための啓発活動状況

(単位：回)

マナーアップのための啓発活動状況	2013 年度	2014 年度	2015 年度	2016 年度	2017 年度	2018 年度	2019 年度	備考 (2019 年度の内訳等)
喫煙マナーアップ キャンペーン	4	3	5	3	3	0	1	小学生と共に喫煙マナーのための携帯灰皿を豊田駅にて配布
広報によるマナー啓発	5	8	8	8	8	8	8	生き物 7 回、 樹木 1 回
犬・猫の飼い方 講習会	4	4	3	3	4	3	3	ドックラン 2 回、PlanT 日野市多摩平の森産業 連携センター 1 回
自治会による マナー啓発	2	2	2	2	2	2	2	5 月上旬、11 月上旬
計	15	17	18	16	17	13	14	

2019 年度の実施回数は 14 回で、目標を達成しました。今後も市民一人ひとりが周囲の人々の行動、意見、考えを尊重しつつ、自らの行動について考えていく契機となるよう、啓発活動を継続していきます。

啓発活動の内容については、本白書の 61 ページ（参考 12）の苦情内容を注視しつつ、それらを解消するためのマナー啓発に力を入れるなど工夫していきます。

2. -2 公害対策の推進

(1) 大気・土壌・地下水汚染等の防止

大気汚染物質の監視

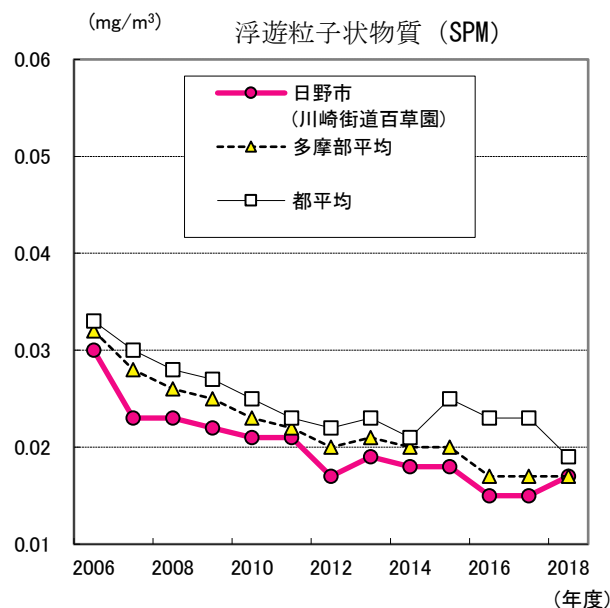


指標 47：浮遊粒子状物質 (SPM) 年平均値

東京都自動車排出ガス測定局の測定結果によれば、本書編集時点で最新データとなる 2018 年度の日野市(川崎街道百草園)の SPM 年平均値は $0.017\text{mg}/\text{m}^3$ であり、多摩部平均と同じ値でした。また、都平均と比べると低く推移しています。2007 年 3 月に開通した国道 20 号バイパスにより、自動車の交通量は分散したことが考えられ、2007 年度以降は低い数値を示しています。

なお、本書編集時点での最新データとなる 2018 年度の微小粒子状物質 ($\text{PM}_{2.5}$) の同測定局結果は、1 年平均値が $12.4\mu\text{g}/\text{m}^3$ 、1 日平均値が $28.1\mu\text{g}/\text{m}^3$ となり、環境基準 ($\text{H}21.9.9$ 環境省告示) である「1 年平均値が $15\mu\text{g}/\text{m}^3$ 以下であり、かつ、1 日平均値が $35\mu\text{g}/\text{m}^3$ 以下であること。」を下回るものとなりました。

3. 環境の現状と取組状況の評価



浮遊粒子状物質

(SPM: Suspended Particulate Matter)とは

大気中に浮遊している粒径 $10\mu\text{m}$ 以下の粒子と定義されています。

その構成成分は多種多様で、例えば自動車(主にディーゼル車)の排気ガスに含まれている燃焼の際のスス等(排気管一次粒子)や、タイヤや路面が摩耗して堆積し、自動車の走行によって巻き上げられるもの、海塩粒子、土壌粒子等も含まれますし、ガス状物質として大気中に放出されたものが粒子に変化して、硝酸塩等になる二次生成粒子と呼ばれるものも含まれます。

環境基準

「1時間値の1日平均値が 0.10mg/m^3 以下であり、かつ、1時間値が 0.20mg/m^3 以下であること。」(S48. 5.8 告示)

微小粒子状物質(PM_{2.5})とは

大気中に浮遊している粒径 $2.5\mu\text{m}$ ($1\mu\text{m}$ は 1mm の千分の1)以下の小さな粒子のことで、従来から環境基準を定めて対策を進めてきた浮遊粒子状物質(SPM: $10\mu\text{m}$ 以下の粒子)よりも小さな粒子です。

PM_{2.5} は非常に小さいため(髪の毛の太さの $1/30$ 程度)、肺の奥まで入りやすく、呼吸器系への影響に加え、循環器系への影響が心配されます。

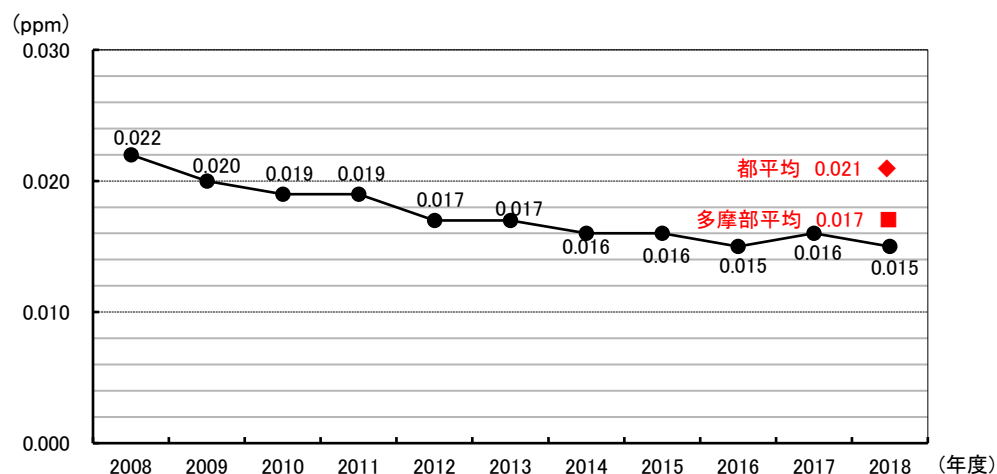
粒子状物質には、物の燃焼などによって直接排出されるものと、硫黄酸化物(SO_x)、窒素酸化物(NO_x)、揮発性有機化合物(VOC)等のガス状大気汚染物質が、主として大気中で化学反応により粒子化したものがあります。発生源としては、ボイラー、焼却炉などのばい煙を発生する施設、コークス炉、鉱物の堆積場等の粉じんを発生する施設、自動車、船舶、航空機等、人為起源のもの、さらには、土壌、海洋、火山等の自然起源のものもあります。

(出典:環境省_微小粒子状物質(PM_{2.5})に関する情報 <http://www.env.go.jp/air/osen/pm/info.html>)

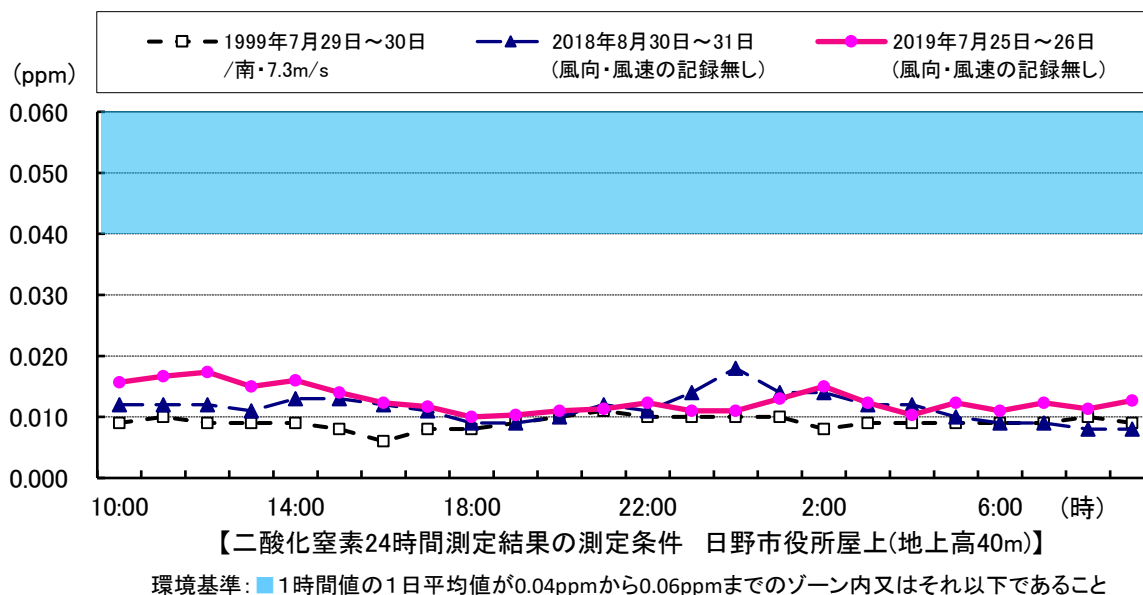


指標 48: 二酸化窒素の年平均濃度

日野市川崎街道百草園にある東京都自動車排出ガス測定局の調査結果(東京都環境局資料)によれば、本書編集時点で最新データとなる2018年度の二酸化窒素濃度平均値は前年度より減少し、 0.015ppm を示しています。日野市の値は、都平均値 0.021ppm 、多摩平均値 0.017ppm と比較して低い値となっています。



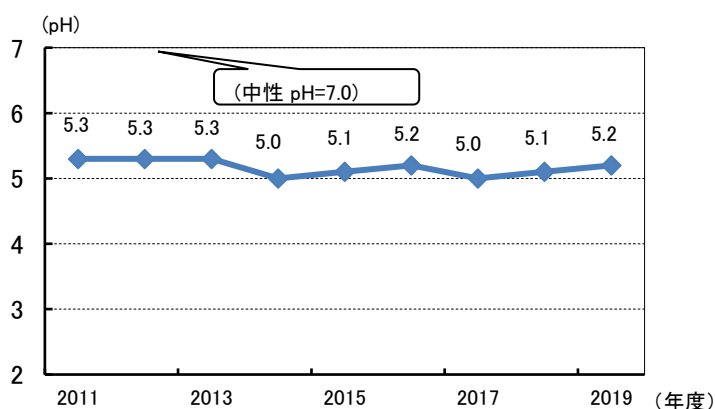
😊 指標 49：二酸化窒素 24 時間測定結果



1 日における二酸化窒素濃度(日野市役所屋上)の変動について、2019 年 7 月 25 日～26 日に測定した結果を 1999 年及び昨年と比較したところ、大きな変化は認められませんでした。

また、平均濃度は、2019 年度は 0.013ppm でした。この数値は、二酸化窒素濃度の環境基準「1 時間値の 1 日平均値が 0.040～0.060ppm までのゾーン内またはそれ以下」をクリアしています。

◇ 指標 50：雨の酸性度



酸性雨とは

自動車や工場から大気中に排出された硫黄酸化物や窒素酸化物により、雨水が pH5.6 以下に酸化する現象です。

pH とは

酸性の度合いを示し、中性は pH7.0 です。酸性度が強くなるほど数字が低くなります。

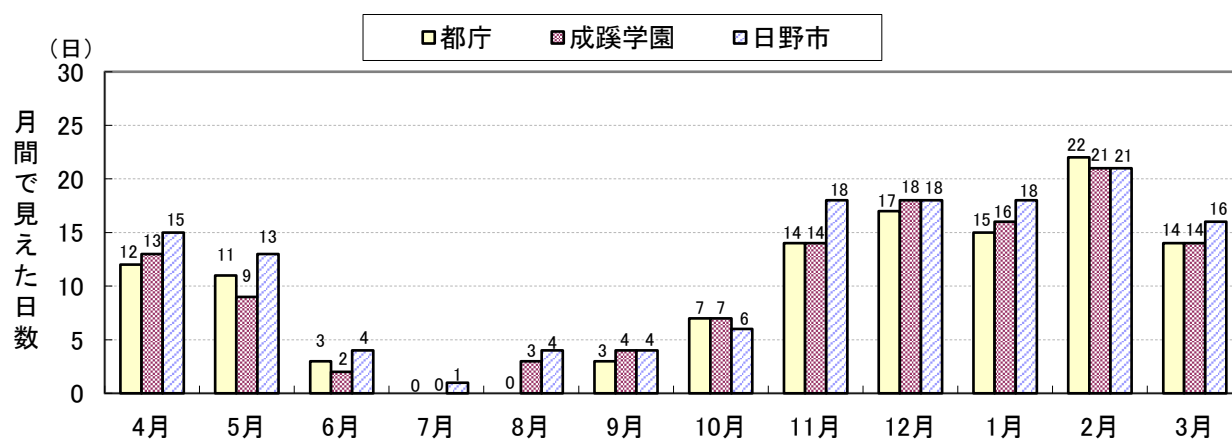
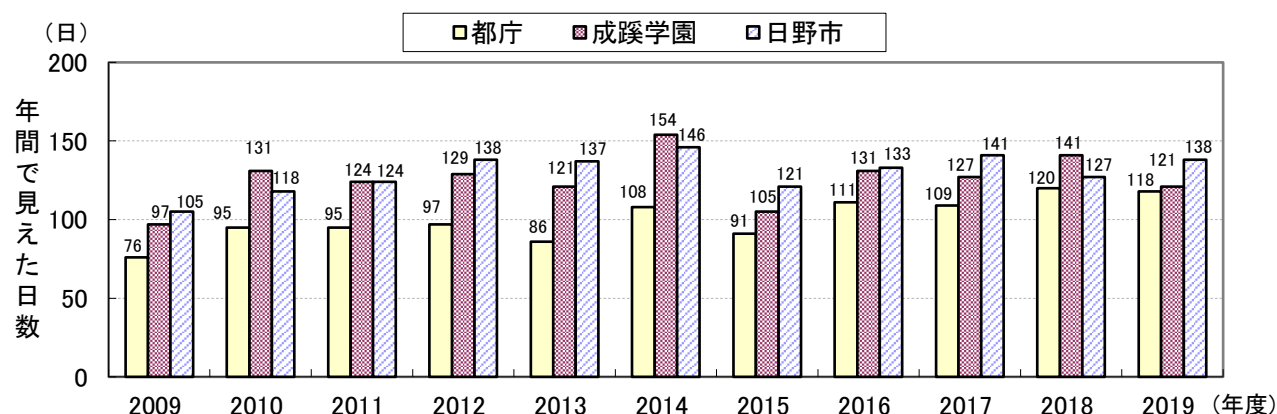
2019 年度における雨の pH 値は pH5.2(市内 8 か所で 8 人の市民モニターにより測定された 97 試料の平均値)で、2002 年度以降大きな変化は認められませんでした。

試料は各市民により、2019 年 4 月から 2020 年 3 月までの間に、毎月 1 回程度一雨ごとに採取されたものです。

3. 環境の現状と取組状況の評価

(参考 13) 富士山ウォッチング(富士山が見えた日数)

※各3地点とも、毎日定時に観測し、かすかに見える日を含んでカウントしている。



都庁 = 毎日9時に観測 場所: 新宿区都庁舎35階 (標高191.5m)
 成蹊学園 = 毎日9時に観測 場所: 武蔵野市吉祥寺北町 (標高56.0m)
 日野市 = 毎日8時に観測 場所: 南平5丁目 (七生中南東角交差点付近: 標高75.0m)

日野市での観測結果を、インターネット上で公開されている都庁(新宿区)での観測値と30年以上の実績のある成蹊学園気象観測所(吉祥寺)の協力を得て入手したデータを比較しました。データを比較するにあたり、都庁は35階(約200m)の高層での観測値であり、日野市は観測標準時間より早い8時の観測値であることに留意する必要があります。

2019年度の富士山が見えた日数は、日野市では前年度より11日間増加していますが、都庁、成蹊学園ではそれぞれ2日、20日間減少しています。このように日野市で増加した原因の一つは、観測時の天候に影響されていることが考えられます。2019年度の降水量(気象庁八王子観測地点)は2028mmであり、前年度(2018年度: 1307mm)に比べかなり多くなりました。これは10月10日から13日にかけて、台風19号による大雨や前線の影響と考えられます。日照時間でみると10月は102時間で、2月のおよそ1/2になっていました。

また、月別で見ると、2月に見える日数が最も多くなりました。八王子観測地点における2月の降水量は9.0mmと最も少なく、日照時間は204時間と最も多かったためと考えられます。

過去10年間(2010~2019年度)の平均値は都庁で103日、成蹊学園で128日、日野市で132日であり、都庁と日野市では10年前(2010年度)に比べ増加していますが成蹊学園ではやや減少しています。

(2) 騒音・振動対策の推進

道路交通騒音の測定及び対策の実施

◇ 指標 51：道路交通騒音

2019 年度の昼間及び夜間の数値は、前年度と同程度の値が観測されました。1 地点において昼夜とも環境基準を超えていましたが、要請限度を超えた地点はありませんでした。

(dB)

路線名	測定地点	昼間	夜間
国道 20 号 バイパス	市立病院 (多摩平 4-3-1)	68.3	64.9
	JA 日野支店 (万願寺 6-35-13)	70.3	67.1
都道 155 号	富士電機社宅前 (旭が丘 1-8)	61.0	57.5
都道 173 号 (北野街道)	第 6 分団消防小屋前 (平山 5-1-19)	64.5	60.6
都道 41 号 (川崎街道)	三沢浄水場前 (三沢 1-19-1)	61.9	58.4
503 号線 相模原立川線	東部会館前 (石田 1-11-1)	67.1	59.7
環境基準		70	65
要請限度		75	70

騒音測定方法について

毎正時から 10 分間測定を行い、(1 時間の等価騒音レベルを算出し)各時間区分の等価騒音レベルを演算。

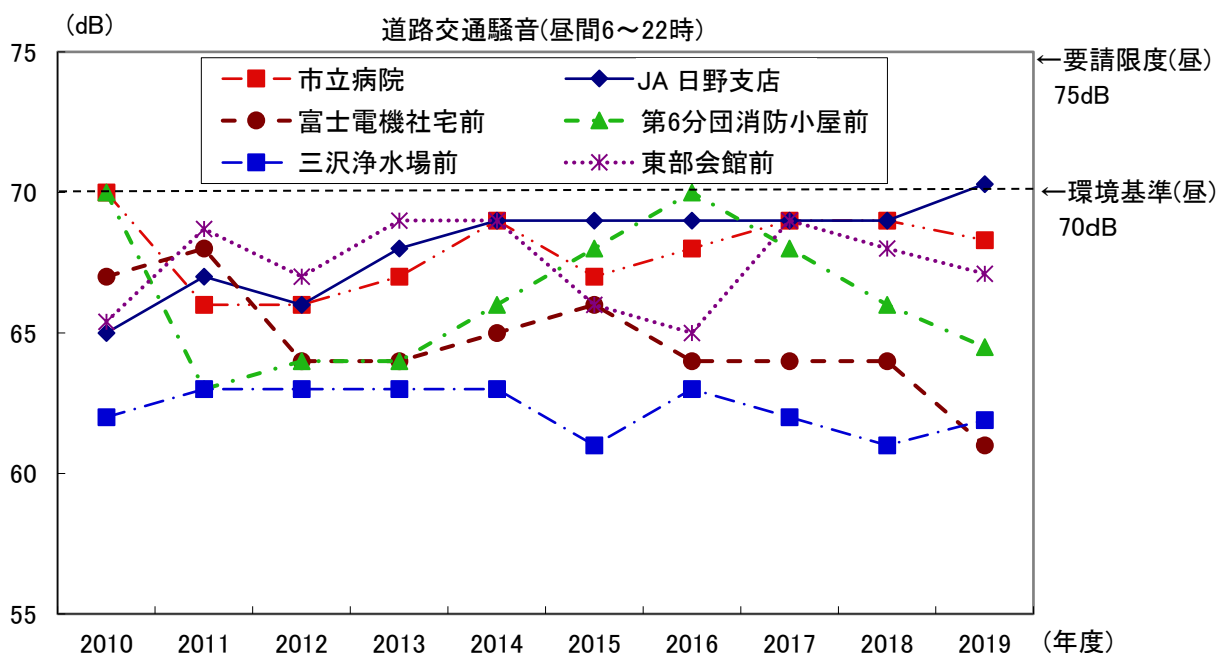
【等価騒音レベル】時間内で変動する騒音レベルのエネルギー的な平均値で、人に感じられる感覚的なうるささとの対応に優れているといわれる。

【環境基準】人の健康を保護し、生活環境を保全する上で維持されることが望ましい騒音レベルで、目標値となる。(環境基本法)

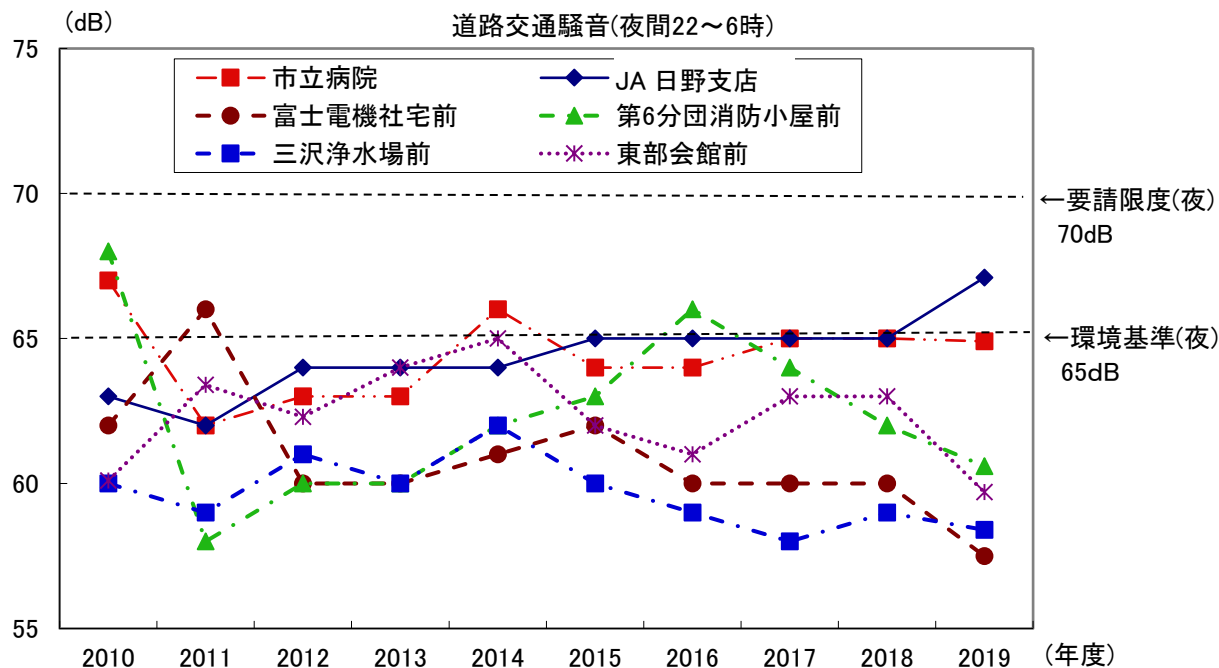
【要請限度】道路管理者に改善を要請することのできる騒音レベル。(騒音規制法)

単位は dB(デシベル)

※東部会館前については、本白書から掲載を開始しています。



3. 環境の現状と取組状況の評価

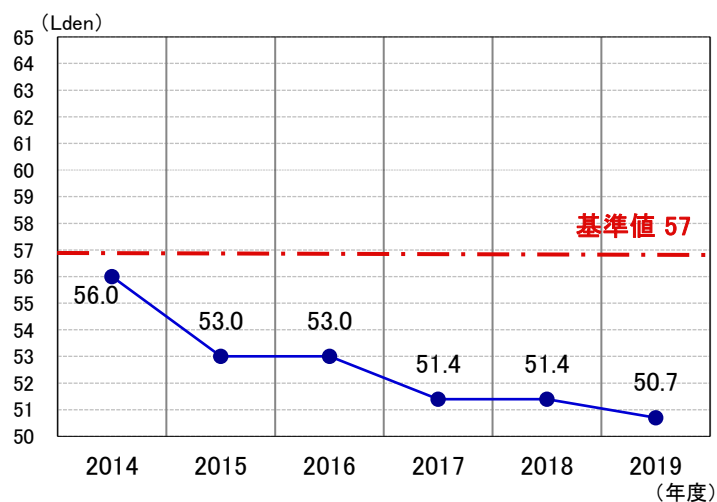


調査期日：2019年1月7日～2019年2月22日

環境基準：幹線交通を担う道路に近接する空間 昼 70dB, 夜 65dB
要請限度：b 区域(主として居住の様に供される地域)の2車線以上
C 区域(相当数の住居と併せて商業、工業等の用に供される区域)の車線を有する
昼 75dB, 夜 70dB

航空機騒音についての対策

☺ 指標 52：横田飛行場に係る航空機騒音



(測定場所 旭が丘地区センター・日野市旭が丘5-1)

日野市では、横田基地に係る航空機騒音の24時間の常時測定を行なっています。
2019年度の測定値は50.7 (Lden) となり、環境基準値を下回っています。

※環境基準値は57 (Lden) です。

Ldenとは

「時間帯補正等価騒音レベル」のことで、各飛行機の騒音を、聞こえ始めから聞こえ終わりまでの人が受ける騒音エネルギーで測定した値です。

2-3 放射線測定

(参考 14) 市内空間放射線量測定

2011 年 3 月 11 日に発生した東日本大震災に伴う福島第一原発事故により、放射性物質による環境汚染が生じました。市では、2011 年 7 月 11 日から、市内の空間放射線量の測定を開始しました。国の基準※では、0.23 マイクロシーベルト/毎時以上の地域が除染対象となります。2019 年度の測定結果は、基準を超える地点はなく、健康に影響を与える数値ではありませんでした。また、局地的に高い測定値を示す場所(ホットスポット)は確認されませんでした。

※国の基準:『平成 23 年 3 月 11 日に発生した東北地方太平洋沖地震に伴う原子力発電所の事故により放出された放射性物質による環境の汚染への対処に関する特別措置法』(2011 年 8 月公布)

表-2019 年度の最小及び最大値

測定区分	場 所	実施日	結 果(単位:マイクロシーベルト/毎時)
定 点	公園 8 地点	2011 年 7 月 11 日～2019 年 3 月 毎週 1 回 2019 年 4 月～継続中 毎月 1 回	0.03～0.09

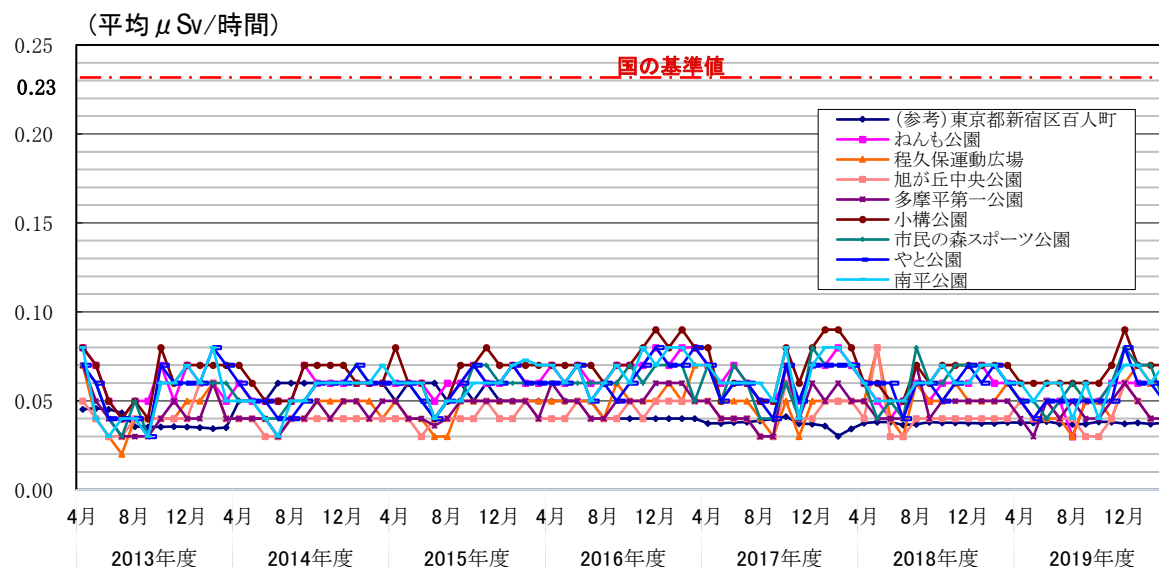
調査期間:月 1 回(2019 年 4 月以降)

調査地点:市内の中学校区を基準にして 8 分割し、各校区内の 1カ所を測定場所とする。計 8 カ所。

調査内容:高さ 1 メートル位置にて、5 分間保持後、
30 秒ごとに 5 回測定した空間放射線量の
平均値を測定結果とする。

測定機器:RAE Systems 社製「DoseRAE2 PRM-1200」

中学校区	測定場所
三沢中学校区	ねんも公園(高幡)
第三中学校区	程久保運動広場(程久保)
第四中学校区	旭が丘中央公園(旭が丘5丁目)
第二中学校区	多摩平第一公園(多摩平4丁目)
大坂上中学校区	小構公園(日野台1丁目)
第一中学校区	市民の森スポーツ公園(日野本町7丁目)
平山中学校区	やと公園(平山3丁目)
七生中学校区	南平公園(南平4丁目)



4. 環境への取組状況

4. 環境への取組状況

本章では、日野市において、市民及び市民・行政との協働、行政、学校等、大学、事業者による環境への取り組みを主体別に紹介します。

(1) 市民及び市民・行政との協働による環境への取組状況

ここでは、日野市において種々の環境問題に対し、市民及び市民と行政との協働で継続的に実施している主な活動事項を紹介します（五十音順）。2019 年度に活動実績のある団体（活動）は下表の 39 団体（活動）で、活動分野別では「みどり」が最も多く 26 団体（活動）、次いで「水」が 15 団体（活動）、「ごみ」「地球温暖化」「生活環境」分野の活動は少ない傾向にあります。

番号	団体（活動）名	取組分野					
		みどり	水	ごみ	地球温暖化	生活環境	環境全般
1	浅川潤徳水辺の楽校推進協議会	○	○				
2	浅川滝合水辺の楽校運営委員会		○				
3	浅川流域市民フォーラム		○				
4	石坂ファームハウス(自然の恵みを楽しむ会)	○					
5	NPO 法人環境教育ネットワーク						○
6	倉沢里山を愛する会	○					
7	NPO 法人子どもへのまなざし	○	○				
8	NPO 法人樹木・環境ネットワーク	○					
9	小水力発電を実現する市民の会				○		
10	真堂が谷戸虫の会	○	○				
11	雑木林ボランティア講座	○					
12	NPO 法人太陽光発電ネットワーク（PV-Net）日野地区				○		
13	ツバメのくるまち事業	○	○				
14	南丘雑木林を愛する会	○					
15	農の学校	○					
16	八王子・日野カワセミ会	○					
17	東豊田緑湧会	○	○				
18	日野産大豆プロジェクト	○					
19	ひの市民リサイクルショップ回転市場			○			
20	ひの炭やきクラブ						○
21	日野団塊世代広場	○		○			
22	ひのどんぐりクラブ	○	○			○	
23	日野の自然を守る会	○	○				
24	日野の水車活用プロジェクト		○				
25	日野みどりの推進委員会	○					
26	ひの緑のトラスト	○					
27	ひの・まちの生ごみを考える会			○			
28	まちの生ごみ活かし隊	○		○			
29	ふだん着で CO ₂ をへらそう実行委員会				○		
30	程久保川を考える会		○				
31	まちづくり市民フェア						○
32	みずとくらす・ひの		○				
33	水と緑の日野・市民ネットワーク	○	○		○	○	
34	水の郷日野ビジョン 450	○	○				
35	緑を愛する会日野	○					
36	南平・緑と水のネットワーク	○	○				
37	百草山の自然と文化財を守る会	○					
38	谷中山緑地を守る会	○					
39	緑地管理ボランティアの会	○					
合計		26	15	4	4	2	3

① 浅川潤徳水辺の楽校推進協議会

○ 活動目的

川を昔のように、自然豊かな環境に少しでも近づけ、そこで子どもたちが思いっきり遊ぶことができる自然体験の場を「水辺の楽校」といいます。水辺の楽校は、1996年から国土交通省が推進している事業で、すでに全国300か所以上の地区において、この取り組みが始まっています。大人も子どももみんなで楽しく語り合い、浅川でのイベントを中心とした遊びの中から、自然の大切さを学んでもらうのが水辺の楽校です。

○ 対 象：潤徳小学校の児童を中心に、浅川近隣の小学生が対象

○ 活動場所：おもに浅川高幡橋～新井橋区間と向島用水

○ 連 絡 先：代表者 会長 笹木延吉／事務局 日野市緑と清流課・潤徳小学校
笹木延吉 TEL:042-642-0422

○ 活動実績

実施日	テーマ	目的・対象・内容	参加人数
2019. 4. 21	多摩川・浅川クリーン作戦に参加	浅川ふれあい橋付近・向島用水清掃	23
5. 8	稲の種まき（学校内）	潤徳小 5 年生（授業）	121
5. 18	「浅川で遊ぼう 1」	竹馬、竹笛づくり、竹ぼっくり、天狗の下駄、石絵、豚汁、その他	92
6. 2	「浅川で遊ぼう 2」 身近な水環境の一斉調査	子ども中心に用水で 2 箇所、浅川で 2 箇所	28
6. 4	田植え	潤徳小 5 年生（授業）	121
7. 20	「浅川で遊ぼう 3」 浅川の源流探検	川は流域で考えることから、浅川の清冽な源流域を体験する	台風の影響で中止
8. 3	「浅川で遊ぼう 4」	思いっきり、水遊び（水泳など）	65
8. 27	田圃の草取り	潤徳小 5 年生（授業）	121
9. 14	「浅川で遊ぼう 5」	バッタ捕りと植物観察（杉浦氏）	39
10. 8	稲刈り	潤徳小 5 年生（授業）	121
10. 29	脱穀	潤徳小 5 年生（授業）	121
11. 26	水車でもみすり	潤徳小 5 年生（授業）（日野の水車活用プロジェクト協力）	130
11. 24	日野市地域清掃に参加	浅川ふれあい橋付近・向島用水清掃	28
12. 3	水辺の楽校発表会	潤徳小体育館で全校生徒集合	690
12. 7	多摩川子どもシンポジウム	多摩川流域の水辺の楽校が集う発表会	30
12. 8	笹刈り	笹刈り（どんど焼き用）	48
12. 19	餅つき大会	潤徳小 5 年生（授業）（学校運営委員会、PTA 共催）	130
2020. 1. 18	どんど焼き準備	お団子づくり、やぐら作りなど（PTA 共催）	55
1. 19	「浅川で遊ぼう 6」	どんど焼き（PTA 共催）	458
2. 22	「浅川で遊ぼう 7」	浅川で野鳥観察	30

4. 環境への取組状況

② 浅川滝合水辺の楽校運営委員会

- 対 象:滝合小学校の生徒中心に、同校保護者、卒業生及び地域住民
- 活動場所:滝合小学校中庭、学校付近の浅川（おおよそ滝合橋～長沼橋間）の川と河原
- 事 務 局:浅川っ子の会(滝合小学校教員・保護者・地域住民で構成)、日野市緑と清流課
- 活動実績

実施日	内 容	参加人数
2019. 4. 21	浅川クリーン作戦&春野菜カレー	子ども 34、大人 39
6. 16	染物体験	子ども 8、大人 20
8. 4	浅川で川遊び	子ども 20、大人 29
11. 24	浅川清掃&七輪パーティー	雨天中止
2020. 2. 23	バードウォッチング&焼き芋	こども 25、大人 26

③ 浅川流域市民フォーラム

○ 活動目的

浅川及び大栗川、程久保川、谷地川流域の良好な水辺環境を守り、いい川づくりをしていくことについて、市民の意見交換や行政に対しての提案を行い、交流の機会や場を形成するとともに、流域の行政との良好なパートナーシップを形成していくことを目的として、次世代に身近な自然である河川環境を残していくことを目的としています。

○ 活動内容

当会では、2004 年から毎年日野市・八王子市の市民の参加を得て、「身近な水環境の全国一斉調査」の水質調査を行っています。調査結果をもとに流域の水質マップを作り、解説面に流域の情報を写真によってわかりやすく載せて配布し、市民への啓もう活動をしています。

また、河川改修などによって、河川内の樹木や平常時の河川流量の減少などが発生しています。そのため多自然、流量の確保を目的に管轄行政と立ち合い、話し合いを行っています。

他には、浅川・湯殿川クリーンデー（毎年4月）を開催。

浅川流域連絡会に参加し、行政や市民との河川情報の交換を行い、ニュースレターで流域の情報を伝えています。

毎年6月に行われる八王子市環境フェスティバルに出店し、流域水質マップ、ニュースレターを配布しています。

○ 人 数: 約 50 名

○ 連 絡 先:事務局 諏訪 様子 TEL:042-621-1779 E-mail:CBB00853@nifty.com

④ 石坂ファームハウス(自然の恵みを楽しむ会)

○ 活動目的:都市農業の普及と理解・四季を通じての活動・食農教育

○ 人 数:登録会員 約 50 人

○ 活動場所:日野市百草 672-1 石坂ファームハウス

○ 連 絡 先:TEL:042-591-6477

○ 情報提供方法:<http://blog.goo.ne.jp/ishizakafarmhouse/> TEL:042-591-6477

(1) 市民及び市民・行政との協働による環境への取組状況

○ 活動実績

年・月	テーマ	目的・対象・内容	参加人数
2019. 4	野菜の種まき体験と畑散策	自然の恵みを楽しむ会	約 20 名
	とうもろこし種まき	近隣幼稚園	約 20 名
	農場視察・農業体験	スイス女性団体	約 20 名
5	里芋の植え付け	三中育成会	約 70 名
6	田植え	お米づくり講座 第 1 回	約 100 名
7	じゃがいも堀り	都内幼稚園	約 20 名
	じゃがいも堀りと試食会	自然の恵みを楽しむ会	15 名
	農場視察・農業体験	中国農政団体	5 名
8	農場視察・課外授業	京都芸術学院	約 10 名
	お米の花の観察・かかし作り	お米づくり講座 特別講座	約 10 名
10	稲刈り	お米づくり講座 第 2 回	約 130 名
	里芋収穫	都内保育園	約 20 名
11	芋ほり	近隣保育園	約 10 名
	秋の収穫体験	自然の恵みを楽しむ会	約 20 名
	職場体験	三中	6 名
	里芋収穫	近隣保育園	約 100 名
	里芋収穫	三中育成会	約 40 名
12	わらリース作り	お米づくり講座 第 3 回	約 70 名
2020. 1	お餅つき	近隣幼稚園	約 100 名
	雑木林落ち葉掃き	近隣学童	約 6 名
	お餅つき	都内幼稚園	約 50 名
	お餅つき	お米づくり講座 第 4 回	約 120 名
2	昔の道具見学	近隣小学校	約 90 名
3	じゃがいもの植え付け体験	自然の恵みを楽しむ会	10 名

⑤ NPO 法人環境教育ネットワーク（旧：比留間塾環境プロジェクトクラブ）

○ 活動目的・活動内容

当法人は日野市を中心に活動し、地域の素晴らしい潜在的な様々な資源を掘り起こし、それらを顕在化させる事を一義的な目的とする。そして、その顕在化した人的及び物理的資源を活性化させる事で、障害者や高齢者、健常者など全ての地域住民が協働し、活力ある思い遣り溢れるコミュニティを形成する事を最終的な目的として活動している。

○ 活動場所：大学、大学院、社会福祉法人、特別支援学校など

○ 連絡先：〒191-0065 日野市旭が丘4-7-5 シティハイツ日野旭が丘4号棟510号室

☎：042-584-0900 📠：042-581-9909 アドレス：hiruma.b@tbft-com.ne.jp

○ 情報提供方法：口コミ、理事長のアメーバブログ(旧・比留間文彦の大学運営奮闘記)など

4. 環境への取組状況

○ 活動実績

実施日	テーマ	目的・対象・内容	参加人数
2019年4月～9月 (全15回講座)	公害から地球環境問題を考える	古文書に残る公害実例から現代の環境問題に関する講義(大学生対象)	3000人
2019年5月～6月(全4回)	基礎的科学実験	特別支援学校にて基礎的な気象実験などを実施(生徒および教員を対象)	100人
2019年7月～10月(全20回)	湧水の水質分析	日野市内の経口(飲用)可能な湧水の分析調査を実施(弊社会員が対象)	100人
2019年10月27日(日)	基礎的科学実験	湧水原理の「見える化」実験を実施し、珈琲をその水で試飲(地域住民)	300人
2019年4月～2020年3月 (全12回)	ロウソクの科学を学ぶ基礎講座	日本人のノーベル賞学者が幼少期に読み、科学に興味を持った切っ掛けであるファラデーの著書「ロウソクの科学」を学ぶ(弊社会員が対象)	60人

⑥ 倉沢里山を愛する会

○活動目的と経緯・活動内容等

百草倉沢地域で市民の手でエコ循環も実践しながら一帯の里山的な景観を永く残し、植生保護や緑地の維持・管理活動を通じて雑木林や農地の緑に親しみ、同時に会員並びに地域の市民相互のコミュニケーションを深めていくことを目的として、2000(H12)年から活動。

2004年、日野市と市有緑地の管理・運営に関するパートナーシップ協定を締結、その前後にわたり活動の成果として複数の地元農家の相続の際、寄付等による緑地保全を実現させ、公有緑地が順次拡大し、本会の管理範囲も拡大した。また、エリア内で工場跡地(民有地)を本会が一括して借り受け農園化、新しい形での緑地の再生を実現、2018年には市有地化まで実現させた。さらに百草谷戸の遊休民有地数カ所を地主の理解を得て里山農園として再生・管理している。

《主な活動内容》

- ・数カ所に分散している里山内の雑木林を中心とする緑地の下草刈り、落ち葉掃き、樹木の手入れといった基本的・日常的な維持・管理作業および稀少動植物の保護育成・調査。
- ・里山の緑地の一形態として農園(緑地としての耕作地、「アリスの丘ファームⅠ・Ⅱ・Ⅲ」・「風の丘ファーム」)の運営・管理も引き継ぎ、雑木林の腐葉土をはじめ、牛糞・馬糞・鶏糞、おから等による地域内でのエコ循環の実践。
- ・百草・倉沢地区の里山全体の保全のための市民や行政への働きかけ。
- ・外部の諸団体・学校等からの見学・体験参加等の受け入れ、研究フィールドの提供。
- ・上記諸活動を通じ会員のコミュニケーションの場の提供、高齢層の社会参画機会の提供。

○会員数： 120 家族、登録人数 約 200 名

○活動場所： 日野市百草倉沢地区の公有緑地(数カ所)を拠点として活動。

○連絡先： 事務局(田村) Tel: (042) 592-5859 E-mail: info@alice-fm.info

○情報提供方法および2019年度の活動実績

《情報提供方法》ニュースレター(季刊)、ホームページ(<http://alice-fm.info>)、Eメール等
《活動実績》雑木林を中心とする緑地の基本的・日常的な維持・管理の公式活動を年間約30回。そのほかフィールド内の果樹の手入れ・収穫、他の里山ボランティアの見学会、里山農園アリスの丘・風の丘ファームの運営・管理等、随時必要に応じて活動。年間参加者数は延1000名を超える。

⑦ NPO 法人子どもへのまなざし

○活動目的

子どもの声が響くまちへ

私たちは、子どもたちが地域のあたたかいまなざしの中で育ち、豊かな子ども時代が保障される社会の実現を目指しています。あなたの『子ども時代』を思い出してください。あなたは「誰と、どこで、何をして」遊んでいましたか？

新型コロナウイルス感染拡大防止の中で、私たちの日常は変わりました。しかしながら、子どもにとっては『あそび』は生きることそのものです。こんな時だからこそ、子どもにとっての『あそび』の価値を発信し、「子ども時代のあそびを保障する」大人の役割について考えていきたいと思ひます。

○人数：正会員 65 名 応援会員 62 名

○活動場所：仲田の森蚕糸公園及び日野市周辺の川や丘陵地など自然豊かなフィールド

○代表者：中川 ひろみ

○連絡先：日野市西平山 4-13-12 (団体事務所)

電話 042-843-1282 mail:info@manazashi2009.sakura.ne.jp

○活動日：年間を通して毎日

○2019 年度の主な活動実績

活動内容	実施日	場 所	参加人数
プレーパーク開催 (参加申込・参加費なし)	毎週金曜日・第2、3土曜日 (年間63回)	仲田の森蚕糸公園	延べ7,122名 (大人 2,764名 子ども 4,358名)
森のようちえん 野外保育「まめのめ」	毎日9時～17時 (土・日・祭・年末年始以外毎日)	日野市周辺の自然豊かなフ ィールド(浅川、多摩丘陵など)	在園児42名 (1歳～5歳)
川であそぼう！ちびっこ団	7月20日～22日	浅川、多摩川	年中・年長 27 名
川であそぼう！がきんちょ団	8月6日～9日	浅川 ゆうやけこやけふれあいの里	年長 5名 小1～小3 35名
飛び出せ！冒険隊！	7月30日・8月31日(初級) 8月22日～24日(上級)	多摩川	小3～小6 20名 小4～小6 8名
山であそぼう！探検隊 ！	10月13日・11月2日 11月30日～12月1日	多摩丘陵・高尾山・大 地沢青少年センター	小3～小6 8名
冬をあそぼう！がきんちょ団	12月26日・27日・28日	百草神社・南平丘陵公 園・平山城址公園	年長 11名 小1～小3 26名
森の講演会	5月18日	仲田の森蚕糸公園	おとな153名
仲田の森蚕糸公園等 清掃管理(委託事業)	毎月水木曜日 (月8回程度)	仲田の森蚕糸公園	業務従事者4名

⑧ NPO 法人樹木・環境ネットワーク

○活動目的・活動内容

人と自然のつながりを大事にし持続可能な社会づくりを目指す。

自然の大切さを実感し、物質的・経済的豊かさだけでは得られない本当の豊かさに気づくことが大切だと考え、「森を守る」「人を育てる」「森と人を繋ぐ」をテーマとした様々な活動を展開している。具体的には里山保全活動、自然体験の企画実施、人材育成のための検定事業（グリーンセイバー検定）。

○人数：職員（常勤・非常勤含む）5名

会員数：525名（2019年3月）



4. 環境への取組状況

○活動場所：関東地域、関西地域。日野市内では「多摩動物公園」の森及び「七生公園」

○代表者：駒沢大学教授 清水 善和

○連絡先：101-0052 東京都千代田区神田小川町 3-6 日本分譲住宅会館ビル 8 階南

Tel： 03-5244-5447 Fax： 03-5244-5448 mail： info@shu.or.jp

○情報提供方法：ホームページ <http://www.shu.or.jp/>

○活動実績（2019 年度の活動）：ここでは多摩動物公園の森での活動を報告します。

① 保全活動

毎月第2日曜日および第4土曜日に保全活動を行った。場所は、ライオンの森、チンパンジーの森、七生公園。

2019 年度から、新たに七生公園において、昆虫の森の伐採による昆虫の森復活作業を

開始するとともに、トンボ池（ビオトープ）でヤゴの調査と水生植物の管理作業を開始した。

(延べ人数)	2019 年度	
	参加人数	回数
定例活動	約 100 人	19 回
調査活動	約 20 人	5 回
臨時活動	約 30 人	4 回

②中学生の総合学習の受け入れ「学校の総合学習支援」

人の手が入ることで保たれる自然 自分と自然との関わり方を学ぼう

2019 年 6 月 17 日（月）・・・板橋区桜川中学校での事前学習・ワークショップ

2019 年 6 月 21 日（金）・・・多摩動物公園雑木林での実習

約 120 名の生徒受け入れ

③企業の活動受け入れ

近年、企業による環境活動は拡大しており、社員教育や CSR 活動の一環として、里山での保全活動を希望する企業も増加傾向にある。

活動日	活動	活動場所	参加人数	活動内容
5 月 25 日(土)	ローソンの CSR 活動支援	ライオンの森	約 30 名	ナメコ菌打ち、下草刈り、虫元気作り
10 月 6 日(日)	MOTTAINAI	ライオンの森	74 名	玉切り、下草刈り
10 月 10 日(木)	ティンバーランドの CSR 活動支援	七生公園	45 名	「昆虫の森」樹木の伐採と木道作り
11 月 4 日(月)	凸版印刷の CSR 活動支援	ライオンの森	20 名	ササ刈り、伐木処理
11 月 16 日(土)	新生銀行の CSR 活動支援	ライオンの森	30 名	ササ刈り、

④雑木林で生き物探し！

2019 年度から新たに動物園と協働で来園者向けのイベントを実施した。手入れをした雑木林で、来園者に虫や植物と触れ合って自然観察をしてもらう催し。大変好評であり、次年度も実施予定。

活動日	活動	活動場所	参加人数	活動内容
5 月 6 日(祝月)	雑木林で生きもの探し！	ライオンの森	214 名	午前(122 名)、午後(92 名)の 2 回実施。雑木林で生き物を自由に探してもらう。
8 月 11 日(日)	雑木林で生きもの探し！	ライオンの森	30 名	サマーナイト。夜間の森を歩いてもらう。虫のトラップにかかったものも観察。
10 月 5 日(土)	雑木林で生きもの探し！	ライオンの森	39 名	午前(19 名)、午後(20 名)の 2 回実施 5 月に続いて秋の生き物さがし。
3 月 20 日(祝金)	雑木林で生きもの探し！	七生公園	-	※新型コロナウイルスの拡大防止のため中止

⑨ 小水力発電を実現する市民の会

○活動目的・活動内容

当会は、2016～2018 年の 3 年間にわたって行われた「日野市小水力発電を考える会」による社会実験やイベント活動を受け継ぐ形で、2018 年 4 月に「考える会」から「実現する会」へと発展させるべく、市民団体として発足しました（会の窓口は以前と変わらず、環境保全課）。毎月 1 回定例会議を行い、会員を「技術・開発班」と「広報・渉外班」に分け、各班の会議も適宜開催してきました。当会は、カワセミハウス協議会（環境分科会）および「水と緑の日野・市民ネットワーク」の参加団体であり、開催イベントの多くは、「日野の水車活用プロジェクト」との共催です。

2019 年度に行った主なイベント（会員のみで行った実証実験を除く）を紹介します。

6 月 8 日「向島水車まつり」

7 月 28 日「水車を作って電気を起こそう！」（カワセミハウス協議会環境分科会イベント）

8 月 11 日「浅川アユまつり」

9 月 20～26 日「カワセミハウス環境パネル展」

10 月 5 日「オクトーバーフェスト」（カワセミハウス協議会イベント）

10 月 26 日「水車と尺八の音を聞く会」

11 月 9・10 日「日野市産業まつり」

2020 年 2 月 1 日「日野市環境フェア」

大部分が平坦地を穏やかに流れ、大きな流量も落差もない日野市の用水路は、水力発電には向かないと言われてきましたが、身近な水資源を分散型エネルギー資源の一つと考える視点は、エネルギーの地産地消、持続的な地域社会づくりの基盤になると思われます。高性能発電機と水路環境に適合した水車の開発によって、この日野市で小水力発電を実現することを目指しています。用水路周辺での LED 照明、電動自転車・車いすの充電、防災非常用電源などへの電力活用を考えています。

○会員数：20 名

○代表者：塩澤豊志・遠藤仁久

○連絡先（事務局）：日野市環境保全課 TEL:042-514-8294

⑩真堂が谷戸蛸の会

○活動目的・活動内容

真堂が谷戸は、日野市の東側百草地区の最東端にある小さな小さな里山です。ここは、雑木林からの湧水だけで、カワニナ、サワガニ、ホタルなどが細々と生息していることから当会では、ホタルだけではなく、生物多様性を考慮した里山の保全活動と位置づけています。

2010 年 4 月には 40 坪ほどの田圃を復元し、田植えから、稲刈りまで会員一同、楽しく取り組んでいます。

活動内容は、雑木林の下草刈り、萌芽更新作業、流れの管理、畑や田の管理、ビオトープづくり、ホタルの調査などです。6 月上旬から 7 月初旬までの 1 ヶ月間は、毎晩 3 人 1 組となり、ホタルの調査活動（個体数のカウント、気温、水温、湿度など）を実施しています。今後も、注意深く調査活動を続け見守っていかねばなりません。

4. 環境への取組状況

また、市と協働で市民を対象に「ホタルの夕べ」を開催し、この貴重な環境を市民に知ってもらい、守ることに挑戦しています。

更に、他の団体の応援をいただき、ホタルの飛翔最盛期の8日間、一般の方々を対象とした観察会を実施しています。私たち「真堂が谷戸蛍の会」は、雑木林で、汗をかき、楽しい1日だった事に、喜びを感じるボランティア活動を目指しています。

2019年度は、市民や緑のトラスト等の長年の要望活動により真堂が谷戸の土地 3,509 m²が日野市に於いて公有化されたことを記念した「ホタルの里公有化記念植樹祭」(2020年3月1日)が日野市長など多くの市民の参加のもと開催することが出来ました。

○ 会 員 数:26 人

○ 活動場所:日野市百草「真堂が谷戸」、「百草園前緑地」

○ 代 表 者:板坂 泰治

○ 連 絡 先:事務局 笹木 延吉 電話:042-642-0422

○ 活動実績:月3回(第1日曜日、第3木曜日、第4土曜日)

実施日	テーマ	場所	参加人数
2019. 4. 7	椎茸ホダ木菌打ち、下草刈り	真堂が谷戸	10
4. 18	ホダ木置場設置、下草刈り	真堂が谷戸	7
5. 5	総会	自治会館	13
5. 16	田んぼならし、雑草駆除	真堂が谷戸	7
5. 25	下草刈り	百草園前	8
6. 2	田植え	真堂が谷戸	13
6. 15～25	一般蛍観察会	真堂が谷戸	1195
6. 20	水路際の除草、雑木整理	真堂が谷戸	7
6. 24	ホタルの夕べ(日野市と共催)	真堂が谷戸	35
6. 29	斜面草刈り作業	百草園前	7
7. 1	田んぼのアオコ取り、西側斜面の草刈り他	真堂が谷戸	11
7. 18	草刈り	真堂が谷戸	8
7. 27	下草刈り	百草園前	7
9. 1	水路草刈り、清掃	真堂が谷戸	12
9. 19	蛍の流れ草刈り、下草刈り	真堂が谷戸	9
9. 28	梅の剪定、草刈り	真百草園前	7
10. 6	稲刈り、掛け干し	真堂が谷戸	9
10. 17	草刈り、野草の保護	真堂が谷戸	7
11. 3	草刈り	真堂が谷戸	11
11. 9	日本蛍の会シンポジウム参加		2
11. 14	階段づくり	百草園前	8
12. 1	落ち葉かき	真堂が谷戸	10
2020. 1. 25	倒木枝処理	百草園前	7
2. 2	階段整備、樹木伐採	真堂が谷戸	12
2. 13	境界立ち会い、下草刈り	真堂が谷戸	7
2. 22	植樹祭穴掘り、準備	真堂が谷戸	8
3. 1	ホタルの里公有化記念植樹祭	真堂が谷戸	15
3. 19, 28	コロナ問題で休み		

⑩ 雑木林ボランティア講座

市民団体と行政の協働で開催している第15期雑木林ボランティア講座(2019年度)は11回開講しました。講座内容の詳細は、水と緑の日野・市民ネットワーク(P.95)をご参照ください。

⑫ NPO 法人太陽光発電ネットワーク (PV-Net) 日野地区

- 活動目的・活動内容: 太陽光発電の普及・啓発、会員間の親睦・情報交換
- 会 員 数: 15 人
- 活動場所: 主に日野市内、東京都内
- 代 表 者: 川原山浩一
- 連 絡 先: 川原山浩一 Tel&Fax 042-593-0531 携帯 090-3222-0153
- 情報提供方法: メール、電話または FAX
- 活動実績
 - 9 月 20 日～26 日 カワセミハウス環境パネル展に出展
 - 10 月 22 日 地域エネルギー協議会の 2019 年問題に協賛
 - 12 月 23 日 PV-Net ミーティング

⑬ ツバメのくるまち事業 (日野の自然を守る会)

○活動内容

旧日野市環境情報センターから日野の自然を守る会が引継ぎ実施している事業が「ツバメのくるまち絵はがきの作成」です。

市内小学校の協力をいただき、2019年度は98点の応募がありました。この中から今回は優秀賞1点と入選作品4点が選ばれました。

優秀賞はカラー印刷の絵はがきになり、環境関係のイベント会場や自然観察会などで無料配布されます。



< 優秀賞受賞 > 篠崎 琥生 (こうせい) さん (応募時 南平小学校 3 年) の作品です。

⑭ 南丘雑木林を愛する会

○ 活動目的・活動内容

日野市の雑木林を守るため、市民と行政との協働で開催している「日野市雑木林ボランティア講座」の卒業生を中心に、“明るく健全な雑木林を次世代に”をスローガンに2007年にスタートした雑木林を守るボランティア団体です。

南平丘陵公園を拠点に、雑木林の下草刈り、粗朶(そだ)柵作り、萌芽更新(ほうがこうしん)作業等を中心に活動しています。チェーンソーや刈り払機の使用に際しては、会員を積極的に安全講習会に派遣し、専門的な技術を習得しています。また、イギリスのBTCV(British Trust for Conservation Volunteers)のように、近隣の雑木林や他の団体などに、応援ボランティアを派遣できる成熟した団体を目指して活動しています。

「ボランティアは人のためにやるのではなく、自分のために(目的意識のため)活動するものです。」を合言葉に楽しい汗をかいています。

- 会 員 数: 28 人

4. 環境への取組状況

- 活動場所：南平丘陵公園、近隣の雑木林など
- 代表者：橋本 幸久
- 連絡先：事務局 笹木 延吉 TEL:042-642-0422
- 活動日：毎月第二日曜日、第四木曜日(9:00～15:00)
- 活動実績

実施日	活動内容	場所	参加人数
2019. 4. 14	四つ目垣作り／階段入口左手 ザル用ヒゴ作り体験／垣根用竹を利用	中央広場入口 中央広場	21
4. 25	四つ目垣作り／階段入口左手	中央広場入口	12
5. 12	令和元年度総会（作業はなし）	事務所	21
5. 23	四つ目垣作り 胴縁・立子追加／階段入口左手	中央広場	9
6. 9	活動は雨で中止 有志3名で六つ目ザル作り体験	正面入口	3
6. 27	四つ目垣作り／ノブドウ垣根 午後は雨で中止	中央広場	10
7. 14	雨で中止		—
7. 25	四つ目垣作り／管理棟前入口側	中央広場	11
8 月	休み		—
9. 8	四つ目垣作り／管理棟前入口側 午後は台風接近で中止	中央広場入口	14
9. 26	四つ目垣作り／管理棟前	中央広場管理棟前	12
10. 13	台風被害の公園見廻り午後は中止 サクラ×1本倒木／表谷家階段中央付近	公園	12
10. 24	桜枯損木4本伐採 午後は中止	野草園・ひょうたん池	8
11. 10	椎茸木の本伏せ・下草刈り／管理棟前 午後は天皇即位パレードで中止	中央広場南斜面	16
11. 28	雨で中止		—
12. 8	四つ目垣作り／管理棟前 下草刈り／管理棟前斜面	中央広場管理棟前	13
2020. 1. 12	桜枯損木2本と桜大径枯損木1本を伐採 桜倒木を片付け／昨年台風で倒れた木	ひょうたん池南斜面	15
1. 23	雨で中止		—
2. 9	間伐、除伐／椎茸用ホダ木づくり（約40本） クヌギ年輪18×1本、コナラ3本	北尾根	15
2. 27	間伐、除伐／椎茸用ホダ木づくり（10本）コナラ12本 午後は雨天中止	北尾根	9
3. 8	雨天中止		—
3. 26	椎茸駒打ち、種駒1200個（内200は市から） 植物観察（ヤマルリソウ等）午後は中止	中央広場 南平高校斜面	10

⑮ 農の学校

- 活動目的
農業者の高齢化など担い手不足を補うため、「農の学校」を開設し、農業知識と技術を習得してもらい、援農ができるよう援農ボランティアを育成し農業者を支援していく。
- 人数：12人 ※2020年1月より「農の学校」16期生開校
- 代表者：農の学校 校長 日野市長
- 活動場所：日野市立七ツ塚ファーマーズセンター（日野市新町5-20-1）
- 連絡先：日野市役所 都市農業振興課農産係 電話：042-514-8447

○ 情報提供方法・活動実績

- ・平成 16 年度開校（平成 17 年 1 月より）

※第 3 次日野市農業振興計画・アクションプラン、第 2 次日野市農業振興計画・アクションプラン、第 2 次日野市農業振興計画・後期アクションプラン、第 5 次日野市基本構想・基本計画に基づく。

＜内容＞

- ・講座による知識の習得（月 1 回）：農業基礎講座テキスト（野菜の栽培）、農薬の使い方
- ・圃場（畑）での実習により技術の習得（月 2 回～5 回）：
土づくり、鍬・草かき等の道具の使い方、種まき、除草、間引き、収穫など
- ※作物（ジャガイモ、トウモロコシ、サツマイモ、スイカ、カボチャ、サトイモ、ヤツガシラ、大豆、ダイコン、カブ、ニンジン、ハクサイ、ホウレンソウ、コマツナ、長ネギ）

○ 参加者募集方法

- ・11 月 15 日、12 月 1 日の広報及びホームページ等で募集予定
- ※ひのよさこい祭り、産業まつり農業展で PR 活動

⑩ 八王子・日野カワセミ会

○ 活動の目的

日野市内及び八王子市内で野鳥を観察する市民団体です。浅川流域等で野鳥の観察を通じて自然に接し楽しむこと、及びその為に浅川流域等の野鳥が安心して住める環境を作ることに協力することを目的としています。

○ 活動の内容と取り組み状況

- ・浅川や多摩川等で探鳥会を実施（2019 年は計 44 回実施）
- ・日野・八王子市域の 20 ヶ所で毎月 1 回、野鳥の種類数、数をカウントし推移を調査
20 ヶ所のうち、日野市内では以下の 4 ヶ所で実施
浅川（長沼橋～一番橋）、浅川（一番橋～多摩川合流付近）
多摩川（谷地川合流付近）、多摩川（浅川合流付近）
- ・8 ヶ所の東京都指定保全緑地で野鳥の生息数をカウント調査（冬季：1 月 20 日、繁殖期：5 月 18 日） 8 ヶ所のうち、日野市内では東豊田緑地保全地域で実施
- ・冬鳥一斉調査、オオルリ等夏鳥生息調査、カルガモ繁殖調査、イワツバメ営巣調査、秋のサンバ等渡り調査、ツバメの集団ねぐら調査、内陸のイソヒヨドリ繁殖調査、我が家の庭に来る野鳥調査などの各種調査を実施
- ・小学生に対する野鳥観察支援、他団体からの野鳥観察支援依頼に対する対応
- ・日本各地の野鳥観察地に出向き、地元の関係者との交流を通じた野鳥観察
- ・「浅川クリーンデー」に参加（4 月 21 日）
- ・高尾山ブッポウソウ復活プロジェクト（東京都環境局、事務局高尾地区自然公園管理運営協議会）に参加
- ・「高尾・浅川野鳥図鑑（仮称）」の編集作業を継続実施（2020 年秋刊行予定）

○ 設 立 年：1985 年

○ 会 員 数：228 人（2019 年 12 月時点）、会員は随時募集（年会費 1000 円）

○ 連 絡 先：粕谷 和夫（八王子・日野カワセミ会会長）TEL：090-6125-5769

E-mail :kasuya.kazuo688@gmail.com

○ 情報提供方法：活動の結果の公表

年 2 回（3 月と 9 月）会報「かわせみ」を発行、日野市内の図書館等に寄贈
ホームページで広報 <http://kawasemi.main.jp/>

4. 環境への取組状況

⑪ 東豊田緑湧会

○ 活動目的・活動内容等

東豊田緑地保全地域の自然環境を荒廃させないため、計画的に手入れを行い、身近な自然を永く保存し、親しみのある雑木林として維持するために緑地保全等を継続して 23 年になる。企業の社会貢献活動(グリーンシップアクション)も積極的に受け入れ、2005 年度の「水と緑の日野・市民ネットワーク」の設立にも関わり、市の緑環境行政にも精力的に協力している。

主な活動項目

- ・笹刈り、枯損木処理、萌芽更新地管理、実生の移植
- ・特殊植物保護、清掃活動
- ・湧水群・流水路の保全・保護
- ・企業との社会貢献活動の協働
- ・東京都及び日野市との保全計画の協働策定

○ 人 数：26名

○ 活動場所：東豊田緑地保全地域（黒川清流公園、多摩平第1緑地、多摩平第6公園を含む）

○ 連絡先：小太刀 智明（E-mail：kawasemihouse@jcom.zaq.ne.jp）

○ 情報提供・参加募集方法等：直接連絡、東京都ウェブサイト「里山へGO！」

清流ニュース・広報、チラシなど

○ 活動実績

実施日	テーマ	目的・対象・内容	参加人数 (延人数)
2019. 4. 6、4. 20、 6. 20 他	特殊植物保護活動	希少植物の株数記録、群落保護、生育補助の為の除草	21 人
2019. 5. 4、18、 7. 6、20、 8. 3、17、 9. 7、 12. 7、21、 2020. 1. 11、25、 2. 1、15、 3. 7、3. 21	笹刈り	林床の下草や笹を刈り、雑木の再生や野草の成長を助長し健康な樹林を育てる	83 人
2019. 5. 18、 11. 10	グリーンシップ アクション	企業の社会貢献活動に対応し、保全活動の体験作業を開催。 2社2日間	48 人
2019. 9. 21、 10. 5、19、 11. 2、16	倒木処理	台風による倒木や枯損木の処理。	27 人
2019. 6. 1、15	外来種除去活動	オオブタクサはじめ、外来種を除去する作業。	16人
2019. 11. 30	湿生植物管理研修	ハンノキ類や湿生植物群落の保全作業に係る必要な知識や現状に対応した研修会	14 人

⑫ 日野産大豆プロジェクト

○ 活動目的

「地元で採れた大豆を学校給食で子供たちに食べてほしい」と日野市内の小・中学校の栄養士、調理員、農業者、大学生、市民ボランティアなどが協力して立ち上げたプロジェクトで、2019 年度で 16 年目となりました。収穫された大豆は、市内の全小中学校の学校給食で活用されます。また、大豆の種は小学校の学童農園用の種にも提供され、収穫した大豆は豆腐づくりや味噌づくり等の食農教育に活かされます。なお、11 月の日野市産業まつり等で、日野産大豆プロジェクト活動を市民に広く PR しています。

○ 人 数：約30人

- 活動場所：東光寺地区
- 連絡先：事務局：日野市役所 都市農業振興課 農産係 TEL:042-514-8447
- 代表者：和田 守男
- 参加募集方法等：市、広報・HP、チラシ等
- 活動実績：種まき、除草作業4回、収穫、脱穀、選別、豆腐作り体験

⑱ ひの市民リサイクルショップ回転市場

○ 活動目的・活動内容

日野市の支援のもと1992年創立。市民から無償で提供された中古衣類・雑貨品等の販売を通して、「使い捨てのくらしを見直し、①物を大切に使うくらし ②ごみになる物を買わないくらし ③ごみを出さないくらし」に変えていく呼び掛けをし、それに役立つ情報の発信と実践活動をしています。また、安全で環境に負荷の少ない石けん製品の販売もしています。売上金は店の運営や市民還元イベントなどに活用しています。また、開店当初から買い物袋持参でレジ袋辞退を呼びかけています。

- 人数：15人
- 活動場所：万願寺店 多摩平店
- 連絡先：万願寺店（TEL:042-587-1781）
- 代表者：加納 衣子
- 情報提供・会員募集・イベント参加募集：店頭・広報ひの・ポスター・チラシ
- 活動実績

実施日	内 容	参加人数
2019. 4. 14、15	市民還元イベント：特製エコバッグを作成し、ご提供者・ご購入者に進呈	両店で112枚進呈

他に「会員学習会」「着物特別販売」を実施。「まちづくり市民フェア」に参加。

⑳ ひの炭やきクラブ

○ 活動目的

里山雑木林管理の一環である“炭やき”を地域住民の理解を得て行い産出された炭を“炭やきは地球を救う”を合い言葉に、日野市の多様な生物と持続可能な循環型社会創りに貢献することを目的とする。

○ 活動内容

日野市との共催にて広報に掲載し、お華炭（鑑賞炭）作りの体験講座にて当日の参加者と共にインテリアとして“いが栗”や“ひょうたん”等を炭に焼いています。

小生提唱の{大人の火遊び}をして楽しんでいます。

- 1、火を燃す事の難しさを知る
- 1、火の恐ろしさと大切さを知る
- 1、火をコントロールする事を知る

CSR活動では12年前百草園の樹齢約700年の梅のシンボルツリーの根元に炭の粉を入れましたら、以前樹木医が入れた炭の塊が出て来た事が有りました。

国立商工会議所にて杉浦銀治による炭と植物の相性について特に桜講演会を開催。

国立市の一橋大学正門前の桜の並木の大木2本の根元に、杉浦銀治、明星大学理工学部 吉澤教授と共に炭を入れました。

又、近年では奥多摩の吉川英治記念館の洋館造りの書斎の床下に会員と共に100kgの炭を調湿剤として施行しました。

4. 環境への取組状況

- 会員数：11 名
- 活動場所：落川交流センター及び河川敷き
- 代表者：中島孝
- 連絡先：中島孝 電話 090-6123-1871
- 情報提供方法：広報ひの、チラシ
- 活動実績

2019 年度の活動日は5月12日、6月9日、7月14日、8月11日、9月8日、10月13日、11月17日、12月8日、2020年2月9日、3月8日。

㊴ 日野団塊世代広場

- 活動目的・活動内容

「日野団塊世代広場」は、『生きがい、働きがい、地域がい』を持って、健康で生活を楽しみながら地域づくりに貢献することを目的として活動しています。新選組まつり等のイベントのお手伝いやパソコン、太極拳などの教室も開催しています。

活動の一環として2009年から百草山での「明るい雑木林」作りに取り組んでいます。16人で雑木林チームを編成しており、8人は「雑木林ボランティア講座」の修了生です。活動としては、林の手入れ作業を行いながら次のような取り組みを行なっています。

- ・植物の貴重種の確認など現況の調査及び自然観察会の実施
- ・小中学生の自然教育の場としての昆虫観察会の実施
- ・竹ぼっくりの製作、イベントにて子供たちに配布を行い子供の運動能力向上に資する。
- ・作業後放置していた竹・笹に生ごみ発酵促進剤を使って早期腐葉土化の試み、市民無償配布時に『生ごみを燃えるごみとして出さない』よう呼びかける。
- ・どんぐりクラフトづくりをイベントにて子供たちに実施、工作の楽しさを教える。
- ・産業まつりやまちづくり市民フェアに出展し、日野団塊世代広場の活動のPRや手作り品等の販売

- 人 数:33 人 百草山活動者 延べ213 人/2019 年度
- 活動場所:京王百草園駅から徒歩5分、百草園の北側に隣接した雑木林主体の緑地
- 活 動 日:第2日曜日、第4土曜日9時～15時
- 連 絡 先:日野団塊世代広場事務所(日野市平山台健康・市民支援センター内)
TEL:042-843-8723 E-mail:info@dsedai.com
- 情報提供・参加募集方法等:ホームページ <http://www.dsedai.com/>
“日野団塊世代広場”で検索

㊵ ひのどんぐりクラブ（日野市環境学習サポートクラブ）

- 活動目的・活動内容

ひのどんぐりクラブの主な活動は、市内小・中学校の生活科、総合学習、理科など児童・生徒たちの野外での体験学習の付き添いや指導、自然物（木の実や葉っぱ）を使った工作などの学習支援です。

2019年度の学校などへの支援数は95回、支援対象人数は延べ7,254人でした。

- 人 数:20人
- 代 表 者:成島信子
- 活動場所:日野市内小・中学校、市内公園・緑地・浅川・多摩川、カワセミハウスなど
- 連 絡 先:日野市立カワセミハウス内 杉浦 TEL:042-581-1164 FAX:042-581-1164

年度	支援数	支援対象人数
2017	86	7,088
2018	101	7,071
2019	95	7,254

(1) 市民及び市民・行政との協働による環境への取組状況

○ 活動実績 (2019年度)

No.	月日	学校名・ 団体名	学年	学級・ クラブ	生徒 数	大 人	テーマ	支援参 加人数	生徒数 月毎計	回数 月計
1	4月24日	七小		科学クラブ	28		第1回活動オリエンテーション	1		
2	4月25日	南平小	3	3	81		ツバメの話	1		
3	4月26日	南平小	2	3	82		紙飛行機	6	191	3
4	5月15日	三小	4	2	62		谷地川、多摩川の探検	1		
5	5月16日	四小	3	4	121		ツバメの話	1		
6	5月18日	三小	4	2	62	5	谷地川の探検 (座学)	1		
7	5月23日	七小	3	106	106	1	プールのヤゴ救出他	1		
8	5月24日	南平小	1	3	100		葉っぱでスタンプ	7		
9	5月27日	旭小	4	3	90		学校林、雑木林の学習	2		
10	5月28日	四小	1	4	120		多摩川で自然観察	3		
11	5月29日	四小	2	4	113		多摩川で虫や植物観察	3		
12	5月30日	一小	2	2	58		仲田の森で探検	5		
13	5月31日	南平小	3	3	82		イワツバメの巣の観察	1	914	10
14	6月7日	南平小	2	3	81		ガサガサ	6		
15	6月13日	南平小	1	3	100		ガサガサ	7		
16	6月15日	平山小	3	3	82		ガサガサ事前学習	1		
17	6月17日	七小		科学クラブ	28	1	トンボ池水質調査	1		
18	6月24日	七小		科学クラブ	28	1	トンボ池水質調査	1		
19	6月25日	三小		ひばり学級	30		谷地川の探検 (座学)	1		
20	6月26日	豊小	2		20	3	カワセミハウス見学	3		
21	6月26日	五小				8	黒川清流公園の探検の下見	1		
22	6月27日	三小		ひばり学級	30	5	谷地川の探検	1		
23	6月27日	三小	4	2	62	7	谷地川の探検	1	461	10
24	7月5日	滝合小	5	2	67	12	セーフティ教室	1		
25	7月8日	滝合小	3	3	75		ガサガサ	1		
26	7月8日	滝合小	6	2	67	12	セーフティ教室	1		
27	7月9日	五小	1+2	4	134		黒川清流公園ビンゴと笹船	6		
28	7月10日	平山小	3	3	82		ガサガサ	7		
29	7月11日	潤徳小	4	3	109		ガサガサ	5		
30	7月16日	七小		科学クラブ	28		野鳥公園 動植物観察調査	2		
31	7月27日	黒川子供会			50	30	天体観測会	4	612	8
32	8月18日	黒川子供会			11	12	押し葉で作ろう	5		
33	8月27日	五小	1+2	4	134		黒川清流公園ビンゴと笹船	3		
34	8月29日	四小	2	4	113		ガサガサ	4		
35	8月31日	東光寺小	1	2	50		ガサガサ	5	308	4
36	9月3日	南平小	2	3	82		河原で石拾い	4		
37	9月4日	四小	1	4	115		ガサガサ	4		
38	9月6日	南平小	2	3	82		ストーンペイント	4		
39	9月7日	滝合小	3	3	75	20	総合学習 DAISUKI 浅川	1		
40	9月9日	七小		科学クラブ	28		野鳥観察	1		
41	9月10日	七小	6	1	31		生きもののつながり	1		
42	9月10日	七小	6	1	32		生きもののつながり	1		
43	9月12日	七小	1	3	101		中央公園で葉っぱ集め	5		
44	9月12日	潤徳小	3	4	133		「バッタの仲間」事前学習	1		
45	9月13日	七小	2	3	85		黒川清流公園ビンゴと笹船	5		
46	9月13日	七小	6	1	32		生きもののつながり	1		
47	9月14日	八小	1	4	111		葉っぱでスタンプ	7		
48	9月19日	潤徳小	3	4	133		バッタ取り	3		
49	9月20日	七小	1	3	101		葉っぱでスタンプ	6		
50	9月26日	仲田小	3	2	65		バッタ捕り	3	1206	15
51	10月1日	夢が丘小	2	2	49		バッタ捕り	4		
52	10月3日	南平小	1+3	6	183		バッタ捕り	5		
53	10月3日	三小		ひばり学級	26	8	谷地川の探検	1		
54	10月3日	三小	4	2	62	7	谷地川の探検	1		
55	10月8日	四小	1	4	115		どんぐり拾い	4		
56	10月10日	仲田小	3	2	65		ガサガサ	3		
57	10月15日	六小	1	4	128		どんぐり拾いと紙飛行機	5		
58	10月16日	三小	1	2	67		葉っぱでスタンプ	4		
59	10月18日	四小	1	4	115		壁掛け	5		
60	10月20日	潤徳小	2	4	112		壁掛け	6		
61	10月21日	七小		科学クラブ	28		理科室で実験	1		
62	10月23日	七小	2	3	85		どんぐりの話	1		
63	10月24日	三小	4	2	62		谷地川の探検振替授業	1		

4. 環境への取組状況

64	10月25日	仲田小	3	2	65		葉っぱでスタンプ	5		
65	10月28日	平山小	2+ 若草	3+若草	92		自然観察とビンゴ	4		
66	10月30日	七小	2	3	85		どんぐり拾い	5		
67	10月31日	四小	2	4	110		バッタ捕り	4	1449	17
68	11月1日	1 中	1		10		日野調べ	1		
69	11月12日	東光寺小	1	2	50		どんぐり拾い	4		
70	11月13日	八小	1	4	116		自然を楽しむ、野外学習	4		
71	11月15日	多摩平児童館			30		ペンダント作り	6		
72	11月19日	東光寺小	1	2	50		リースづくり	4		
73	11月20日	滝合小	1	2	67		ヤジロベイトコマ	5		
74	11月21日	南平小	1	3	100		壁掛け	6		
75	11月27日	四小	2	4	115		リースづくり	5		
76	11月28日	平山小	1	3	96		リースづくり	7	634	9
77	12月2日	六小	2	4	128		マツボックリツリー	7		
78	12月3日	七小	1	2	101		リースづくり	6		
79	12月4日	七小	1	1			リースづくり	4		
80	12月10日	南平小	2	3	82		リースづくり	6		
81	12月11日	東光寺小	2	3	72		マツボックリツリー	5		
82	12月16日	七小	2	3	85		どんぐり祭りに招待される	1		
83	12月18日	四小	1	4	115		マツボックリツリー	6		
84	12月19日	平山小	1	3	96		マツボックリツリー	6		
85	12月20日	七小	2	3	83		マツボックリツリー	6	762	9
86	1月16日	夢が丘小	1	2	54		アイスバーの竹とんぼ	5		
87	1月17日	四小	2	4	110		アイスバーの竹とんぼ	5		
88	1月24日	七小	2	3	85		連ダコ	7		
89	1月25日	三小	1	2	67		アイスバーの竹とんぼ	6		
90	1月29日	南平小	1	3	100		連ダコ	8	416	5
91	2月15日	夢が丘小	1	2	54		連ダコ	7		
92	2月22日	滝合小	3	2	75		道徳授業	1		
93	2月22日	滝合小		全学年保護者	20		道徳地区公開講座	1		
94	2月25日	三小	4	2	62		谷地川、多摩川の探検事前学習	1		
95	2月26日	四小	2	4	110		冬芽の観察	7	301	5
支援回数計95回		○対象生徒・大人の延べ人数		7254	152	支援参加延べ人数		343	7254	

㊸ 日野の自然を守る会

○ 活動目的・活動内容

本会は、日野の自然を守り、市民の間に自然尊重の心を養い、その保全と復元に努力し、人間性豊かな社会の発展に寄与することを目的とする。(会則第三条 目的)

活動内容としては、本会の目的を達成するため、日野の自然を守る市民運動、調査・研究、自然保護に関する啓蒙普及、自然観察会・研究会等の実施、会誌その他出版物の発行その他本会の目的達成に必要な事業を行う。(会則第四条 事業)

○ 会員数：142 名（2020 年 3 月末）

○ 代表者： 山本 浩

○ 活動場所： 主に日野市内を中心に、隣接する市や近県

○ 連絡先： 事務局 〒191-0062 日野市多摩平 3-12-2（江面方） TEL042-583-6808

mail：mamorukai.info@hinonoshizen.sakura.ne.jp

○ 情報提供： 会誌 日野の自然(月刊)、 当会ホームページ <http://hinonoshizen.sakura.ne.jp>

○ 活動実績

鳥類観察会として「より鳥みどり観察会」、昆虫観察会として「楽しい昆虫ウォッチング」、植物観察会として「やさしい植物ウォッチング」の自然観察会を初め、中央線沿線ウォッチングや奥武蔵ウォッチング、地質・地形の観察会として、「地球の窓シリーズ」、や近隣の公園緑地を訪ねるなど、年間約40回の行事を実施。日野市からの委託事業として市内にある「大木島自然公園」の野草園を中心とした管理作業を実施（月2回）、同公園にて観察会の実施（年1回）。

(1)市民及び市民・行政との協働による環境への取組状況

<2019年度の行事>

区分	時期	行事名	参加者数 (担当者含)	摘要
観察会			大人+子ども	
1	4月7日	奥多摩ウォッチング「武蔵増戸駅・網代城山」	20	
2	4月28日	より鳥みどり観察会「南平丘陵公園：新緑の雑木林で渡り途中の夏鳥を探す」	41	
3	5月6日	楽しい昆虫ウォッチング「生きている化石・ムカシトンボと春の昆虫達を観る」	16	
4	5月12日	地球の窓シリーズ「日野の大地の生い立ちをさぐる No. 6」	8	
5	5月26日	楽しい昆虫ウォッチング「多摩川河川敷の昆虫とアリヅカコオロギを探す」	20	
6	6月2日	より鳥みどり観察会「ツバメと浅川の夏鳥」	32	
7	6月9日	観察会「多摩川生態系保持空間の今」	—	雨天中止
8	6月15日～16日	観察会「八ヶ岳高原の自然」	—	定員未達
9	6月23日	楽しい昆虫ウォッチング「雑木林の蝶・ゼフィルスを観る」	20	
10	7月13日	中央線沿線ウォッチング「鳥沢駅・甲州街道を歩く No. 2」	16	
11	7月21日～22日	楽しい宿泊昆虫ウォッチング「大菩薩峠付近の昆虫を観る」	—	中止
12	7月22日	観察会「大木島自然公園で自然観察とアイの生葉染め」	18	
13	7月28日	楽しい昆虫ウォッチング「夏の夜の林の昆虫たち」	16	
14	8月4日	観察会「程久保川の生き物を探そう」	27	
15	8月25日	やさしい植物ウォッチング「東光寺緑地のキツネノカミソリ」	28	
16	9月8日	中央線沿線ウォッチング「上野原駅・甲州街道を歩く No. 3」	—	台風中止
17	9月21日	八王子市の公園緑地を訪れる「大塚探検ウォーキング」	10	
18	9月22日	楽しい昆虫ウォッチング「秋の夜長にマツムシ、スズムシ、カンタンの音を聴く」	8	
19	9月29日	より鳥みどり観察会「城山鳥見ハイク&日影沢の秋の花」	23	
20	10月12日	中央線沿線ウォッチング「藤野駅・日蓮金剛山」	—	雨天中止
21	10月14日	地球の窓シリーズ「日野の大地の生い立ちをさぐる No. 7」	—	雨天中止
22	10月20日	楽しい昆虫ウォッチング「河川敷の秋の蝶と幼虫探し」	14	
23	10月27日	やさしい植物ウォッチング「南平公園緑地の秋の花」	22	
24	11月9日	中央線沿線ウォッチング「相模湖駅・子孫山ノ頭」	8	
25	11月17日	より鳥みどり観察会「秋の浅川の身近な野鳥たち」	27	
26	11月24日	やさしい植物ウォッチング「程久保緑地の紅葉」	13	
27	12月1日	より鳥みどり観察会「よくばりバードウォーキング 2019」	26	
28	12月8日	中央線沿線ウォッチング「四方津駅・甲州街道を歩く No. 4」	4	
29	1月12日	中央線沿線ウォッチング「藤野駅・日蓮金剛山」	13	
30	1月19日	より鳥みどり観察会「黒川清流公園ニューイヤーカウント 2020」	34	
31	1月25日	八王子市の公園緑地を訪れる「東中野探検ウォーキング」	12	
32	2月8日	中央線沿線ウォッチング「藤野駅・峰山」	10	
33	2月16日	より鳥みどり観察会「多摩丘陵の冬の野鳥と生き物たちの冬越し」	—	雨天中止
34	2月22日	地球の窓シリーズ「日野の大地の生い立ちをさぐる No. 8」	9	
35	3月15日	より鳥みどり観察会「多摩川・浅川合流点付近：渡り前の冬鳥達と河原の春」	—	中止
36	3月21日	八王子市の公園緑地を訪れる「鹿島・松が谷探検ウォーキング」	—	中止
37	3月22日	楽しい昆虫ウォッチング「春の蝶とウスバシロチョウの幼虫探し」	—	中止
38	3月29日	やさしい植物ウォッチング「谷仲山緑地のカタクリ」	—	中止
参加者小計			495	
特別行事等				
1	5月25日	第48回定例総会	15	
2	1月4日	新春自然へのお誘い	23	
参加者小計			38	
参加者合計			533	
大木島自然公園管理			(通年で25回実施)	参加者小計
参加者合計			213	
			746	

4. 環境への取組状況

㊤ 日野の水車活用プロジェクト

○ 活動目的・活動内容

プロジェクトの活動目的は、水車が回る環境を活用して市民が共通の話題で集うコミュニティの場として、また、子供たちの環境学習に日野の歴史と用水の大切さを学ぶ場としての出前授業、そして、近き将来は再生可能エネルギーの一つである小水力発電の可能性を追究すること。その他市外の関係団体との交流と学習をする。

○ 人 数 :40人

○ 活動場所:水車小屋、市内会議室、ふれあいサロン

○ 代 表 者:多田 啓介 TEL:090-2904-6140

○ 事 務 局:児山 由美子 TEL:090-3801-3041

○ 情報提供:facebook日野の水車活用プロジェクト、リーフレット、会報等

○ 活動実績

実施日	テーマ	内 容	参加人数
2019. 04. 06(土)	みずとくらす・ひののまち歩き支援	向島水車小屋での水車の説明をみずとくらす・ひののまち歩き市民に対して	30
2019. 04. 27(土)	水車まつり実行委員会開催	福祉支援センターで緑と清流課、地域協働課、郷土資料館、カワセハウス協議会環境分科会、南新井自治会・水力発電を実現する市民の会、みずとくらす・ひの、南平緑と水のネットワーク、まちの生ごみ活かし隊、チームみ組、水の郷ビジョン450のメンバーにより6月8日の水車まつりについて役割分担などのうちあわせ	25
05. 26(日)	水車小屋周辺の清掃	水車まつりに向けて水車小屋周辺の清掃	10
06. 08(土)	向島親水公園の水車リニューアル記念水車まつり	今年3月向島親水公園の水車が老朽化により改修リニューアルした。水車まつりとしてのイベントを行う。実行委員長の挨拶に始まり環境共生部長・南新井自治会会長の挨拶、後子供たちが引くくす玉割りでもつりが始まる。各団体による地場野菜・炭焼き作品・綿あめ、パネル展示、水車発電機の実演など	60
10. 05(土)	カワセミハウス第2回オクトーバーフェスに出展参加	模型の水車・水車発電機の展示や大型モニターによる当会のPRとパネルの展示	3
10. 20(日)	まちづくり市民フェアにパネル展示と支援	模型の水車・水車発電機の展示当会のPRとパネルの展示、フェアの来場者へのスリッパの受け渡し支援	5
10. 26(土)	水車と尺八のイベント	調布尺八塾鳳竹会メンバー3名による演奏 森の水車・焚き火・赤とんぼ・浜千鳥等など十数曲の約1時間あまりスクリーンには花さき山のイラストを投影し弾き語りは好評、耳をすますと草むらから秋の虫の声が聞こえて功を奏した	80
2019. 11. 26(火)	潤徳小学校の学習支援	5年生120名に水車についての説明や粉ふるいや糺摺・粉ひきの体験、日野用水開削450年の説明など	130
2019 毎月	月例会	市内施設の会議室や南新井ふれあいサロンにてイベントの企画と会員の親睦	10

② 日野みどりの推進委員会

○ 活動目的・活動内容

東京都が緑地保全活動の目的で1974年に「緑の監視員」制度を設立し、後に「みどりの推進委員」に名称変更して2003年度まで存続しましたが、都の組織改革に伴い廃止になりました。その後、日野地区会はボランティア団体として名称を「日野みどりの推進委員会」に変更して活動を続けてきました。南平丘陵公園を中心とした自然観察会を毎月実施し、観察会を通して「緑地の保護・保全の必要性」を参加者にアピールし、「保全作業へのボランティア参加・協力」を呼びかけています。

- ・自然観察会：毎月（原則第4土曜（8月を除く年11回））市と共催して実施。観察会を通して緑地保全がいかに大切かを市民に紹介している。
- ・その他：市の行事等への協力

○ 人 数：11人

○ 活動場所：南平丘陵公園ほか市内及び近隣市外緑地

代 表 者：会 長 杉浦 忠機

連 絡 先：事務局 日野市緑と清流課 TEL：042-514-8307

○ 参加応募方法

毎月の自然観察会への参加応募は市の広報紙「広報ひの」で毎月案内します。マスコミにも連絡して広く案内されるよう努力しています。

○ 活動実績（定例観察会）

実施日	講師	テーマ	目的・対象・内容	参加人数
2019. 4. 27		心地よい春風にふかれて、 若葉薫る雑木林の中を散策 しよう	平山城址公園駅～宋印寺～ 平山城址公園～薬科大植物 園～公園内解散	雨天中止
5. 25		初夏の緑きらめく丘陵を訪 ねよう	多摩動物公園駅～程久保の 古道～都立七生公園～動物 園正門前で解散	15 名
6. 22		木々に、夏の花咲く長沼公 園を散策しよう	長沼駅～長沼公園入口～展 望園・山頂～殿ヶ谷戸～六 社宮で解散	17 名
7. 20	川那部氏	夜の雑木林を探検しよう	南平丘陵公園	21 名
9. 28		夏草茂る緑地（百草から倉 沢へ）を訪ねよう	百草園駅～百草園・百草八 幡宮～倉沢バス停で解散	13 名
10. 26	菱山氏	秋風の吹き出した平山城址 公園内（西園～東園）を散 策しよう	平山城址公園駅～平山城址 公園（西園～東園）～小学 校前バス停で解散	28 名
11. 23		紅葉のはじまった南平丘陵 公園を訪ねる	南平駅前～七生丘陵公園～ 高幡山～高幡不動尊境内で 解散	雨天中止
12. 7	石坂氏	リース・しめ縄作り	リースとしめ縄作り講習会 （カワセミハウス）	30 名
2020. 2. 22		すっかり裸になった木々の 冬ごし姿を観察しよう（黒 川清流公園）	J R 豊田駅前～清水谷公園 ～黒川清流公園	14 名
3. 28	筒井氏	春だ、春だ、カタクリ咲い たか！（宝泉寺～東光寺）	J R 日野駅前～宝泉寺～よ そう森～東光寺緑地～成就 院～日野駅前で解散	コロナで 中止
			参加者数合計	138

4. 環境への取組状況

㊼ ひの緑のトラスト

○ 活動目的・活動内容

日野市の百草地区には、地元の方々の努力などで、市内で唯一、貴重な里山の景観が残されています。日野市ではこの地区に相続があった場合、雑木林相続面積の1/2 を寄付、残りの1/2は国に物納し、何年か後に市が買収するという方法を相続人のご好意で実施し、多くの雑木林を保存してきました。

しかしながら、市は財政危機に直面し、何年か前に物納された百草の真堂が谷戸の雑木林(3,509㎡)を国から買い取ることを中止しました。

この土地は、クヌギ、コナラなどの雑木林で、湧水が流れ、日野市ではわずかに残るホタルが生息しており、エビネの群落などの貴重植物も自生しています。また、歴史的遺物も多く出土している貴重な場所です。

この貴重な雑木林を公有化して保全を進めることを強く願う緑関連の市民団体が協議し、2009年12月に「ひの緑のトラスト」を設立し、土地取得資金の一助となるよう団体や市民の皆様に「募金」へのご協力を呼びかけてきました。

この活動等が市を動かし、真堂が谷戸の雑木林（新葉山緑地）が公有地化されたことを記念し、2020年3月、日野市長を始め公有化の先頭に立った「倉沢里山を愛する会」やお世話になった団体、市民の方を招き、「ホタルの里公有化記念植樹祭」を真堂が谷戸蛸の会と共催で開催することが出来ました。

当トラストは、今後も雑木林ボランティア団体のネットワークとして定例会議を開催し、日野市との話し合いの場、そして市内の緑地保全のための活動を続けていきます。

○ 構成団体

倉沢里山を愛する会、真堂が谷戸蛸の会、南丘雑木林を愛する会、東豊田緑湧会、日野市環境基本計画推進会議 みどりグループ、日野の自然を守る会、緑地管理ボランティアの会、市民環境大学OB会、谷仲山緑地を守る会

○ 代 表 者:会長 笹木延吉

連 絡 先:ひの緑のトラスト事務局 日野市立カワセミハウス TEL:042-581-1164

○ 情報提供・参加募集方法:緑のトラストパンフレット

カワセミハウスホームページ:<https://kankyo-hino.com/>

㊽ ひの・まちの生ごみを考える会

○活動目的・活動内容等

当会は、生ごみの減量と堆肥化を広めるため、2002年5月に発足。実践活動は下記の2つの下部組織が行っています。当会独自の活動としては、毎月1回定例会を開き、毎回ごみゼロ推進課の職員も出席して、各団体の活動についての情報共有や協議を行う一方、講演会やごみ情報誌『エコー』の「市民のページ」などによって市民への啓発活動を行っています。

<生ごみリサイクルサポーター連絡会の活動>

2009年3月に発足。2011年9月に生ごみを手軽に堆肥化できる「ダンボールコンポスト」(基材は竹パウダー)を発売。使い方講習会の開催、各種イベントでの展示・説明・チラシ配布、市の広報・ホームページなどを通じて普及活動を行っています。

<まちの生ごみ活かし隊の活動> (詳細は次項参照)

生ごみの地域内循環を目指して2006年5月に発足。2008年10月に新井にコミュニティガーデン「せせらぎ農園」を開設。約200世帯から生ごみを回収して畑に直接すき込み、土ごと発酵させて、野菜や草花を栽培しています。

(1)市民及び市民・行政との協働による環境への取組状況

○人数：9名＋日野市ごみゼロ推進課職員

○活動場所：ひの市民活動支援センター(多摩モノレール甲州街道駅より徒歩3分)

○連絡先：佐藤 美千代(代表者) 電話042-594-0745 ごみゼロ推進課(電話042-581-0444)も可

○参加募集：常時募集

○情報提供方法：ごみ情報誌『エコー』の「市民のページ」、『生ごみ菌ちゃん通信』等。

○活動実績(「まちの生ごみ活かし隊」の分は省略、次項参照)

実施日	テーマ	目的・内容	参加者数
毎月 第4金曜日	定例会議	活動報告と活動計画の検討	毎回 10名前後
2019. 5. 25	リサイクルフェア参加	ダンボールコンポストPR・申込受付	—
6. 29	万願寺交流センターまつり参加	〃	—
7. 26	エコ・クッキング講座開催	親子へのエコ・クッキングの啓発	18
10. 20	まちづくり市民フェア	ダンボールコンポストPR・申込受付	—
11. 9-10	産業まつり	〃	—
12. 6	エコ・クッキング講座開催	エコ・クッキングの啓発	18
本年度6回	ダンボールコンポスト講習会開催	実物による使い方の説明	38

㊸ まちの生ごみ活かし隊

○活動目的・活動内容

日野第八小学校区約 170 世帯の生ごみを回収してコミュニティガーデン「せせらぎ農園」で堆肥化し、野菜や花を育てることで年間約 30 トン以上の生ごみを減量しています。農体験を通じた食育や環境教育も行なっており、年間延べ 4000 人以上が訪れる生ごみリサイクル情報発信の場となっています。幼稚園などにも出張して生ごみを使用した菌ちゃん野菜作りをサポートし、畑とお腹(腸)の微生物の働きを関連づけた食育活動を推進しています。

2015 年度より田んぼの復活。2016 年度からは、中央大学生のバスツアー受け入れ、C-Plant(子ども食堂を企画する大学生の団体)への協力、東京イナゴンピック開催、を継続して行っています。2018 年度からは「環境教育チーム」を立ち上げ、農園を子どもたちの環境教育の場として活用してもらうことにより一層力をいれています。

○人 数：農園登録メンバー：188 人・生ごみ回収参加者会員：167 世帯

○活動場所：「せせらぎ農園」 連絡先：佐藤 美千代(TEL：080-8891-4930)

○情報提供方法：ホームページ <http://ikasitai/info/>

ブログ <http://ikasitai.at.webry.info/>

活動実績

	定例作業		来訪者	せせらぎ農園で行ったイベント	農園以外でのイベント
	活動日	参加者			
4 月	13	157	197	・里芋畝立て 草餅づくり ・第五幼稚園みさわ保育園見学 ・田んぼの草刈り 土づくり	
5 月	18	166	382	・みさわ児童館・保育園・五幼サツマイモ定植 ・みさわ保育園 田んぼの代かき ・八小農業クラブ ポップコーン定植	・菌ちゃん土づくり(万願寺交流センター・生活保健センター・とうふ処三河屋)・中大にて授業

4. 環境への取組状況

6月	19	203	343	・八小農業クラブ 大豆種蒔と定植 ・田植え（カワセミハウス環境セミナー含） ・小麦の脱穀 ・麦刈り ・玉ねぎ収穫 ・第五幼稚園じゃがいも掘り ・拓殖大学生ボランティア	・落川交流センター炊き出し市民マルシェ ・万願寺交流センターまつり ・カワセミハウスで菌ちゃん土づくり
7月	10	151	137	・みさわ保育園 収穫体験 ・青森県黒石市 見学 ・中央大学生参加 ・生ごみ参加者にじゃが玉セット配布	・中央公民館 親子でエコクッキング ・落川交流センター炊き出し市民マルシェ ・早稲田大学都市計画フォーラム
8月	18	156	20	・市長会メンバー見学 ・田んぼと畑の保全・用水路清掃	・落川交流センターそうめん流し ・親子エコクッキング講座
9月	18	143	324	・みさわ保育園 野菜観察 ・みさわ児童館 食育レクチャー ・第五幼稚園大根種まき ・社協ピザパーティ ・第4回東京イナゴンピック	・落川交流センター炊き出し市民マルシェ ・八小たちばな学級菌ちゃん土づくり
10月	20	189	260	・稲刈り ・八小二年生まち探検 ・八小農業クラブ さつま芋蔓切り ・みさわ保育園・みさわ児童館・京王キッズ さつま芋収穫	・まちづくり市民フェア ・川崎平右衛門研究会にて報告
11月	12	124	232	・南新井自治会里芋収穫体験 ・みさわ保育園・京王キッズ 里芋と落花生掘り ・八小農業クラブとたちばな学級大豆収穫 ・第五幼稚園大根引とさつま芋掘り	・落川交流センターごみゼロ収穫祭 ・「菌ちゃん野菜作り交流集会 in ぎふ」
12月	14	154	108	・京王キッズ・八小農業クラブ 大豆脱穀 ・みさわ保育園 小粒黒大豆脱穀 ・中央大学ボランティア 落葉回収 ・キムチづくり ・望年会	・落川交流センター炊き出し市民マルシェ ・エコクッキング講座
1月	10	107	121	・八小たちばな学級 堆肥作り ・たこ焼きパーティ ・京王キッズ 麦ふみ	・落川交流センター七草かゆ作り・餅つき大会 ・八小農業クラブみそづくり
2月	9	116	86	・みさわ保育園 麦ふみ 紙芝居 ・八小四年生 観察 ・燻製づくり	・三河屋万願寺店プランター土づくり
3月	16	172	110	・京王キッズ・みさわ保育園・第五幼稚園 じゃがいも植えつけ ・落ち葉堆肥作り	・空家プロジェクト花壇づくりサポート
合計	177日	1838人	2320人		
総計		4158人			

※散歩途中の人や定例作業日とイベント以外での来訪者も多いが、その人数は含まない。

※落川交流センターなど農園外で行ったイベントでの来訪者も含まない

㊸ ふだん着でCO₂をへらそう事業

○ 活動目的

ふだん着でCO₂をへらそう事業は、二酸化炭素（CO₂）を削減し、次世代へふるさとひのを引き継ぐと、市民、関係団体、企業、市による「ふだん着でCO₂をへらそう実行委員会」を立ち上げ、2008年度から全国に先駆けて開始した。市民や事業所の方々に、ふだんの生活の中で無理なくできる省エネ活動に取り組むことを啓発することで、省エネ行動を全市的な取り組みとし、日野市から排出されるCO₂を削減する事を目的とし、また、省エネ行動に向け、市民や事業所の方々に省エネ行動を宣言するという形で意思表示をしていただいている。

本事業開始時（2008年度）の宣言目標数は一般世帯35,000世帯、事業所2,500事業所であったが、これまでに目標数を大きく超える47,701世帯、2,564事業所からの宣言が集まっている。（2020年3月末現在）今後も引き続き普及啓発を行なうことで、省エネ行動の定着を図っていく。

○2019年度の主な活動内容

・事業のPR活動

市内及び各地で開催されたイベント等に参加し、日野市・ふだん着事業のPRを行なった。

・子ども関連施設での環境学習（小学校1校：103名、幼稚園・保育園32園：2,700名）

・自治会等地域への環境普及啓発（省エネセミナー）

・日野市環境フェアの開催

講演：らんま先生のかんたん・びっくり環境実験ラボ

平山小学校 省エネ取り組み発表

市民団体や企業による体験・工作ワークショップ

など東京ガス・東京電力・日野の自然を守る会・小水力発電を実現

する市民の会・ひのどんぐりクラブ・ひの生きものプラン・日野市

環境基本計画推進会議CO₂グループ・実践女子大学などのご協力により、延べ500名を超える来場者でにぎわった。

・日野市環境かるた事業

地球温暖化を防止するため、私たちの暮らし方を見直し、地球温暖化の原因とされているCO₂の排出量を少しでも抑えようとの思いで、今年度（2019年度）作成した環境かるたを用いて環境かるた大会（ペア戦及びチーム戦を実施）を開催した。



㊹程久保川を考える会

○ 活動目的・活動内容

水源から浅川との合流まで日野市内で終結する程久保川を身近な川として親しんでほしく、まず汚れていた川を何とかしたいということで始めました。どれだけ汚れているかを知る為の水質検査、そしてごみ拾いを行なっています。

○ 人数:8人

○ 活動場所:程久保川

○ 連絡先:日野市三沢 850-4-201「程久保川を考える会」藤村

○ 情報提供方法:クリーンデーは日野市の広報に出しています。

○ 活動実績

実施日	テーマ	目的・対象・内容	参加人数
5月・10月	クリーンデー	年2回ですが、川の中に下りてのごみ拾いです。	ボランティア 40～60
毎月(第2か第3) 水曜日	水質検査	どれだけ汚れているか、人が入って大丈夫かが気になり、5ヶ所を検査。	会員 4

4. 環境への取組状況

㊸ まちづくり市民フェア2019

○ 活動目的

日野市内の市民活動団体が協働し合い、消費者市民社会構築並びに市民活動の活性化の視点を入れつつ、市民の主導によるより良いまちづくりへの参加を呼びかけるイベントとして開催。

○ 参加団体数:62 団体

○ 活動場所:日野市市民の森ふれあいホール

○ 連絡先:TEL:042-581-6144(市民フェア実行委員会事務局 ひの市民活動支援センター内)

○ 情報提供方法: パネル展示、講演会

○ 活動実績

実施日	目的・対象・内容	参加人数
2019. 10. 20	・環境に配慮した防災紙食器の利用 ・マイ箸・マイ食器持参推奨 ・市民による環境保全への取り組み発表、環境に配慮した物販などのブース設置	1,400

㊹ みずとくらす・ひの

○ 活動目的・活動内容

2013年度にスタートした「水辺のある風景日野50選プロジェクト」は、市民、行政職員、法政大学エコ地域デザイン研究所メンバーによるワーキンググループにより水辺の選定などを行いました。2015年にワーキンググループは市民団体「みずとくらす・ひの」として再スタートし、行政などと連携しながら水辺を後世に残すための活動を行なっています。

2017年12月より、水辺のある風景日野50選のガイドツアーを実施しています。50選のガイドツアーも2020年2月をもって、約2年間16回にわたって実施し全てをガイドしました。毎回好評でキャンセル待ちが出るほどです。アンケートの結果今後も続けて欲しいとの要望があり検討しています。手始めに「日野市内を多摩川対岸から見てみよう」を実施しました。

○ 人数:25人

○ 活動場所:主に日野市内

○ 代表者:井上 博司

○ 連絡先:090-3480-9981(三村)

○ 情報提供:web Facebook -水辺のある風景 日野50選-

○活動実績

9月20日(金)～9月26日(木) 「カワセミハウス環境パネル展」展示

10月5日(土) カワセミハウス オクトーバーフェスト出展 パネル展示、用水マップ販売(水辺のある風景日野50選ガイドツアー)

4月6日(土) 9時 日野駅集合 コース: 日野駅～山下堀～水車堀公園～新旭橋～開削450年記念事業場～No.2 東光寺の小さな棚田～No.3 日野用水下堰親水路～日野宮神社～薬王寺～日野煉瓦～日野駅で解散。 参加者 23名

6月1日(土) 9時 豊田駅北口階段上集合 コース: 豊田駅～清水谷公園～山王下公園～カワセミハウス～No.22 黒川清流公園～野鳥の森公園～神明上第10号緑地～豊田用水～上田用水～信玄堤～駒形公園で解散。 カワセミハウス協議会環境分科会が、アンケート実施。 参加者 27名

7月6日(土) 9時 日野駅集合 コース: 日野駅～八坂神社裏道～No.10 日野用水上堰開渠～No.11 日野宿を支えた用水～高速高架下～日野第2保育園～郵便局～No.9 谷仲山・東光寺一崖線からの湧水～山下堀(暗渠)～日野駅で解散。 参加者 27名

9月7日(土) 9時 日野駅集合 コース: 日野駅～日野宿交流館～No.7 精進場一禊の水辺～番外②段丘崖を流れる日野用水下堰～日野警察～No.8 仲田の森蚕糸公園～下堰煉瓦架橋裏～上宿の辻公園で解散。 参加者 21名

(1)市民及び市民・行政との協働による環境への取組状況

11月2日(土)9時 百草園駅南口階段下集合 コース： 百草園駅南口階段下～No.45 程久保川遊歩道とワンド～一の宮用水ポンプアップ～No.46 落川公園～水に囲まれた公園～小野神社～落川遺跡公園～百草園駅 参加者 18名

12月7日(土)9時 高幡不動駅北口階段下集合 コース： 高幡不動駅北口階段下～No.40 ふれあい橋・向島用水取水堰～No.41 向島用水親水路～生きものにやさしい水辺～No.42 新井の田んぼと水路のある風景～No.43 新井の微高地を流れる用水～せせらぎ農園～番外⑥樹林の中を流れる用水～落川交流センター～落川用水支流～三沢中落川用水ポンプアップ～落川用水本流～百草園駅 参加者 26名

(日野市内を多摩川対岸から見てみよう)

2020年2月1日(土)9時 多摩モノレール柴崎体育館駅東口階段下集合 コース： 柴崎体育館駅東口階段下～根川～日野の渡し碑～多摩川左岸土手～日野橋～府中用水取水門～万願寺渡船場跡～ママ下湧水～矢川おんだし～神奈川県の測定石～くにたち郷土文化館～国立市古民家～石田大橋～多摩モノレール万願寺駅解散 参加者：25名

③水と緑の日野・市民ネットワーク

○ 活動目的・活動内容

緑や水の保全・育成等を行っている市民団体等が情報を共有し、「団体相互が緩やかに有機的に連携・協力することにより、日野市の水と緑を守り、育て、次世代へ引き継いでいく」ことを目的として、様々な実践活動を推進していく協力体です。環境保全に携わる人材育成事業として雑木林ボランティア講座を2005年度から、地球環境を正しく知ることを通して、地球規模の環境をみんなで考えていく「市民環境大学」を2009年度から開講しました。

○ 参加団体：12団体（浅川流域市民フォーラム、浅川潤徳水辺の楽校推進協議会、南丘雑木林を愛する会、東豊田緑湧会、日野の自然を守る会、日野みどりの推進委員会、真堂が谷戸蛸の会、ひの炭やきクラブ、日野団塊世代広場、市民環境大学OB会、谷仲山緑地を守る会、小水力発電を実現する市民の会）

○ 活動場所：日野市内

○ 代 表 者：塩澤 豊志

○ 連 絡 先：事務局 日野市緑と清流課 TEL：042-514-8307

日野市立カワセミハウス TEL：042-581-1164

○ 情報提供等：カワセミハウス通信、清流ニュース、チラシ など

○ 活動実績

雑木林ボランティア講座

実施日	テーマ	目的・対象・内容	参加人数
2019.5.18	講座1. 開講式・講義	日野の自然環境、植物 講座概要、OT 講師：日野市緑と清流課職員2名、杉浦 忠機氏(日野の自然を守る会)	24人
6.15	講座2. 視察	市内の緑地めぐり	23人
7.14	講座3. 実習	雑木林の保全と管理・活用方法、安全対策 講師：松井一郎(NPO 森づくりフォーラム)	23人
8.17	講座4. 講義・実習	道具の正しい使い方(鎌、鋸、剪定鋏 他) 講師：飯島 利三氏(水と緑の日野・市民ネットワーク)	21人
9.14	講座5. 実習	刈払機の仕組み、操作方法と刈払い実習 講師：橋本 幸久(南丘雑木林を愛する会)	23人
10.19	講座6. 講義・観察	里山づくり 講師：倉本 宣氏(明治大学農学部教授) 東豊田緑地保全地域植物の観察と手入れ 講師：加藤 勝康(森林インストラクター)	19人
11.16	講座7. 視察・実習	市外の緑地ボランティア視察と作業実習「八王子滝山里山保全地域」	24人
12.14	講座8. 実習・観察	落ち葉かき、落ち葉だめ、腐葉土づくり 講師：飯島 利三氏 緑地保全作業実習 講師：笹木 延吉(谷仲山緑地を守る会)	21人
2020.1.18	講座9. 講義・実習	チェーンソーの構造と使い方・丸太切り 講師：橋本 幸久氏(南丘雑木林を愛する会)	21人
2.15	講座10. 実習	チェーンソーを使って雑木の伐採と粗朶作り 講師：橋本 幸久氏(南丘雑木林を愛する会)	19人
3.14	講座11. 実習・修了式	椎茸のほだ木づくり実習、修了式	18人

4. 環境への取組状況

市民環境大学

実施日	回 数	目的・対象・内容	参加人数
2019. 5. 9	前期①	地球環境問題とは	25
5. 16	前期②	物質循環（炭素、窒素、リン）と人間活動の影響	27
5. 23	前期③	フィールドワーク①黒川清流公園の春 周辺の気温測定	26
5. 30	前期④	地球温暖化と温室効果ガス	24
6. 6	前期⑤	フィールドワーク②黒川清流公園の春（湧水）	24
6. 13	前期⑥	地球温暖化の生態系への影響と対策	27
6. 20	前期⑦	ヒートアイランド現象	26
6. 27	前期⑧	ヒートアイランド現象の身近な対策	24
7. 4	前期⑨	フィールドワーク③黒川清流公園の初夏（植物）（公開講座）	27
7. 11	前期⑩	身近な環境を考え、保全するために（意見交換）	26
10. 10	後期①	水の文化と水の特異的な性質	23
10. 17	後期②	地球規模の水循環	22
10. 24	後期③	都市の水循環	25
10. 31	後期④	水資源、東京および日野市の水利用	22
11. 7	後期⑤	フィールドワーク④黒川清流公園周辺の秋（周辺の気温測定）	25
11. 14	後期⑥	仮想水（バーチャルウォーター）	22
11. 21	後期⑦	フィールドワーク⑤黒川清流公園の秋（散策）	21
11. 28	後期⑧	地下水の汚染（揮発性有機塩素化合物）	24
12. 5	後期⑨	フィールドワーク⑥黒川清流公園の初冬（野鳥）（公開講座）	31
12. 12	後期⑩	富栄養化と東京湾流域の総量規制および意見交換	25

市民環境大学 OB 会の活動

<環境学習会及び湧水量測定>

実施日	参加人数	
	環境学習会	湧水量測定
2019. 4. 18	11	7
5. 16	10	5
6. 20	10	5
7. 19	12	5
8. 15	8	－
8. 23	－	4
9. 19	10	4
10. 19	10	－
10. 24	－	5
11. 21	7	3
12. 14	13	5
2020. 1. 16	12	8
2. 20	13	7
3. 19	中止	7

<放射線量測定>

実施日	参加人数
2019. 4. 25	5
5. 23	5
6. 27	4
7. 25	6
8. 24	4
9. 25	4
10. 23	1
11. 28	6
12. 25	5
2020. 1. 23	7
2. 27	6
3. 26	5

<ニュースレターの発行>

第 26 号	2019. 5. 16	黒川清流公園湧水枯渇問題その後
第 27 号	2019. 7. 18	定例 OB 会 立川・国立極地研究所見学会開催
第 28 号	2019. 9. 19	水車まつり開催される
第 29 号	2019. 11. 21	定例 OB 会 小平上下水道館見学会開催
第 30 号	2019. 1. 16	ニュースレター 30 号に関して
第 31 号	2020. 3. 19	日野市民環境大学は今年で 12 年目
その他		

実施日	テーマ	内 容
2019. 9. 7	シンポジウム「地図でたどる日野市の変遷～豊かな地形と自然を再認識しよう」	会場 日野市立カワセミハウス (1) 基調講演「地図でたどる日野市の変遷～豊かな地形と自然を再認識しよう」 講師：今尾恵介氏（地図研究家） (2) 話題提供「地名や郷土史からまちの魅力を掘り下げて探る」 講師：新選組のふるさと歴史館長、郷土資料館職員

③④水の郷日野ビジョン 450

○活動目的・活動内容

平成 29 年に日野用水が記念すべき開削 450 周年を迎えるにあたり、日野市では、平成 28 年 4 月、用水や田んぼに関わる市民や学識経験者などで構成する日野用水開削 450 周年記念事業推進委員会を立ち上げました。

記念事業としては、「水の郷日野」を維持・継承するため、用水の歴史や生きものに関する講座や用水の散策会等を 4 回開催し又、日野用水の案内看板の設置や日野用水（下堰）親水工事等も実施してきました。更に、この記念事業を後世に伝えるために「日野用水」、「日野用水 450 年!～昨日と今日、そして明日へ～」、「日野用水資料集」の 3 冊の記念誌を発行致しました。

しかしながら、日野用水をはじめとする各用水や田んぼを守るにはどうしたらよいのか？今まで多くの場で議論されてきましたが、解決策は難しく、田んぼが急速に減り続けている待ったなしの時期に来ているのが現状です。

そこで日野用水開削 450 周年記念事業推進委員会では、平成 29 年 10 月 15 日日野煉瓦ホール（市民会館）において記念シンポジウムを開催し、「水の郷日野」を守る為の様々な議論の結果、これらの問題を少しでも解決していくための「共同宣言」（田んぼ・用水の保全や環境教育など）を提案し、満場一致で採択されました。

この「共同宣言」を実現していくために、平成 30 年 9 月 8 日市民と行政が協働で「水の郷日野ビジョン 450」を設立いたしました。

○人数：10 名

○活動場所 日野市内

○活 動 原則、隔月で定例会議及び調査、要望活動

○代表者 笹木延吉 042-642-0422

○事務局 北村 敏 042-583-3568

○活動実績

実施日	活 動 内 容	参加人数
2019. 5. 7	第 5 回「水の郷日野ビジョン 450」会議・区画整理課の要望書・小学校の田んぼ、ビオトープについて	7
7. 30	第 6 回会議・世界灌漑施設遺産登録について、学校ビオトープ	6
9. 24	第 7 回会議・世界灌漑施設遺産登録について、学校ビオトープ	7
11. 19	第 8 回会議・区画整理課の要望、回答について、小学校の田んぼの取組み状況	7
2020. 1. 21	第 9 回会議・公園内田んぼ築造について、各自からの問題提起	8
3. 24	第 10 回会議・コロナウイルス問題で中止	—

③⑤ 緑を愛する会日野

○活動目的・活動内容

緑を愛する会日野のスローガンは「人と自然の和」。

「緑を愛する会 日野」は、仲田の森蚕糸公園という市街地の身近な自然保存・育成のために平成 17 年（2005 年）からスタート。自然は特別な怖い存在ではないことを ” いつもの生活の中 ” で実感してもらえるよう活動を展開。会員と協力頂いている市民の方々はもちろんのこと、日野市緑と清流課、各方面の団体に協力を頂きながら行っている。主な活動は以下 5 つ。

- (1) 仲田の森蚕糸公園の一角にミニビオトープとして多種多様な草木を植え、50 年後豊かな森にしていく活動。公園内での移植を終えた現在は枝打ち草刈りが主な作業
- (2) 園芸品種と山野草 2 種類の花壇を配置し、花で来訪者が親しみやすい場を設ける。堆肥には園内の落ち葉堆肥のほか、生ごみ堆肥を活用
- (3) 市内のドングリを集めてどんぐり苗を育て、市内緑化に必要な際には日野産苗を供出できる準備

4. 環境への取組状況

(4) 日野市用水守制度への登録と活動

(5) 諸団体との連携（情報交換・体験学習の相談対応）。

○ 会員数:6人

○ 活動場所: 主に仲田の森蚕糸公園

○ 代表者: 佐伯直俊

○ 連絡先: 090-3546-7117 (佐伯) forestimage0123@gmail.com

○ 情報提供: 以下ホームページ (HP) もしくはメール配信、不定期刊行物。

ツイッターHP (日々の更新はこちら): <https://twitter.com/nakadanomori>

TBS『風の言葉・日野用水』(2012年) <https://www.youtube.com/watch?v=T2YtaUfjKps>

③ 南平・緑と水のネットワーク

○ 活動目的

当会は2012年「南平駅前や周辺の用水沿いを緑豊かな水辺にしたい」という住民の提案でスタートしました。会の目的は、地域の特徴である用水など歴史的環境資源を守りつなげ、またその過程で南平のまちを再発見し、安心して安全な、南平らしい豊かな暮らしを目指すことです。

・駅前「ぼけっと広場」は、「緑の環境デザイン賞」の「国土交通大臣賞」を受賞しています。

・七生中地区地域懇談会「ななおBONまつり」、児童館行事等、地区の行事にも協力・参加しています。

・「駅周辺がまちの玄関口・用水沿いがまちの顔」となるよう事業を進めています。

○ 人数: 活動参加者 83名 どなたでも参加自由なオープンな会です

○ 代表: 清水守男

○ 活動場所: みなみだいら児童館ぶらねっと、南平駅周辺用水路沿い

○ 連絡先: みなみだいら児童館ぶらねっと (館長: 梅崎満洲夫) TEL 042-599-0166

○ 情報提供方法: 自治会回覧、市の掲示板、ぶらねっとだより、市内団体掲示板 HiKnow!

Facebook ページ (アカウントがなくても閲覧可能)、Jcom 番組他

○ 活動実績: 主な活動: 毎月最終日曜日午前 草取りと観察会など、イベントの開催

実施日	テーマ	目的・内容等	参加人数
4/22	花オクラねばねばプロジェクト	児童館の子供とともに、花オクラの種まき、4月定例会	9
4/30	活動報告書の提出	助成金を受けた団体へ	1
5/12	土づくり	緑化活動の準備	5
5/26	5月定例会	定例除草、植付、用水清掃	7
6/9	南平駅前 PP、メダカ水替え	ぼけっと広場に設置した水鉢清掃 (メダカ産卵前に)	3
6/16	田中6丁目自治会植付け参加	児童館道路沿いに芝桜の植え付ける催しに参加	7
6/30	6月定例会	定例除草、植付、用水清掃	7
7/11	アジサイの剪定	加工品制作のため咲き終わった花を剪定	3
7/28	7月定例会	定例除草、植付、用水清掃	8
8/1	用水を使って「打ち水」	猛暑対策のため、ぼけっと広場周辺に打ち水をして涼感をつくる	1
8/14	アートフェスティバル参加	加工作品の販売 (活動資金へ)	5
8/25	用水守懇談会出席		2
8/25	8月定例会・BONまつり準備	作業は猛暑のため中止、ななおBONまつり参加打ち合わせ	7
9/7	活動準備 (BONまつり)	ななおBONまつり 最終確認	5
9/14	ななおBONまつり参加	加工作品等販売 (活動資金へ)	9
9/26	9月定例会・BONまつり反省会	定例除草、植付、用水清掃	8
10/27	10月定例会	定例除草、植付、用水清掃	6
11/24	11月定例会	定例除草、植付、用水清掃	8
12/22	12月定例会	定例除草、植付、用水清掃、片付け	8
1/19	新年会	反省会、年間活動計画	12
2/22	2月定例会	定例除草、植付、剪定、用水清掃	6
3/28	3月定例会	新型コロナウイルス対策のため中止 (自主判断で手入れ)	0
3/29	第7回「野点・南平の四季」	新型コロナウイルス対策のため自粛	0
			127

⑳ 百草山の自然と文化財を守る会

○ 活動目的

多摩丘陵の一角、日野市百草山の自然を保全し、そのなかに含まれる古代・中世寺院跡(真慈悲寺)などの遺跡の調査・保全を目指しています。

○ 現在までの活動内容

- ・百草山斜面の開発抑制のための署名活動
- ・百草山の散策イベントの実施
- ・百草山の文化財調査
- ・市と協力して三沢中学校区探検隊を組織して散策マップを作成
- ・百草山の清掃活動(西斜面<三沢>の周辺)
- ・現在は、倉沢里山を愛する会、幻の真慈悲寺調査の会と合流して、日常活動をしている

○ 設立年月日: 1995年(平成7年)11月3日

○ 代表者名: 峰岸 純夫

○ 活動場所: 日野市百草山

○ 活動日: 特定せず、随時活動(現在は休眠状態)

○ 活動人数: 若干名(中心層 60から70代)

○ 募集: 無

○ 連絡先: 峰岸 純夫 住所: 日野市百草971-250 TEL:042-591-0605 FAX:042-591-0605

E-mail:m3gisi2@ab.auone-net.jp

五十子 満大 住所: 日野市百草971-250 TEL:042-591-6086 FAX:042-591-6086

E-mail:ablamenroku@yahoo.co.jp

㉑ 谷仲山緑地を守る会

○ 活動目的・活動内容等

日野市の谷仲山緑地を明るく健全な雑木林に維持・管理し併せて里山の生物多様性を復活し、次の世代に引き継ぐことを目的に2016年4月にスタートした雑木林ボランティア団体です。

当緑地は、カタクリ、ニリンソウ、イチリンソウなど貴重種の野草が群生しており、雑木林や野草の保全活動と併せて、カタクリの開花時の毎年3月下旬(2018年～)に案内看板を立て、一般市民にカタクリなどを観察して楽しんでもらい、環境保全の大切さを訴える事を目的として実施しています。会員は一般市民、日野市職員OBなど様々で、目的意識を持ったボランティア活動を通し、楽しい汗を流しています。

○ 会員数: 15名

○ 活動場所: 谷仲山緑地(神明第1緑地～神明第7緑地)

○ 代表者: 笹木延吉

○ 連絡先: 笹木延吉 090-6029-1811

○ 活動実績

実施日	活動場所	活動内容	参加人数
2019. 4. 21	神明上第3、5、6緑地	カタクリ赤さび病の葉を除去、アメリカスミレサイシン除去、遊歩道の準備	9
5. 19	神明上第5緑地(神明社側)	平成31年度定期総会(谷仲山地区センター)、ニセアカシア他伐採、下草刈	9
6. 16	神明上第5緑地	ブタクサ除去、下草刈り	8
7. 21	神明上第3、5緑地	下草刈り、シュロと枯損木伐木	7
8. 18	神明上第6緑地	下草刈り、ブタクサ抜き、話し合い	8
9. 15	神明上第3、6緑地	下草刈り、倒木処理、粗朶柵	8

4. 環境への取組状況

10. 20	神明上第 5、6 緑地 (宝泉寺裏)	倒木処理、セキショウ、スゲの除去	5
11. 17	神明上第 3 緑地 神明上第 5、6 緑地	コナラ倒木処理、ナガエミクリ移植	8
12. 14	神明上第 6 緑地	雑木林ボランティア講座と活動 (落ち葉掻き、下草刈り)	9
2020. 1. 19	神明上第 5、6 緑地	観察園路整備と粗朶柵づくり 下草刈りとシュロの実生の除去	7
2. 16	雨天中止		—
3. 15	神明上第 6 緑地 神明上第 3 緑地 谷仲山緑地	カタクリの移植、見学路整備、栗の木伐採	9

③⑨ 緑地管理ボランティアの会

○ 活動目的・活動内容等

日野東光寺緑地保全地域の植生と風景を豊かにするため、手入れを行い、崖線の緑を永く保存し、明るい雑木林として維持するために緑地保全等を継続して行っている。

2010年度からは明星大学の緑地保全活動サークル「クローバー」の学生とも一緒に活動し、同校のグリーン・キャンパス・プログラム事業も実施、指導している。

主な活動項目 ・下草刈り、間伐、除伐、枯損木処理、剪定、枝打

- ・竹林の管理
- ・特殊植物保護、植生調査、清掃活動
- ・学校との社会貢献活動の協働
- ・東京都及び日野市と保全計画の協働策定

○ 人 数：12名

○ 活動場所：日野東光寺緑地保全地域、東光寺第1,2緑地

○ 連絡先：小太刀 智明 (E-mail : kawasemihouse@jcom.zaq.ne.jp)

○ 情報提供・参加募集方法等：直接連絡、東京都ウェブサイト「里山へGO！」

清流ニュース、チラシ、大学内情報誌、など

○ 活動実績

実施日	テーマ	目的・対象・内容	参加者数
2019. 4. 7	竹の植生管理	筍と竹の調整・伐採、間引き	7 人
5. 12	笹・下草刈り	笹・草刈り、筍の調整・伐採、間引き	8 人
6. 2	竹の植生管理	筍の調整・伐採、間引き	5 人
6. 23	自立と協働 (一年生必修授業)	グリーン・キャンパス・プログラム (竹伐採・草刈り)	57 人
7. 7	笹・下草刈り	笹刈り、常緑樹伐採、灌木処理	6 人
8. 4	笹・下草刈り	笹刈り、常緑樹伐採、灌木処理	7 人
9. 8、9. 22	笹・下草刈り	笹刈り、常緑樹伐採	延 12 人
10. 6	笹・下草刈り	笹刈り、常緑樹伐採	7 人
11. 3	笹・下草刈り	笹刈り、常緑樹伐採、灌木処理	7 人
12. 8	除伐・間伐	竹伐採・常緑樹伐採	6 人
2020. 1. 12	除伐・剪定	常緑樹伐採・障害木剪定	5 人
2. 9	竹林整備	竹の間伐	6 人
3. 8	竹林整備	竹の間伐	8 人

(2) 行政による環境への取組状況

ここでは、行政が主体となっていて行なっている環境への取り組みについて記載しています。

環境保全課（市役所 3 階 TEL:042-514-8294、042-514-8298）

実施日	テーマ	目的・対象・内容	参加人数
2019. 5. 26	市内一斉清掃	まちの環境美化・自治会等地域団体	16,600 (282 団体)
8. 11	第 4 回浅川アユまつり	市民が水辺に親しむイベントとして、伝統漁法体験、釣り体験、環境活動団体のブース出展など	約 9,500
9. 8	第 5 回日野市環境かるた大会	省エネ・環境に関する標語をかるたにした「日野市環境かるた」の大会	358
11. 24	市内一斉清掃	まちの環境美化・自治会等地域団体	雨天中止
2020. 2. 1	環境フェア (イオンモール多摩平の森 3 階 イオンホール)	CO ₂ 削減を啓発するイベント。らんま先生による環境実験ラボ、環境かるた大会チーム戦優勝チームによる CO ₂ 削減の取り組み紹介、マスコットキャラクターによる啓発ショー、環境ワークショップなど	約 500
2019 年 10 月～2020 年 2 月	エコアラ・エコクマによる環境学習（出前講座）	主に保育園・幼稚園を対象として、日野市の環境キャラクター「エコアラ」「エコクマ」による環境学習	2,563 (保育園 25 園 幼稚園 4 園)

緑と清流課（市役所 3 階 TEL:042-514-8309）

実施日	テーマ	目的・対象・内容	参加人数
2019. 4. 2 ～5. 31	緑の募金	事業所、老人クラブ等の団体や個人に緑化推進のため、緑の募金への協力を依頼	—
4. 1～11. 3	第 9 回 あさかわ写真コンクール	八王子市との浅川流域連携事業の取組みの一つ(募集期間 5/7～9/2、表彰式 11/2)	応募総数 312
4. 21	多摩川・浅川クリーン作戦	多摩川・浅川の同時清掃	1,800
5. 6	シンポジウム 「黒川清流公園」	水と緑の日野・市民ネットワーク主催講演会	24
6. 2	身近な水環境の全国一斉調査	浅川、多摩川、程久保川及び市内を流れる用水の水質調査（全国水環境マップ実行委員会主催）	178 (浅川流域)
6. 16～11. 30	コスモスアベニュー事業	花のまちづくり事業の一環として、浅川スポーツ公園外周で、緑化の推進・普及・啓発のため、市民によるコスモスの種まき及び育成管理を実施 (公財) 日野市環境緑化協会共催	352
6. 20	ホテルの観察会	真堂が谷戸にて実施した市民参加イベント。ホテルの生態についての座学の後、ホテルの観察を行った。真堂が谷戸堂の会との共催。	26
8. 8	子どもの交流事業	八王子市との浅川流域連携事業	36
10. 1～10. 25	ミニ水族館開設	市役所 1 階フロアにて実施	—
8. 25	用水守懇談会	用水守連絡会、活動内容の報告及び意見交換	22

4. 環境への取組状況

10. 2～10. 25	緑と清流ポスター展	市役所 1 階フロアにて実施 (応募総数 610 点)	—
10. 20	日野用水クリーンデー	栄町 5 丁目交差点からコープとうきょう日野駅前店までの日野用水(約 2km)の清掃	20
年間	程久保川クリーンデー	5/19、10/27 2 回実施	100
年間	自然観察会	日野みどりの推進委員会と共催 年間 7 回実施	136
年間	浅川・潤徳水辺の楽校行事	浅川・向島親水路を中心に年間 17 回の行事を開催	1,000
年間	滝合水辺の楽校行事	7、8、11、2 月実施	約 200

ごみゼロ推進課 (クリーンセンター 日野市石田 1-210-2 TEL:042-581-0444)

実施日	テーマ	目的・対象・内容	参加人数
2019. 8. 13、 8. 15、8. 19	処分場見学	市内小学生親子	121
通年	講師派遣出前講座	日野第一小、夢が丘小、豊田小、	272
通年	清掃活動	日野高、七生特別支援学校	1,560

※クリーンセンターの施設見学は、新施設建設工事のため休止しています。(2017. 7～)

文化スポーツ課 (市役所 3 階 TEL : 042-514-8465)

実施日	テーマ	目的・対象・内容	参加人数
2019. 4. 6 ～12. 1	ちょこっとウォーキング	ちょこっとウォーキングは市内外各所を巡り、健康増進及び市民の親睦を図ることを目的に実施するウォーキングです。また、四季に応じた自然に親しむコースを取り入れることで、運動を通して自然の魅力を発信しています。	254

子育て課 (市役所 2 階 TEL:042-514-8579)

実施日	テーマ	目的・対象・内容	参加人数
2019. 7. 31	自然の中で遊ぼう	檜原村「都民の森」を散策し、自然観察・木工を行う 小学校 3 年生～小学校 6 年生 小動物・昆虫・植物の観察、木工	38
8. 8	自然の中で遊ぼう	檜原村「都民の森」を散策し、自然観察・木工を行う 小学校 3 年生～小学校 6 年生 小動物・昆虫・植物の観察、木工	40
8. 16	自然の中で遊ぼう	檜原村「都民の森」を散策し、自然観察・木工を行う 小学校 3 年生～小学校 6 年生 小動物・昆虫・植物の観察、木工	37
6. 3～12. 22	自然の中で遊ぼう	緑の大切さを感じる 小学校 5 年生～中学校 3 年生 野外炊飯・テント泊・キャンプファイヤー	延べ 719
7. 20～ 8. 25	自然の中で遊ぼう	緑の大切さを感じる 市内の子ども 子どもたちが自発的に活動やルールを創出した中での 遊びや体験、キャンプ活動ほか 野外炊飯・レクリエーション	延べ 962
11. 23	自然の中で遊ぼう	緑の大切さを感じる 市内の子ども たき火、ピザ焼き、工作、ネイチャーゲーム	雨天中止

(2) 行政による環境への取組状況

中央公民館（日野市日野本町 7-5-23 TEL:042-581-7580）

実施日	テーマ	目的・対象・内容	参加人数
2019. 4. 20 ～12. 7	田んぼの学校 (2 コース)	水田での稲作りを通じて日野市の農業、環境、地域コミュニティを考える。 昨年度、休校した南平会場は、新たに耕作地を確保、田作りを行ない開催する事ができた。 2019 年度は、両会場とも温暖化や台風の襲来により収穫高が減少。これらの昨今の異常気象とも言える事実を肌で学習する事ができた。	490
2019. 8. 8 (全 1 回)	夏休み！ペットボトルソーラーカーをつくろう！	小学 3 年生～6 年生を対象に、もの作りの楽しさ、面白さを教えるとともに、環境配慮について考えるきっかけ作りとして実施した。	34
2019. 9. 7 (全 1 回)	ひの市民大学「あなたの街の非常食-多摩川水系で魚釣り」	浅川の生態系は？ 突然の災害で食べ物がなくなったら？ もしもの時のために、多摩川水系を歩き、魚を獲り、食べ方を学ぶサバイバル環境講座。 午前・午後と 2 部制で開催した。	15
2019. 9. 14 ～10. 19 (全 5 回)	ひの市民大学「明星大学連携コース」 最新の宇宙・気象の科学	今年度より明星大学との連携企画が実現し、全 5 回の講座を実施した。航空宇宙の最新研究成果や、気象に関する研究から、現代の環境問題についても学習した。	195
2020. 3. 4～11 (全 3 回)	古布の活用「リサイクル～さき織体験」	さき織りは廃布を利用して新たな布を作り出す技術で、簡単な道具により独特の風合いと特徴的な色彩の作品ができる。古布のリサイクルとして環境保護の観点を持つ事ができる。 ※新型コロナウイルス感染症の拡大防止のため中止した。	中止

郷土資料館（日野市程久保 550 TEL:042-592-0981）

実施日	テーマ	目的・対象・内容	参加人数
4. 20～7. 7	企画展「四季の植物」	身近な植物や貴重な植物、日野の農作物など、日野の四季を彩る植物を写真で紹介し、併せて種のコレクションも展示した。	365
7. 13～11. 10	企画展「どっき土器展 2019 大昔の多摩平」	現在はマンション等が立ち並ぶ多摩平。展示では、多摩平再開発の中で発掘された山王上遺跡などを中心に紹介した。	571
11. 16～ 2020. 3. 3	企画展「ひの宝モノ語り展～くらしの工夫に光をあてる～」	くらしの道具を、使ってきた人々のエピソードとともに紹介し、道具の大切さや、道具に見られる工夫や素材などについて伝えた。※3. 4 から新型コロナウイルス感染症拡大防止のため臨時休館	427
12. 7～ 2020. 3. 3	パネル展「日野市内のサイノカミ・どんど焼き」	日野市内で行われているサイノカミ・どんど焼きについて紹介。※3. 4 から臨時休館	—

4. 環境への取組状況

10.5～12.8	特別展「豊田のむかし」	区画整理やバイパスの開通により、近年大きな変貌を遂げた豊田地区。豊田村旧名主家の資料調査で新たに発見された資料を中心に、江戸時代から明治・大正時代にかけての豊田地区の姿を探った。	4,452
11.9	講演会「豊田の地形と地名」	豊田地区の地形と、それに由来する地名についての講演会。	70
11.17	講演会「草創期の地方ビールと山口麦酒」	豊田の山口家で明治19年～27年頃まで作られていたビールと、同時代の地ビールについて学んだ。	34
11.30	見学会「豊田の七森を探る」	豊田にあった「豊田の七森」(山王社・三島神社・若宮神社・天神社・八幡神社など)をめぐりながら、実際に豊田を歩いた。	26
6.15 7.20 10.19 11.9	生涯学習 学びの場プロジェクト「歩こう・調べよう・ふるさと七生」	春は「ほどくぼ小僧藤蔵とかくれ穴」、夏は「初夏の真慈悲寺と百草画荘」、秋は「高幡界限—今・昔—」、晩秋は「平山季重と平山遺跡」をテーマに、四季折々の七生地区の歴史と自然を学んだ。	83
7.27	体験学習会「石田散薬を作ろう」	用水沿いに生えるミゾソバを採取し、ほうろくで黒焼きして薬研で粉薬にした。野草を用いた土方歳三家に伝わる家伝薬を再現した。	17
12.14	体験学習会「お正月飾りを作ろう」	正月飾りのしめ縄作りを通して、主食である稲の藁を活用する時代の生活を考える機会となった。市民が講師として参加。	27
2020.1.19	どんど焼き	茅の小屋とともに正月飾りなどを燃やし、健康を願う小正月行事。伝統行事を伝え、焼却物の分別も呼びかけ環境に配慮した。準備から市民協働で実施した。	480
3.14	体験学習会「化石でたどる大昔の日野」	新型コロナウイルス感染症拡大防止のため中止。	—
3.28	「多摩川の市境を歩こう」	新型コロナウイルス感染症拡大防止のため中止。	—
4.1～ 2020.3.31	七生丘陵の自然と歴史調査	人の暮らしと自然とのかかわりを調査し、散策会やパネル展示などの普及活動も行なった。市民との協働調査。	224 (年間参加者数)
4.1～ 2020.3.31	真慈悲寺調査研究	中世に存在した大寺院「真慈悲寺」の調査研究を、環境保護にも意識して取り組んだ。パネル展示などで市民に百草地域の歴史を伝える活動を行なった。市民と協働して実施。	694 (年間参加者数)

生涯学習課（市役所 5階 TEL:042-514-8765）

実施日	テーマ	目的・対象・内容	参加人数
2020.1.13	成人式	新成人対象。配布プログラムに市の環境保全イメージキャラクターを紹介。	1,116

(2) 行政による環境への取組状況

(公財) 日野市環境緑化協会 (日野市神明 2-13-1 TEL:042-585-4740)

実施日	テーマ	目的・対象・内容	参加人数
2019. 4. 27	緑のリサイクル	市民から提供された植物を配布 提供者 37 名、合計 1,176 点を配布	受領者 611 名
2019. 5 月	ガーデニングコンテスト	市民からガーデニング作品を募集 一次審査 (写真) : 5 月 10 日 二次審査 (現地) : 5 月 14 日 を行い、入選者 3 件を選出	応募件数 7 件
2019. 5. 21 ～6. 4	ガーデニングコンテスト 写真展	市役所、市民ホールにてガーデニングコン テスト応募者全員の写真を展示	—
2019. 7. 13	子ども昆虫教室	市内の小学生を対象に昆虫の話や標本観 察、屋外での昆虫採集を実施	参加者 15 名
2019. 9. 20	カサギク貴重品種の 配布	日野市だけが継承しているカサギクの貴 重品種「白多摩・黄多摩」をプランターに植 付け、観賞用として小中学校等の公共施設に 配布	33 箇所
2019. 11. 1 ～11. 13	配布苗：菊花コンテスト	日野中央公園にて実施。表彰式はひの煉瓦ホ ールにてポットマム、スプレー菊、大菊の種 類別に合計 16 点を表彰 (応募数)・市民一般の部 合計 17 鉢 ・老人クラブの部 合計 110 鉢 ・小学校の部 合計 120 鉢 ・大菊の部 合計 16 鉢	(苗配布) 7,625 株 (個人・団 体含む)
2020. 1. 7 ～1. 17	緑の写真展	市役所、市民ホールにて実施。 テーマ 1「日野の四季」 24 点を展示 テーマ 2「わが家の緑」 2 点を展示	応募者 11 名
2019. 12 月	作文集「緑のまち」発行	市内小学校 4・6 年生を対象に環境に関する作 文を募集して審査を行ない、入選作 111 編及び カット入選 59 作品を掲載した作文集を発行	応募総数 2,592 編
2020. 3. 28 ～3. 29	第18回 スプリングフェスタひの	実行委員会と共催 (新型コロナウイルス感染症 拡大防止のため中止)	来場者 —
年 間	緑化講習会	○大菊の育て方講習会 7 月 19 日 ○ポットマム・スプレー菊の育て方講習会 8 月 15 日 ○庭木の手入れ講習会 10 月 4 日 ○稲わら・竹細工講習会 12 月 20 日 ○春の草花・家庭果樹の管理講習会 2 月 7 日 ○ガーデニング講習会 (新型コロナウイルス 感染症拡大防止のため中止)	参加者 合計 125 名

4. 環境への取組状況

(3) 学校等による環境への取組状況

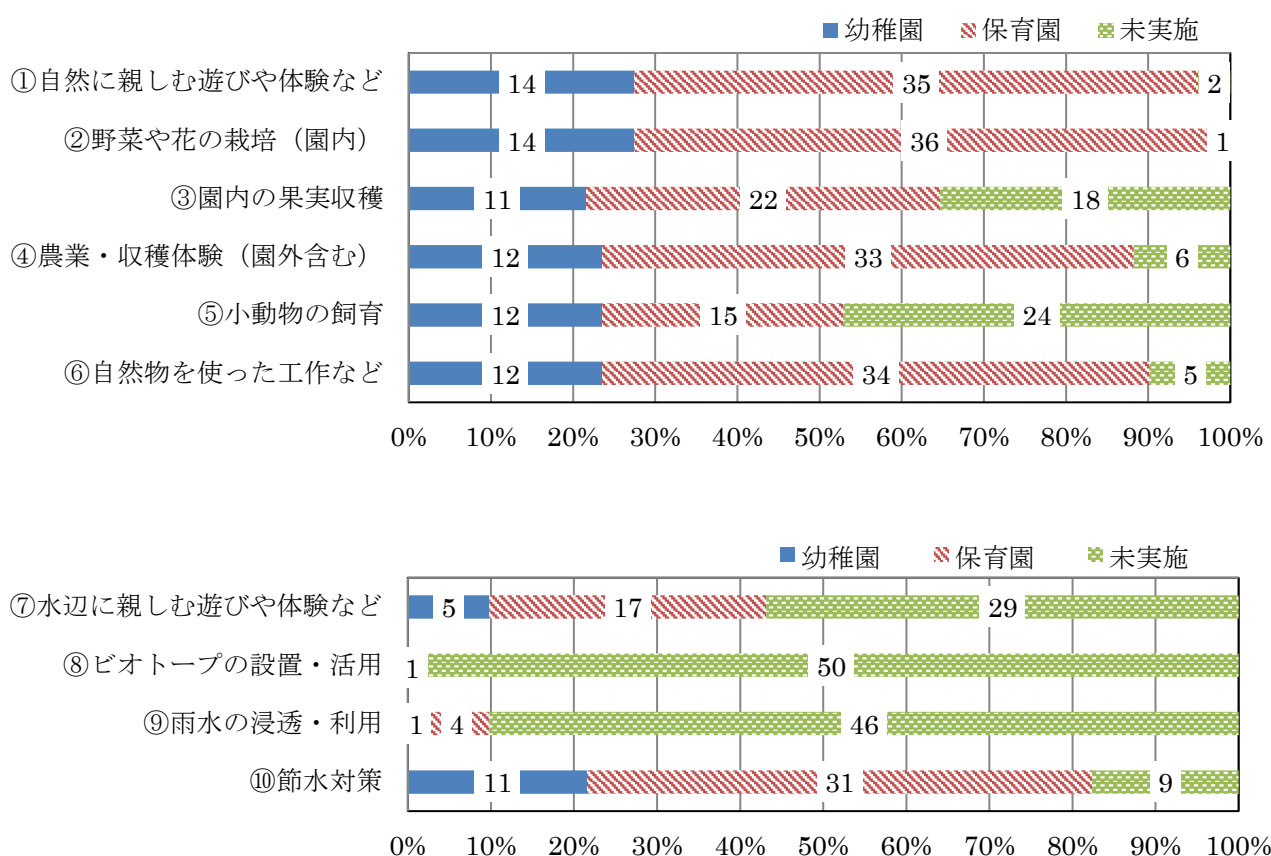
日野市内には、幼稚園 14 園（市立 4 園、私立 10 園）、認可保育園 41 園（公立 10 園、私立 31 園）、小学校 17 校、中学校 8 校、高等学校 3 校があります。これらの学校等による環境への取り組みについて、①幼稚園・保育園、②小学校、③中学校・高校、に分け、とりまとめました。

① 幼稚園・保育園における環境への取り組み

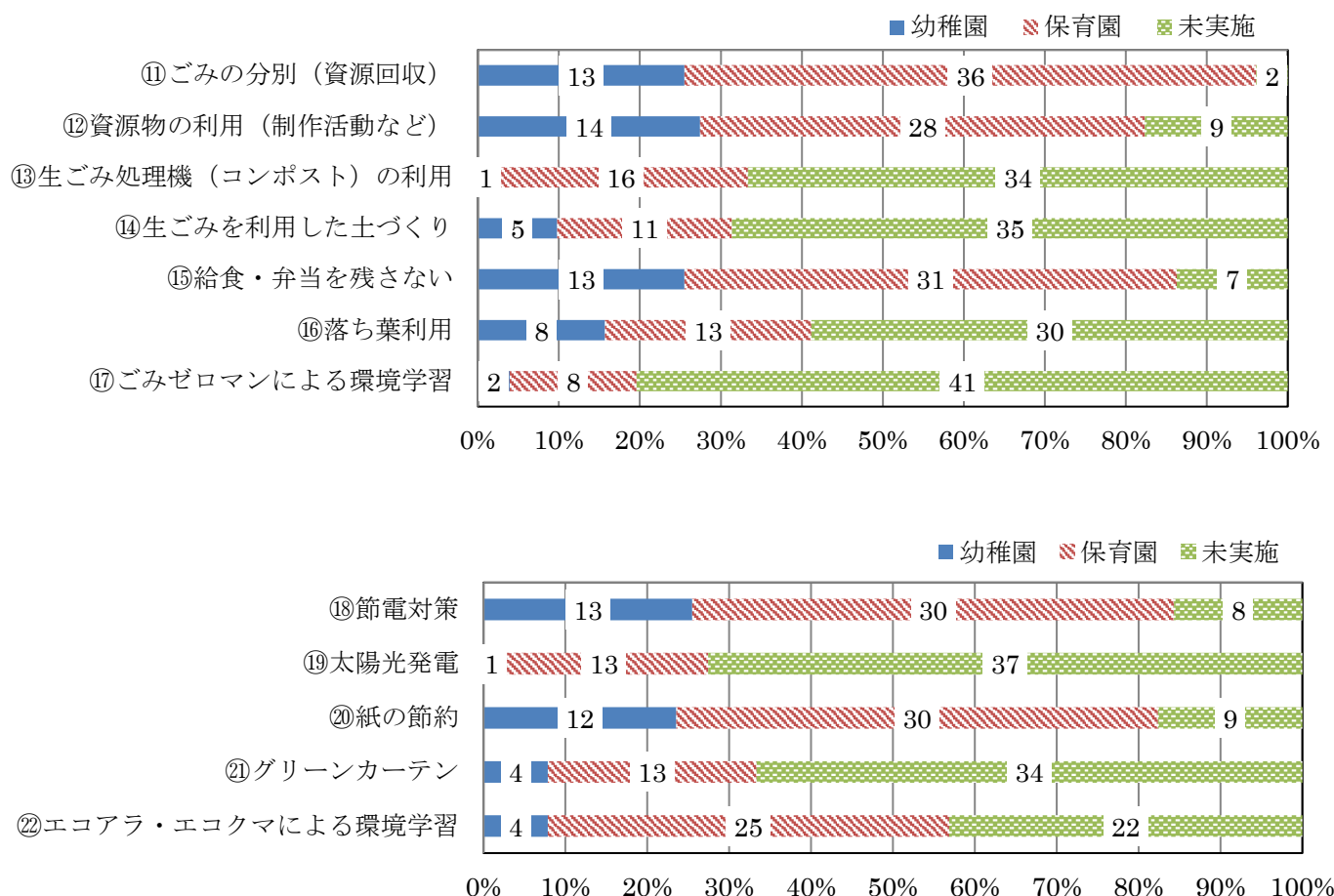
主な取り組み項目を 22 項目としてアンケートを実施し、幼稚園 14 園、保育園 37 園の 51 園から回答が得られました。

幼稚園及び保育園で多く取り組まれている項目としては、ほとんどの園で自然に親しむ遊びや体験、野菜や花の栽培が行なわれていた他、自然物を使った工作、農業・収穫体験など園児が直接自然に触れるような取り組みが多く園で行なわれています。また、日常生活の習慣として、ごみの分別、節水、節電、紙の節約、食べ残しを出さないことが多くの園で取り組まれています。エコアラ・エコクマやごみゼロマンといったキャラクターを活用した環境学習が行なわれているのも幼稚園・保育園の特色ですが、2019 年度はごみゼロマンによる環境学習を行なった園が前年度の半数以下となっています。ごみ関係の制度変更への対応等の行政側の事情が影響しているかもしれません。

雨水の浸透・利用やビオトープの設置、太陽光発電といった、設備や整備などに費用がかかる項目については、実施している園は少ないという結果でした。



(3)学校等による環境への取組状況



アンケート項目以外のその他の取り組み・独自の取り組みとしては以下の回答がありました。

- ・日野市立幼稚園では、平成 22 年度より、家庭や近隣学校給食で出た野菜くずを利用したの元気野菜作りを行っている。命の循環を知り、又、土ができていくまでの過程では、生きる力の基礎となる思考力、判断力、表現力を培うことにつながっている。幼児にとっては、わくわくの体験となっている。この活動に対しては、まちの生ごみ活かし隊の方々、地域の方々からも協力を得ている。そして、保護者も参加し、一緒に行っている（第二幼稚園）
- ・給食の野菜くずを利用して、自園の畑や花だんの土づくり（土の再生化）を 4・5 歳児が中心に、計画的に取り入れています。収穫した野菜は、調理員が給食にプラスしたり、年 2 回の調理活動に取り入れて、味わっています。運動会と発表会では、保護者に向けて、一緒に取り組める活動と発信しています（みさわ保育園）
- ・土づくり用に家庭から野菜くずを持ち寄った他、保育園の給食廃棄分や給食納品業者廃棄分の野菜を併せて活用し、幼児 3 クラス（3・4・5 才児）がぼかしを混ぜて土づくりの実施、野菜の栽培及び収穫し、一部は家庭へ持ち帰りを実施した（たかはた台保育園）
- ・収穫野菜の調理体験（日野わかば保育園）
- ・日野市で栽培している果物・野菜を給食に使用している（むこうじま保育園）
- ・豊田の豊かな自然環境の中で保育をすすめていくことを園の特色としています（芝原保育園）

4. 環境への取組状況

- ・愛鳥モデル園になっております。年2回「野鳥の会」の方に指導していただき、鳥の鳴き声に耳を傾ける、また、観察する活動を行っています（日野市立たまだいら保育園）
- ・緑の募金を届けに行っています（つくしんぼ保育園）
- ・水遊びや、栽培活動でシャベル等を洗った残り水を花壇や畑にまいている（第四幼稚園）
- ・井戸水利用（散水用）（至誠第二保育園）
- ・井戸水の使用（日野第二保育園）
- ・井戸があります。災害の時に近隣の皆様にもお分け出来ます。水質に問題ありません。節水の為に草花の水やりや子ども達のどろんこ遊びにも使っています（わらべ日野市役所東保育園）
- ・生ゴミ処理機を使用して生ゴミを出ないようにしている（むこうじま保育園）
- ・ペットボトルキャップ・使用済切手回収（至誠第二保育園）
- ・物にもいのちがあることに気付かせる（欣浄寺みのり幼稚園）
- ・エコの花を咲かせよう→節水・節電を実施したら、エコの木（園独自のエコツリーのキャラクターあり）にシールを貼り満開度を競う（みなみだいら保育園）
- ・蓄熱冷房（日野わかば保育園）
- ・サンシェードを利用し、温度が上がらないよう室内温度調整効率化（むこうじま保育園）
- ・遠足等、園外へ出た際の弁当後の引き上げ時にゴミが落ちていないか確認し拾うようにしている（第四幼稚園）
- ・地域一斉清掃参加（至誠第二保育園）
- ・生活発表会の際、環境への取り組み・生ごみを使用した土づくりの様子を掲示し、保護者に周知した（たかはた台保育園）
- ・職員の手作り絵本を使った環境学習の実施（みなみだいら保育園）

② 小学校における環境への取り組み

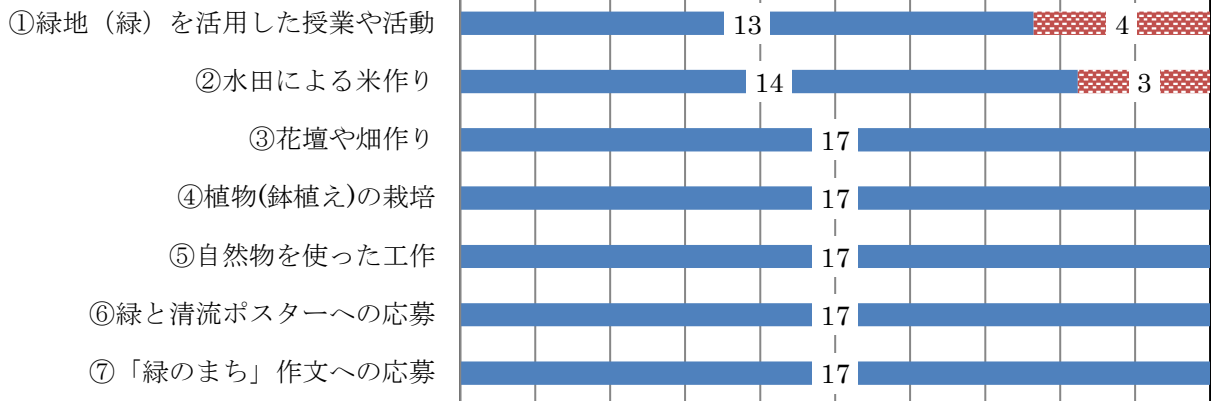
主な取り組み項目を23項目としてアンケートを実施し17校より回答が得られました。なお、「エコキング」についてはすべての小学校で実施していることからアンケート項目には含めませんでした。全校実施として集計グラフには加えており、取り組み項目は全部で24項目です。

小学校の特色として、花壇や畑作り、植物の栽培、自然物を使った工作、緑に関する作文やポスターへの応募、自然物を使った工作など、みどり分野の取り組みが環境学習として全校で実施されています。また、水辺を活用した授業、水道キャラバンによる授業など、水分野の取り組みも比較的多くの学校で実施されており、水環境豊かな日野市の特色が表れています。雨水の浸透・利用については前年度は実施校が半数以下でしたが、2019年度は半数以上の学校で実施されており、良い傾向と言えます。他にも、給食の食べ残しを減らす、ごみ減量、紙の節約、エコキングなど、様々な分野の取り組みが多く多くの学校で実施されています。

一方、太陽光発電については前年度と同じく実施している学校は少なく、費用や施設・設備面での課題があるものと考えられます。なお、「クリーンセンター見学」が全ての学校で未実施なのは、2019年度も新施設建設工事により見学を休止していたためです。

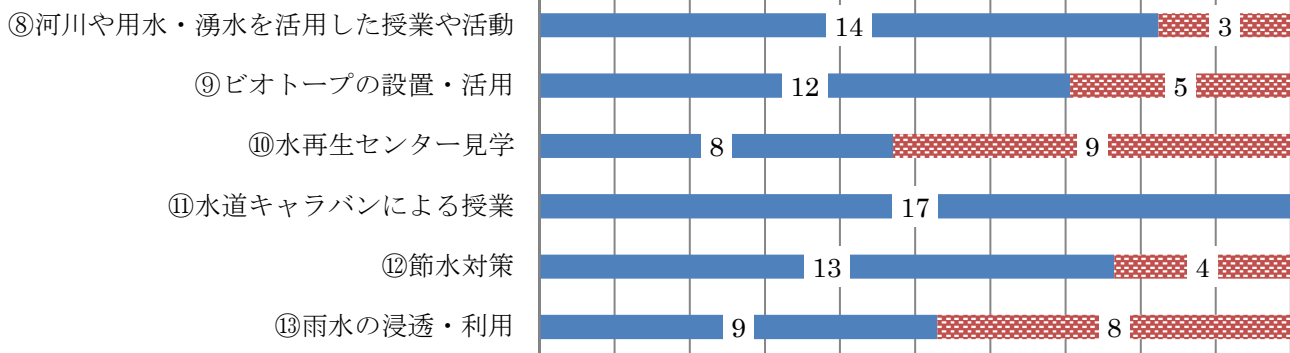
(3)学校等による環境への取組状況

■実施 ■未実施



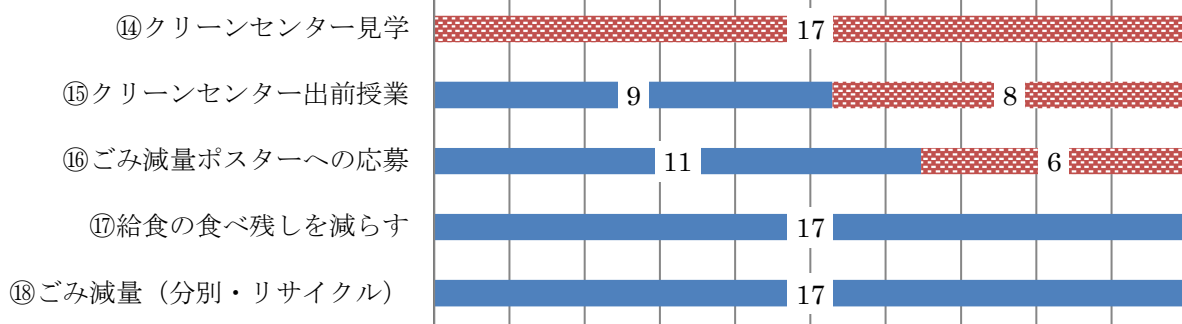
0% 10% 20% 30% 40% 50% 60% 70% 80% 90% 100%

■実施 ■未実施



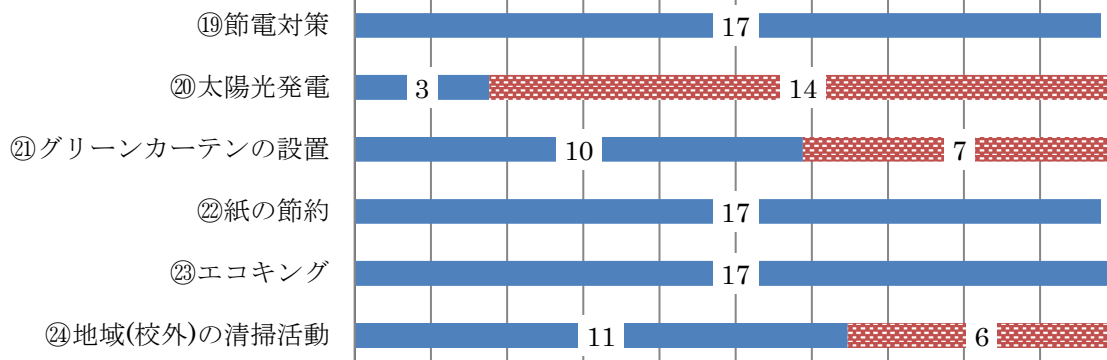
0% 10% 20% 30% 40% 50% 60% 70% 80% 90% 100%

■実施 ■未実施



0% 10% 20% 30% 40% 50% 60% 70% 80% 90% 100%

■実施 ■未実施



0% 10% 20% 30% 40% 50% 60% 70% 80% 90% 100%

4. 環境への取組状況

アンケート項目以外のその他の取り組み・独自の取り組みとして以下の回答がありました。

- ・ 5年生は田んぼを借りて水田で稲作りを行っている（日野第三小学校）
- ・ 全校児童による菊の栽培（日野第六小学校）
- ・ 六小のシンボル「おたまが池」の自然観察（日野第六小学校）
- ・ 地域支援ボランティア・PTAの方の協力により花だんのガーデニングを行っている（平山小学校）
- ・ 3・4年生全員で菊作りに取り組んだ。日野市産業まつりへ代表児童が出展した（平山小学校）
- ・ 菊の全校一人一鉢栽培（東光寺小学校）
- ・ 地域の農家の方のご指導ご協力による、①種まきからの稲作、②校庭芝生の維持管理、③梨園の観察学習、④東光寺大根（種まき、おろぬき、収穫、たくあん漬け体験）給食への活用、⑤たまねぎ（種まき、収穫体験）給食への活用、⑥和食器を使った給食体験（東光寺小学校）
- ・ 次年度はクリーンセンター見学を検討している（日野第三小学校）
- ・ 毎年4年生は谷地川のごみ拾いを行っている（日野第三小学校）
- ・ 全校児童によるトライ&チャレンジ(校庭・地域の清掃活動)（日野第六小学校）

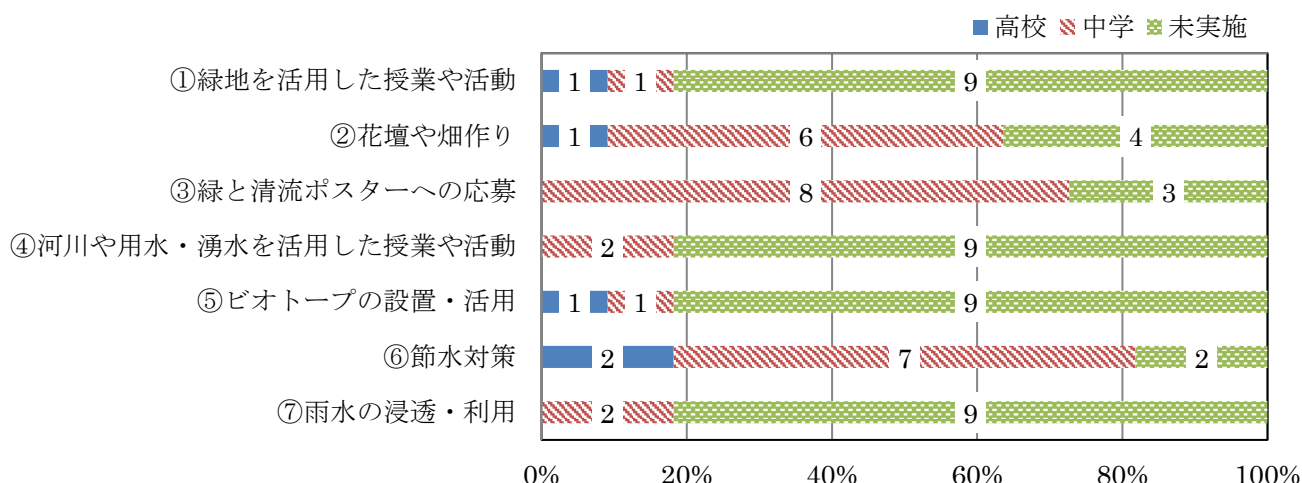
③ 中学校・高校における環境への取り組み

主な取り組み項目は15項目としてアンケートを実施し、中学校8校、高校3校から回答が得られました。

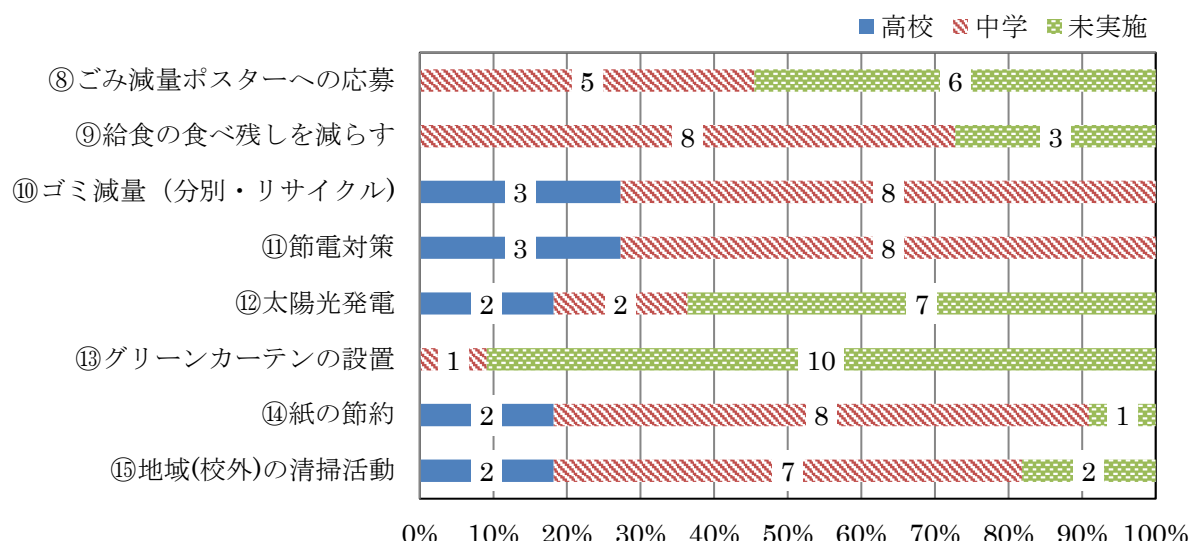
ごみ減量、節電については、すべての中学校・高校で行われていました。また、節水、紙の節約、清掃活動も多く各学校で実施されています。

一方で、小学校では回答が多かったみどりや水に関する環境教育については、中学校で花壇や畑づくり、緑と清流ポスターへの応募が比較的多くの学校で取り組まれています。他の項目についてはあまり実施されていませんでした。給食の食べ残しを減らす、清掃活動については、中学校ではほとんどの学校で取り組まれています。

実施率の低かった、ビオトープの設置・活用、雨水の浸透・利用、グリーンカーテンの設置については、費用面・設備面での課題があるものと思われます。



(3) 学校等による環境への取組状況



アンケート項目以外のその他の取り組み・独自の取り組みとして以下の回答がありました。

- ・一中緑のカーテンは、学年、委員会、部活動で役割を分担しながら 10 年以上継続している取組で、地域の協力も受けながら、環境意識を高める事に一定の成果をあげている（日野第一中学校）
- ・給食委員会による牛乳飲み残しゼロ呼びかけ
- ・生徒会によるエコキャップ回収
- ・裏紙の活用
- ・資源ゴミの分別
- ・節水・消灯（空き教室）の励行
- ・生徒会活動（テトラパック回収）（平山中学校）
- ・生徒会やボランティア部を中心に、ペットボトルキャップの回収やひまわりデー清掃活動等のボランティア活動に取り組んでいる（日野第一中学校）
- ・PTA・ボランティア生徒による校内清掃
- ・学年行事（第3学年、保護者と連携した地域清掃）（平山中学校）

④ まとめ

多くの学校等において、種々の取り組みが行われています。

傾向としては、低年齢ほど、自然や動植物に触れ合うなど、情操教育的な効果が期待できる環境教育が多く実施されていると言えます。年齢が進むにつれて、自然と触れ合う機会は少なくなり、環境教育のテーマがごみ問題や地球温暖化問題へ移行していくことがうかがえます。施設としての取り組みでは、ごみの分別、節電、節水については多くの学校等で取り組まれています、太陽光発電、雨水の浸透・利用、グリーンカーテンなどについては実施率が低く、費用面・設備面での課題があるものと考えられます。

4. 環境への取組状況

(アンケートに回答いただいた学校等)

市立幼稚園

第二幼稚園, 第四幼稚園, 第五幼稚園, 第七幼稚園

私立幼稚園

日野・多摩平幼稚園, 日野台幼稚園, 欣浄寺みのり幼稚園, 日野ふたば幼稚園, 光塩女子学院日野幼稚園, 日野わかくさ幼稚園, 百草台幼稚園, 日野ひかり幼稚園, 杉野幼稚園, 日野しらゆり幼稚園

市立保育園

たまだいら保育園, ひらやま保育園, あらい保育園, みさわ保育園, たかはた台保育園, みなみだいら保育園, あさひがおか保育園, もぐさ台保育園, おおくぼ保育園, しんさかした保育園

私立保育園

栄光保育園, 至誠第二保育園, つくしんぼ保育園, 日野保育園, 日野第二保育園, 日野わかば保育園, 万願寺保育園, ひよこハウス多摩平, ひよこハウス豊田, たかはた北保育園, 豊田保育園, 上田せせらぎ保育園, 栄光保育園南平分園, しせい太陽の子保育園, 至誠ひの宿保育園, 至誠あずま保育園, 栄光平山台保育園, 芝原保育園, 栄光豊田駅前保育園, 日野駅前かわせみ保育園, 至誠いしだ保育園, むこうじま保育園, 栄光多摩平の森保育園, 栄光多摩平中央保育園, わらべ日野市役所東保育園, よつぎひの保育園, 子どもの森あさかわ保育園

小学校

日野第一小学校, 豊田小学校, 日野第三小学校, 日野第四小学校, 日野第五小学校, 日野第六小学校, 潤徳小学校, 平山小学校, 日野第八小学校, 滝合小学校, 日野第七小学校, 南平小学校, 旭が丘小学校, 東光寺小学校, 仲田小学校, 夢が丘小学校, 七生緑小学校

中学校

日野第一中学校, 日野第二中学校, 七生中学校, 日野第三中学校, 日野第四中学校, 三沢中学校, 大坂上中学校, 平山中学校

高等学校

都立日野高校, 都立日野台高校, 都立南平高校

(4) 大学による環境への取組状況

ここでは、日野市内にキャンパスがある 3 つの大学について、環境への取組状況を紹介します。

実践女子大学日野キャンパスの環境への取組

〒191-8510 日野市大坂上 4-1-1 (042-585-8817) URL <https://www.jissen.ac.jp/>

実践女子大学日野キャンパスでは、生活科学部の学生約 1,900 名が学んでいます。本学は、各キャンパスにエネルギー管理責任者を置き、エネルギー管理を行うと共に、教職員や学生に対して省エネルギーや温室効果ガス排出削減に関する啓発活動を展開しています。具体的には、地球温暖化防止・省エネ意識醸成のため、全学的な「クールビズ」及び「ライトダウンウィーク」を実施しています。その他、毎月の電気使用量を学園イントラネットで周知したり、各教室の出入り口に退出時の照明・空調オフを促すシールを貼付したりするなど、一人一人の省エネ意識を高める工夫をしています。

また、学生主体の取組では現代生活学科の環境・エネルギーゼミの学生が、エレベーターに階段利用を勧めるポスターを掲示したり、学内のリサイクル活動（ペットボトルキャップ、割り箸、使い捨てプラスチックを回収）をしたりと、積極的に活動しています。

今後も、照明の LED 化や機器更新の際は省エネタイプのものを採用するなどして、エネルギー消費量の削減に努めてまいります。

東京都立大学（旧：首都大学東京）日野キャンパスの環境への取組

〒191-0065 日野市旭が丘 6-6 (042-585-8610) URL <https://www.tmu.ac.jp/>

東京都立大学では、環境に配慮又はそれに寄与するための研究活動や高い環境意識を持った学生を社会へ輩出する活動として「エコキャンパス・グリーンキャンパス」を推進しており、日野キャンパスにおいても推進部会を設置し、自然環境と人間環境の両立に配慮した取り組みを検討及び実施しています。

この取り組みの一環として、2019 年度も引き続き各研究室から「エコリーダー」を選出しました。「エコリーダー」とは、学生主体による環境保全活動を促すことを目的とし、研究室内での省エネルギーやエコ活動の啓蒙、事務局と各研究室の学生達の橋渡しの役割などを担当します。日野キャンパスではエコリーダーを通じて、各部屋の空調管理やゴミの分別・削減に取り組み、教職員のみならず学生を含めたキャンパス全体として環境へ取り組んでいます。

2019 年度に東京都立大学日野キャンパスで取り組んだ主な事例を以下にご紹介いたします。

2019 年度の主な環境への取り組み

- ・ゴミ分別の徹底(エコリーダーを通じた分別方法の周知、職員による分別チェック)
- ・学生作成ポスターによる節電等の啓発強化
- ・不要となった机等の物品のキャンパス内リユース
- ・再資源化を目的にしたパソコンや周辺機器及び古紙類等の売払いを実施
- ・空調機器の効率的運用や適切な温度設定によるエネルギー使用量の削減

4. 環境への取組状況

明星大学の環境への取組

〒191-8506 日野市程久保 2-1-1 (042-591-5111) URL <https://www.meisei-u.ac.jp/>

明星大学は、2010 年度に日野市、明星大学、東京都の間で「東京グリーン・キャンパス・プログラム」の協定を結んで以来、日野市東光寺緑地保全地域を活動フィールドとした授業を行ってきました。

2019 年度は、6 月 23 日に理工学部総合理工学科環境科学系 1 年生 46 名が授業（環境基礎ゼミ：必修科目）の一環として緑地保全活動を行いました。活動は班に分かれ、各班には学系の教員と上級生の学生が配属され、緑地管理ボランティアの会の方に指導していただき、モウソウチクの伐採や下草刈りを行いました。林床部がアズマネザサやススキなどに覆われ、生物多様性が失われていましたが、本活動により、絶滅が危惧されている希少種の生育環境が整備されつつあります。

また、学生は、野外での緑化活動以外にも、学内のゴミを実験室に集め、ゴミの種類と重量を測定する、廃棄物組成調査の実習も行っています。この活動を通じて、消費者としてのゴミ分別にとどまらず、廃棄物が収集されて、その後どのように処理されていくのかを学んでいます。

また、学生ボランティアや体育会メンバーが中心となり、地域の緑化清掃活動にも積極的に参加しています。2019 年度は、5 月 19 日に大学近隣を流れる『程久保川』の清掃活動に、野球部、防犯ボランティア隊 MCAT、本学の個人ボランティアが参加し、地域の方と協力して川を綺麗する環境保全活動に参加しました。5 月 26 日に行われた日野市内一斉清掃には、硬式野球部、男子籠球部（バスケットボール）、男子送球部（ハンドボール）、防犯ボランティア隊 MCAT、吹奏楽団、体育会本部及び個人の総勢 77 名の学生が参加しました。

明星大学全体では、省エネルギーを推進するため、授業と連動した、空調管理システムの導入や、照明の自動化に取り組んでいます。また、日野市の社会福祉協議会のボランティアセンターが行なっている、「ペットボトルキャップリサイクル活動」に賛同し、学内の全てのゴミ箱の上にペットボトルキャップの回収ボックスを設置しています。

(5)事業者による環境への取組状況

第2次日野市環境基本計画では、その主体を市民、民間団体、事業者、市の四者としています。2002年度に国内でも先進的な取り組みとして、事業者自らがその事業内容を地域に積極的に公開する「リスクコミュニケーション」を始めたことをきっかけに、白書でも市内の事業者（7事業者）の環境への取り組みを掲載しています。

(株) いなげや 環境への取組

〒190-8517 東京都立川市栄町 6-1-1(本社) (042-537-5111)

URL <http://www.inageya.co.jp/company/activity/>

“ペットボトル自動回収機”導入の取り組み

株式会社いなげや（本社／東京都立川市、代表取締役社長／本杉吉員）は、いなげや店舗の店頭で“ペットボトル自動回収機”を導入し、省CO₂型リサイクルシステムを構築することで、ペットボトルからペットボトルへのリサイクル“ボトル to ボトル”を推進しております。

ペットボトル回収量が年々増加

容器包装であるペットボトルは、安全安心・便利で軽量なことから、飲料などの商品を販売することに、最も適した容器素材として、消費者に広く普及し欠かせないものとなっています。メーカーの容器開発も盛んなことから市場への流通量が増加するに従い、当社での店頭回収量が年々増え続けており、今後も益々増加することが予想されております。

自動回収機を60台導入

2017年、環境省補助事業を活用し、トムラ・ジャパン株式会社（本社／東京都中央区）より“ペットボトル自動回収機”を購入いたしました。2015年9月より設置をはじめ、回収量の多い店舗から、順次60台が稼動致しました。

2020年3月現在、76台の設置をしております。

機器の特徴

- ・トムラ・ジャパン社製 圧縮タイプ、破砕タイプ
- ・識別センサーにより、色付き・ラベル付き・汚れ・残渣のボトル選別。（産業廃棄物の排除）
- ・圧縮（つぶす）することで、ボトルを減容（1/3～1/4）でき、店舗での回収作業頻度が減少する。（圧縮タイプ）
- ・減容により、保管スペースの削減や、積載率の向上から輸送効率の向上も期待できる。
- ・優良な資源として効率的な再生原料の製造につながる。

当社戻り便を活用

回収したペットボトルを以前は個店ごとに収集しておりましたが、当社物流センター（立川青果・生鮮センター）から各店に商品配送した戻り便を有効活用し、同センターに集約しています。この集約したペットボトルを、効率良く再生事業者へ輸送することで、CO₂の削減につながってまいります。

ボトル to ボトルを推進

現在、国内で回収されたペットボトルの約半数が海外に輸出され、繊維などのリサイクル素材として使用されています。しかし国内で回収されたペットボトルは、国内の貴重な優良資源として国内循環することが望ましく、限りある天然資源（石油）の使用抑制や、CO₂の削減に寄与することと考えております。

4. 環境への取組状況

回収されたペットボトルは、リサイクル資源として国内有数の精製技術を有する再生事業者へ売却します。その後再生ペットとして生まれ変わったペットボトルは、国内の飲料メーカーによって使用されます。

いなげやは、“ボトル to ボトル”を推進し、循環型社会の実現に貢献してまいります。

いなげやペットボトル募金

店頭回収されたペットボトルは、お客様からお預かりしたリサイクル資源として、売却益の一部を地域に還元いたします。

ペットボトル募金報告	
回収本数×0.2円に換算	
当店で回収本数(2019年度)	288,361本
東京都への寄付金額(42店舗合計)	952,479円
当店で回収したペットボトルの寄付額を、お子様支援(子ども食堂など)の使途で東京都社会福祉協議会へ、贈呈させていただきました。	
リサイクルへのご協力ありがとうございました。	
店長 156	



設置店舗イメージ

昨今、子どもさんへの支援(子ども食堂、サークル等)要請の声が高まる中、2019年度は、ペットボトル回収機を設置している東京都、神奈川県、埼玉県の各社会福祉協議会様に、「子どもさんへの支援」にお役立て頂きたく寄付致しました。

いなげや各店にあるリサイクルステーションをはじめとする環境活動を通じて、地域のお客様と共に環境意識を高め、今後も様々な取り組みを行うことで地域に貢献してまいります。



コニカミノルタ（株）東京サイト日野 環境への取組

〒191-8511 日野市さくら町1 (042-660-9426)

URL <https://www.konicaminolta.jp/about/csr/index.html>

コニカミノルタグループの環境への取り組み

コニカミノルタは、地球温暖化防止や資源循環、生物多様性の保全に向け、長期環境ビジョン「エコビジョン2050」を策定し、さまざまな取り組みを進めています。

2019年度は中期環境中計2019の最終年度として、従来より進めてきたグリーンファクトリー活動¹⁾において、社内認定基準「エクセレントグリーンファクトリー²⁾」の全世界の主要生産拠点達成を目指し活動しました。

1) コニカミノルタのグリーンファクトリー活動

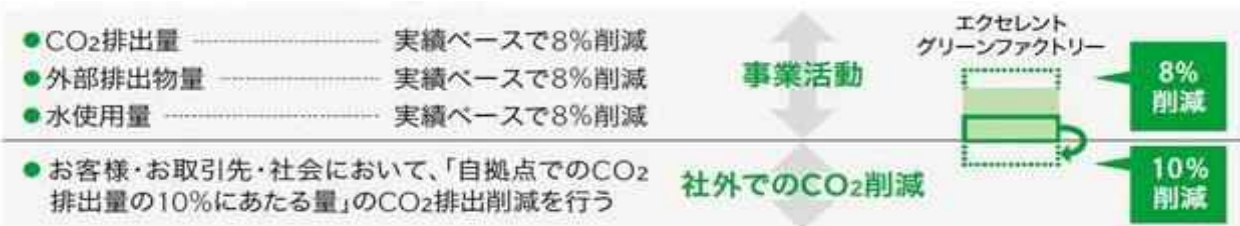
背景と課題認識

環境問題の深刻化とともに、社会全体でエネルギー・資源の効率的な活用が求められています。一方で、環境負荷低減は一企業の取り組みだけでは限りがあり、活動対象を部材などを供給いただくお取引先に広げ、サプライチェーン全体で地球環境への貢献度を高めていくことがグローバル企業に求められています。

目指す姿

コニカミノルタは、生産工程の効率化を追求するとともに、生産技術の開発・改善を進め、環境負荷低減とコストダウンを同時に実現する「グリーンファクトリー活動」を推進します。
また、自ら培った環境技術・ノウハウを提供し、お取引先と一体となって環境負荷低減に取り組む「グリーンサプライヤー活動」を通じて、サプライチェーン全体での大きな環境貢献へと発展させていきます。

2) エクセレントグリーンファクトリー認定基準



コニカミノルタグループの情報公開への取り組み

コニカミノルタの環境への取り組みは、CSRレポートに中期的な目標、環境報告書に単年度の実績という構成で2冊を使い分け、報告しています。

これら活動に対し、第23回環境コミュニケーション大賞において、最高位の「環境報告大賞（環境大臣賞）」を受賞しました。第19回、第20回に続き3回目の大賞受賞となります。



4. 環境への取組状況

【製品紹介】

情報機器の省エネルギー化

コニカミノルタでは製品の省電力化のため低温定着トナーと効率的な定着システムの開発に取り組んでいます。

2019年に発売した「bizhub C360i」シリーズでは、従来機と比較して1週間の標準消費電力（TEC 値）³⁾を20%以上低減し、CO₂排出量も大幅に減少させています。



3) 標準消費電力（TEC 値）

「国際エネルギースタープログラム」の基準で使用されている値。

省エネ法等にも採用されている消費電力のデファクトスタンダード。

東京サイト日野の活動紹介：省エネルギー活動

コニカミノルタ東京サイト日野は、「東京都地球温暖化対策の取組が特に優れた事業所」に認定されています。

①生産工程の最適制御を導入することによるエネルギー効率の向上

②熱源設備の中央監視システム

③高効率の熱源設備や照明器具の積極的な導入

④事業所内の建物、分電盤単位でのエネルギー計測による電気使用量の「見える化」等を行ってきましたが、上記の継続的な実施に加え、更なる省エネルギーへの取り組みとして、

⑤エネルギー供給設備の稼働状況の季節変動に応じた運用の改善

⑥設備の利用状況を把握した上で、未稼働設備へのより緻密なレベルでのエネルギー供給の停止 等

生産・研究活動を通じて継続したエネルギー使用量の削減を進め、2019年度は前年度比7%削減しました。

（株）スーパーアルプス 環境への取組

〒192-0011 八王子市滝山町 2-351 (本社) (042-692-2111) URL <http://superalps.info/csr>

省エネルギー

エネルギー使用量削減のために、店舗設備の更新を進めています。省エネルギータイプの冷凍冷蔵設備・空調機、LED 照明の導入により、南平店では改装前と比較して電気使用量を約30%削減いたしました。2019年は、新店舗にて太陽光発電設備を導入し、店舗電気使用量の約20%を賄える実績となっています。

廃棄物削減

店頭回収ボックスを設置して、食品トレー、ペットボトル、ペットボトルキャップ、缶、牛乳パックをリサイクルしています。食品トレーは回収後、トレーメーカーの再生工場に搬入して新たなトレーとして生まれ変わります。ペットボトルの一部は再びペットボトルとして再生される他、繊維製品にもリサイクルされています。

店舗内では、食品残渣、魚腸骨、肉脂、廃油、段ボール、雑紙、発泡スチロールをリサイクルしています。食品残渣は、バイオガス化して発電のためのエネルギーに使用されています。

その他

レジ袋削減推進のため、2019年度にはエコバスケットをオリジナルデザインにリニューアル

して利用推進に取り組みました。

物流については、コンテナボックスによる納品をさらに進めて段ボール使用量の削減を推進するとともに、物流センターを活用して店舗配送トラックの削減を進めています。

最新改装店舗にて、一部に冷凍冷蔵設備にCO₂冷媒を導入しました。フロンガスを使用しない環境に配慮した設備となっています。

セイコーエプソン（株）日野事業所 環境への取組

〒191-8501 日野市日野 421-8 (042-586-6226) URL <https://www.epson.jp/SR/environment/>

エプソンでは、地球の環境負荷許容量を認識し、2050年に向けて、「商品とサービス」のライフサイクルにわたるCO₂排出を10分の1にすることを目指す「環境ビジョン2050」を2008年に策定しました。

この長期目標の実現に向けて、中間目標を立て、生産工程の環境負荷低減や商品そのものによる環境貢献、さらにはお客様の業務プロセスで生じる環境負荷低減に貢献できる商品・サービスの提供を展開しています。

また環境活動を含むCSR活動を通じて、SDGs（持続可能な開発目標）の達成を目指しながら、持続可能な社会の実現に向け、事業活動を通じてエプソンならではの環境価値を創出し続けています。

当事業所はセイコーエプソンとグループ会社で構成されており、環境活動は共通課題の「省エネ」、「省資源・再資源化」、「地域社会貢献」を3本柱として、連携・協力して推進しています。

1. 省エネ活動

省エネに関する社内ガイドラインを設けて、事業所全体で省エネ活動を推進しています。

活動の一環として、レーザープリンタ方式と比べて低消費電力で消耗品が少ないインクジェットプリンター複合機を全事業所で導入を進め、消費電力を58%、使用済み消耗品量を60%、それぞれ削減し、環境負荷の低減を図っています。

（※14年度下期・15年度上期と17年度下期・18年度上期の全事業所での導入効果）

2. 省資源・再資源化

2019年度に事業所から排出した廃棄物は、34%が紙類、16%が金属くず、20%がプラスチックでそのほとんどを再資源化しています。紙の回収については、分類を細分化し、社内でのスマートサイクル事業に活用。自社製品の部品製造原料や、乾式オフィス製紙機『ペーパーラボ』を使用した再生紙の製造にて使用しています。

3. 社会貢献活動

春・秋2回の日野市内一斉清掃への参加、エコキャップ活動などを実施。2012年度から実施している当社製使用済みインクカートリッジの回収では、2019年度は5,570ポイントをベルマーク財団経由で寄贈。資源の有効活用と廃棄物の減少による地球環境保全を図りながら、教育支援という社会貢献活動への参画を実現しております。



2019.5.24 日野市内一斉清掃に協力、事業所周辺の清掃活動を実施しました

4. 環境への取組状況

東京ガス（株）東京西支店 環境への取組

〒190-0012 立川市曙町 3-6-13 (042-526-6125) URL <https://www.tokyo-gas.co.jp/>

東京ガスグループは、経営理念、企業行動理念の下、「環境方針」と具体的な取り組み課題および定量的な達成目標である「環境保全ガイドライン」を定め、グループ全体で環境経営を推進しています。

事業活動におけるCO₂排出の抑制、および、お客さまのエネルギー利用における環境負荷の低減に努めています。お客さまのエネルギー利用に伴うCO₂排出の抑制対策として、環境性に優れた天然ガスの利用促進や高効率機器の開発・普及に積極的に取り組んでおり、天然ガスコージェネレーションシステムによる分散型エネルギーシステムの普及拡大、太陽光・太陽熱・バイオマスを始めとする再生可能エネルギーの供給側の開発と利用促進、家庭用高効率ガス機器システムの普及促進により、環境負荷低減に貢献しています。

1. 東京ガスグループのSDGs達成に向けた取り組み

「クリーンなエネルギーを安全に安定的かつ低コストでお届けし、持続可能な暮らし・まちづくりに取り組む」ことでSDGs達成に貢献していきます。総合エネルギー・グローバル企業を目指す中で、130年以上にわたり培ってきたエネルギー事業を通じ、引き続き天然ガスの普及・拡大や再生可能エネルギーの導入などに取り組んでいます。

今後もCSR推進の一環として、継続してグループ従業員へのSDGsの理解浸透を図るとともに、事業を通じたSDGsへの貢献にチャレンジを重ね、社会の持続的な発展に寄与していきます。



出典：東京ガスグループCSRレポート



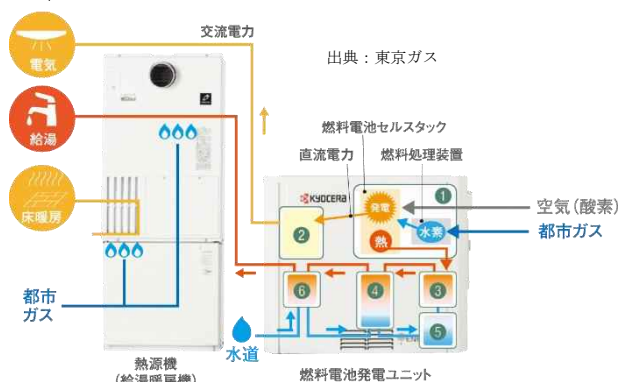
CSRの取り組み詳細はこちらから ▶

2. 「マイホーム発電」～家庭用ガスコージェネレーションシステム～

「マイホーム発電」は、これまでは主に大規模な工場や建物に導入されていたガスコージェネレーションシステムを家庭用に応用したものです。「我が家で発電」という新しい楽しみ・生活価値をもたらし、エネルギー消費量やCO₂排出量の削減にも貢献しています。

世界最小サイズの家庭用燃料電池「エネファームミニ」を協業により製品化し、より多くの家庭への設置が可能となりました。

家庭用燃料電池「エネファームミニ」▶



出典：東京ガス

3. 市民への環境情報等の提供

見える化による省エネ行動を促進するために「my TOKYO GAS」（個人のお客さま向け東京ガスのWeb会員サービス）では、Web上で電気の使用量を月別・日単位・時間単位で確認できるほか、似た家庭とのガスと電気の使用量比較による見える化や、様々な省エネアドバイスなどの情報提供をしています。

my TOKYO GASの詳細はこちらから ▶



4. 市内の小・中学校での出張授業の実践

東京ガスは日野市の小中学校への出張授業、企業館校外学習等を通じ、次世代を担う子ども達にエネルギーや環境の大切さを伝えています。これからも人と環境に優しい活動を実践・支援してまいります。

日野自動車（株）環境への取組

〒191-8660 日野市日野台 3-1-1 (本社) (042-586-5563)

URL <https://www.hino.co.jp/corp/csr/>

日野自動車は「人、そして物の移動を支え、豊かで住みよい世界と未来に貢献する」の企業理念のもと、環境保全を経営における重要課題と位置づけ、積極的な活動を推進してきました。地球規模で進む地球温暖化や環境汚染を低減していくことは人類共通の課題であり、グローバル化を進める日野自動車の果たすべき社会的責任も大きくなっています。2017 年には、長期的な視点で事業における環境負荷最小化を目指す「日野環境チャレンジ 2050」を策定。日野グループ全員参加で社会・地球の持続的な発展のために、積極的に環境保全に取り組んでいます。

1. 製品開発における環境への取組み

日野自動車は 1991 年に世界で初めてハイブリッドバスを商品化・販売して以来、常に業界をリードしてきました。2017 年大中型トラックをモデルチェンジした他、2019 年夏には大型ハイブリッドトラック「日野プロフィアハイブリッド」を販売するなど、製品の燃費向上に取り組む他、電気自動車に代表される次世代車両開発にも取り組んでいます。

またサービス面でも車両一台一台に最適な整備を提供することで、環境性能の維持につとめています。これからも日野自動車が持つ技術力を活かし、次世代の物流を担う車両を世界中に提供し、徹底したサービスを提供することにより、地球環境保全に貢献していきたいと考えます。

2. 生産活動における環境への取組み

日野自動車は、生産活動においても環境負荷低減活動(CO₂削減活動、節水活動、省資源活動など)に積極的に取り組んでいます。

設備導入・更新時等には、企画・設計段階から「順法」「環境リスクの未然防止」「環境パフォーマンス向上」を追求する『エコファクトリー活動』を通じて、環境に配慮した工場設計を行っています。また、日野工場を含む各生産拠点のエネルギーの一部を太陽光で賄うなど、「環境にやさしい製品を環境にやさしく作る」活動を推進しています。

今後は各工程のシンプル化や地道な環境保全活動に加え、革新技術積極導入による生産の自動化・効率化を図り、環境負荷の最小化実現を目指します。

3. 地域社会との環境コミュニケーション

日野自動車は、周辺地域の皆様とのコミュニケーションを大切にしています。情報交換会や地域行事、定期的な懇親会などを通じて得られた皆様の声を企業市民としてしっかりと受け止め、日野自動車の環境活動につなげています。

4. 環境への取組状況

富士電機（株）東京工場 環境への取組

〒 191-8502 東京都日野市富士町 1 (042-583-6111)

URL <https://www.fujielectric.co.jp/about/csr/>

富士電機は、地球環境保護への取り組みを経営の重要課題のひとつと位置づけ、地球環境保護に貢献する「環境経営」を推進しています。

自社が持つエネルギー・環境技術を生かした製品・サービスを通じ、地球温暖化をはじめとするさまざまな環境負荷低減に向けて取り組むと同時に、設備投資や地域に密着した活動を行うことで安心・安全なまちづくりに貢献しています。

1. 工場内照明のLED化推進

従来、東京工場内に設置している照明は、蛍光灯タイプは約 17,000 台、水銀灯タイプは約 80 台あり、消費電力の少ないLED照明への切り替えが急務でした。

2020年3月末時点のLED導入率は、蛍光灯タイプで約91%、水銀灯タイプで100%となっており、CO₂排出削減量は約730 t-CO₂（一般家庭の約250軒分相当）となっています。

また、昨年度導入したLED更新工事では人感センサー・昼光センサーも同時に採用し、従業員の不在時や日中の明るい時間帯は照度の減光を行い、更なる省エネを図りました。

2. 空調制御システムの導入

フロン排出抑制法により、東京工場の空調機は計画的に高効率でフロン破壊係数の低い冷媒ガスを採用した空調機に更新を行ってきました。高効率機種の導入率は約86%となり、今後も更新を行っていきます。

また昨年は、省エネをさらに進めるため同じ建物内の空調機同士を制御線で結び、空調制御システムを導入致しました。

このシステムにより個別の設定温度や運転時間が遠隔で把握でき、無駄なエネルギーを無くすなどきめ細かい空調管理が可能となりました。

5. 環境関連決算額（2018 年度）

※本書編集時点で最新となる 2018 年度のデータを掲載しています。

歳入

環境関連決算額（2018 年度）		
分野	項目	決算額（単位 千円）
みどり	市民農園使用料	3,711
	公園使用料	9,332
	緑地保全地域植生維持管理費	920
	程久保川・谷地川遊歩道維持費	12,000
	環境緑化基金繰入金	146,500
水	河川使用料	7,693
ごみ	清掃手数料	638,252
	循環型社会形成推進交付金	291,517
	ごみ処理関連施設及び周辺環境整備基金繰入金	277,000
	資源物売り払い代金	62,462
	周辺環境整備費	600,000
地球温暖化防止	放置自転車等撤去手数料	3,464
	省エネ設備等導入支援事業	60,761
生活環境	墓地管理手数料	569
	工場認可手数料	44
	畜犬登録手数料	4,602
	屋外広告物許可手数料	1,335
	屋外広告物許可事務費	2,612
合計		2,122,774

歳出

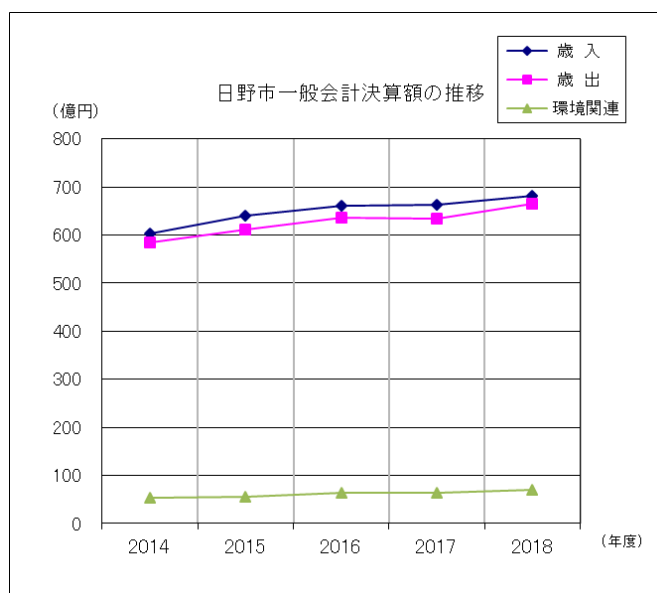
環境関連決算額（2018 年度）		
分野	項目	決算額（単位 千円）
みどり	農業改善経費	37
	振興対策経費	6,911
	市民農園育成経費	4,114
	援農制度育成経費	660
	都市農業シンポジウム経費	154
	認定農業者支援経費	1,077
	援農ボランティアコーディネート事業経費	64
	日野産ブランド支援事業経費	207
	学校給食供給支援事業経費	8,336
	七ツ塚ファーマーズセンター管理運営費	8,324
	農業体験農園支援経費	2,011
	生産緑地保全活用検討経費	431
	公園管理経費	115,149
	公園整備経費	457,071
	緑化推進事業経費	26,733
	緑の保全事業経費	14,051
	七生丘陵の自然と歴史調査事業経費	158
	特別展日野の自然～鳥とともに～	989
	田んぼの学校運営業務委託料	224

5. 環境関連決算額

分野	項目	決算額（単位 千円）
水	多摩川流域自治体交流事業負担金	273
	みんなで川へ繰り出そう！事業経費	32,513
	し尿処理施設経費	9,817
	し尿収集経費	29,576
	し尿処理施設整備経費	3,702
	一般管理事務経費	1,012
	清流啓発事業経費	3,585
	雨水浸透施設設置事業経費	254
	湧水対策経費	474
	河川維持管理経費	216,801
	「水都・日野」事業経費	27,281
	河川新設改良経費	3,987
	下水道事業繰出金	1,644,267
ごみ	生ごみ処理機保守業務委託料	359
	生ごみ処理機借上料	47
	ごみ処理関連施設及び周辺環境整備基金	391,966
	ごみ処理関連施設及び周辺環境整備基金利子	145
	ペーパーレス会議システム及びタブレット端末借り上げ料	1,391
	清掃総務費一般管理事務経費（人件費を除く）	20,347
	クリーンセンター維持経費	70,266
	ごみゼロ施策推進事業経費	147,791
	資源回収奨励事業経費	13,237
	資源物回収事業経費	401,590
	容器包装リサイクル法関連事業経費	37,669
	資源有効利用促進法関連事業経費	69
	生ごみリサイクル事業経費	2,527
	広域循環組合経費	436,316
	浅川清流環境組合経費	213,461
	3市ごみ減量市民会議経費	69
	ごみ処理施設経費	129,814
	可燃ごみ収集経費	388,468
	粗大ごみ収集経費	60,036
	不燃ごみ収集経費	210,392
	動物死体収集運搬経費	1,578
	ごみ焼却施設運転管理・警備経費	127,365
	ごみ処理施設排出物調査経費	2,787
	クリーンセンター施設更新経費	1,201,678
	クリーンセンター施設整備経費	162,864
	P C B廃棄物処理経費	67,119
	新可燃ごみ処理施設周辺環境整備経費	4,050
地球温暖化防止	ふだん着で行う CO2 削減事業経費	2,417
	L E D街路灯借上料	49,181
	自転車対策経費	40,173
	交通網整備支援経費	155,527

5. 環境関連決算額

分野	項目	決算額（単位 千円）
生活環境	消費者啓発事業経費	206
	消費生活相談事業経費	8,218
	消費生活運動育成事業経費	709
	食育推進会議運営経費	332
	生きもの共生事業	1,709
	ドッグラン運営事業経費	882
	空き地環境保全経費	16
	市内一斉清掃事業経費	1,570
	喫煙マナーアップ経費	297
	公害環境対策経費（人件費を除く）	5,018
	空き家等対策経費	5,252
総合	環境審議会事務経費	115
	環境保全推進経費	638
	カワセミハウス事業経費（人件費を除く）	16,703
	再生可能エネルギー活用推進事業経費	3,586
	ひの生きものプラン事業経費	34
	まちづくり条例経費	1,233
	まちづくり計画経費	27,226
	開発指導・地区計画届出受理経費	313
	ユニバーサルデザイン事業経費	621
合計		7,035,620



日野市一般会計決算額の推移

2018年度一般会計決算額

歳入 68,193,949,704 円

歳出 66,579,407,104 円

日野市一般会計決算額は、前年度比（歳出）5.1%増、環境関係決算額は11.3%増。

6. 市役所の環境配慮の状況

(1) 日野市環境マネジメントシステム

日野市の事務事業における環境負荷の低減と環境保全への積極的な貢献を行う仕組みを確立し、運用することを目的とし導入しています。

<これまでの経過>

2000 年度	日野市環境方針制定、マネジメントシステム運用開始、ISO14001 認証登録
2003 年度～ 2007 年度	生活・保健センター、防災情報センター、水道事務所、建築指導課、環境情報センター、郷土資料館、中央公民館、高幡台分館、図書館（全館）を適用範囲に加えた。
2011 年度	クリーンセンター事務所を加えた。
2012 年度	認証期間の満了に合わせて ISO14001 自己適合宣言に移行（12/6）※
2014 年度	日野市独自の環境マネジメントシステム「ひのエコ」に移行
2016 年度	環境方針に「市は市民・事業者・市民団体と連携・協力」を追記

※自己適合宣言とは、外部機関からの認証ではなく、自らがシステムに適合していることを宣言するもの

<環境マネジメントシステムでの取り組み>

毎年度、各部署の事務事業がどれくらい環境に影響を与えるかを調査し、その結果を基に具体的な目標・目的を設定して各部署が取り組むプログラムを作り実行します（2019 年度は 63 プログラムを実施）。そして、各プログラムの達成状況を四半期ごとに評価し、進捗状況に応じて取り組み方法を見直すなどの改善を行ない、目標の達成に向けて行動しています。

<取り組みのチェック及び評価制度>

年に一度、環境監査を実施しています。これは、環境監査員に任命された職員が各職場に入り、各課の取り組み（プログラム）状況や、決められた手順に従い実施しているかをチェックするものです（2019 年度は 7 月 18 日、19 日実施）。日野市では、2014 年 4 月に日野市独自の環境マネジメントシステム「ひのエコ」に移行しました。これは、環境方針に基づくシステムに関する事項を定め、日野市一丸となった環境改善と管理、維持を行なっていくもので、外部機関の検査が無いことから、自己チェックが大変重要となります。



2019 年度環境監査風景

そこで、環境監査の充実を目的に府中市、昭島市、調布市と 2014 年 9 月に環境マネジメントシステムに係る相互環境監査に関する覚書を交換し、4 市での相互監査を行っています。ルールに従い各課が取り組んでいるのかを確認するほか、環境監査としてしっかり機能しているかについても 4 市でお互いにチェックしています。

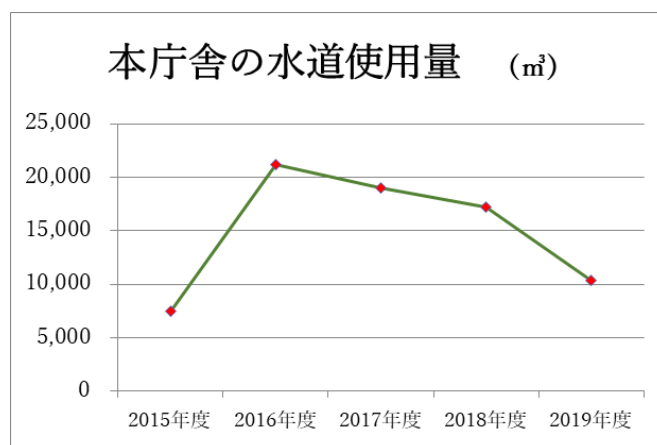
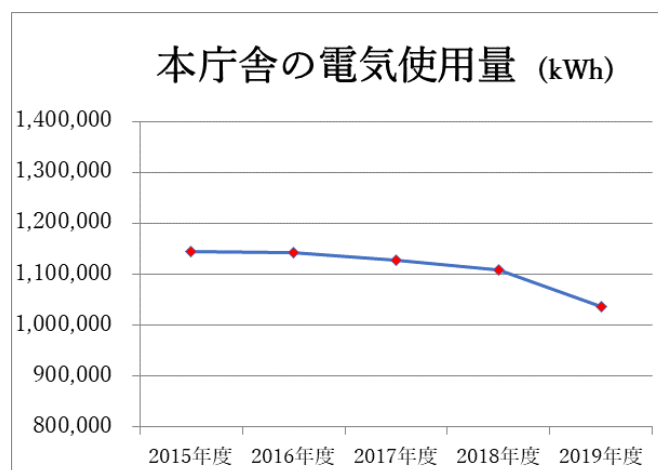
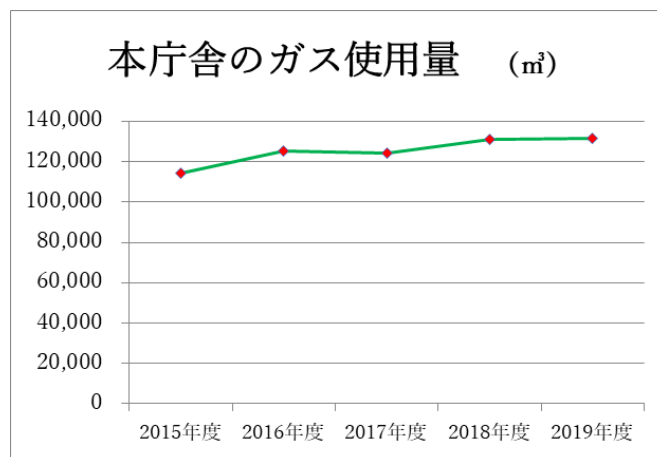
〔クローズアップ優秀部署表彰の取組事例〕

年度	該当部署	取組事例
2019	たかはた台保育園	園児が考える「ひのエコ」2019 年度上半期強化目標と、保護者も含めた園全体での取り組み。
	ひらやま児童館	児童が書いたポスターで環境配慮行動を啓発。

〔環境負荷低減の実績～本庁舎～〕

職員一人ひとりが省エネ・省資源の意識と取り組みを確実に実践してきました。直近5年の結果を下記のグラフに示しています。ISO14001 導入により、本庁舎内にあった冷蔵庫や電気ポットなどをほぼ撤去するなど、エネルギーの使用削減に向けた徹底した取り組みがスタートしました。その後、土曜開庁や1人1台パソコンの導入など、エネルギー消費増につながる施策もありましたが、職員は地道な環境配慮行動を実践してきました。

また、2018年度から市役所本庁舎において空調や照明機器の更新やトイレの改修を進めてきた効果として、電気と水道使用量に削減が見られます。今後も引き続き職員の意識を高め、環境負荷低減に取り組んでまいります。



※2016年度に水道の使用量が増加しているが、浄化槽から下水道への切り替えを行ったことが主な要因。

7. 環境基本計画の推進体制

（１）環境基本計画の推進

第2次環境基本計画策定から8年が経過しました。確実かつ継続的に計画に取り組むためには、推進体制の確立が非常に重要です。第1次計画の策定時にも推進体制を整備しましたが、役割分担が明確でなかったこともあり、効果的に進めることができませんでした。その課題を踏まえ、第2次計画では市・市民・事業者の役割を明確にしたうえで、市が進めるべき施策はその主管課が中心となり、市民の皆さんと定期的に検討して進めていく仕組みを整備しました。

現在、みどり分野、水分野、ごみ分野、CO₂分野の4つの分野に分かれ、それぞれの主管課と定期的な会議を開催しています。

先人から受け継いだ豊かな自然を次の世代に引き継ぐために、多くの市民の皆さんと共に取り組んでいきたいと思えます。日野市の自然に関心のある方は、ぜひ各分野の会議に参加してください。

各分野の会議に参加し、計画を推進している市民の皆さんから、これまでの取組状況や課題などを報告します。

【みどりグループ】

2018年度に続き、みんなの環境セミナーで、せせらぎ農園とのタイアップにより、6月7日に「どうして、消えちゃうの！？消えゆく田んぼで田植えと生き物さがし」を実施しました。向島用水路をたどっていく途中、「水車まつり」とも合流しました。用水路から田んぼまで歩き、用水路と田んぼの関係を知ってもらうとともに、田植えを体験してもらいました。そして、最後に農園で採れたキュウリなどを食べてもらい、田んぼが消えてしまう現実についてお話ししました。5組9名の参加者がありましたが、田畑が消えていくことを残念がる声がたくさんきかれました。

また、2019年度の活動では、緑の施策への支援・提言活動も始まりました。市の保有する緑地の管理について、管理の在り方を見直す必要性を認識し、市に多く見られる雑木林の現状把握と管理方針の検討について、緑と清流課とともに話し合いを始めました。個々の市の緑地に管理方針を決め、適切な管理をしながらより多くの市民に活用してもらう仕組みづくりが必要なこと、また、これに雑木林ボランティア講座の人材育成事業を位置付けていく必要があることなどを話し合ってきました。具体的には、雑木林ボランティア講座の卒業生を、緑地管理の現場に導いていく道筋が必要であることなどの改善提案を行いました。

2020年度からもこの活動を継続し、緑地管理の仕組みに関わっていく予定です。

【水グループ】

2018年度の反省より2019年度は実施項目を①水辺環境整備計画の時点修正のためのデータ収集と議論、②各課事業、プランについてヒヤリング、③水辺環境整備計画の時点修正及び環境基本計画改定に向けた準備としました。

横断的なプロジェクトが必要という認識の上で、10月以降関係各課にヒヤリング実施を予定しましたが、台風19号対応や関係課担当との調整がうまく出来ず、定例会も度々実施出来ませんでした。

した。

減少傾向にある水田の保全、関連する用水の保全、環境保全等関連する施策について庁内で横断的なプロジェクトなり部署なりが必要ですが、各課のプランや事業との整合性、新たに示された SDGs 未来都市の取組との整合性が課題と考えられます。

環境基本計画の推進の現況においても、環境基本計画改訂に向けての議論のためにも、まずは事務局がどのように上記のビジョンや各課プラン、事業等と整合させるか方向性を示す必要があると思います。

【ごみグループ】

ごみグループとしては、「日野市ごみ減量推進市民会議」と「ひの・まちの生ごみを考える会」の2つの組織があり、それぞれごみゼロ推進課と毎月1回定例会議を持っています。

「日野市ごみ減量推進市民会議」は、「日野市ごみゼロプラン」の推進組織であり、プラスチックごみや紙ごみの減量のために、主にレジ袋の削減と、容器包装や新聞紙の販売店回収の活用に取り組んでいます。レジ袋の削減では、スーパーとの「レジ袋無料配布中止に向けた共同会議」を定期的に開催し、また、各スーパーの出口でマイバッグ持参率調査を実施しています。

「ひの・まちの生ごみを考える会」は、生ごみの減量とともに、生ごみの堆肥化とそれを使った野菜作りや花作りを推進しています。2つの下部組織があり、「生ごみリサイクルサポーター連絡会」は、家庭でのダンボールコンポストによる生ごみ堆肥化の普及活動を行い、「まちの生ごみ活かし隊」は、生ごみを戸別回収し、「せせらぎ農園」の畑に投入して野菜や草花を栽培する一方、幼稚園や小学校などに生ごみでの野菜作りを広めています。

【CO₂グループ】

CO₂グループは、月に1回の定例会を開催し、「脱炭素社会を築くまち」を目標に、施策を進めようと努力しています。

施策の一つとして、市内の全小学校を対象とした、夏、冬各1回行うアンケート「エコキング」で、家庭の省エネを推進、啓発しています。保護者に対してもアンケートを実施し、地球温暖化の被害、対策に対する啓発を主眼として、実施しています。2019年の台風19号による、浅川氾濫警報により、地球温暖化の被害が、身近になったと感ずる人が増大しました。

また、市内のRE100参加企業とのミーティング実施を計画しています。

今後は、東京都の温暖化対策と連動し、炭素税の啓発、脱石炭、SDGs関連の活動を検討、推進していきたいと思います。

日野市の環境活動と海外(USA ポートランド、ニューヨーク等)の環境活動を比較して参考になるよう推進したいと思います。

(2) 日野市立カワセミハウスの活動状況

2019年度の日野市立カワセミハウスの活動状況は次のとおりです。

①日野市ならではの魅力発信

・「みんなの環境セミナー」等の開催

カワセミハウスでは、日野市の自然環境の魅力を市民に広く知ってもらい、その保全への意識

7. 環境基本計画の推進体制

を高めてもらうことを目的に、動植物や湧水等の観察や学習を行う「みんなの環境セミナー」を季節に応じて開催しています。2019 年度にはセミナー7 回を開催し、延べ 147 人の参加者がありました。

実施日	テーマ	講師・会場	参加者
2019年6月8日	どうして消えちゃうの!? 消えゆく 田んぼで田植えと生きもののさがし	講師：日野市環境基本計画推進会議 みどりグループ 場所：向島用水周辺・せせらぎ農園	9
6月16日	駅のツバメ	講師：金子凱彦氏・村岡明代氏 場所：豊田駅周辺	12
7月 4日	黒川清流公園の夏を探そう 《大》	講師：小倉紀雄氏・杉浦忠機氏、 場所：カワセミハウス・黒川清流公園	37
7月27日	黒川清流公園で昆虫採集をしよう	講師：森川正昭氏・関根孝子氏 場所：カワセミハウス・黒川清流公園	24
10月19日	里山づくり 《雑》	講師：倉本宣氏・加藤勝康氏 場所：カワセミハウス・黒川清流公園	22
12月 5日	黒川清流公園の冬を探そう！《大》	講師：小倉紀雄氏・村岡明代氏 場所：カワセミハウス・黒川清流公園	31
2020年1月25日	親子で楽しむ野鳥観察	講師：小久保雅之氏・藤田淳子氏・村岡明代氏 場所：黒川清流公園	12
合 計	実施 7回	参加者数	147 人

注 1) 《大》は市民環境大学の、《雑》は雑木林ボランティア講座の公開講座であることを示します。

注 2) 合計欄に示す参加者数 147 人には、市民環境大学の公開講座 2 回に参加した同講座の受講生 47 人、及び雑木林ボランティア講座の公開講座 1 回に参加した受講生 19 人の計 66 人が含まれています。

・「カワセミハウス写真展」の開催

「みんなの環境セミナー」と同じ目的のもと、日野市内で見られる多様な生きものの写真展を 4 回開催しました。会場はカワセミハウスで、昆虫と野鳥の写真展は、関連する「みんなの環境セミナー」と同時期の開催としました。

開催期間	テーマ	写真提供など
2019年 7月24日－7月31日	日野の昆虫たち	写真提供：日野の自然を守る会 森川正昭氏
9月25日－10月1日	日野の魚たち	写真提供：水生生物研究家 鶴田大三郎氏
11月27日－12月3日	日野の植物たち	写真提供：日野の自然を守る会 植物研究グループ
2020年 1月19日－1月26日	日野の野鳥たち	写真提供：日野の自然を守る会 小久保雅之氏 自然観察指導員 園村茂夫氏

・「黒川マイスター講座」第 2 期の実施

黒川マイスター制度は、東豊田緑地保全地域および黒川清流公園を拠点として、この地の恵まれた環境に学び実際の保全（管理）活動を行うことを通して、緑地保全のリーダーの育成と地域づくりへの積極的な参画を促すことを目的としています。

第 2 期の講座は 2019 年 5 月にスタートし、カワセミハウスと黒川清流公園を主な会場に翌年 3 月まで毎月 1 回、計 11 回の講義や実習、観察会が行われました。

2020 年 3 月の修了式では、1 年間の講座を修了した 9 人の受講生に「黒川マイスター認定証」と「マイスターバッジ」が授与されました。

7. 環境基本計画の推進体制

実施日	テーマ	目的・対象・内容	参加人数
2019. 5. 24	講座 1. 開講式、講義 オリエンテーション	開講式、日野市の公園緑地、黒川の植物、オリエンテーション 他 講師: 緑と清流課職員、カワセミハウス 杉浦忠機氏他	8
6. 28	講座 2. 講義・実習	黒川清流公園の湧水はどこから来るのか? 講師: 東京農工大学名誉教授 小倉紀雄氏 黒川清流公園の全体観察・歴史、地形 講師: 水と緑の日野・市民ネットワーク 飯島利三氏	9
7. 14	講座 3. 講義・実習	雑木林の保全と管理・活用方法、安全管理・安全対策 講師: NPO 法人森づくりフォーラム 松井一郎氏	10
8. 17	講座 4. 実習	道具の正しい使い方と実際の作業（鎌、鋸、鉋、剪定バサミなど） 講師: 水と緑の日野・市民ネットワーク 飯島利三氏	10
8. 30	講座 5. 講義・実習	黒川清流公園の水生昆虫 講師: 元日野市緑と清流課職員 鶴田大三郎氏 黒川清流公園で虫の気持ちを考えよう 講師: 元十文字学園女子大学教授 津吹卓氏	9
10. 25	講座 6. 実習	目的に沿った公園の手入れ作業 講師: 緑と清流課職員	8
11. 29	講座 7. 講義・実習	トコロジストになろう!! 講師: (公財) 日本野鳥の会普及室 箱田敦只氏	9
12. 20	講座 8. 講義・実習	黒川清流公園徒然雑記 講師: 森林インストラクター 田中徹氏 黒川清流公園。とりの鳥しらべ 講師: 日野の自然を守る会 金子凱彦氏	9
2020. 1. 31	講座 9. 講義・実習	生物多様性で、なに! 講師: NPO 法人樹木・環境ネットワーク協会 中西由美子氏	9
2. 28	講座 10. 講義・実習	黒川清流公園の自然を考える 講師: カワセミハウス 村岡明代氏	9
小論文提出			
3. 27	講座 11. 認定書授与 修了式	新型コロナウイルス感染症の拡大防止のため修了式のみ屋外で 実施	9

・アートディレクション事業（3 年次）の実施

日野市出身の版画家蟹江杏さんと子どもたちとの協働によるアートディレクション事業の 3 年目となる 2019 年度は、『日野市こもれびハンカチプロジェクト』と題し、公募により集まった市内の中高生 11 人と蟹江杏さんが 9 回のワークショップを重ね、作品づくりに取り組みました。

今回は、一人ひとりが大きなキャンバスに向き合い、蟹江杏さんからアドバイスをいただきながら「こもれび」をテーマとした絵を描きました。

完成した絵は、市内在住の写真家「たかはしじゅんいち」さんの撮影により写真化したものをハンカチにプリントしました。このハンカチは、つなぎ合わせると大きなフラッグとすることが出来るものです。

このプロジェクトの詳細は、本白書のトピックス「アートディレクション事業（アーティストと子どもたちとのコラボ）～「日野市こもれびハンカチプロジェクト」～」(7～9 ページ) でご紹介しています。

7. 環境基本計画の推進体制

ワークショップ開催日と内容

回数	開催日	内 容
第1回	2019. 7. 20	自己紹介 プロジェクト概要の説明、テーマの発表 キャンパスづくりとイーゼルの組み立て
第2回	8. 24	テーマである「こもれび」を見るために黒川清流公園を散策し、イメージを膨らませた後、創作活動開始
第3回	9. 16	創作活動 参加者の絵の進行状況について意見交換
第4回	10. 14	創作活動
第5回	11. 2	創作活動
第6回	12. 7	創作活動（次回の完成を目指して仕上げの作業に入る）
第7回	2020. 1. 18	創作活動 絵が完成、完成した作品に自分のサインを入れる
第8回	2. 15	絵と参加者のプロフィール写真撮影 絵のネーミングと作品紹介文の作成
第9回	2. 24	絵のネーミングと作品紹介文の作成
第10回	3. 7	発表会を予定していたが、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため中止

・黒川清流公園の湧水モニタリング

黒川清流公園は日野市の緑と水を代表する場所です。カワセミハウスがこの黒川清流公園に隣接していることから、公園内の豊富な湧水量が長期的にどのように変化しているのかを知るために、2017年4月以来継続して湧水量や水温などの測定を毎週1回行なっています。

・館内展示や書籍・文献等による環境情報の発信

カワセミハウスでは、自然や環境に関する様々な図鑑や研究に役立つ文献に加え、映像や画像データなども収集し、来館者の皆様へ公開しています。この他に、官公庁や環境活動団体が発行するイベントのパンフレットやニュースレターなども掲示しています。

また、市民から寄せられるヘビやハチの巣、巣から落ちた野鳥への対応の仕方、カブトムシやバッタの飼育方法、夏休みの自由研究などの様々な相談へのアドバイスをしています。

② 日野市環境白書の刊行とパネル展の開催

日野市環境白書は、日野市環境基本条例に基づいて作成する年次報告書であり、日野市の環境に関する情報を網羅する内容となっています。

環境白書の編集・刊行は、カワセミハウスが（旧）環境情報センター時代から行なっている主要な業務の一つです。カワセミハウスでは2018年度の環境白書を編集するに当たり、各種環境データの収集や、各種団体の環境への取り組みに関する情報の収集を2019年3月から開始し、7月に評価結果も含めた報告を取りまとめ、9月の議会承認を経て刊行しました。カラー版50部とモノクロ版220部を印刷し、市内外の関係機関や団体に送付しました。

また、白書の内容を広く市民に知っていただくために、白書の概要を紹介したダイジェスト版を2019年12月に発行しました。同月には白書の12の項目をわかりやすくパネル化し「環境白書パネル展」を開催しました。



③環境学習の実施

・学校へ出張授業

市内の小・中学校の総合学習（低学年は生活科）等へ出張授業は、環境学習をサポートする市民団体“ひのどんぐりクラブ”との協働で実施しました。2019年度は95回の出張授業を行ない子ども7,254人と大人152人の学習を支援しました。活動の詳細は84～85ページをご覧ください。

・市民環境大学の開催

市民環境大学は、身近な環境問題を楽しく学び、地球環境から身近な環境をみんなで広く考え、課題解決のためにできることを実践することを主な目的としており、2009年度から毎年開催されています。11期目となった2019年度には20回の講義に延べ496人が出席し、12月12日の最終講義で26人の受講生に修了証が交付されました。これにより過去11期の修了者数は累計で185人となりました。年間の講義のテーマについては92ページをご覧ください。

また、修了者有志により「市民環境大学OB会」が結成されており、環境学習会や空間放射線の測定、湧水量の調査等の活動を毎月行なっているほか、隔月でOB会ニュースレターを発行し環境問題の市民への啓発を行なっています。

④環境に関わる市民団体等との連携・協働

カワセミハウスの職員は、環境保全課の一員として環境基本計画推進会議やひの生きものプラン、ふだん着でCO₂をへらそう実行委員会等に参画しています。また、環境市民団体とは下表に示したように様々な内容で連携・協議に努めています。

7. 環境基本計画の推進体制

区分	連携・協働団体等	活動等の内容
行政	日野市環境基本計画推進会議	・みどり・CO₂グループの定例会議に参加（毎月） ・エコキングの夏・冬の調査実施（エコキングとは、CO₂グループの活動として毎年の夏と冬に行なう一日環境家計簿で、2019 年度は夏・冬合わせて 13,583 人の小学生が参加、これは市内小学生の約 73%に当たる） ・みどりグループと共に環境セミナーの開催、市民啓発活動の支援など ・代表者会議への出席
	ひの生きものプランプロジェクトチーム	プロジェクトチーム員として計画への参画（浅川アユまつりなど）
	ふだん着でCO ₂ をへらそう実行委員会	実行委員会会議及び日野市環境フェア等への参画
	TRM（多摩川リバーミュージアム）事業	国土交通省京浜河川事務所が行なう TRM のサテライトの一つとして、多摩川の魅力や保全に関する情報の発信など
	黒川マイスター講座	事務局、年間 10 回の講座開催で、9 人にマイスター認定証を授与
市民団体	ひのどんぐりクラブ	・事務局として窓口対応や定例会議（毎月）の開催 ・メンバーが市内の小・中学校での総合学習（低学年は生活科）等へ出張し授業を支援。2019 年度は実施回数 95 回、出張したメンバーは延べ 343 人、授業を受けた子どもの数は 7,254 人。
	カワセミハウス協議会環境分科会	・事務局としてイベントの企画、市役所の関係部署との協議、参加者の募集、終了後の振り返りや報告書の作成などを担当 ・分科会に登録した団体と協働して 7 回のイベントについて実施又は参画
	市民環境大学 0B 会	事務局、空間放射線量の測定実施、月例会の開催など
	全国一斉水質調査	全国調査に参加し日野市での水質調査を実施（1 回/年）
	ひの緑のトラスト	事務局（1 回/年）
	浅川流域市民フォーラム	会議やイベントの企画・運営（1 回/月程度）
	水と緑の日野・市民ネットワーク	事務局、自然環境に関するシンポジウムの開催を支援
	浅川潤徳水辺の楽校	浅川潤徳水辺の楽校推進協議会メンバーとして、月 1～2 回行水辺の楽校イベントの企画や実施を支援。
	雑木林ボランティア講座	事務局、月 1 回、計 11 回の講座を開催。2019 年度の修了者は 23 人
	谷仲山緑地を守る会	連絡窓口
	東豊田緑湧会	連絡窓口
	黒川マイスター修了生	事務局、月 1 回 活動：黒川散策（勉強会）、イベント企画の検討など

⑤地域コミュニティの形成と活動の支援

カワセミハウス協議会を中心に、地域団体や各種市民団体、大学、行政との連携・協働により幅広い用途、目的に応じて利用されています。

区分	支援・連携団体	活動等の内容
地域団体等	カワセミハウス協議会	・カワセミハウス協議会はカワセミハウスの運営の基盤となる組織で、自治会や子ども会、環境団体を中心とする多様な 46 の団体・個人で構成される。 ・年 4 回定期的に開催される会議を通して、年間の事業計画や集会室の予約調整、運営ルールの見直しなどを行なっている。
	黒川かわせみサロン	地域の婦人有志と実践女子大学ボランティア学生のコラボ事業として月 1 回開催される地域の高齢者の交流会
大学	実践女子大学	10 月 5 日「第 3 回オクトーバーフェスト」の開催：実践女子大学生を中心とする協議会のメンバーが、「“地域のつながりの輪を広げよう” 3D ①Direct（直接） ②Discover（発見） ③Design（創造する、つなぐ）」をコンセプトに、日野市ブランド TOYODA BEER を使ったフェスティバルを開催
	C-plant	中央大学の学生を中心とする団体で、月 1 回程度、子どもたちの学習をサポートし、一緒に遊び、食べる「まるっと」と称する地域の新しい居場所を運営

⑥ カワセミハウスの運営

・カワセミハウス協議会の活動

カワセミハウス協議会は、カワセミハウスの事業を推進することを目的に日野市立カワセミハウス条例に基づいて設置されています。協議会は市民、事業者、市等で構成されており、2019年度末時点で46の団体・個人が会員登録しています。2019年度には4回の会合が開催されました。

また、市民主導により、環境活動のために発足した「環境分科会」には、2019年度末時点で19団体（個人としての参加含む）が会員登録をしています。

カワセミハウス協議会

開催日	出席団体数	主な報告や議題
第1回 2019. 5. 25	28	会長・副会長の選出、オクトーバーフェストの実施提案、カワセミハウスの利用者アンケートの結果報告、環境分科会の活動報告、オオブタクサ引き抜き大会の説明など
第2回 8. 10	35	オクトーバーフェストの進捗状況報告や参加者の募集、環境分科会の活動報告、蟹江杏さんとのコラボ事業の報告など
第3回 11. 23	団体：26 個人：1	2020年度の集会室予約日の調整、大掃除大会の説明、オクトーバーフェストの実施報告、環境分科会の活動報告など
第4回 2020. 2. 8	団体：29 個人：1	2020年度の協議会行事予定、環境分科会の活動報告、蟹江杏さんとのコラボ事業の報告、オクトーバーフェストの事前告知など

カワセミハウス協議会環境分科会

実施日	環境分科会が企画・実施したイベント	参加者数
2019. 6. 1	見て聞いて知ろう・くろかわシリーズ②水辺 50 選ガイドツアー「黒川水路」 案内：みずとくらす・ひの	20
6. 8	向島親水公園の水車リニューアル記念水車まつり 主催：水車まつり実行委員会（環境分科会も実行委員会に参加）	80
7. 28	水車をつくって電気をおこそう！ 実施団体：小水力発電を実現する市民の会	43
8. 4	観察会「川の生きものをさがそう！」 実施団体：日野の自然を守る会	23
8. 25	浅川ネイチャースタディ（みんなでフィッシング） 実施団体：FFATOKYO	川の増水のため中止
9. 20～26	カワセミハウス環境パネル展（日野市内で環境活動をしている団体のパネル等の展示）	出展団体 23
9. 21	見て聞いて知ろう・くろかわシリーズ③「黒川清流公園の湧水を調べよう」 講師：東京農工大学名誉教授 小倉紀雄氏	16
10. 22	見て聞いて知ろう・くろかわシリーズ④「黒川清流公園誕生秘話」 講師：笹木延吉氏	48
3. 21	つんで、つくって、たべよう！ よもぎだんご 講師：環境分科会有志	新型コロナウイルス感染症拡大防止のため中止

※上記の他、年4回の会議を開催

7. 環境基本計画の推進体制

・カワセミハウス年報 2018 年度版の刊行

「カワセミハウス年報」は、カワセミハウスが 1 年間に行った諸事業の内容と結果をまとめたものです。2018 年度に行なった「みんなの環境セミナー」等の事業やカワセミハウスの施設利用状況などの記録、黒川清流公園の湧水量測定結果、“水と緑の日野・市民ネットワーク”主催のシンポジウムの配布資料などを掲載し 2020 年 1 月に刊行しました。

・カワセミハウス通信の発行

「カワセミハウス通信」は、カワセミハウスの四半期ごとの活動報告と予定を中心に、カワセミハウスに関係する市民団体の活動などを紹介するものです。2019 年度は、第 9 号から第 12 号までを発行しました。(4 月、7 月、10 月、1 月発行)

⑦ 施設の利用状況

・情報発信ラウンジ

館内の「情報発信ラウンジ」では、環境に関する調査報告書や年報、文献、動植物に関する図鑑などの公開、行政情報及び地域活動、サークル活動等の各種パンフレット類の配備やポスター等の掲出、写真作品など各種展示物の発表などを行っており、この他に図書館との協働による図書の配備も行なっています。併せて、市内の川や用水に生息する淡水魚の水槽、樹齢 131 年のサワラの年輪標本（日野市関連年表を表示）、手作りの小水力発電機なども展示しています。

オープンキッチンと円形テーブルを配置したラウンジと 2 階のロフトでは、多様な世代が談話や勉強、少人数の趣味のグループの集まり、散策後の休憩、仲間同士のランチタイム、遊び等の利用者で毎日賑わっており、誰もが居心地の良い場所として活用されています。

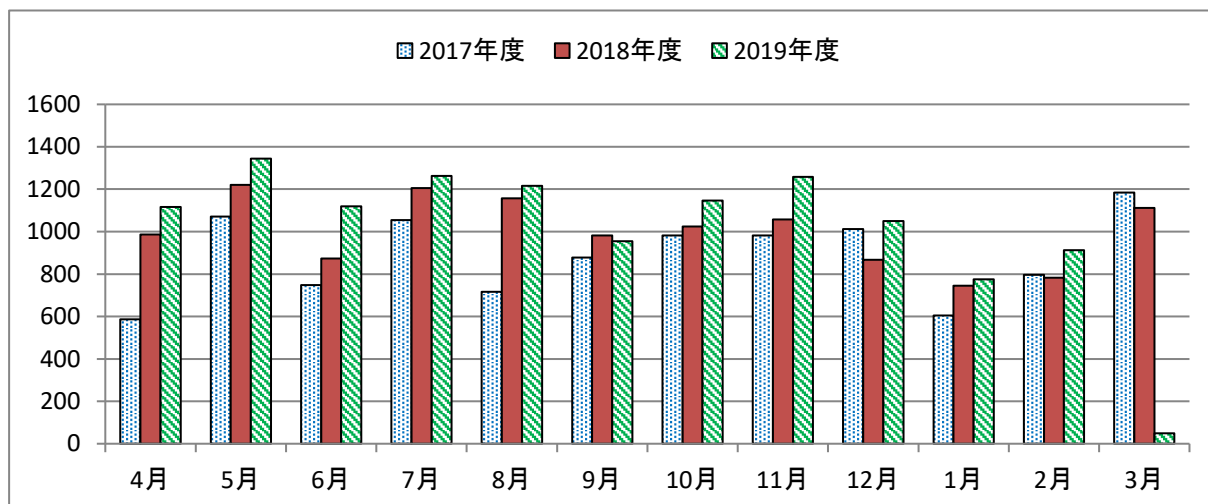
また、カワセミハウスを利用する子どもたちが自主的に「カワセミハウスサポーター」というグループを結成して、情報発信ラウンジの片づけ、昆虫や魚など生きものの世話、図書の整頓、イベントの補助などを行ない、カワセミハウス運営の一部を手伝ってもらっています。

・来館者と集会室の利用状況

来館者数の目安を得るために玄関にセンサー式のカウンターを設けており、人の通過を 2 回感知すると 1 カウントとしています。2019 年度の総カウント数は 67,073 で、前年度との 60%に留まりました。理由としては、年度末の新型コロナウイルス感染症関連の影響や、館外・館内の出入りを頻繁に行なうの子どもたちの来館が少なくなったことによるものと思われます。

月別のカウント数では、最大が 10 月の 9,137 でした。2019 年度、カワセミハウスは、3 月 4 日から 31 日まで新型コロナウイルス感染症拡大防止のため集会室の使用を中止しました。3 月を除いたカウント数の最小は 1 月の 3,468 でした。年間を通してみると、学校の夏休み期間を含む 7 月・8 月とオクトーバーフェストを行なった 10 月が多くなっています。

年度別・月別の集会室利用者数の推移（単位：人）



一方、集会室の利用者数は3室合わせて年間12,203人（前年度比1.6%増）となり、利用した団体数は450、利用回数は858でした。この利用回数は、同一利用者が複数の集会室を同時に、あるいは午前・午後通して使用した場合は、部屋ごと・時間帯ごとに1回使用と数えたものです。

集会室の利用率を見ると、3室合わせて年間1,257コマの利用がありました（利用時間帯は午前・午後・夜間の3つがあり、各室の一つの時間帯での利用を1コマとすると、年間284日の利用可能なコマ数は2,556となる）。年間の平均した利用率は49%（ $=1,257/2,556$ ）で、前年度（46%）より3ポイント増加しました。この利用率を月毎に見ると、最高が11月の56%、最低が1月の44%（3月は除外）で、前年度と比べ最低月の利用率が6ポイント高くなっています。次に午前、午後、夜間の3つの時間帯での利用率を見ると、午前61%、午後65%と60%を超えるのに対し、夜間は22%と低くなっています。

8. 環境審議会の意見等

(1) 審議会の意見

前回発行の白書(2018年度版)では下記のと通りの意見を日野市環境審議会からいただきました。

令和元年7月26日

日 野 市 長

大坪 冬彦 様

日野市環境審議会会長

千賀 裕太郎

日野市環境審議会の意見について

日野市環境基本条例（平成7年条例第18号）第18条に基づき、本環境白書案について、令和元年7月26日に開催された日野市環境審議会で審議しました。意見は下記のとおりです。今後市行政においてこれらの事項に十分に対応するとともに、白書作成時にその成果の記載を検討するようお願いいたします。

記

- 1 「東豊田緑地保全地域（黒川清流公園）における湧水白濁及び枯渇の発生について」は、市として厳重に対応していくことはもとより、情報共有を含め、東京都などの関係機関と連携し対応することが望ましい。
- 2 二酸化炭素排出量とエネルギー使用量の関係は、排出係数等を適切に表記し関連性を明確にするとともに、二酸化炭素排出量削減に寄与する設備の導入については市の施策だけではなく、東京都等の制度を活用することが望ましい。

前回の白書についてご審議いただいた日野市環境審議会の委員です。

日野市環境審議会 委員(※敬称略) 任期平成 30 年 10 月 1 日から令和 2 年 9 月 30 日まで

公募市民

岡村 和夫、井無田 将、古川 信之、野田 実

学識経験者

尾崎 義昭、瀬川 爾朗、千賀 裕太郎、田中 優、宮沢 清子

事業者

大久保 嘉則(日野市商工会)、疋田 久武(日野市商工会)、梅岡 元司(日野自動車(株) 安全環境推進部長)

環境保全関係行政機関、関係団体

金子 凱彦(日野の自然を守る会)、岸野 國男(日野市用水組合連合会長)、

荒井 和誠(東京都多摩環境事務所廃棄物対策課長)

(2) 日野市環境審議会(令和元年 7 月 26 日)意見への対応について

(意見)

- 1 「東豊田緑地保全地域(黒川清流公園)における湧水白濁及び枯渇の発生について」は、市として厳重に対応していくことはもとより、情報共有を含め、東京都などの関係機関と連携し対応することが望ましい。

(対応)

2019 年度の本件への対応としては、本白書 39 ページに掲載の通りです。本件については、今後とも適切な対応をとるとともに、市民の皆様への情報提供を行なってまいります。

(意見)

- 2 二酸化炭素排出量とエネルギー使用量の関係は、排出係数等を適切に表記し関連性を明確にするとともに、二酸化炭素排出量削減に寄与する設備の導入については市の施策だけではなく、東京都等の制度を活用することが望ましい。

(対応)

二酸化炭素排出量とエネルギー使用量の関係については「指標：36 二酸化炭素排出量」(51～53 ページ)及び「(参考 11) エネルギー消費量」(54 ページ)に二酸化炭素排出量と排出係数、エネルギー使用量の関連性について表記いたしました。

また、二酸化炭素排出削減に寄与する設備の導入に関する制度については、東京都が実施する「東京ゼロエミポイント」を 2019 年 10 月 1 日号「広報ひの」で紹介しました。これは、一定の基準を満たす対象機器への買い替えに対して商品券などに交換可能なポイントを付与するものです。

9. 省エネ法に関する措置

「エネルギーの使用の合理化に関する法律」（以下、省エネ法という。）は、エネルギー消費量が大幅に増加している業務部門と家庭部門におけるエネルギーの使用の合理化をより一層推進することを目的に、2008年5月に改正されました。

日野市では、市長部局と教育委員会がそれぞれ個別の事業者として、所管する施設について国に対してエネルギー使用量の報告を行なっています。2019年度分のエネルギー使用量は次のとおりです。

	エネルギー使用量(原油換算)	対前年度比
市長部局	4,179k1	95.1%
教育委員会	2,480k1	94.2%

付表 指標・参考データ出典一覧

指標・参考データ	ページ	出典
指標 1 土地利用現況調査「森林」の割合	16	東京都土地利用現況調査(都市計画課)
指標 2 緑被率	16	
指標 3 農地面積	17	農林水産省作物統計(都市農業振興課)
(参考 1) 生産緑地面積	17	都市計画決定図書(都市計画課)
指標 4 一人当たり都市公園面積	18	日野市公園調書(緑と清流課)
(参考 2) 多摩地区の一人当たり都市公園面積	18	東京都建設局公園調書
指標 5 市が寄付や買収等で取得した樹林地面積	20	緑と清流課
指標 6 緑地信託面積	20	
指標 7 緑のトラストへの寄付件数	20	緑のトラスト受付簿(環境保全課)
指標 8 雑木林ボランティア講座修了者数	21	緑と清流課
指標 9 市民農園等の面積	21	
指標 10 援農人数	21	都市農業振興課
指標 11 「市」の開催日数	22	
指標 12 学校給食における地元野菜等利用率	22	
指標 13 給食野菜納品農業者数	22	
指標 14 生け垣の助成件数	23	緑と清流課
指標 15 浅川の平均河川水量・水位	24	国土交通省京浜河川事務所
(参考 3) 浅川の流量測定結果	25	国土交通省京浜河川事務所、日野市環境共生部
指標 16 月別雨量と調査地点の総湧水量	26	湧水量および地下水位計測調査業務委託・調査報告書(緑と清流課)
(参考 4) 湧水地点の状況	26	
指標 17 各用水路の水質分析結果	28	日野市水質調査 調査報告書(環境保全課)
指標 18 河川・用水・湧水の水生生物の確認状況	29	日野市水生生物調査 調査報告書(環境保全課)
(参考 5) 水生生物による水質の生物学的判定	30	
指標 19 水辺に親しみや潤いを感じる市民の割合	32	日野市市民意識調査結果報告書
指標 20 地下水揚水量	34	地下水揚水量一覧(環境保全課)
指標 21 雨水浸透ます設置個数	34	緑と清流課
(参考 6) 第二次日野市バリアフリー特定事業計画の透水性舗装整備状況	35	
指標 22 下水道普及率	36	下水道課
指標 23 水辺イベントの開催数	36	緑と清流課
(参考 7) 「ビオトープづくり」の取組件数	37	
指標 24 「用水守」の登録団体数	37	
指標 25 ごみ・資源排出原単位	40	多摩地域ごみ実態調査(公益財団法人 東京市町村自治調査会)
(参考 8) ごみの行方	41	
指標 26 資源化率	41	日野市の清掃概要(ごみゼロ推進課)
(参考 9) ごみ量内訳	42	
指標 27 マイバック持参率・レジ袋辞退率	44	大手スーパーでの出口調査(レジ袋無料配布中止に向けた協働会議)
指標 28 ペットボトル、発泡トレイの行政回収量	44	日野市の清掃概要(ごみゼロ推進課)
指標 29 焼却ごみの組成	45	ごみゼロ推進課
(参考 10) 焼却ごみの組成割合(2018 年度分析結果・湿ベース)	45	
指標 30 生ごみ減量・資源化への取組世帯数	46	
指標 31 生ごみリサイクルステッカー掲示世帯数	47	
指標 32 環境学習出前講座の実施回数	48	
指標 33 ごみ相談窓口への相談件数	49	
指標 34 クリーンセンター見学者数	49	
指標 35 新聞紙の行政回収量	49	日野市の清掃概要(ごみゼロ推進課)
指標 36 二酸化炭素排出量	51	オール東京 62 市区町村共同事業「多摩地域の温室効果ガス排出量」報告書
(参考 11) エネルギー消費量	54	
指標 37 公共交通機関(ミニバス・バス)の整備率	54	交通空白地域図(都市計画課)
指標 38 バス路線の整備状況:市内連絡バス(ミニバス)年間利用者数	55	都市計画課
指標 39 「ふだん着で CO ₂ をへらそう宣言」の宣言数及び CO ₂ 削減量	55	
指標 40 ワットチェッカー等貸出状況	57	環境保全課
指標 41 省エネ診断の参加事業者数	58	
指標 42 太陽光発電等の導入補助件数	58	
指標 43 公共施設の新エネルギー導入状況	59	
指標 44 都市計画道路の整備率	59	道路課
指標 45 心安らく快適な生活環境であると感じる市民の割合	61	日野市市民意識調査結果報告書
(参考 12) 苦情受付件数	61	
指標 46 マナーアップのための啓発活動状況	63	環境保全課
指標 47 浮遊粒子状物質(SPM)年平均	63	
指標 48 二酸化窒素の年平均濃度	64	東京都環境局
指標 49 二酸化窒素 24 時間測定結果	65	
指標 50 雨の酸性度	65	窒素酸化物調査報告書(環境保全課)
(参考 13) 富士山ウォッチング(富士山が見えた日数)	66	酸性雨市民モニターによる計測 東京都環境局・成蹊学園気象観測所・日野市
指標 51 道路交通騒音	67	
指標 52 横田飛行場に係る航空機騒音	68	環境保全課
(参考 14) 市内空間放射線量測定	69	

エコクマ、エコアラ

地球温暖化で棲んでいるところを追われ、東京都日野市にやってきたエコクマ。日野市の多摩動物園で生まれたエコアラ。地球温暖化に心を痛め、エコ活動を始めたよ。

2人で力を合わせてがんばるぞ。応援よろしくね！



2019 年度（令和元年度）
日野市環境白書
日野市環境基本条例第 18 条に基づく年次報告書

発行：2020 年（令和 2 年）12 月 日野市

編集：日野市立カワセミハウス

〒191-0052 東京都日野市東豊田 3-26-1

TEL 042-581-1164

URL <https://www.kankyo-hino.com/>

身近な生きものと共生できる環境を次世代につなごう！